

男女共同参画社会・DV・女性活躍推進に関する
住民意識調査

【調査報告書】

令和4年1月
志布志市

目次

I. 住民意識調査の実施概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要及び配布・回収状況	1
3. 本書を読むに当たって注意	1
4. 回答者の属性	2
II. 調査結果の概要	1
1. 男女共同参画に関する意識と多文化共生社会について	7
2. 性的少数者（LGBTQ）について	10
3. 家庭生活について	11
4. 就業について	15
5. 学校教育について	17
6. 女性政策参画について	17
7. DVやハラスメントについて	18
8. 男女共同参画社会について	23
III. 調査結果の分析	25
1. 男女共同参画に関する意識と多文化共生社会について	25
(1) 男女の地位の平等感	25
2. 家庭生活について	51
(1) 家庭生活での役割分担	51
(2) 男女が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参画していくための必要事項	59
(3) 夫婦別姓について	60
(4) 結婚、家庭、離婚に対する考え方	61
(5) 育児に対する考え方	67
(6) 介護に対する考え方	68
(7) 介護が必要になった場合に介護を希望する相手	69
3. 就業について	70
(1) 収入になる仕事をしている理由	70
(2) 職場における女性に対する差別の有無	71
(3) 女性差別の具体的内容	72
(4) 就労していない理由	73
(5) 女性が仕事をしやすい環境を整えるための必要事項	74
(6) 女性の活躍を進めるに際しての障害	75
(7) 男性の柔軟な働き方についての意識	76

4. 学校教育について.....	77
(1) 子どもにどの程度の学校教育を受けさせたいか.....	77
(2) 男女共同参画社会実現に向けて学校教育の場で大切なこと.....	79
5. 女性の政策参画について.....	80
(1) 政策決定・施策決定の場に女性の参画が少ない理由.....	80
6. DVやハラスメントについて.....	83
(1) セクシュアル・ハラスメントについて.....	83
(2) ドメスティック・バイオレンス（DV）について.....	93
(3) 身体的暴力被害を受けたときの相談先.....	102
(4) 身体的暴力被害を受けたときに相談しなかった理由.....	104
(5) 男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと.....	105
IV 参考資料.....	107
1. その他の意見.....	107
2. 調査票.....	119

I . 住民意識調査の実施概要

I. 住民意識調査の実施概要

1. 調査の目的

現在実施されている「第3次志布志市男女がともに輝くまちづくりプラン・第2次志布志市DV対策基本プラン」及び女性活躍推進法に基づく「女性活躍推進計画」の事業評価の参考とするため、また、これらを改訂するに当たって市民の意識を反映させるための住民意識調査を行う。

2. 調査概要及び配布・回収状況

- ①調査地域・・・志布志市全域
- ②調査対象・・・志布志市に在住する20歳以上の男女2,000人（無作為抽出）
- ③調査方法・・・郵送配布・回収、お礼状1回
- ④調査期間・・・令和3年8月1日～令和3年8月31日
- ⑤回収状況・・・有効回答数642通、オンライン回答62通
計704通（有効回収率35.2%）

3. 本書を読むに当たって注意

- ①回収した調査票のうち、白紙で返送されたものは無効とし、有効回答数からは除いている。
- ②集計結果は百分率で算出し小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- ③複数回答の場合は回答の総数が有効回答数の数より多くなるので、合計は100%を超える場合がある。
- ④集計表中の「性別」及び「年齢」等の区分けを行っているが、各区分に無回答のデータを表記していないため、各区分の小計と合計の数値が異なる場合がある。（性別・年代別の合計は、無回答数を除いているので総計とは一致しない。）
- ⑤調査結果の分析にあたり、下記文献と比較している。

■平成28年度 男女共同参画・DV・女性活躍推進に関する住民意識調査（志布志市）
（20歳以上の男女2,000人、有効回答数1,088人）

※ 本書では、「平成28年度調査」と表記している。

■平成23年度 男女共同参画・DVに関する住民意識調査（志布志市）
（20代以上の男女2,000人、有効回答数1,189人）

※ 本書では、「平成23年度調査」と表記している。

■平成18年度 男女共同参画に関する住民意識調査（志布志市）
（20代以上の男女2,000人、有効回答数1,216人）

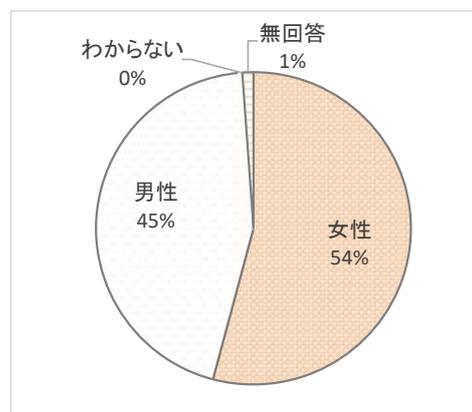
※ 本書では、「平成18年度調査」と表記している。

4. 回答者の属性

有効回答者 704 人の属性は以下のとおりがある。

F 1 性別

	回答者数	構成比
女性	381	54.1%
男性	313	44.5%
わからない	2	0.3%
無回答	8	1.1%
計	704	100.0%



F 2 年齢

	総計		女性		男性	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
20～24歳	18	2.6%	13	3.4%	5	1.6%
25～29歳	36	5.1%	17	4.5%	19	6.1%
30～34歳	29	4.1%	16	4.2%	12	3.8%
35～39歳	46	6.5%	32	8.4%	14	4.5%
40～44歳	38	5.4%	19	5.0%	19	6.1%
45～49歳	60	8.5%	41	10.8%	19	6.1%
50～54歳	52	7.4%	30	7.9%	22	7.0%
55～59歳	49	7.0%	28	7.3%	21	6.7%
60～64歳	55	7.8%	28	7.3%	26	8.3%
65～69歳	84	11.9%	44	11.5%	40	12.8%
70～74歳	92	13.1%	49	12.9%	41	13.1%
75歳以上	143	20.3%	63	16.5%	75	24.0%
無回答	2	0.3%	1	0.3%	0	0.0%
計	704	100.0%	381	100.0%	313	100.0%

〈年代別〉

	総計		女性		男性	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
20代	54	7.7%	30	4.3%	24	3.4%
30代	75	10.7%	48	6.8%	26	3.7%
40代	98	13.9%	60	8.5%	38	5.4%
50代	101	14.3%	58	8.2%	43	6.1%
60代	139	19.7%	72	10.2%	66	9.4%
70代以上	235	33.4%	112	15.9%	116	16.5%
無回答	2	0.3%	1	100.0%	0	0.0%
計	704	100.0%	381	54.0%	313	44.5%

F 3 就業状況

	総計		女性		男性	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
1年間に30日以上、収入を得るための仕事をしている	466	66.2%	245	64.3%	216	69.0%
1年間に30日以上、収入を得るための仕事をしていない	226	32.1%	129	33.9%	92	29.4%
無回答	12	1.7%	7	1.8%	5	1.6%
計	704	100.0%	381	100.0%	313	100.0%

F 4 職業

※F 3で「1 1年間に30日以上、収入を得るための仕事をしている」と回答した人

	総計		女性		男性	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
常勤の勤め(正社員、職員、会社役員、従業員、公務員など)	232	49.8%	101	41.2%	129	59.7%
非常勤の勤め(パート・アルバイト、契約・派遣社員、嘱託・臨時職員など)	136	29.2%	102	41.6%	33	15.3%
農業、林業、漁業などの自営業	52	11.2%	16	6.5%	34	15.7%
商業、工業、サービス業、その他自由業などの自営業	22	4.7%	12	4.9%	10	4.6%
その他	12	2.6%	6	2.4%	6	2.8%
無回答	12	2.6%	8	3.3%	4	1.9%
計	466	100.0%	245	100.0%	216	100.0%

F 5 職業区分

※F 4で「1 常勤の勤め(正社員、職員、会社役員、従業員、公務員など)」「3 農業、林業、漁業などの自営業」「4 商業、工業、サービス業、その他自由業などの自営業」と回答した人

	総計		女性		男性	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
管理職(公官庁、企業、各種法人、組合などの経営者、役員、課長以上の管理職など)	38	11.9%	6	4.4%	32	17.9%
被用者(管理職以外の正社員、職員、従業員、公務員など)	185	58.2%	94	69.6%	90	50.3%
自営業主	53	16.7%	12	8.9%	40	22.3%
家族従事者(自営業の手伝いなど)	19	6.0%	12	8.9%	6	3.4%
その他	15	4.7%	10	7.4%	5	2.8%
無回答	8	2.5%	1	0.7%	6	3.4%
計	318	100.0%	135	100.0%	179	100.0%

F 6 無職者の区分

※F 3で「2 1年間に30日以上、収入を得るための仕事をしていない」と回答した人

	総計		女性		男性	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
家事・育児・介護等従事者	21	9.3%	20	15.5%	0	0.0%
学生	1	0.4%	1	0.8%	0	0.0%
年金受給者	172	76.1%	95	73.6%	74	80.4%
その他	23	10.2%	8	6.2%	15	16.3%
無回答	9	4.0%	5	3.9%	3	3.3%
計	226	100.0%	129	100.0%	92	100.0%

F 7 婚姻状況

	総計		女性		男性	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
結婚している	429	60.9%	190	49.9%	234	74.8%
結婚していたが、離別した	60	8.5%	44	11.5%	15	4.8%
結婚していたが、死別した	91	12.9%	73	19.2%	15	4.8%
結婚していない	100	14.2%	57	15.0%	43	13.7%
無回答	24	3.4%	17	4.5%	6	1.9%
計	704	100.0%	381	100.0%	313	100.0%

F 8 夫婦の就業状況

※F 7で「1 結婚している」と回答した人

	総計		女性		男性	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
どちらも仕事をしている(パートタイム、内職を含む)	246	57.3%	118	62.1%	128	54.7%
自分のみ仕事をしている	63	14.7%	21	11.1%	40	17.1%
配偶者のみ仕事をしている	29	6.8%	22	11.6%	6	2.6%
どちらも仕事をしていない	88	20.5%	28	14.7%	58	24.8%
無回答	3	0.7%	1	0.5%	2	0.9%
計	429	100.0%	190	100.0%	234	100.0%

F 9 家族構成

	総計		女性		男性	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
単身世帯(一人暮らし)	169	24.0%	105	27.6%	60	19.2%
1世代世帯(夫婦のみ)	214	30.4%	88	23.1%	122	39.0%
2世代世帯(親と子、夫婦と子など)	253	35.9%	145	38.1%	107	34.2%
3世代世帯(親と子と孫など)	13	1.8%	7	1.8%	6	1.9%
その他	31	4.4%	21	5.5%	10	3.2%
無回答	24	3.4%	15	3.9%	8	2.6%
計	704	100.0%	381	100.0%	313	100.0%

F10 子どもの有無

	総計		女性		男性	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
いない	149	21.2%	81	21.3%	68	21.7%
1人	91	12.9%	51	13.4%	39	12.5%
2人	242	34.4%	121	31.8%	115	36.7%
3人	156	22.2%	89	23.4%	66	21.1%
4人以上	41	5.8%	24	6.3%	16	5.1%
無回答	25	3.6%	15	3.9%	9	2.9%
計	704	100.0%	381	100.0%	313	100.0%

F 1 1 子どもの成長段階

※F10で「2 1人」「3 2人」「4 3人」「5 4人以上」と回答した人

	総計		女性		男性	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
乳児(1歳未満)	7	1.3%	3	1.1%	3	1.3%
幼児(1歳以上)	43	8.1%	25	8.8%	18	7.6%
小学生	45	8.5%	28	9.8%	17	7.2%
中学生	27	5.1%	16	5.6%	11	4.7%
高校、専門学校、高専、短大、大学、大学院生	43	8.1%	23	8.1%	20	8.5%
今は養育する子どもはいない	345	65.1%	179	62.8%	158	66.9%
無回答	20	3.8%	11	3.9%	9	3.8%
計	530	100.0%	285	100.0%	236	100.0%

Ⅱ. 調査結果の概要

Ⅱ. 調査結果の概要

1. 男女共同参画に関する意識と多文化共生社会について

(1) 各分野の男女の地位の平等感

次のそれぞれの分野で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「平等」と答えた者の割合が、「学校教育の場」で53.5%、「家庭生活」で39.5%、「法律や制度の上」で33.4%、「自治会やPTAなどの地域活動の場」で32.9%、「職場」で30.0%、「社会通念・慣習・しきたりなど」で17.6%、「政治の場」で15.9%となっている。

令和元年9月に内閣府が実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」（以下、「国調査」という。）と比較すると、「平等」答えた者の割合が、すべての項目において国の割合より市が低くなっており、特に「政治の場」においてその傾向が強い。

ア. 家庭生活における男女の地位の平等感

家庭生活において男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性の方が優遇されている」とする者の割合が40.3%（「男性の方が非常に優遇されている」7.5%＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」32.8%）、「平等」と答えた者の割合が36.2%、「女性の方が優遇されている」とする者の割合が4.7%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」3.1%＋「女性の方が非常に優遇されている」0.6%）となっている。

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」とする者の割合は女性で、「平等」と答えた者の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

性・年齢別に見ると、「男性の方が優遇されている」とする者の割合は女性の30歳代、40歳代、50歳代で、「平等」と答えた者の割合は男性の20歳代、30歳代、40歳代で、それぞれ高くなっている。

イ. 職場における男女の地位の平等感

職場において男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性の方が優遇されている」とする者の割合が53.5%（「男性の方が非常に優遇されている」7.0%＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」33.5%）、「平等」と答えた者の割合が26.4%、「女性の方が優遇されている」とする者の割合が5.3%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」4.7%＋「女性の方が非常に優遇されている」0.6%）となっている。なお、「わからない」と答えた者の割合が12.1%となっている。

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合は女性で、「平等」と答えた者の割合は男性で高くなっている。

性・年齢別に見ると、「男性の方が優遇されている」とする者の割合は女性の20歳代、40歳代、50歳代、60歳代で、「平等」と答えた者の割合は男性の20歳代、30歳代、40歳代で、それぞれ高くなっている。

ウ. 学校教育の場における男女の地位の平等感

学校教育の場において男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性の方が優遇されている」とする者の割合が18.5%（「男性の方が非常に優遇されている」0.9%＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」11.4%）、「平等」と答えた者の割合が45.9%、「女性の方が優遇されている」とする者の割合が2.4%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」2.1%＋「女性の方が非常に優遇されている」0.3%）となっている。なお、「わからない」と答えた者の割合が25.3%となっている。

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合は女性で、「平等」と答えた者の割合は男性で高くなっている。

性・年齢別に見ると、「男性の方が優遇されている」とする者の割合は女性の20歳代、40歳代、50歳代で、「平等」と答えた者の割合は女性の30歳代、男性の20歳代、40歳代、50歳代で、それぞれ高くなっている。

エ. 政治の場における男女の地位の平等感

政治の場において男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性の方が優遇されている」とする者の割合が58.9%（「男性の方が非常に優遇されている」24.4%＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」34.5%）、「平等」と答えた者の割合が14.1%、「女性の方が優遇されている」とする者の割合が1.4%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」1.0%＋「女性の方が非常に優遇されている」0.4%）となっている。

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」とする者の割合は女性で、「平等」と答えた者の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

オ. 法律や制度の上での男女の地位の平等感

法律や制度の上において男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性の方が優遇されている」とする者の割合が33.8%（「男性の方が非常に優遇されている」8.2%＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」25.6%）、「平等」と答えた者の割合が29.5%、「女性の方が優遇されている」とする者の割合が5.2%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」4.5%＋「女性の方が非常に優遇されている」0.7%）となっている。

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」とする者の割合は女性で、「平等」と答えた者の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

性・年齢別に見ると、「男性の方が優遇されている」とする者の割合は女性の30歳代から60歳代で、「平等」と答えた者の割合は男性の40歳代で、それぞれ高くなっている。

カ. 社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の地位の平等感

社会通念・慣習・しきたりなどにおいて男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性の方が優遇されている」とする者の割合が57.7%（「男性の方が非常に優遇されている」15.9%＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」41.8%）、「平等」と答えた者の割合が15.6%、「女性の方が優遇されている」とする者の割合が2.3%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」1.7%＋「女性の方が非常に優

遇されている」0.6%)となっている。

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」と答えた者の割合は女性で、「平等」と答えた者の割合は男性で高くなっている。

性・年齢別に見ると、「男性の方が優遇されている」とする者の割合は女性の30歳代から50歳代で高くなっている。

キ. 自治会やPTAなどの地域活動の場における男女の地位の平等感

自治会やPTAなどの地域活動の場において男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性の方が優遇されている」とする者の割合が39.5%（「男性の方が非常に優遇されている」9.5%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」30.0%）、「平等」と答えた者の割合が29.7%、「女性の方が優遇されている」とする者の割合が4.7%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」4.3%+「女性の方が非常に優遇されている」0.4%）となっている。

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」とする者の割合は女性で、「平等」、「女性の方が優遇されている」とする者の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

性・年齢別に見ると、「男性の方が優遇されている」とする者の割合は女性の30歳代から50歳代で、「平等」と答えた者の割合は男性の20歳代、40歳代、60歳代で、それぞれ高くなっている。

(2) **社会全体における男女の地位の平等感**

社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性の方が優遇されている」とする者の割合が62.6%（「男性の方が非常に優遇されている」6.5%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」56.1%）、「平等」と答えた者の割合が15.8%、「女性の方が優遇されている」とする者の割合が5.1%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」4.4%+「女性の方が非常に優遇されている」0.7%）となっている。

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」とする者の割合は女性で、「平等」と答えた者の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

国調査と比較してみると、「女性の方が優遇されている」とする者の割合が高くなっている。

(3) **女性が職業をもつことに対する意識**

一般的に女性が職業をもつことについて、どう考えるか聞いたところ、「女性は職業をもたない方がよい」と答えた者の割合が0.7%、「結婚するまでは職業をもつ方がよい」と答えた者の割合が1.6%、「結婚後も仕事を辞める必要はない」と答えた者の割合が29.7%、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」と答えた者の割合が2.4%、「子どもができて、育児制度などを利用しながら、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた者の割合が37.1%、「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」と答えた者の割合が12.8%となっている。

性別に見ると、「子どもができて、育児制度などを利用しながら、ずっと仕事を続け

る方がよい」、「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」と答えた者の割合は女性で高くなっている。

性・年齢別に見ると、「子どもができて、育児制度などを利用しながら、ずっと仕事を続ける方がよい」とする者の割合が女性の30歳代、40歳代で高くなっている。

(4) 男女共同参画に関する用語の認知度

男女共同参画に関する言葉のうち、知っているものを聞いたところ、「ハラスメント」を挙げた者の割合が85.7%、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」を挙げた者の割合が84.4%、「男女共同参画社会」を挙げた者の割合が79.4%と高く、以下、「デートDV」（66.7%）、「ジェンダー」（65.6%）、「LGBTQ（性的少数者）」（65.6%）などの順となっている。

平成28年度調査と比較してみると、比較可能な「ジェンダー」、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」、「ワーク・ライフ・バランス」、「デートDV」のすべての項目で、認知度は向上している。特に「ジェンダー」については、平成28年度調査で16.3%であったものが、令和3年度調査では48.6%となっており、認知度がかなり高まっている。

国調査と比較してみると、比較可能な「ドメスティック・バイオレンス（DV）」、「ジェンダー」、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」のすべての項目で、本市が上回っている。

2. 性的少数者（LGBTQ）について

(1) 性自認や性的指向に悩んだ経験の有無

今までに性自認（自身の性別をどう感じているか）や性的指向（誰を好きになるか又は魅力を感じるか）に悩んだ経験があるかについて聞いたところ、「いいえ」と答えた者の割合が88.8%、「はい」と答えた者の割合が6.3%となっている。

性別を見ると、「はい」とする者の割合は女性より男性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「はい」とする者の割合は女性の20歳代、男性の60歳代、70歳以上で高くなっている。

(2) 性的少数者（LGBTQ）が生活しやすい社会かに関する意識

現在、性的少数者（LGBTQ）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しやすい社会だと思うかについて聞いたところ、「思う」とする者の割合が49.0%（「思う」19.2%+「どちらかといえば思う」29.8%）、「思わない」とする者の割合が42.0%（「どちらかといえば思わない」16.6%+「思わない」25.4%）となっている。

性別で見ると、「思わない」とする者の割合が、男性の方が女性より高くなっている。

性・年齢別に見ると、「思う」とする者の割合が男女とも20歳代から50歳代で、「思わない」とする者の割合が男女とも60歳代から70歳代で、それぞれ高くなっている。

(3) 性的少数者（LGBTQ）への偏見や差別をなくすために必要な対策

性的少数者の方々に対する偏見や差別をなくし、性的少数者の方々が生かしやすくなるために、どのような対策が必要かについて聞いたところ、「すべての人が性別を理由とした人権侵害等を受けないための社会的なルールを周知し、理解する」と答えた者の割合が66.4%と最も高く、次いで、「働きやすい職場環境づくりの取組をする」が40.0%、「相談窓口等を充実させ、生活しづらい環境の解消に努める」が37.4%などとなっている。

性別に見ると、「すべての人が性別を理由とした人権侵害等を受けないための社会的なルールを周知し、理解する」、「働きやすい職場環境づくりの取組をする」、「生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」を挙げた者の割合は女性で高くなっている。

性・年齢別に見ると、「すべての人が性別を理由とした人権侵害等を受けないための社会的なルールを周知し、理解する」とする者の割合が女性の30歳代から40歳代、男性の50歳代から60歳代で、「働きやすい職場環境づくりの取組をする」とする者の割合が女性の20歳代で、それぞれ高くなっている。

3. 家庭生活について

(1) 家庭生活での役割分担

次のそれぞれの家庭内の事柄を主に誰がになっているか聞いたところ、「夫」とする者の割合が高いものは「自治会や公民館などの地域活動への参加」、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」などとなっており、「妻」とする者の割合が高いものは「家事」、「行政や学校などの手続き」などとなっている。

以下、ア～キのそれぞれの項目について分析した。

ア. 家事（掃除、洗濯、炊事など）

家事（掃除、洗濯、炊事など）の家庭生活での役割分担を聞いたところ、「妻」と回答した者の割合が51.0%で最も高く、次いで、「夫婦」が29.8%、「家族全員」が6.3%などとなっている。

性別に見ると、「妻」とする者の割合が、男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「妻」とする者の割合が女性の50歳代から70歳以上、男性の60歳代から70歳代、「夫婦」とする者の割合が女性の20歳代、男性の20歳代から40歳代で、それぞれ高くなっている。

平成28年度調査と比較してみると、「妻」の割合が減少傾向にあり、「夫婦」や「家族全員」の割合が増加傾向となっている。

イ. 育児（乳幼児の世話、子どもの教育など）

育児（乳幼児の世話、子どもの教育など）の家庭生活での役割分担を聞いたところ、「夫婦」と回答した者の割合が31.2%で最も高く、次いで、「妻」が29.1%、「家族全

員」が2.8%などとなっている。

性別に見ると、「妻」、「夫婦」とする者の割合が男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「妻」とする者の割合が女性の20歳代、30歳代、50歳代から70歳以上、男性の40歳代、60歳代で、「夫婦」とする者の割合が女性の20歳代から40歳代、男性の30歳代から50歳代で、それぞれ高くなっている。

平成28年度調査と比較してみると、「妻」の割合が減少傾向にあり、「夫婦」の割合が増加傾向となっている。

ウ. 介護

介護の家庭生活での役割分担を聞いたところ、「該当しない」を除くと、「夫婦」と回答した者の割合が17.2%で最も高く、次いで、「妻」が12.4%、「家族全員」が5.8%などとなっている。

性別に見ると、「妻」とする者の割合が男性より女性、「夫婦」とする者の割合が女性より男性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「妻」とする者の割合が女性の60歳代、70歳以上、「夫婦」とする者の割合が男性の50歳代、60歳代で、それぞれ高くなっている。

平成28年度調査と比較してみると、「妻」の割合が減少傾向にあり、「該当しない」の割合が増加傾向となっている。

エ. P T A や子ども会

P T A や子ども会の家庭生活での役割分担を聞いたところ、「該当しない」を除くと、「妻」と回答した者の割合が27.3%で最も高く、次いで、「夫婦」が24.5%、「夫」が6.1%などとなっている。

性別に見ると、「妻」とする者の割合が男性より女性、「夫」とする者の割合が女性より男性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「妻」とする者の割合が女性の30歳代から70歳以上、「夫」とする者の割合が男性の20歳代から40歳代で、それぞれ高くなっている。

平成28年度調査と比較してみても、大きな差異はみられない。

オ. 行政や学校などの手続き

行政や学校などの手続きの家庭生活での役割分担を聞いたところ、「妻」と回答した者の割合が32.2%で最も高く、次いで、「夫婦」が24.9%、「夫」が16.3%などとなっている。

性別に見ると、「妻」とする者の割合は女性が、「夫婦」とする者の割合は男性が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「妻」とする者の割合が女性の20歳代から50歳代、「夫婦」とする者の割合が女性の40歳代、男性の40歳代、「夫」とする者の割合が男性の20歳代から40歳代で、それぞれ高くなっている。

カ. 自治会や公民館などの地域活動への参加

自治会や公民館などの地域活動への参加についての家庭生活での役割分担を聞いた

ところ、「夫婦」と回答した者の割合が36.8%で最も高く、次いで、「夫」が26.1%、「妻」が12.6%などとなっている。

性別に見ると、「夫」とする者の割合が女性より男性、「妻」とする者の割合が男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「夫」とする者の割合が男性の30歳代から50歳代、「妻」とする者の割合が女性の60歳代、70歳以上、「夫婦」とする者の割合が女性の50歳代、男性の50歳代、60歳代で、それぞれ高くなっている。

平成28年度調査と比較してみると、「夫」の割合が増加傾向にあり、「夫婦」の割合が減少傾向となっている。

キ. 高額の商品や土地・家屋の購入を決める

高額の商品や土地・家屋の購入を決めることについての家庭生活での役割分担を聞いたところ、「夫婦」と回答した者の割合が55.9%で最も高く、次いで、「夫」が20.0%などとなっている。

性別に見ると、「夫」とする者の割合が男性より女性、「夫婦」とする者の割合が女性より男性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「夫」とする者の割合が女性の70歳以上、「夫婦」とする者の割合が女性の30歳代、40歳代、男性の20歳代、40歳代、50歳代で、それぞれ高くなっている。

平成28年度調査と比較してみると、「夫婦」の割合が若干増加傾向にあり、「夫」の割合が減少傾向となっている。

(2) 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと

今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思うか聞いたところ、「夫婦間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」を挙げた者の割合が37.5%、「子どもに対して性別に関わらず家事などを積極的に行うような育て方をすること」を挙げた者の割合が35.5%、「男性が家事・育児・介護などを担うことへの職場や周囲の理解を進めること」を挙げた者の割合が32.8%と高く、以下、「男性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(28.7%)などの順となっている。

性別に見ると、女性は「子どもに対して性別に関わらず家事などを積極的に行うような育て方をすること」、男性は「夫婦間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」の割合が最も高くなっている。

(3) 夫婦別姓について

「夫婦は同じ姓を名乗る」か「別々の姓を名乗る」か選択できるようにすることについてどう思うかを聞いたところ、「どちらともいえない」と回答した者の割合が38.6%で最も高く、次いで、「夫婦が別々な姓を名乗ることに反対だ」とする者の割合が30.1%、「夫婦が別々な姓を名乗ることに賛成だ」とする者の割合が16.1%となっている。

性別に見ると、「夫婦が別々な姓を名乗ることに反対だ」とする者の割合が、女性より

男性が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「夫婦が別々な姓を名乗ることに賛成だ」とする者の割合が女性の20歳代、40歳代、50歳代、男性の20歳代、40歳代、50歳代で、「夫婦が別々な姓を名乗ることに反対だ」とする者の割合が女性の70歳以上、男性の60歳代、70歳以上で、それぞれ高くなっている。

(4) 結婚、家庭、離婚に対する考え方について

結婚・家庭・離婚に対する考え方について聞いたところ、「性別に関わらず、結婚したら自分自身のことより、家族のことを中心に考えるべきである」、「結婚して、子どもを持つか持たないかは自由だ」、「性別に関わらず仕事をもつのは良いが、家事、育児もきちんと分担してすべきである」について、男女とも「賛成（賛成＋どちらかといえば賛成）が約6割を超え、高くなっている。

以下、ア～オのそれぞれの項目について分析した。

ア. 性別に関わらず、結婚したら自分自身のことより、家族のことを中心に考えるべきである

性別に関わらず、結婚したら自分自身のことより、家族のことを中心に考えるべきであるという考え方に対する賛否を聞いたところ、「賛成」とする者の割合が65.4%（「賛成」25.3%＋「どちらかといえば賛成」40.1%）、「反対」とする者の割合が12.3%（「どちらかといえば反対」8.5%＋「反対」3.8%）となっている。

性別に見ると、「賛成」とする者の割合が、女性より男性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「賛成」とする者の割合が男性の40歳代、60歳代で高くなっている。

イ. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方に対する賛否を聞いたところ、「賛成」とする者の割合が21.1%（「賛成」3.1%＋「どちらかといえば賛成」18.0%）、「反対」とする者の割合が52.8%（「どちらかといえば反対」26.8%＋「反対」26.0%）となっている。

性別に見ると、「反対」とする者の割合が、男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「反対」とする者の割合が男女とも20歳代から40歳代で高くっており、「賛成」とする者の割合は男女とも50歳代から70歳以上で高くなっている。

平成28年度調査と比較してみると、「賛成」の割合が減少傾向にあり、「反対」の割合が増加傾向となっている。

ウ. 結婚して、子どもを持つか持たないかは自由だ

結婚して、子どもを持つか持たないかは自由だという考え方に対する賛否を聞いたところ、「賛成」とする者の割合が64.4%（「賛成」47.9%＋「どちらかといえば賛成」16.5%）、「反対」とする者の割合が11.4%（「どちらかといえば反対」8.0%＋「反対」3.4%）となっている。

性別に見ると、「賛成」とする者の割合が、男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「賛成」とする者の割合が男女とも20歳代から50歳代で高くなっている。

エ. 性別に関わらず仕事をもつのは良いが、家事、育児もきちんと分担してすべきである

性別に関わらず仕事をもつのは良いが、家事、育児もきちんと分担してすべきであるという考え方に対する賛否を聞いたところ、「賛成」とする者の割合が76.9%（「賛成」45.9%+「どちらかといえば賛成」31.0%）、「反対」とする者の割合が4.7%（「どちらかといえば反対」3.3%+「反対」1.4%）となっている。

性別に見ると、「賛成」とする者の割合が、男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「賛成」とする者の割合が女性の20歳代から50歳代、男性の40歳代から60歳代で高くなっている。

オ. 結婚の自由があるように、離婚も自由だと思う

結婚の自由があるように、離婚も自由だと思うという考え方に対する賛否を聞いたところ、「賛成」とする者の割合が59.9%（「賛成」36.9%+「どちらかといえば賛成」23.0%）、「反対」とする者の割合が15.4%（「どちらかといえば反対」10.7%+「反対」4.7%）となっている。

性別に見ると、「賛成」とする者の割合が、男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「賛成」とする者の割合が女性の30歳代、40歳代、男性の40歳代で高くなっている。

4. 就業について

問3で、一般的に女性が職業をもつことについてどう考えるか聞いたところ、「子どもができて、育児制度などを利用しながら、ずっと職業を続ける方がよい」が37.1%、「結婚後も仕事を辞める必要はない」が29.7%と6割を超える人が、女性が仕事をもつことを肯定的に捉えるようになっている現状を踏まえることが必要である。特に、女性の30歳代、40歳代において、「子どもができて、育児制度などを利用しながら、ずっと仕事を続ける方がよい」と回答した者の割合が他の年代より高くなっていることも注視することが重要である。

(1) 収入になる仕事をしている理由

収入を得るための仕事をしている方に対して、収入になる仕事をしている理由について聞いたところ、「生計を維持するため」を挙げた者の割合が72.5%と最も高く、次いで、「将来に備えて貯蓄するため」を挙げた者の割合が45.9%、「自分で自由に使えるお金を得るため」を挙げた者の割合が38.6%などの順となっている。

性別に見ると、「生計を維持するため」を挙げた者の割合が女性より男性の方が高く、「家計の足しにするため」を挙げた者の割合が男性より女性が高くなっている。

平成28年度調査と比較してみると、「働くのが当然だから」、「家業であるから」を挙げ

た者の割合が減少しており、「生計を維持するため」、「自分で自由に使えるお金を得るため」の割合が増加している。

(2) 職場における女性に対する差別の有無

今の職場での、仕事の内容や待遇面での女性に対する差別について聞いたところ、「そのようなことはないと思う」と回答した者の割合が67.0%と最も高く、次いで、「わからない」と回答した者の割合が16.1%、「差別されていると思う」と回答した者の割合が10.5%などとなっている。

性別に見ると、「差別されていると思う」とする者の割合が男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「差別されていると思う」とする者の割合が女性の50歳代で高くなっている。

平成28年度調査と比較してみると、「差別されていると思う」の割合が減少している。

(3) 職場における女性に対する差別の具体的内容

今の職場での、仕事の内容や待遇面での女性に対する差別の具体的内容について聞いたところ、「賃金に差別がある」を挙げた者の割合が53.1%で最も高く、次いで、「昇進、昇格に差別がある」を挙げた者の割合が32.7%、「能力を正当に評価しない」を挙げた者の割合が30.6%などとなっている。

性別に見ると、「能力を正当に評価しない」を挙げた者の割合が男性より女性の方が大幅に高くなっている。

平成28年度調査と比較してみると、「結婚したり子どもが生まれたりすると勤めにくい雰囲気がある」を挙げた者の割合が減少しており、「女性を幹部社員・職員に登用しない」を挙げた者の割合が増加している。

(4) 就労していない理由

収入を得る仕事をしていない方に対して、収入になる仕事をしていない理由について聞いたところ、男女とも「高齢だから」と挙げた者の割合が53.5%と最も高く、次いで、「健康や体力に自信がないから」が31.0%などとなっている。

平成28年度調査と比較してみると、傾向はほぼ変わっていない。

(5) 女性が仕事をしやすい環境を整えるための必要事項

女性が仕事をしやすい環境を整えるためには、どのようなことが必要かについて聞いたところ、男女とも「育児・介護休業制度を取得しやすい、復帰しやすい職場環境を整えること」を挙げた者の割合が42.5%と最も高く、次いで、「結婚、出産、育児、介護のために退職した人の再雇用制度を充実させること」が32.4%、「妊娠や出産によって不利益を受けることをなくすこと」が30.8%などとなっている。

性別に見ると、「保育所や放課後児童クラブ（学童保育）など子育て環境を充実させること」、「女性が働くことや、男性が家事・育児をすることへの家族や周囲の理解と協力が深まること」を挙げた者の割合が、男性より高くなっている。

5. 学校教育について

(1) 子どもにどの程度の学校教育を受けさせたいか

子どもにどの程度の学校教育を受けさせたいかについて聞いたところ、子どもが男の子の場合、「4年制大学」と答えた者の割合が48.4%と最も高く、次いで、「専修、専門学校」が16.2%、「高校」が11.4%などの順となっている。平成28年度調査と比較してみると、「4年制大学」と答えた者の割合が5.9ポイント高くなっている。

子どもが女の子の場合、「4年制大学」と答えた者の割合が36.1%で最も高く、次いで、「専修、専門学校」が21.9%、「高校」が10.8%などの順となっている。平成28年度調査と比較してみると、「4年制大学」と答えた者の割合が8.4ポイント高くなっている。

(2) 男女共同参画社会の実現に向けて学校教育の場で大切なこと

男女共同参画社会を実現するために、学校教育の場でどのようなことが大切なことについて聞いたところ、「互いの良さを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する」と答えた者の割合が50.6%と最も高く、次いで、「心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する」が47.4%、「性別に関わらず性と個性の希望や能力に基づいて進路指導や職業教育を行う」が46.3%などとなっている。

6. 女性政策参画について

(1) 政策決定・施策決定の場に女性の参画が少ない理由

一般的に政策決定の場や自治組織などの方針決定の場への女性の参画が少ない理由について聞いたところ、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」を挙げた者の割合が46.7%と最も高く、次いで、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある」が34.4%、「女性側の関心や積極性が十分でない」が32.8%などの順となっている。

平成28年度調査と比較してみると、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」と答えた者の割合が高くなっている。

(2) 女性の意見を政治や行政に十分反映させるために最も効果的なこと

女性の意見を政治や行政に十分反映させるために最も効果的なことについて聞いたところ、「女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること」を挙げた者の割合が50.1%と最も高く、次いで、「女性自身の政治や行政への関心を高めること」が41.2%、「行政での管理職や審議会等の委員など公職に就く女性が増えること」が35.5%などとなっている。

(3) 今後、女性がもっと増える方がよいと思う職業や役職

今後、女性がもっと増える方がよいと思う職業や役職について聞いたところ、「国会議員・地方議員」を挙げた者の割合が43.3%と最も高く、次いで、「大臣・都道府県知事・市区町村長」が33.1%、「公務員の管理職」が32.0%などとなっている。

7. DVやハラスメントについて

(1) セクシュアル・ハラスメントの経験について

セクシュアル・ハラスメントの経験について聞いたところ、経験があると回答した者の割合が高かったのは、「自分の容姿・年齢・結婚などについて話題にされた」と回答した者の割合が16.5%、「性的な冗談・からかいを言われた」が12.2%、「異性に身体を触られた」が8.2%、「宴会などでお酌やデュエットを強要された」が7.2%などの順となっている。

ア. 性的な冗談・からかいを言われた

性的な冗談・からかいを言われた経験について聞いたところ、「経験がある」と回答した者の割合が12.2%、「見聞きしたところがある」が20.3%、「そうしたことはない」が56.5%となっている。

性別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が男性より女性の方が9.3ポイント高くなっている。

性・年齢別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が女性の20歳代から50歳代、男性の30歳代で高くなっている。

平成28年度調査と比較してみると、「経験がある」と回答した者の割合が0.2ポイント高くなっており、「見聞きしたところがある」と回答した者の割合は1.8ポイント低くなっている。

イ. 自分の容姿・年齢・結婚などについて話題にされた

自分の容姿・年齢・結婚などについて話題にされた経験について聞いたところ、「経験がある」と回答した者の割合が16.5%、「見聞きしたところがある」が15.5%、「そうしたことはない」が55.7%となっている。

性別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が男性より女性の方が9.5ポイント高くなっている。

性・年齢別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が女性の20歳代から50歳代、男性の20歳代、30歳代で高くなっている。

平成28年度調査と比較してみると、「経験がある」と回答した者の割合が0.7ポイント低くなっており、「見聞きしたところがある」と回答した者の割合は2.2ポイント高くなっている。

ウ. 異性に身体を触られた

異性に身体を触られた経験について聞いたところ、「経験がある」と回答した者の割

合が 8.2%、「見聞きしたところがある」が 8.9%、「そうしたことはない」が 70.0%となっている。

性別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が男性より女性の方が 10.3 ポイント高くなっている。

性・年齢別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が女性の 20 歳代、30 歳代で高くなっている。

平成 28 年度調査と比較してみると、「経験がある」と回答した者の割合が 1.9 ポイント、「見聞きしたところがある」と回答した者の割合は 0.4 ポイント低くなっている。

エ. 宴会などでお酌やデュエットを強要された

宴会などでお酌やデュエットを強要された経験について聞いたところ、「経験がある」と回答した者の割合が 7.2%、「見聞きしたところがある」が 8.8%、「そうしたことはない」が 71.4%となっている。

性別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が男性より女性の方が 7.3 ポイント高くなっている。

性・年齢別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が女性の 30 歳代から 50 歳代、男性の 30 歳代で高くなっている。

平成 28 年度調査と比較してみると、「経験がある」と回答した者の割合が 1.8 ポイント、「見聞きしたところがある」と回答した者の割合は 4.6 ポイント低くなっている。

オ. 地位を利用した性的な誘いを受けた

地位を利用した性的な誘いを受けた経験について聞いたところ、「経験がある」と回答した者の割合が 1.8%、「見聞きしたところがある」が 5.0%、「そうしたことはない」が 80.8%となっている。

性別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が男性より女性の方が 2.3 ポイント高くなっている。

性・年齢別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が女性の 20 歳代、50 歳代で高くなっている。

平成 28 年度調査と比較してみると、「経験がある」と回答した者の割合が 0.6 ポイント、「見聞きしたところがある」と回答した者の割合は 1.9 ポイント低くなっている。

カ. 性的なうわさ話を流された

性的なうわさ話を流された経験について聞いたところ、「経験がある」と回答した者の割合が 2.0%、「見聞きしたところがある」が 6.3%、「そうしたことはない」が 79.1%となっている。

性別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が男性より女性の方が 1.6 ポイント高くなっている。

性・年齢別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が女性の 20 歳代、男性の 20 歳代で高くなっている。

平成 28 年度調査と比較してみると、「経験がある」と回答した者の割合が 1.0 ポイント、「見聞きしたところがある」と回答した者の割合は 1.5 ポイント低くなっている。

キ. 裸の写真などが貼ってあったり見せられたりした

裸の写真などが貼ってあったり見せられたりした経験について聞いたところ、「経験がある」と回答した者の割合が1.0%、「見聞きしたところがある」が2.4%、「そうしたことはない」が83.9%となっている。

性別に見ると、男女の大きな差異はみられなかった。

性・年齢別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が女性の20歳代、40歳代、男性の50歳代で高くなっている。

平成28年度調査と比較してみると、「経験がある」と回答した者の割合が0.6ポイント、「見聞きしたところがある」と回答した者の割合は2.1ポイント低くなっている。

ク. 不愉快な視線を送られた

不愉快な視線を送られた経験について聞いたところ、「経験がある」と回答した者の割合が5.1%、「見聞きしたところがある」が6.0%、「そうしたことはない」が76.7%となっている。

性別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が男性より女性の方が3.4ポイント高くなっている。

性・年齢別に見ると、「経験がある」と回答した者の割合が女性の20歳代から30歳代、男性の30歳代から40歳代で高くなっている。

平成28年度調査と比較してみると、「経験がある」と回答した者の割合が3.5ポイント、「見聞きしたところがある」と回答した者の割合は1.5ポイント高くなっている。

(2) 妊娠・出産について、女性側の意見が尊重されるべきという考え方について

「性関係や、子どもをいつ、何人産むかあるいは産まないかなどについて、妊娠・出産の可能性のある女性側の意見が尊重されるべきである」という考え方をどう思うかについて聞いたところ、「同感する」と回答した者の割合が76.1%（「非常に同感する」20.7%＋「かなり同感する」31.3%＋「少し同感する」24.1%）、「同感しない」と回答した者の割合が16.2%（「あまり同感しない」9.1%＋「全く同感しない」7.1%）となっている。

性別に見ると、男女の大きな差異はみられない。

性・年齢別に見ると、「同感する」と回答した者の割合が女性の20歳代から50歳代、男性の20歳代から60歳代で高くなっている。

(3) DVについて

DVの経験について聞いたところ、「何度もあった」、「1、2度あった」と回答した者の割合が高かったのは、「言葉で傷つけられる」が35.5%、「大声でどなられる」が30.7%、「何を言っても無視される」が16.3%、「交友関係や電話を細かくチェックされる」が12.2%などの順となっている。

ア. 大声でどなられる

大声でどなられる経験について聞いたところ、「何度もあった」と回答した者の割合

が 11.4%、「1、2度あった」が 19.3%、「全くない」が 36.2%となっている。

性別に見ると、「何度もあった」と回答した者の割合が 11.2 ポイント、「1、2度あった」が 7.5 ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「何度もあった」と回答した者の割合が女性の 40 歳代から 60 歳代で高くなっている。

イ. 言葉で傷つけられる

言葉で傷つけられる経験について聞いたところ、「何度もあった」と回答した者の割合が 3.7%、「1、2度あった」が 8.5%、「全くない」が 52.4%となっている。

性別に見ると、「何度もあった」と回答した者の割合が 2.8 ポイント、「1、2度あった」が 3.5 ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「何度もあった」と回答した者の割合が女性の 20 歳代から 40 歳代、男性の 30 歳代で高くなっている。

ウ. 何を言っても無視される

何を言っても無視される経験について聞いたところ、「何度もあった」と回答した者の割合が 3.1%、「1、2度あった」が 13.2%、「全くない」が 47.6%となっている。

性別に見ると、「何度もあった」と回答した者の割合が 2.8 ポイント女性より男性の方が高く、「1、2度あった」が 1.1 ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「何度もあった」と回答した者の割合が女性の 30 歳代、60 歳代、男性の 40 歳代、50 歳代で高くなっている。

エ. 見たくないのにポルノビデオ・雑誌を見せられる

見たくないのにポルノビデオ・雑誌を見せられる経験について聞いたところ、「何度もあった」と回答した者の割合が 0.4%、「1、2度あった」が 2.1%、「全くない」が 58.2%となっている。

性別に見ると、「何度もあった」と回答した者の割合が 0.2 ポイント、「1、2度あった」が 1.0 ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「何度もあった」、「1、2度あった」と回答した者の割合が女性の 40 歳代、50 歳代で高くなっている。

オ. 嫌がっているのに性的な行為を強要される

嫌がっているのに性的な行為を強要される経験について聞いたところ、「何度もあった」と回答した者の割合が 2.7%、「1、2度あった」が 6.5%、「全くない」が 53.4%となっている。

性別に見ると、「何度もあった」と回答した者の割合が 3.3 ポイント、「1、2度あった」が 9.7 ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「何度もあった」、「1、2度あった」と回答した者の割合が女性の 20 歳代から 40 歳代、70 歳以上で高くなっている。

カ. 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける

医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける経験について聞いたところ、「何

もあった」と回答した者の割合が2.3%、「1、2度あった」が5.8%、「全くない」が54.8%となっている。

性別に見ると、「何度もあった」と回答した者の割合が4.2ポイント、「1、2度あった」が5.5ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「何度もあった」と回答した者の割合が女性の20歳代、60歳代で高く、「何度もあった」と「1、2度あった」を加えた割合は女性の30歳代、40歳代で高くなっている。

キ. 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける

医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける経験について聞いたところ、「何どもあった」と回答した者の割合が1.0%、「1、2度あった」が1.7%、「全くない」が59.2%となっている。

性別に見ると、「何どもあった」と回答した者の割合が1.8ポイント、「1、2度あった」が2.6ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「何どもあった」と「1、2度あった」を加えた割合は女性の30歳代から60歳代で高くなっている。

ク. 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける

命の危険を感じるくらいの暴行を受ける経験について聞いたところ、「何どもあった」と回答した者の割合が0.9%、「1、2度あった」が1.8%、「全くない」が59.5%となっている。

性別に見ると、「何どもあった」と回答した者の割合が1.6ポイント、「1、2度あった」が2.8ポイント、男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「何どもあった」と「1、2度あった」を加えた割合は女性の20歳代から60歳代で高くなっている。

(4) 身体的暴力被害を受けたときの相談先

身体的暴力被害を受けたときの相談先について聞いたところ、「どこにも誰にも相談しなかった」と回答した者の割合が42.4%と最も高く、次いで、「友人・知人に相談した」が42.4%、「家族に相談した」が18.6%などの順となっている。

身体的暴力被害を受けたときに相談しなかった人に対して、相談しなかった理由を聞いたところ、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままでやっていけると思ったから」と回答した者の割合が48.0%と最も高く、次いで、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」と「相談しても無駄だと思ったから」が44.0%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が36.0%などとなっている。

性別に見ると、「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままでやっていけると思ったから」と回答した者の割合が、女性の割合が高くなっている。

8. 男女共同参画社会について

男女共同参画社会の実現に向けて、今後どのようなことが必要かについて聞いたところ、「男女平等についてお互い理解し、協力する」と回答した者の割合が48.0%と最も高く、次いで、「男女の役割分担についての社会通念や慣習を改善する」が37.2%、「子どもの時から男女平等教育をよりいっそう進める」が30.3%などの順となっている。

性別に見ると、「子どもの時から男女平等教育をよりいっそう進める」、「男女が共に自立する」、「就職・昇進・賃金など職業上の不平等をなくす」と回答した者の割合は、男性より女性の方が、回答割合が高くなっている。

Ⅲ. 調査結果の分析

Ⅲ. 調査結果の分析

1. 男女共同参画に関する意識と多文化共生社会について

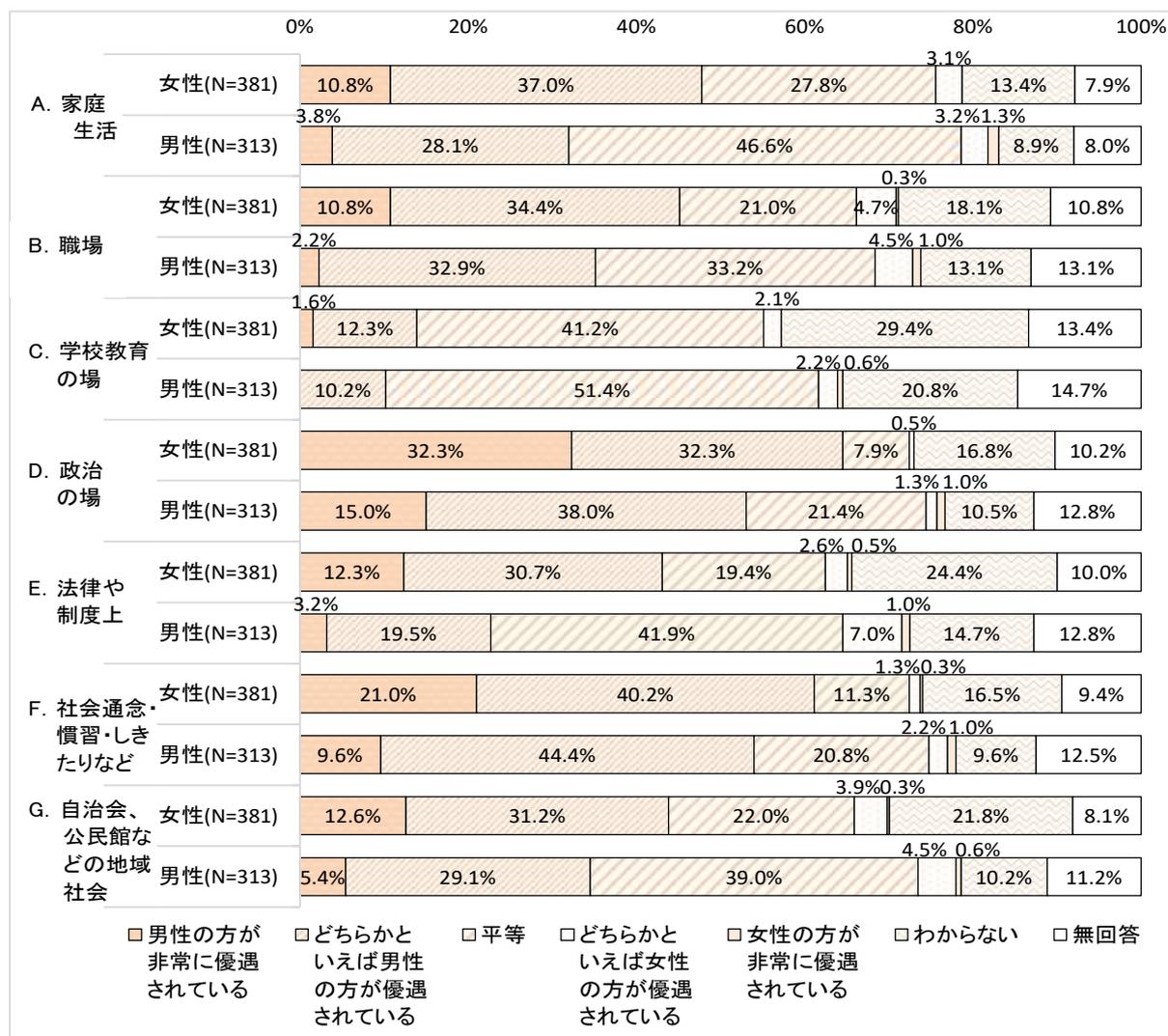
(1) 男女の地位の平等感

問1 あなたは、次にあげるような項目で男女の地位は平等になっていると思いますか。
(各項目についてあてはまるものを1つだけ選択)

各項目において、女性が「平等」と回答した割合は、「C. 学校教育の場」(41.2%)が最も高く、次いで、「A. 家庭生活」(27.8%)、「G. 自治会、公民館などの地域社会」(22.0%)の順となっている。男性は「C. 学校教育の場」(51.4%)が最も高く、次いで「A. 家庭生活」(46.6%)、「E. 法律や制度上」(41.9%)の順となっている。

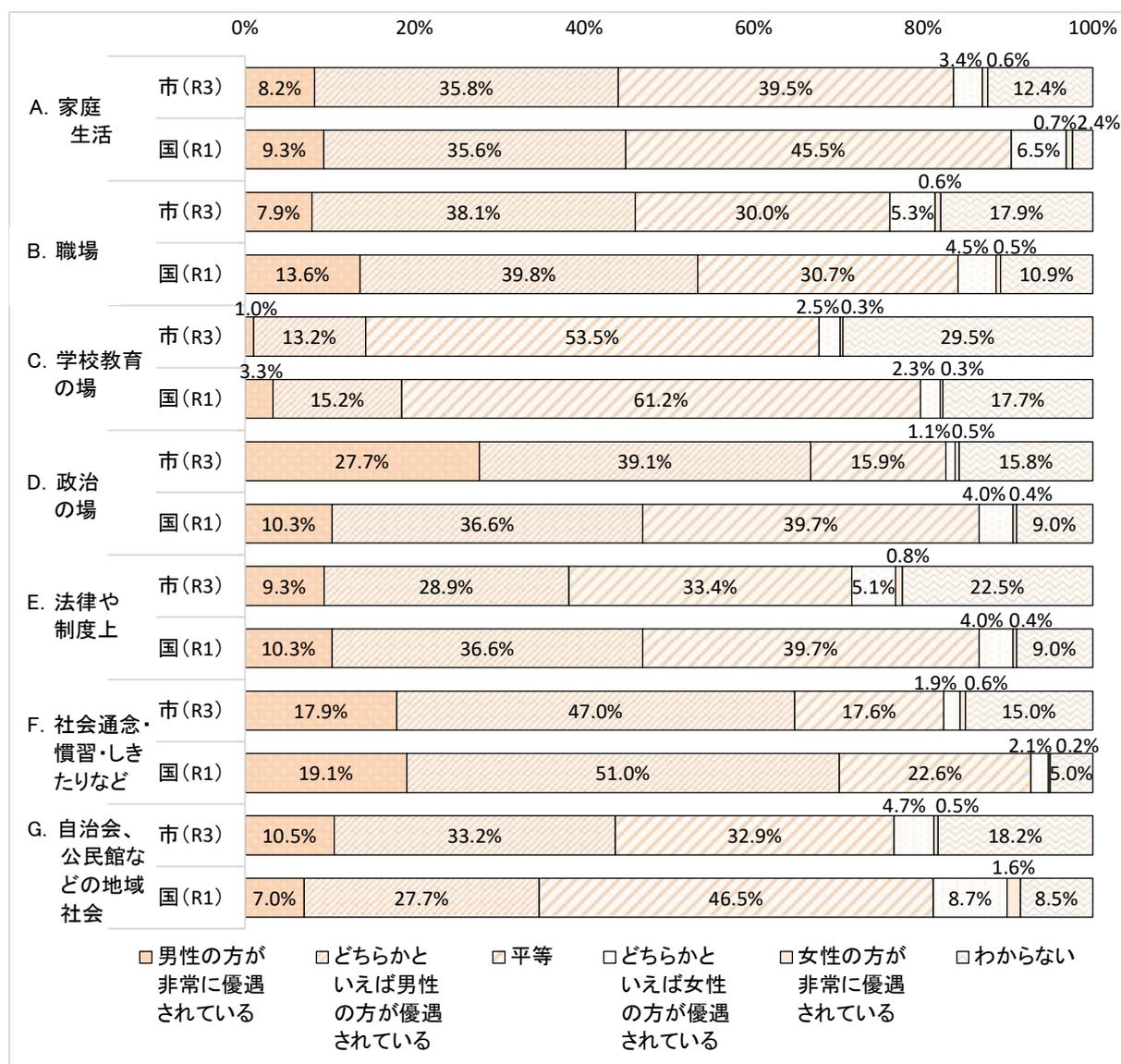
『男性の方が優遇されている』(「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合は、女性は「D. 政治の場」(64.6%)が最も高く、男性は「F. 社会通念・慣習・しきたりなど」(54.0%)が最も高くなっている。

図表1 男女の地位の平等感



内閣府調査と比較すると、市の「D. 政治の場」の「平等」の割合が国よりも低くなっている。また、すべての項目において市の「平等」の割合が国の割合より下回っている。

図表2 【参考】各分野の男女の地位の平等感(内閣府・男女共同参画社会に関する世論調査)



※国にあわせて無回答を除いた割合を算出した。

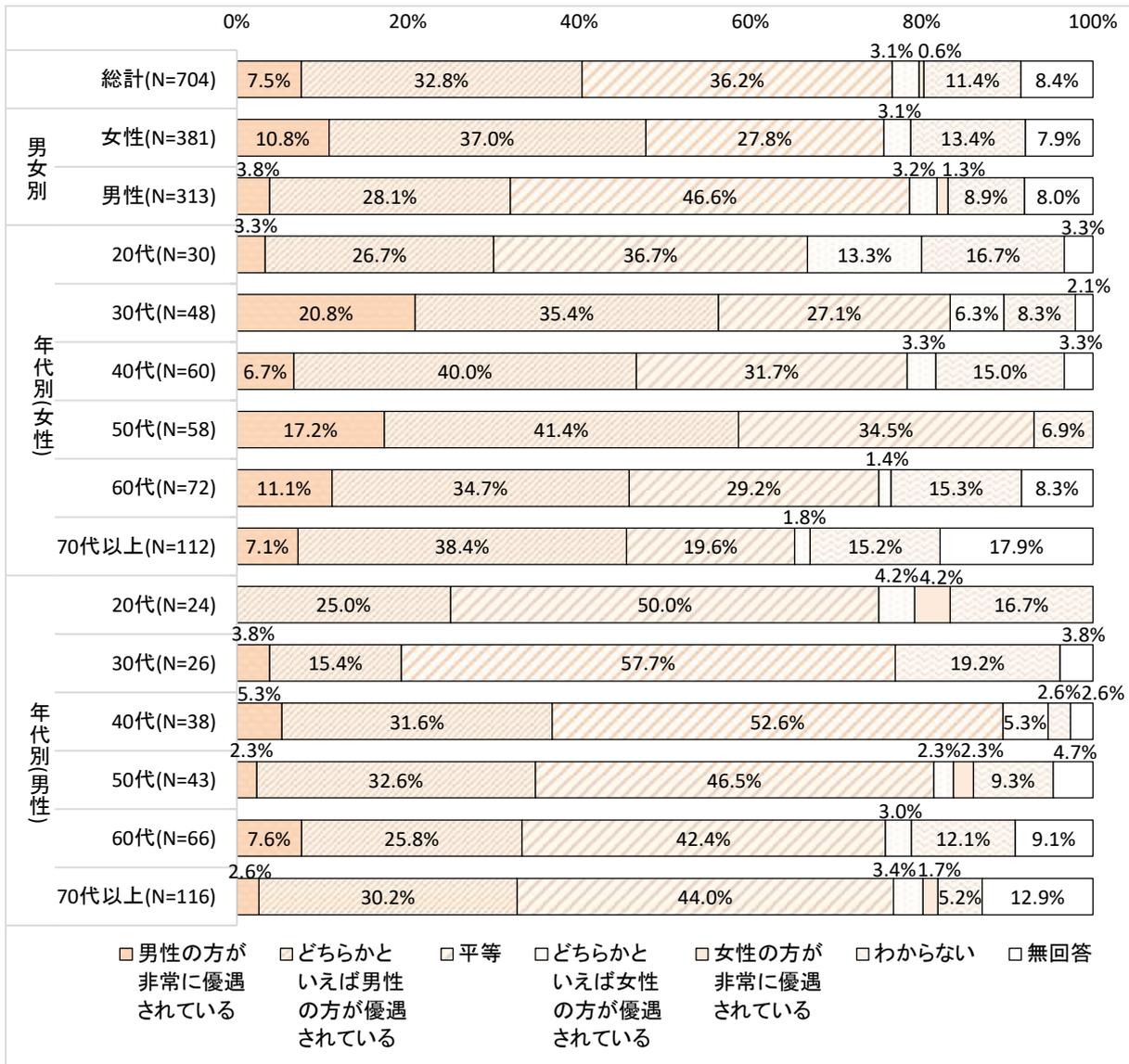
〈A. 家庭生活〉

総計では、「平等」(36.2%)と回答した割合が最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(32.8%)、「わからない」(11.4%)の順となっている。

男女別にみると、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(37.0%)の割合が最も多いが、男性は「平等」(46.6%)の割合が最も多くなっている。年代別にみると、「平等」の割合は、30代男性(57.7%)が最も高くなっている。

内閣府調査と比較すると、『女性の方が優遇されている』の割合は内閣府調査が高くなっている。

図表3 男女の地位の平等感〈A. 家庭生活〉



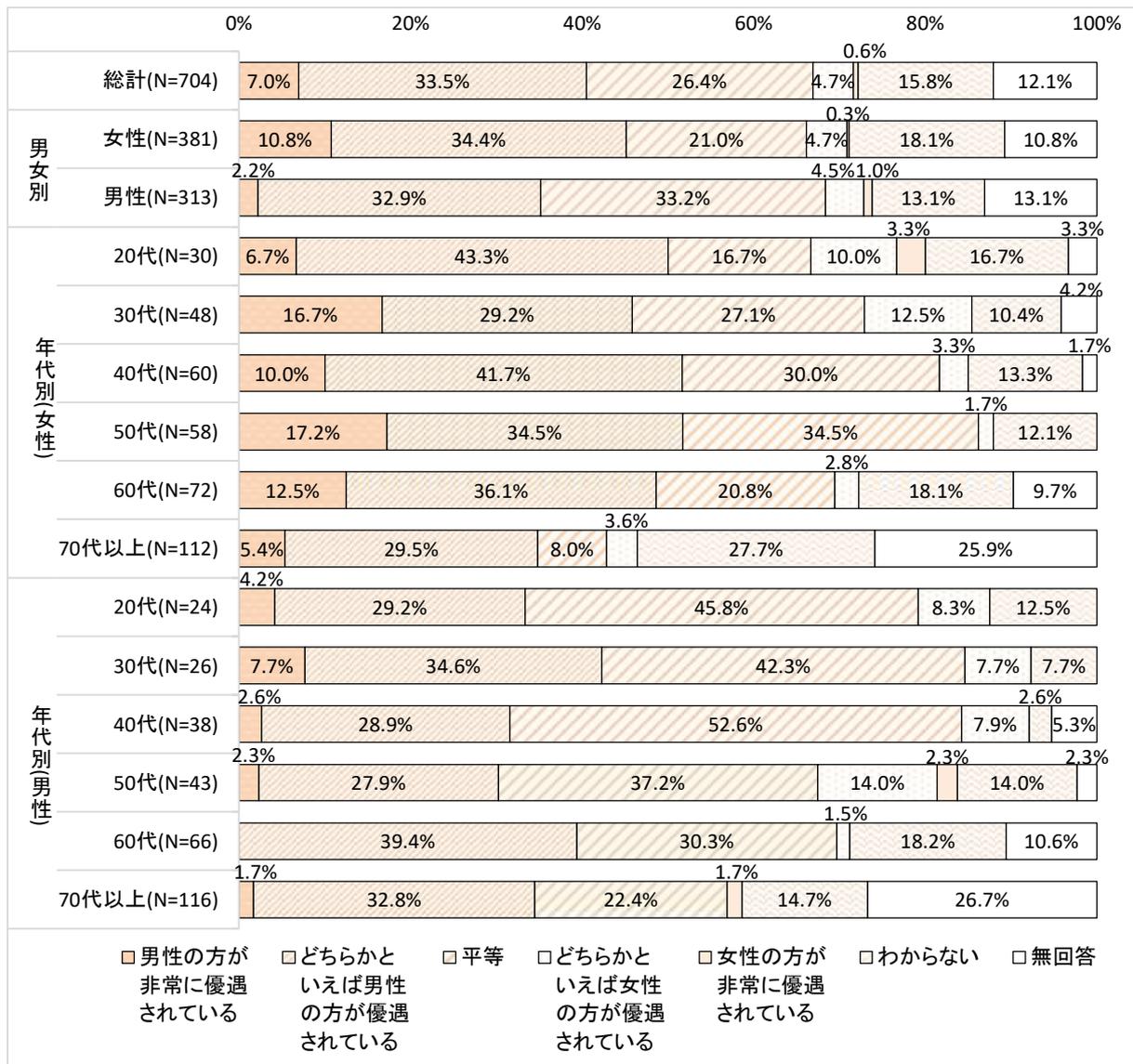
〈B. 職場〉

総計では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(33.5%)と回答した割合が最も高く、次いで「平等」(26.4%)、「わからない」(15.8%)の順となっている。

男女別にみると、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(34.4%)の割合が最も多いが、男性は「平等」(33.2%)の割合が最も多くなっている。年代別にみると、『男性の方が優遇されている』の割合は40代女性、50代女性(51.7%)が最も高くなっている。

内閣府調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』の割合は内閣府調査が高くなっている。

図表4 男女の地位の平等感〈B. 職場〉

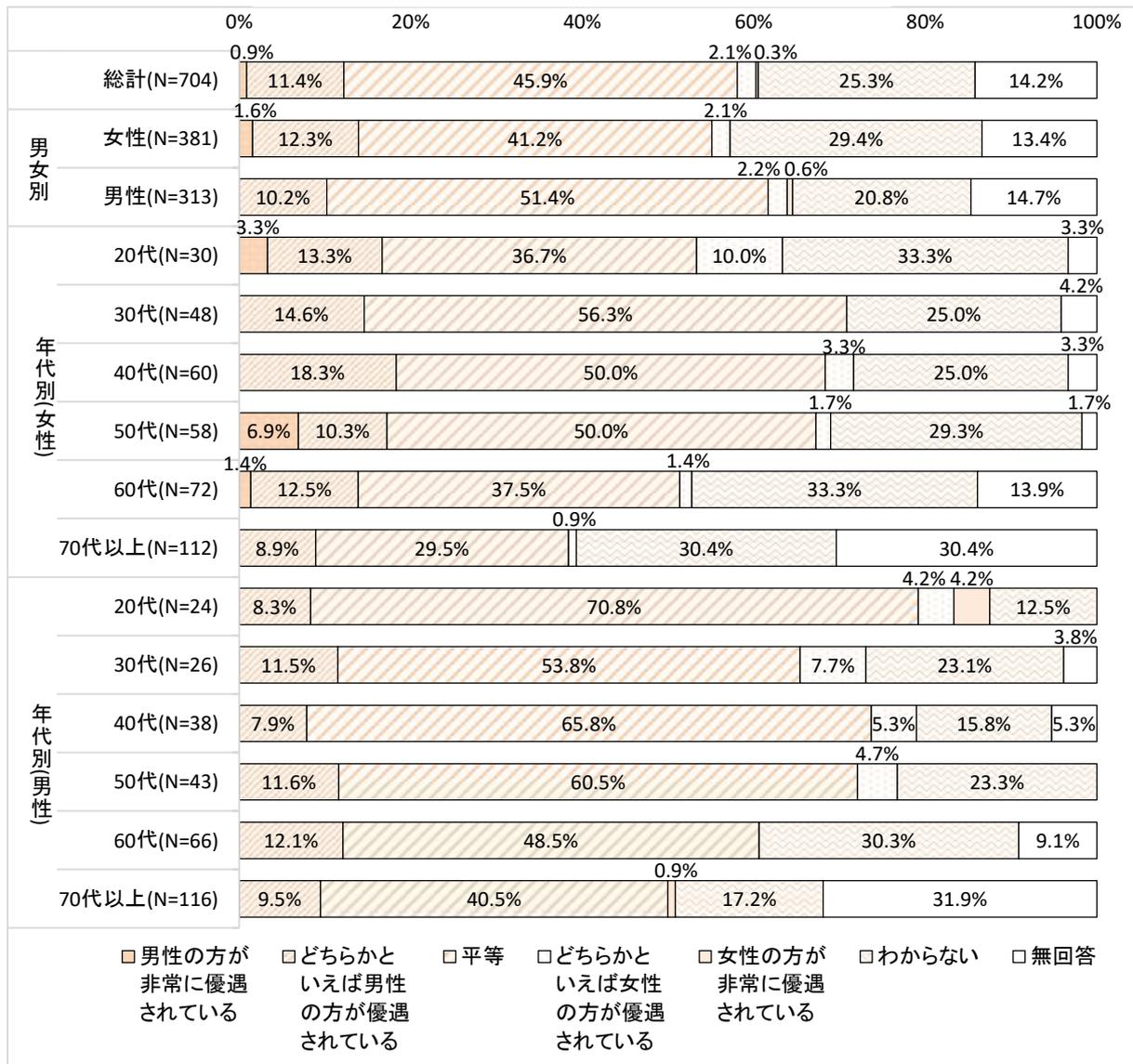


〈C. 学校教育の場〉

総計では、「平等」(45.9%)と回答した割合が最も高く、次いで「わからない」(25.3%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(11.4%)の順となっている。

男女別にみると、男性の「平等」(51.4%)の割合が5割を超えており、女性(41.2%)より高くなっている。また、性年代別にみると、「平等」の割合は20代男性(70.8%)が最も高くなっている。

図表5 男女の地位の平等感〈C. 学校教育の場〉

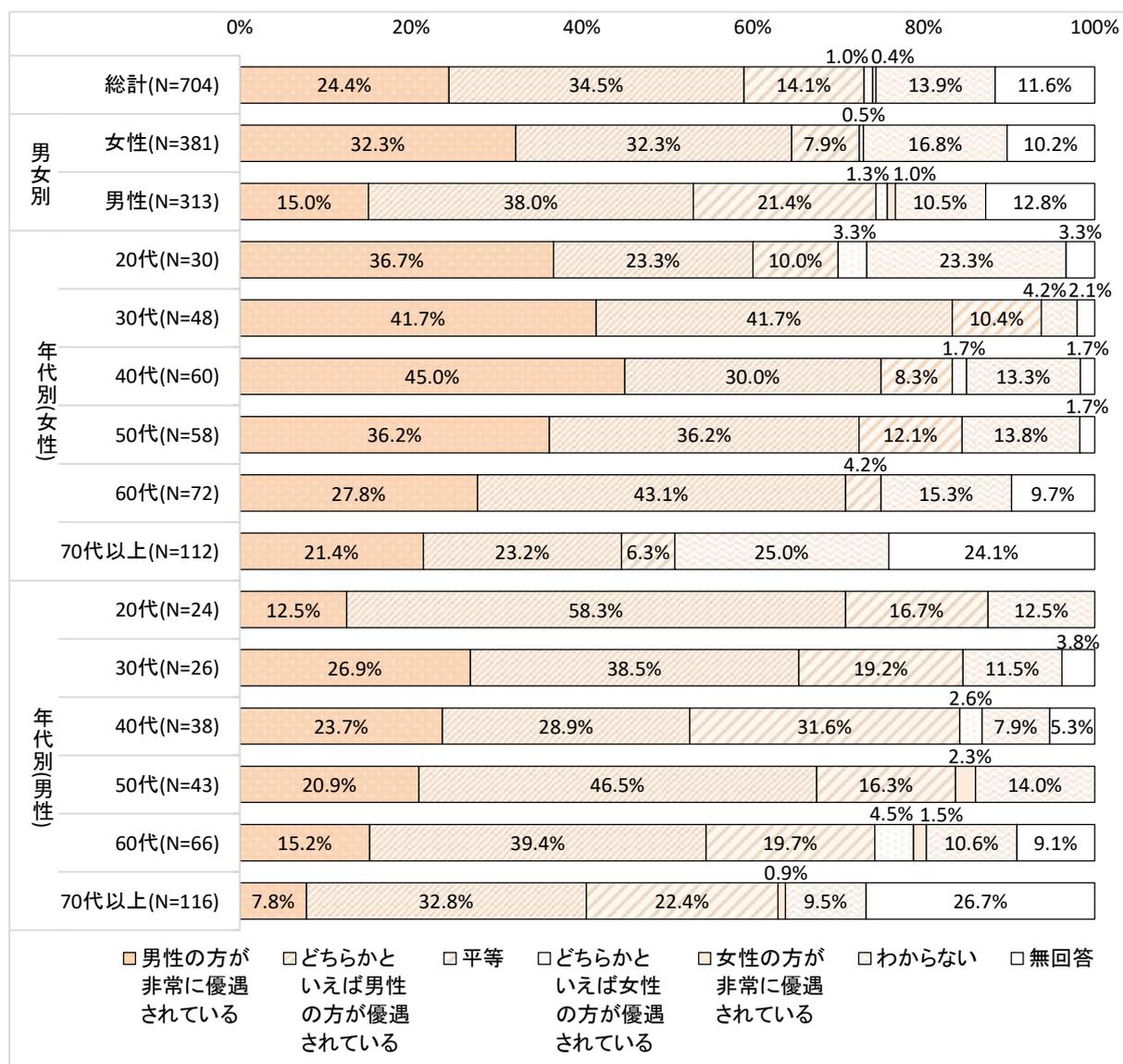


〈D. 政治の場〉

総計では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(34.5%)と回答した割合が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(24.4%)、「平等」(14.1%)の順となっている。

男女別にみると、女性の『男性の方が優遇されている』(64.6%)の割合が男性(53.0%)より11.6ポイント高くなっている。年代別にみると、「平等」の割合は40代男性(31.6%)が最も高くなっている。

図表6 男女の地位の平等感〈D. 政治の場〉

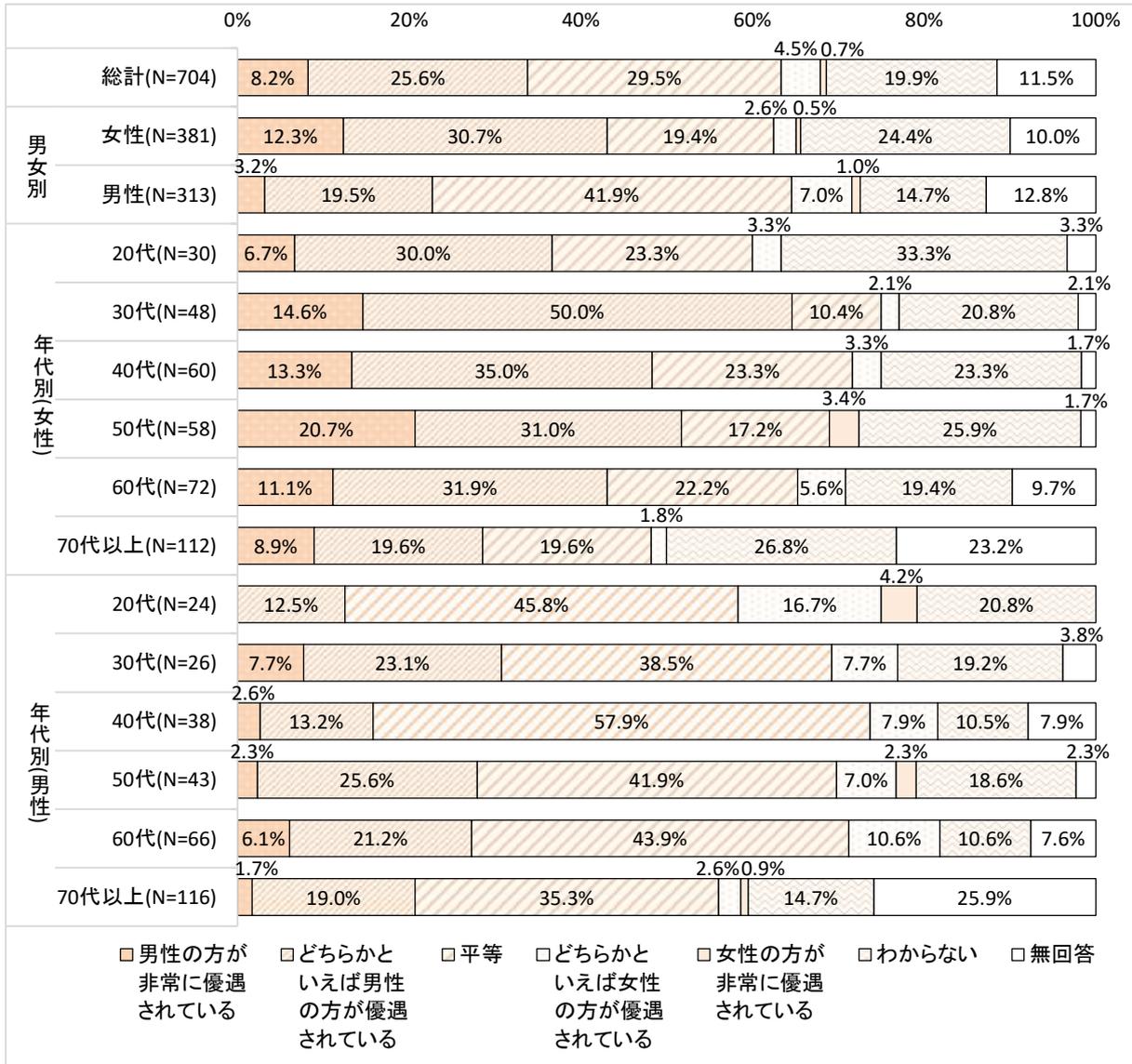


〈E. 法律や制度上〉

総計では、「平等」(29.5%)と回答した割合が最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(25.6%)、「わからない」(19.9%)の順となっている。

男女別にみると、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(30.7%)の割合が最も多いが、男性は「平等」(41.9%)の割合が最も多くなっている。年代別にみると、「平等」の割合は40代男性(57.9%)が最も高くなっている。

図表7 男女の地位の平等感〈E. 法律や制度上〉

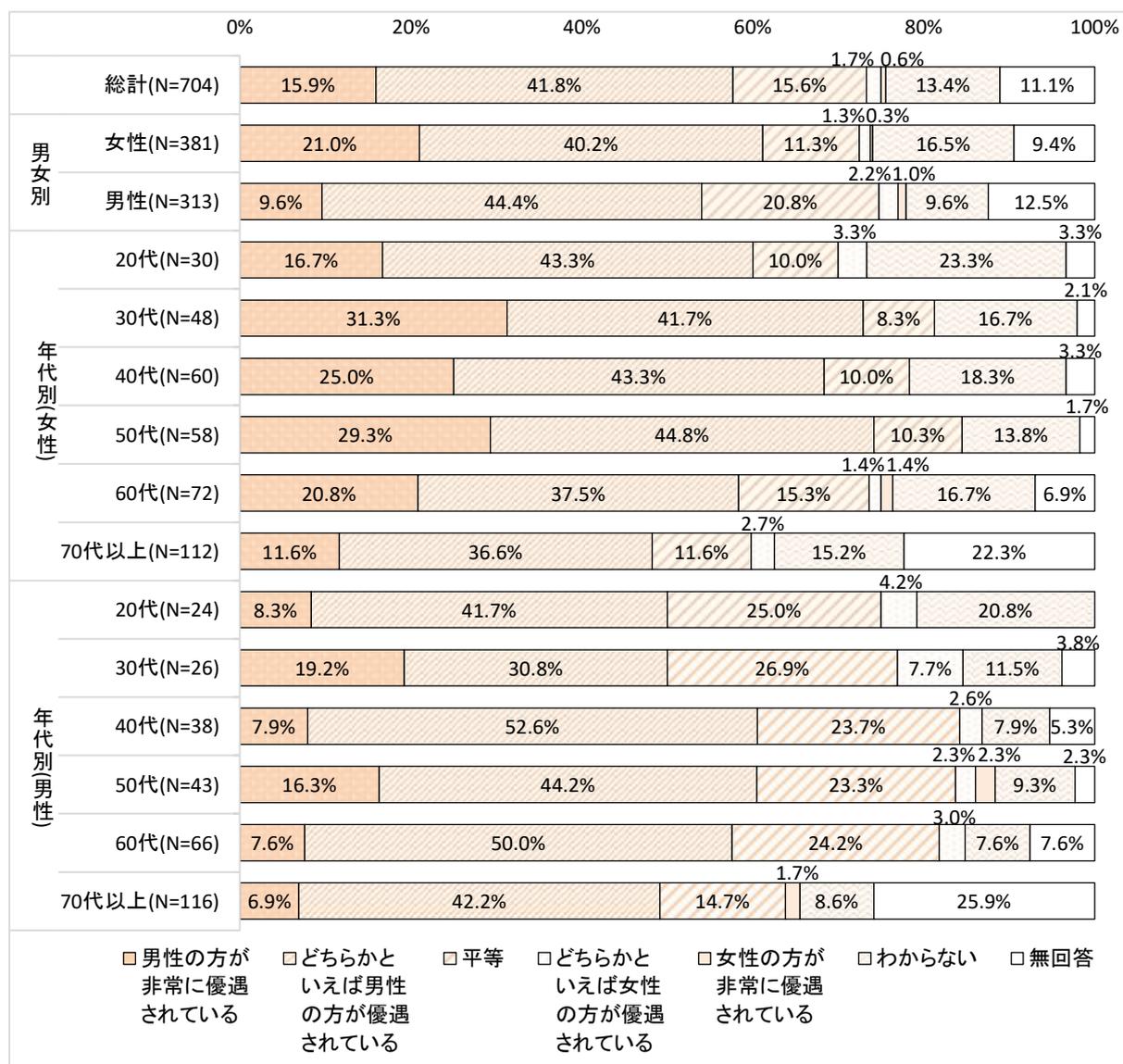


〈F. 社会通念・慣習・しきたりなど〉

総計では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(41.8%)と回答した割合が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(15.9%)、「平等」(15.6%)の順となっている。

男女別にみると、女性の『男性の方が優遇されている』(61.2%)の割合が男性(54.0%)より7.2ポイント高くなっている。年代別にみると、『男性の方が優遇されている』の割合は50代女性(74.1%)が最も高くなっている。

図表8 男女の地位の平等感〈F. 社会通念・慣習・しきたりなど〉

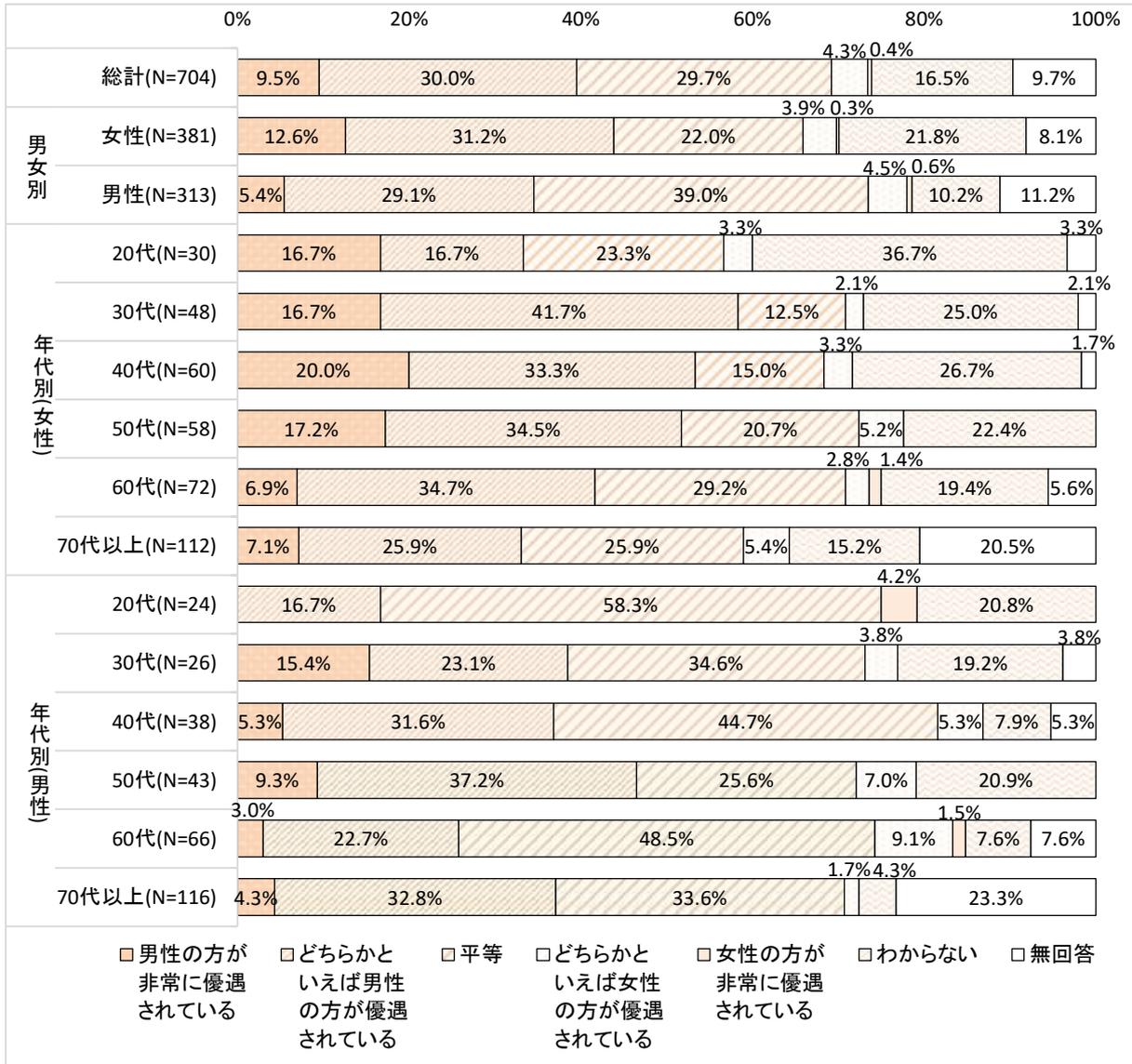


〈G. 自治会、公民館などの地域社会〉

総計では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(30.0%)と回答した割合が最も高く、次いで「平等」(29.7%)、「わからない」(16.5%)の順となっている。

男女別にみると、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(31.2%)の割合が最も多いが、男性は「平等」(39.0%)の割合が最も多くなっている。年代別にみると、『男性の方が優遇されている』の割合は30代女性(58.4%)が最も高くなっている。

図表9 男女の地位の平等感〈G. 自治会、公民館などの地域社会〉

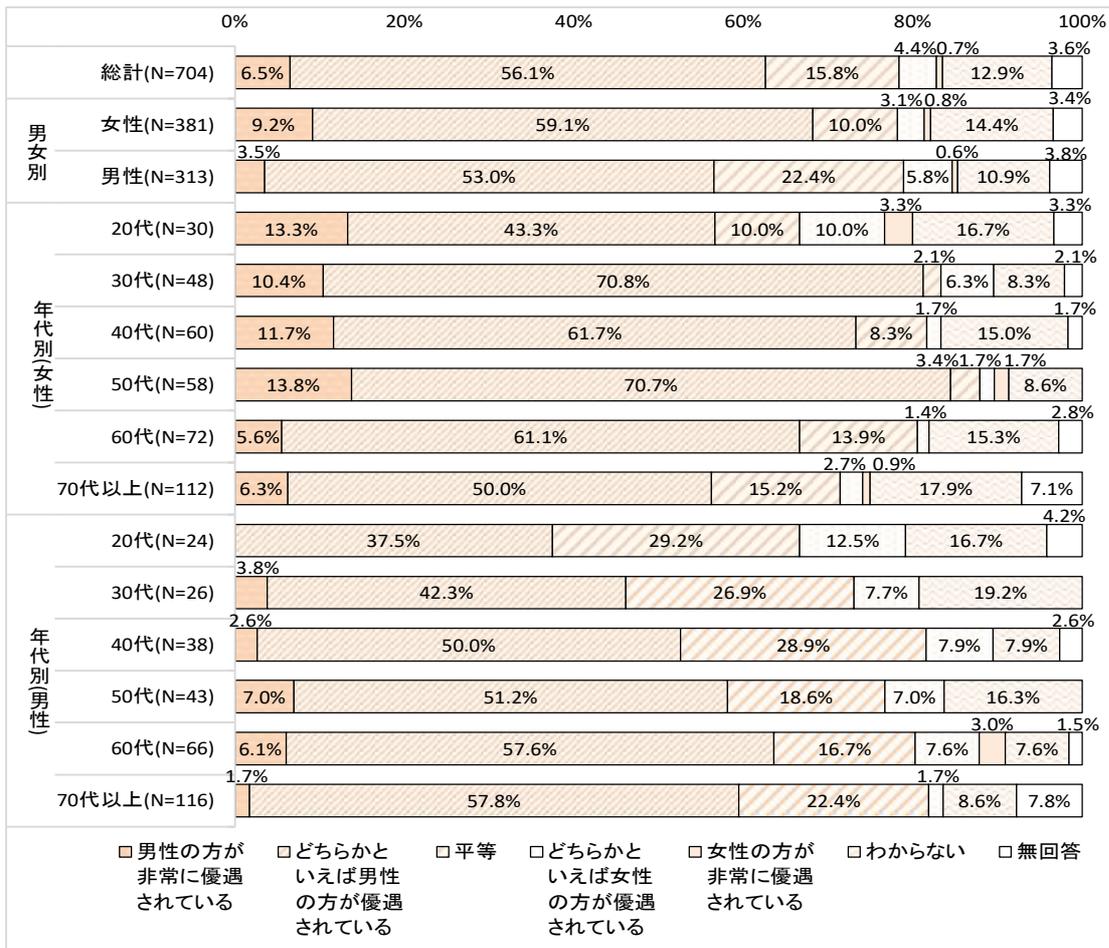


問2 あなたは社会全体にみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(あてはまるものを1つだけ選択)

総計では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(56.1%)の割合が最も多く、次いで「平等」(15.8%)、「わからない」(12.9%)の順となっている。

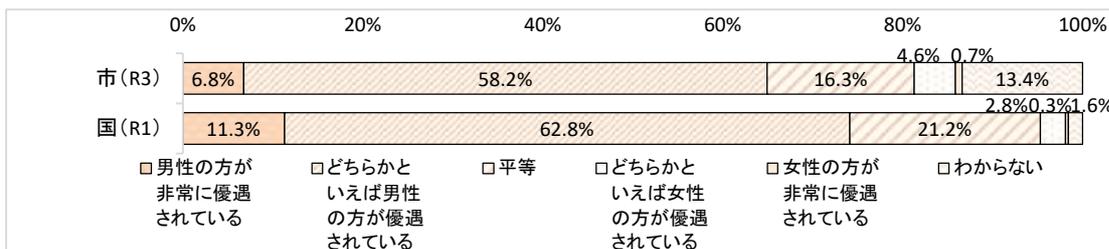
男女別・年代別にみると、女性の「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が約6割になっている。一方、男性の20~40代の「平等」の割合は約3割になっており、男性は若い年代ほど社会全体が平等と感じていることがわかる。

図表10 男女の地位の平等感<社会全体>



内閣府調査と比較すると、「平等」の割合が内閣府調査より下回っている。

図表11 男女の地位の平等感<社会全体>《内閣府比較》



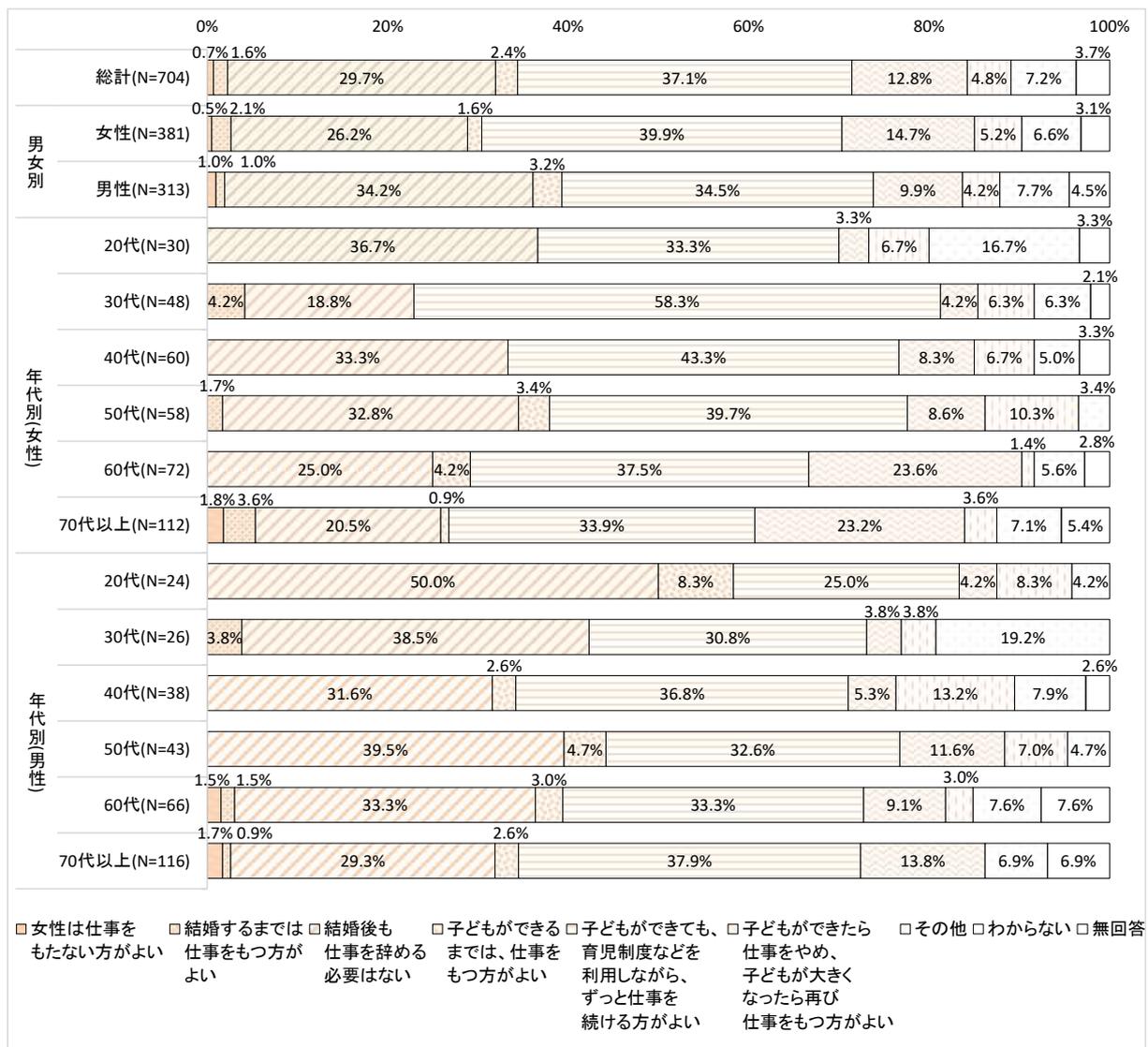
※国にあわせて無回答除いて算出した。

問3 一般的に、女性が仕事をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。（あてはまるものを1つだけ選択）

総計では、「子どもができて、育児制度などを利用しながら、ずっと仕事を続ける方がよい」(37.1%)の割合が最も多く、次いで「結婚後も仕事を辞める必要はない」(29.7%)、「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」(12.8%)の順となっている。

男女別にみると、男性の「結婚後も仕事を辞める必要はない」(34.2%)の割合が女性(26.2%)より8.0ポイント高くなっている。年代別にみると、「子どもができて、育児制度などを利用しながら、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合は30代女性(58.3%)が最も高くなっている。

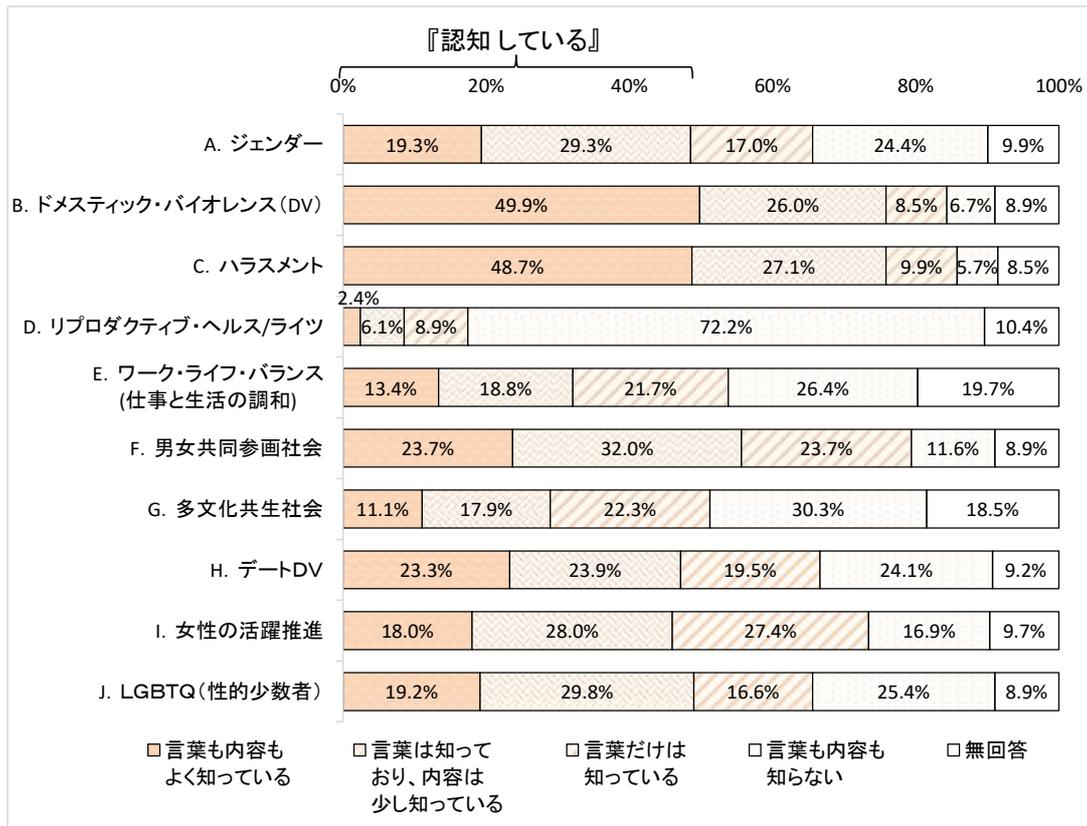
図表12 女性が仕事をもつことについて



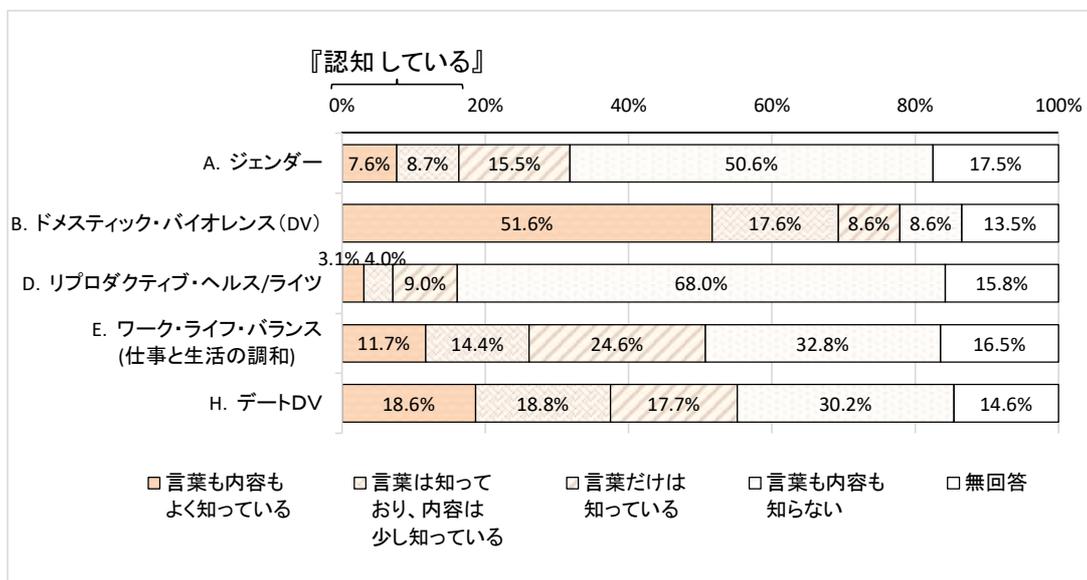
問4 あなたはこの調査以前に、次の言葉についてご存知でしたか。（各項目についてあてはまるものを1つだけ選択）

各項目において、『認知している』と回答した割合は、「B. ドメスティック・バイオレンス（DV）」（75.9%）が最も高く、次いで、「C. ハラスメント」（75.8%）、「F. 男女共同参画社会」（55.7%）の順となっている。一方、『D. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ』については「言葉も内容も知らない」の割合は約7割と、言葉の認知度が低いことがわかる。

図表 13 言葉の認知度<全体>

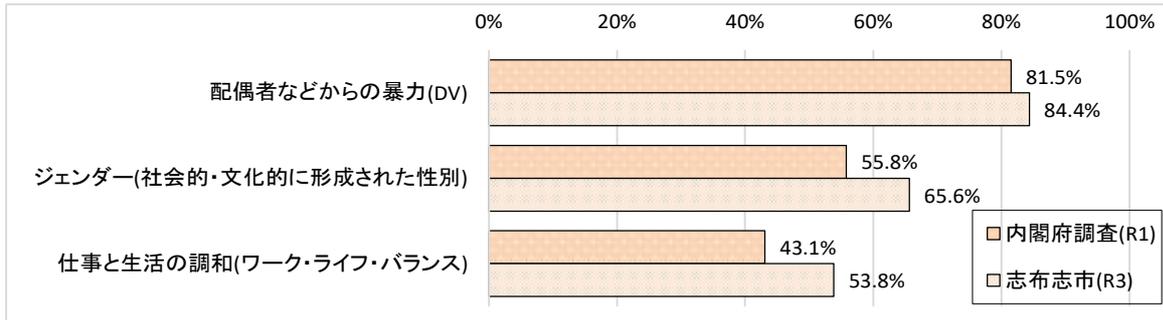


図表 14 言葉の認知度<H28 年度調査>



内閣府調査と比較すると、すべての項目で志布志市の割合が上回っている。

図表 15 言葉の認知度〈内閣府比較〉



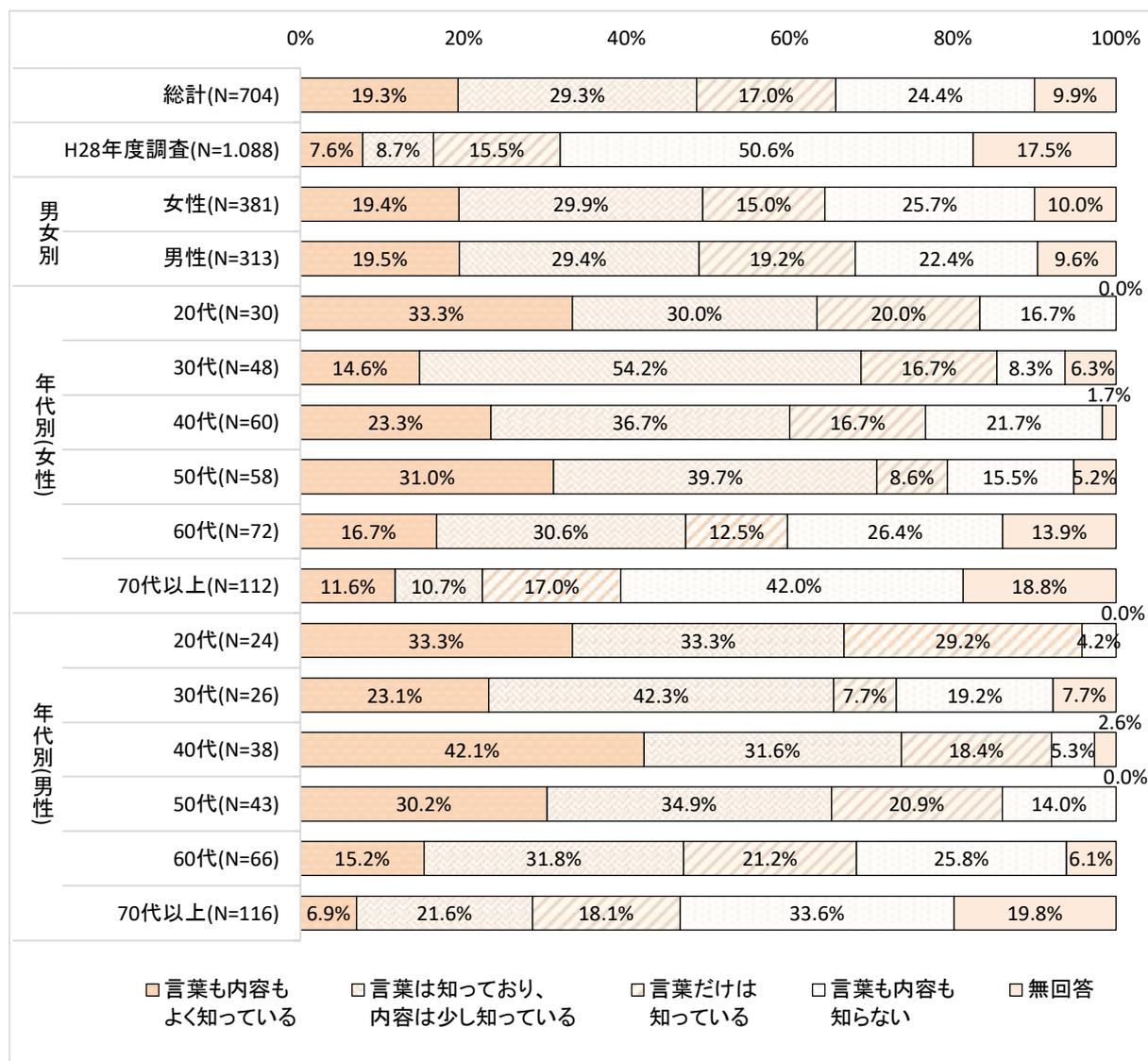
※内閣府調査では、『見たり聞いたりしたことがあるもの』を回答していたため、志布志市調査の「言葉も内容もよく知っている」「言葉は知っており、内容は少し知っている」「言葉だけは知っている」の項目を合計した数値を算出した。

〈A. ジェンダー〉

総計では、「言葉は知っており、内容は少し知っている」(29.3%)の割合が最も高く、次いで「言葉も内容も知らない」(24.4%)、「言葉も内容もよく知っている」(19.3%)の順となっている。

男女別にみると、『認知している』の割合が約5割で、男女ほぼ同等であった。年代別にみると、『認知している』の割合は70歳以上が他の年代と比較して低くなっている。

図表 16 言葉の認知度〈A. ジェンダー〉

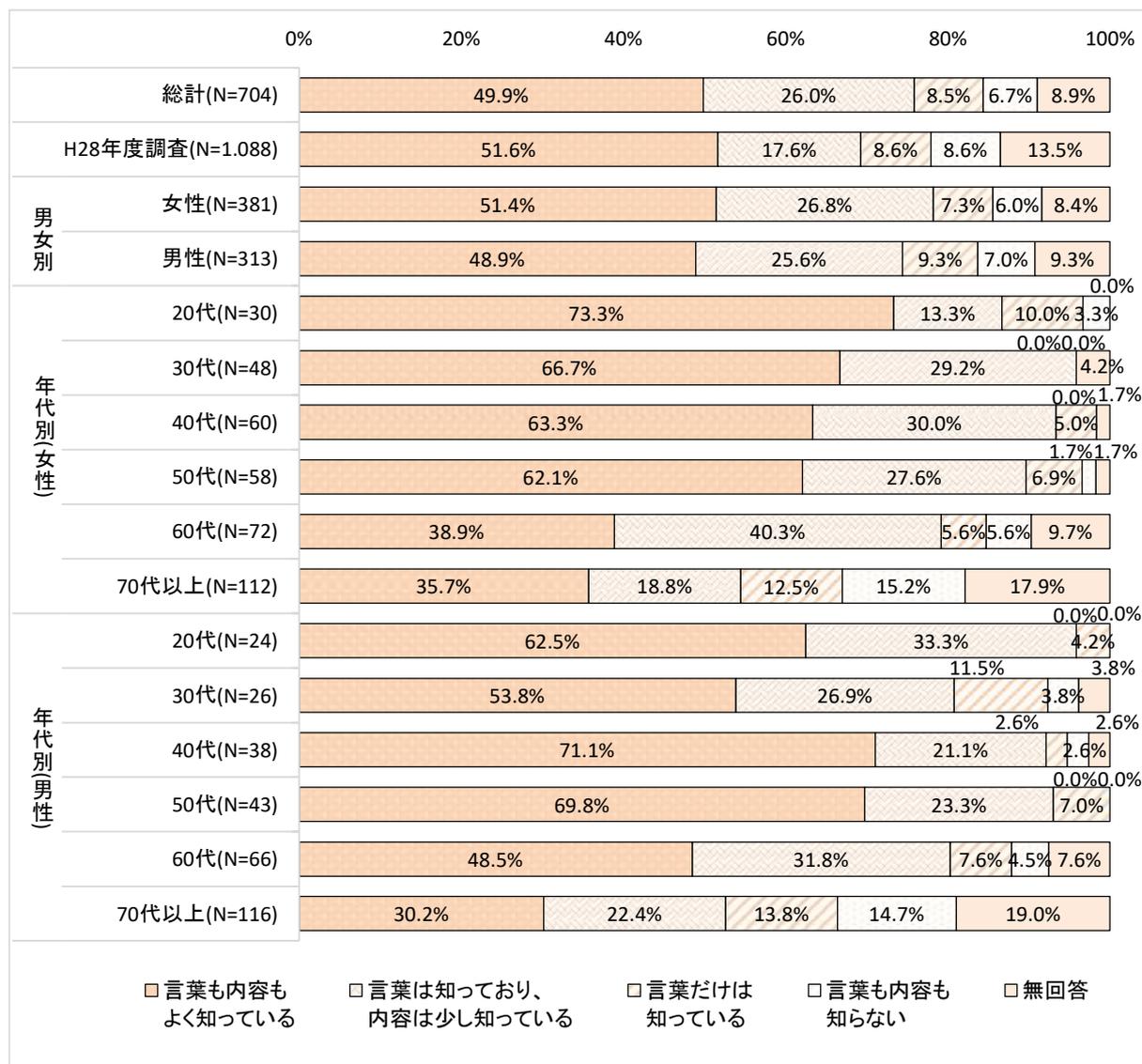


〈B. ドメスティック・バイオレンス (DV)〉

総計では、「言葉も内容もよく知っている」(49.9%)の割合が最も高く、次いで「言葉は知っており、内容は少し知っている」(26.0%)、「言葉だけは知っている」(8.5%)の順となっている。

男女別にみると、『認知している』の割合が男女ともに7割を超えており、言葉の認知度が高いことがわかる。年代別にみると、『認知している』の割合は70歳以上が他の年代と比較して低くなっている。

図表 17 言葉の認知度〈B. ドメスティック・バイオレンス (DV)〉

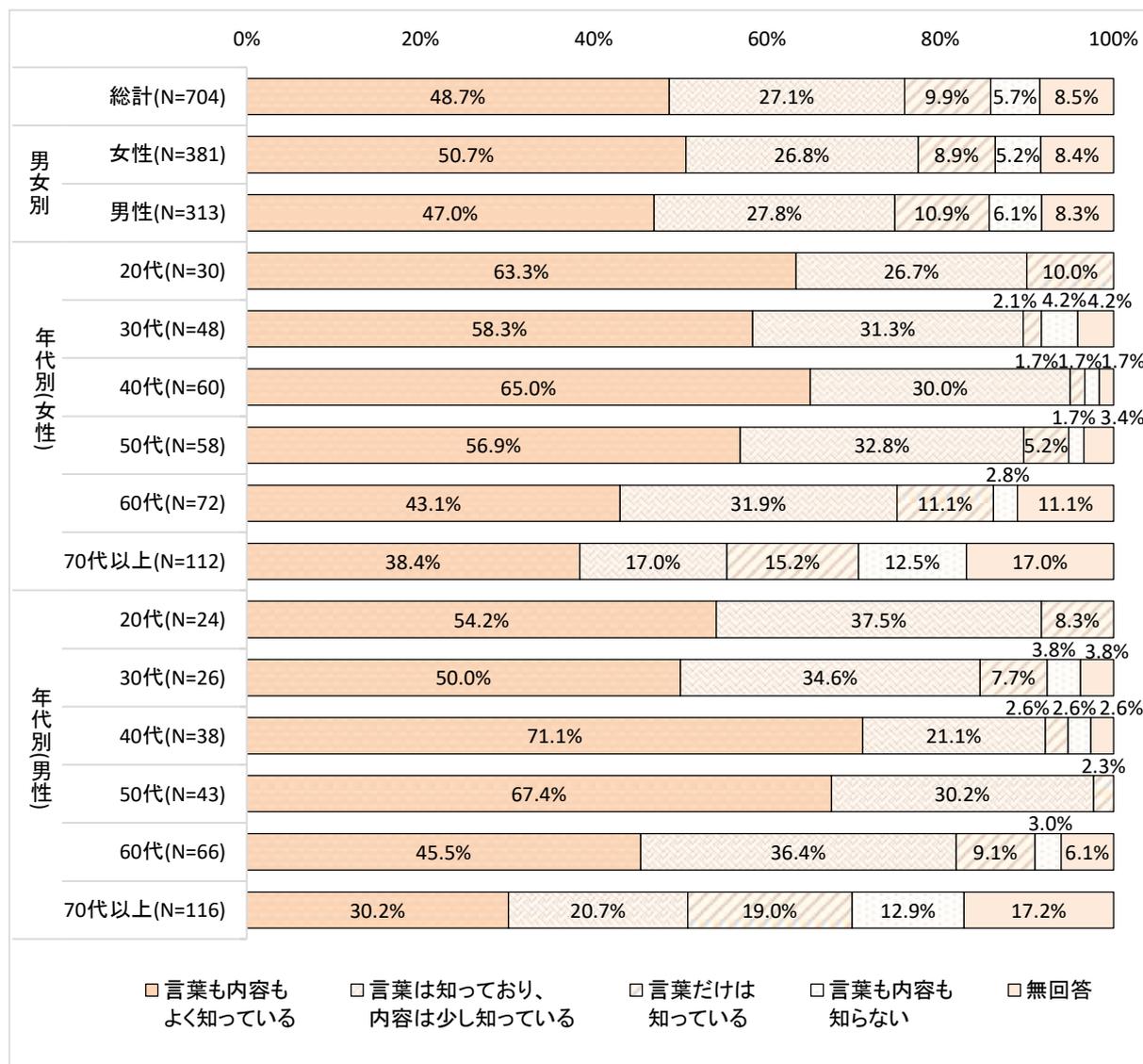


<C. ハラスメント>

総計では、「言葉も内容もよく知っている」(48.7%)の割合が最も高く、次いで「言葉は知っており、内容は少し知っている」(27.1%)、「言葉だけは知っている」(9.9%)の順となっている。

男女別にみると、『認知している』の割合が男女ともに7割を超えており、言葉の認知度が高いことがわかる。年代別にみると、『認知している』の割合は70歳以上が他の年代と比較して低くなっている。

図表 18 言葉の認知度<C. ハラスメント>

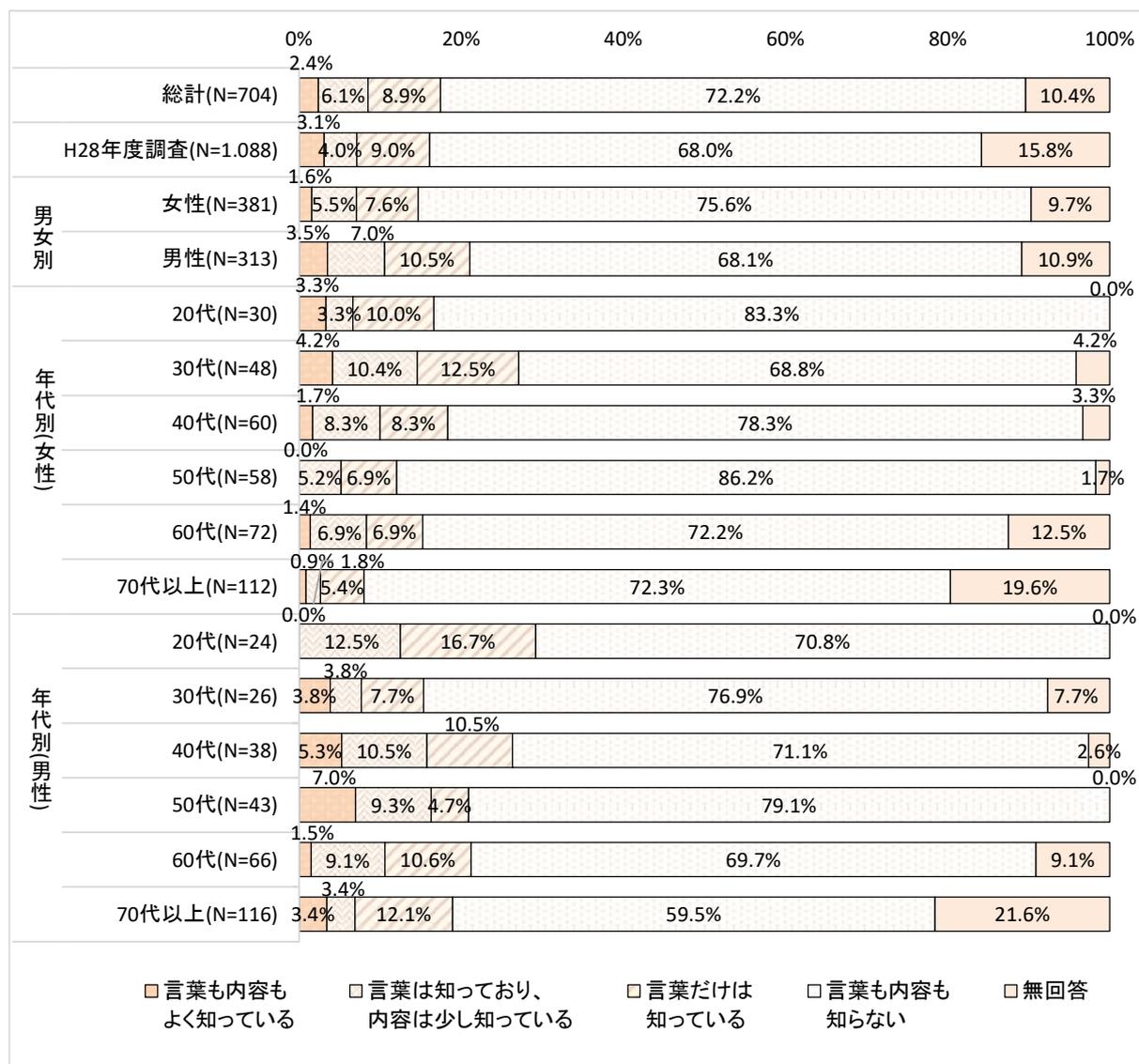


〈D. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ〉

総計では、「言葉も内容も知らない」(72.2%)の割合が最も高く、次いで「言葉だけは知っている」(8.9%)の割合となっている。

男女別にみると、男性の『認知している』(10.5%)の割合が女性(7.1%)よりも高くなっている。年代別にみると、『認知している』の割合は50歳男性(16.3%)が最も高くなっている。

図表 19 言葉の認知度〈D. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ〉



〈E. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）〉

総計では、「言葉も内容も知らない」（26.4%）の割合が最も高く、次いで「言葉だけは知っている」（21.7%）、「言葉は知っており、内容は少し知っている」（18.8%）の順となっている。

男女別にみると、男性の『認知している』（34.8%）の割合が女性（30.5%）よりも高くなっている。年代別にみると、『認知している』の割合は30代男性（57.7%）が最も高くなっている。

図表 20 言葉の認知度〈E. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）〉

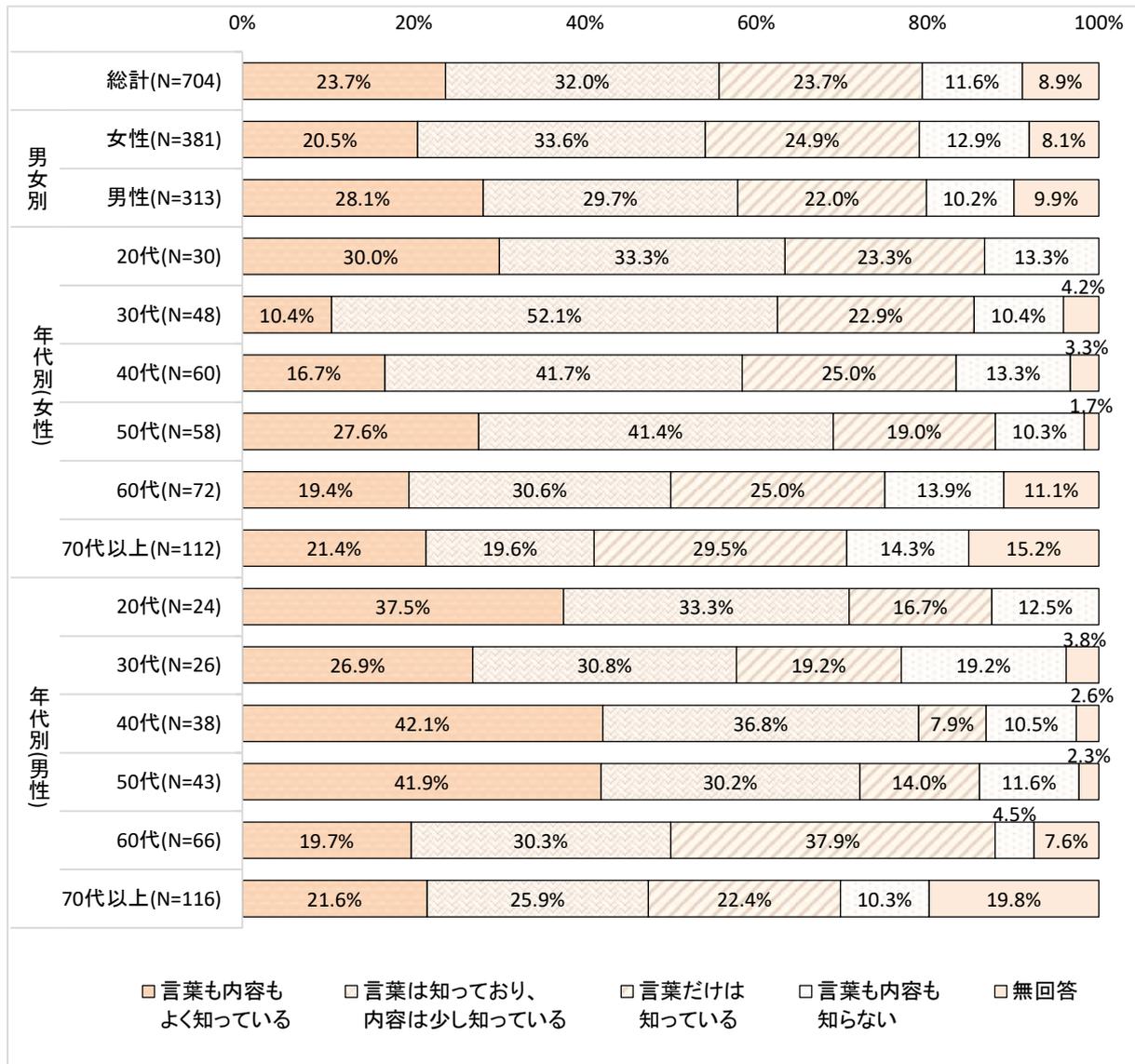
		0%	20%	40%	60%	80%	100%
総計(N=704)		13.4%	18.8%	21.7%	26.4%	19.7%	
H28年度調査(N=1,088)		11.7%	14.4%	24.6%	32.8%	16.5%	
男女別	女性(N=381)	12.9%	17.6%	22.6%	26.5%	20.5%	
	男性(N=313)	14.4%	20.4%	20.4%	26.2%	18.5%	
年代別 (女性)	20代(N=30)	26.7%	6.7%	10.0%	20.0%	36.7%	
	30代(N=48)	10.4%	18.8%	20.8%	18.8%	31.3%	
	40代(N=60)	10.0%	25.0%	21.7%	25.0%	18.3%	
	50代(N=58)	15.5%	29.3%	17.2%	29.3%	8.6%	
	60代(N=72)	13.9%	19.4%	30.6%	19.4%	16.7%	
	70代以上(N=112)	9.8%	8.9%	25.0%	35.7%	20.5%	
	20代(N=24)	16.7%	29.2%	8.3%	16.7%	29.2%	
年代別 (男性)	30代(N=26)	26.9%	30.8%	7.7%	11.5%	23.1%	
	40代(N=38)	21.1%	34.2%	10.5%	10.5%	23.7%	
	50代(N=43)	14.0%	32.6%	20.9%	11.6%	20.9%	
	60代(N=66)	13.6%	15.2%	31.8%	31.8%	7.6%	
	70代以上(N=116)	9.5%	10.3%	22.4%	38.8%	19.0%	
			□言葉も内容もよく知っている	□言葉は知っており、内容は少し知っている	□言葉だけは知っている	□言葉も内容も知らない	□無回答

〈F. 男女共同参画社会〉

総計では、「言葉は知っており、内容は少し知っている」(32.0%)の割合が最も高く、次いで「言葉も内容もよく知っている」「言葉だけは知っている」(23.7%)の順となっている。

男女別にみると、男性の『認知している』(57.8%)の割合が女性(54.1%)よりも高くなっている。年代別にみると、『認知している』の割合は40代男性(78.9%)が最も高くなっている。

図表 21 言葉の認知度〈F. 男女共同参画社会〉



〈G. 多文化共生社会〉

総計では、「言葉も内容も知らない」(30.3%)の割合が最も高く、次いで「言葉だけは知っている」(22.3%)、「言葉は知っており、内容は少し知っている」(17.9%)の順となっている。

男女別にみると、『認知している』の割合が約3割で、男女ほぼ同等であった。年代別にみると、『認知している』の割合は20代男性(41.7%)が最も高くなっている。

図表 22 言葉の認知度〈G. 多文化共生社会〉

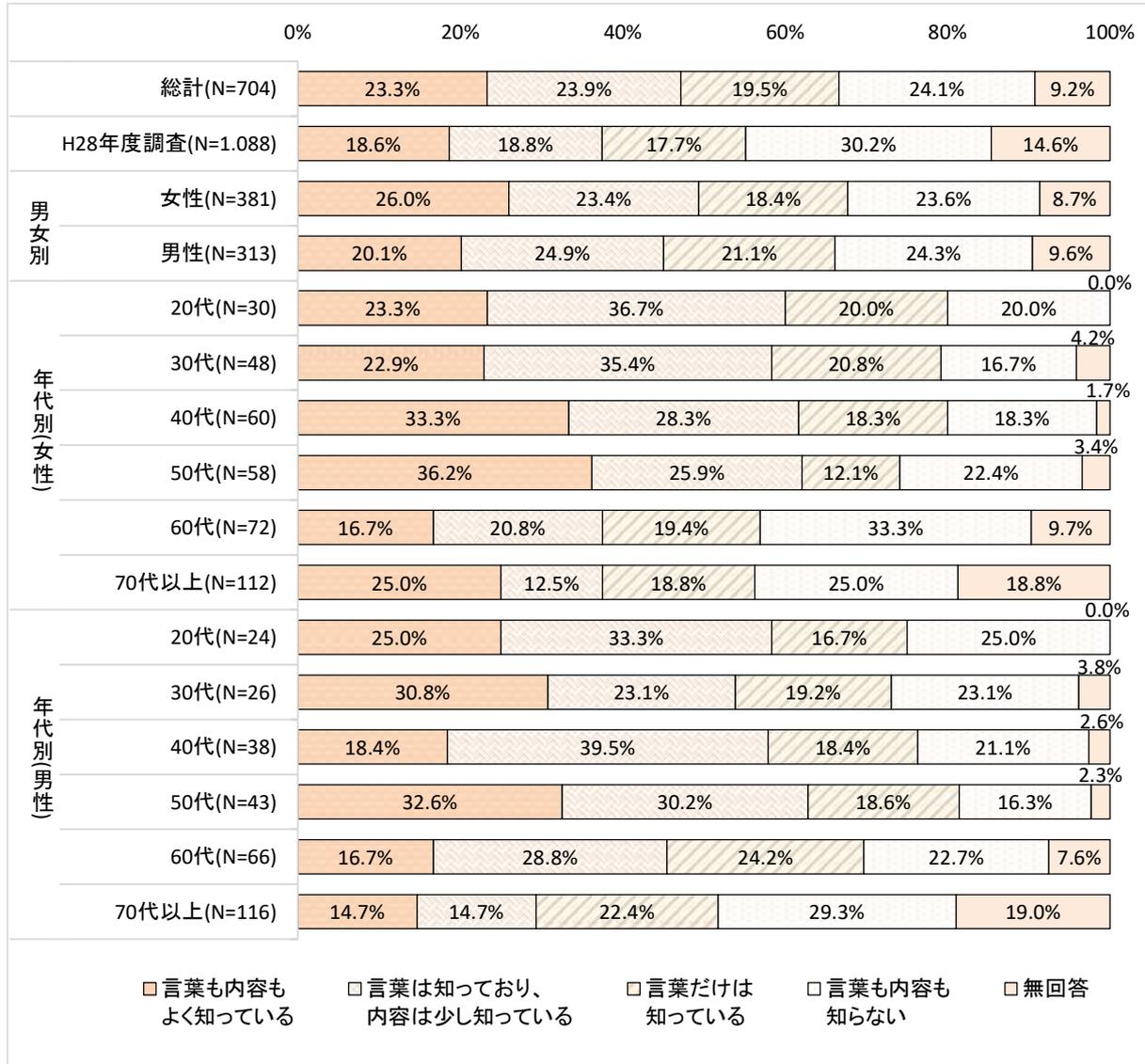
		0%	20%	40%	60%	80%	100%
男女別	総計(N=704)	11.1%	17.9%	22.3%	30.3%	18.5%	
	女性(N=381)	10.0%	18.9%	22.0%	31.0%	18.1%	
	男性(N=313)	12.8%	16.9%	22.0%	29.7%	18.5%	
年代別(女性)	20代(N=30)	20.0%	13.3%	16.7%	20.0%	30.0%	
	30代(N=48)	8.3%	14.6%	27.1%	18.8%	31.3%	
	40代(N=60)	8.3%	23.3%	20.0%	33.3%	15.0%	
	50代(N=58)	12.1%	27.6%	15.5%	36.2%	8.6%	
	60代(N=72)	11.1%	22.2%	25.0%	27.8%	13.9%	
	70代以上(N=112)	7.1%	13.4%	24.1%	37.5%	17.9%	
年代別(男性)	20代(N=24)	16.7%	25.0%	16.7%	12.5%	29.2%	
	30代(N=26)	26.9%	11.5%	15.4%	30.8%	15.4%	
	40代(N=38)	18.4%	18.4%	15.8%	23.7%	23.7%	
	50代(N=43)	14.0%	14.0%	23.3%	25.6%	23.3%	
	60代(N=66)	9.1%	21.2%	28.8%	33.3%	7.6%	
	70代以上(N=116)	8.6%	14.7%	22.4%	34.5%	19.8%	
		□言葉も内容もよく知っている	□言葉は知っており、内容は少し知っている	□言葉だけは知っている	□言葉も内容も知らない	□無回答	

〈H. デートDV〉

総計では、「言葉も内容も知らない」(24.1%)の割合が最も高く、次いで「言葉は知っており、内容は少し知っている」(23.9%)、「言葉だけは知っている」(23.3%)の順となっている。

男女別にみると、女性の『認知している』(49.4%)の割合が男性(45.0%)よりも高くなっている。年代別にみると、『認知している』の割合は50代男性(62.8%)が最も高くなっている。

図表 23 言葉の認知度〈H. デートDV〉

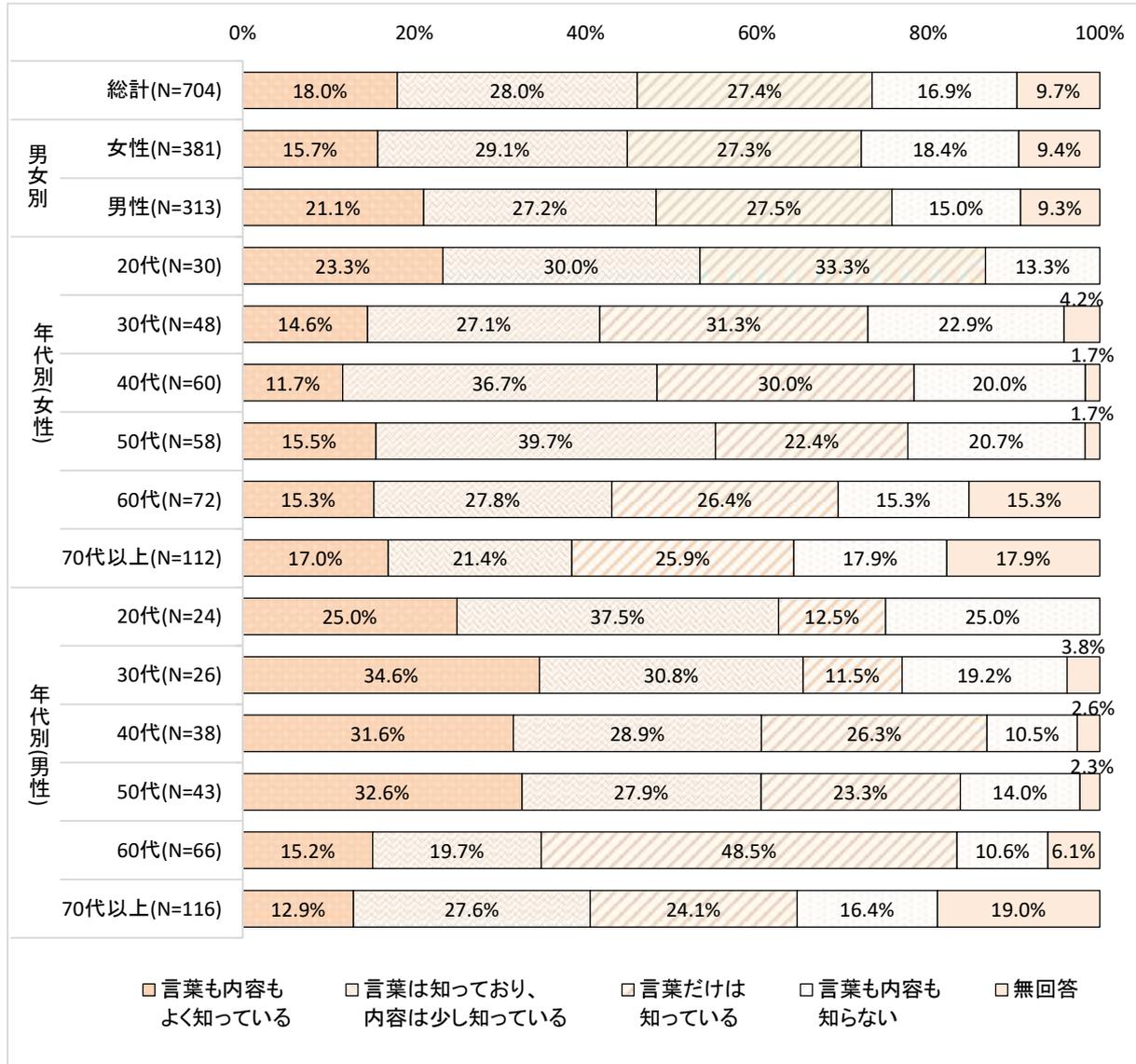


〈I. 女性の活躍推進〉

総計では、「言葉は知っており、内容は少し知っている」(28.0%)の割合が最も高く、次いで「言葉だけは知っている」(27.4%)、「言葉も内容もよく知っている」(18.0%)の順となっている。

男女別にみると、男性の『認知している』(48.3%)の割合が女性(44.8%)よりも高くなっている。年代別にみると、『認知している』の割合は30代男性(65.4%)が最も高くなっている。

図表 24 言葉の認知度〈I. 女性の活躍推進〉

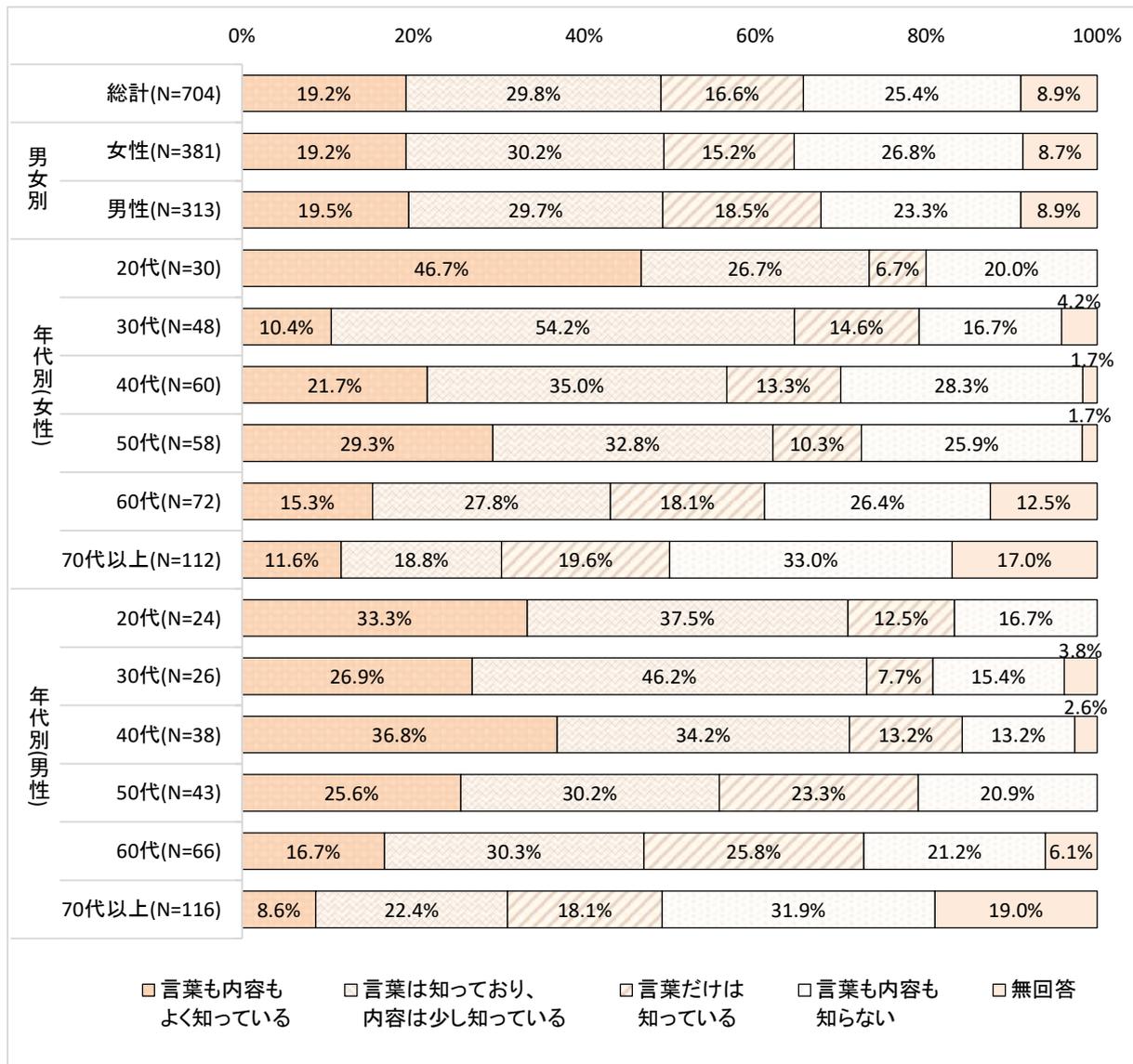


〈J. LGBTQ（性的少数者）〉

総計では、「言葉は知っており、内容は少し知っている」（29.8%）の割合が最も高く、次いで「言葉も内容も知らない」（25.4%）、「言葉だけは知っている」（19.2%）の順となっている。

男女別にみると、『認知している』の割合が約5割で、男女ほぼ同等であった。年代別にみると、『認知している』の割合は20代女性（73.4%）が最も高くなっている。

図表 25 言葉の認知度〈J. LGBTQ（性的少数者）〉

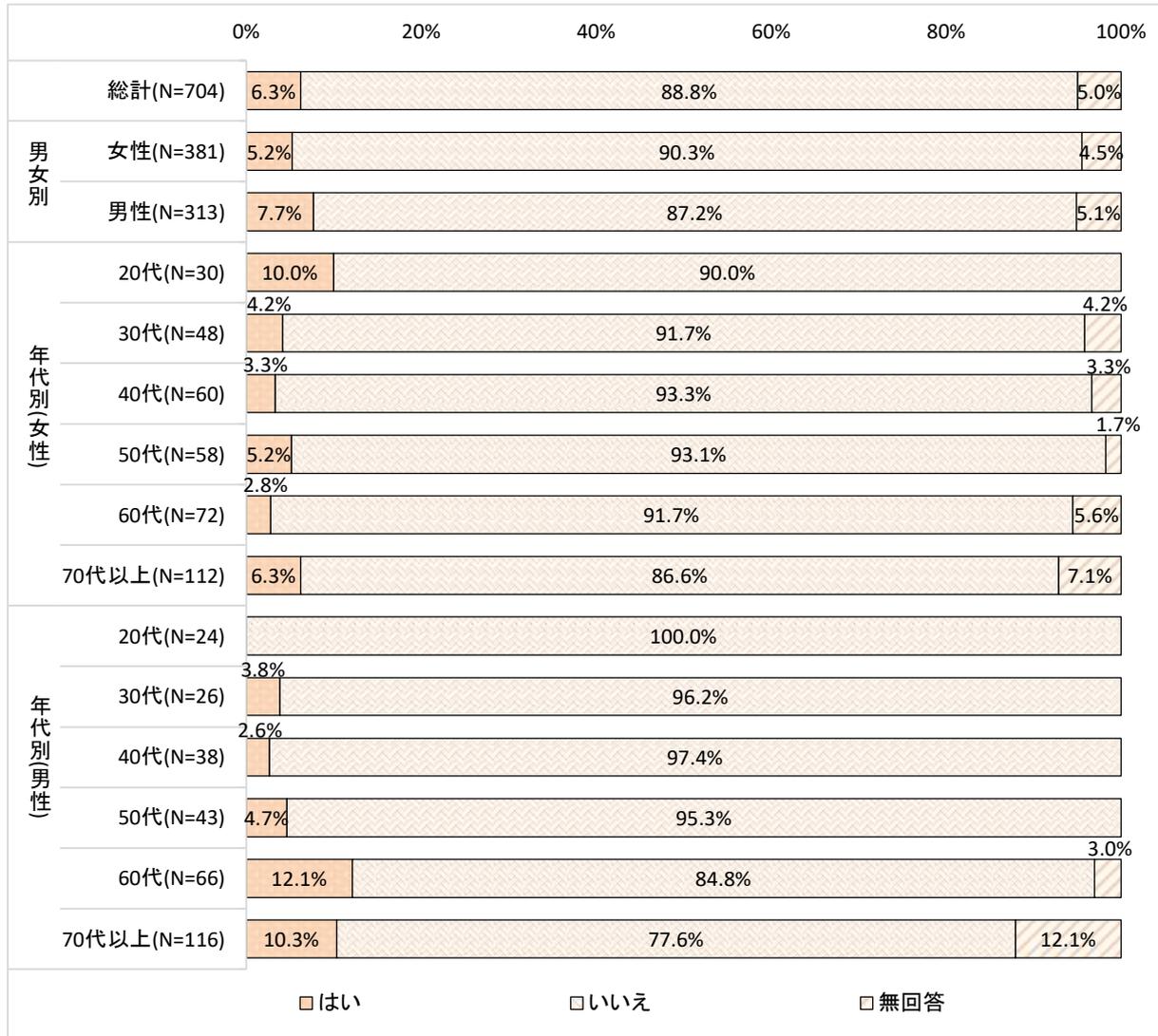


問5 あなたは今までに性自認（自身の性別をどう感じているか）や性的指向（誰を好きになるか又は魅力を感じるか）に悩んだ経験がありますか。（あてはまるものを1つだけ選択）

総計では、「いいえ」が88.8%、「はい」が6.3%となっている。

男女別にみると、男性の「はい」の割合が女性より2.5ポイント高くなっている。年代別にみると、60代男性(12.1%)が最も高くなっている。

図表 26 性自認や性的指向に悩んだ経験があるか

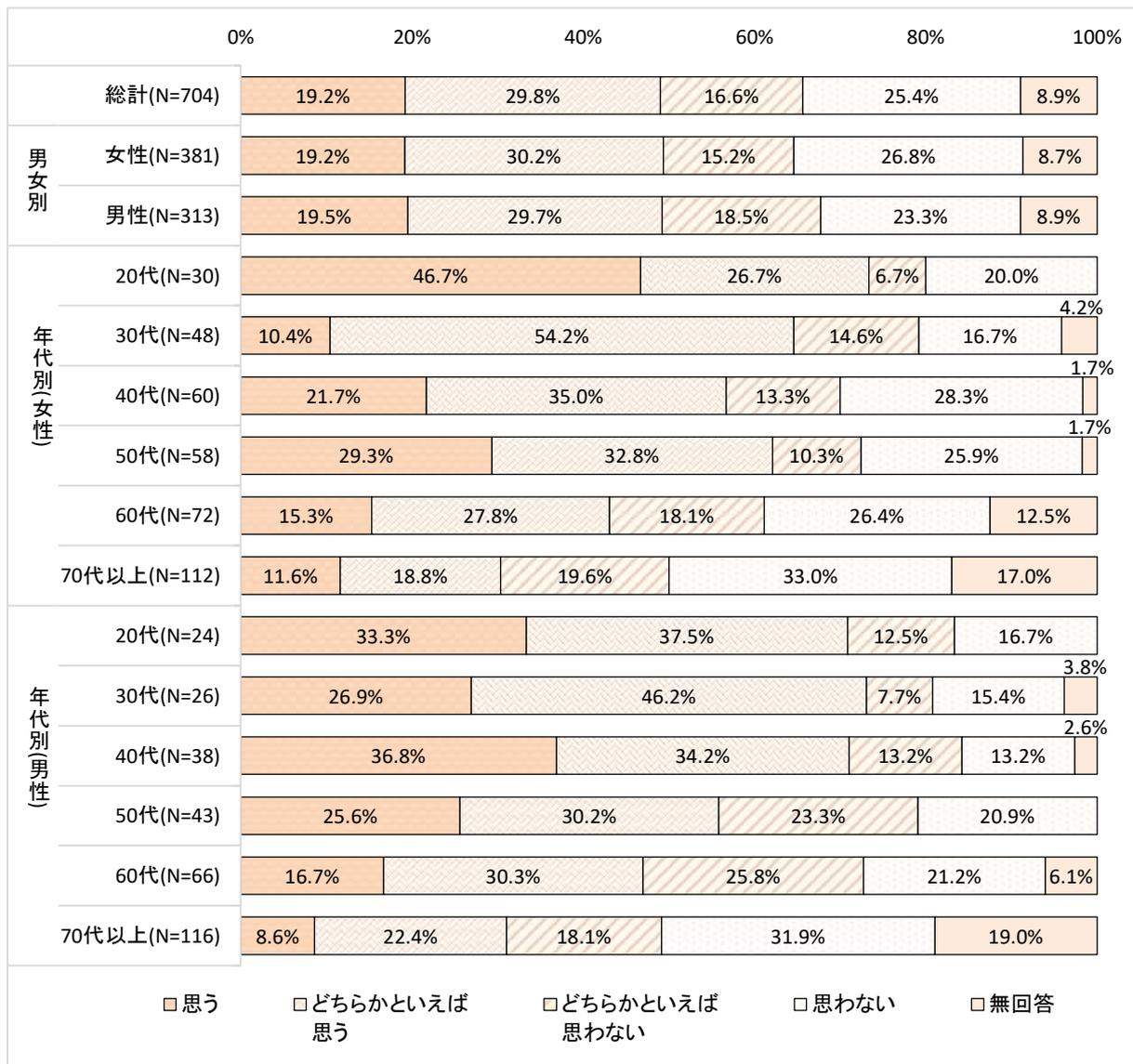


問6 現在、性的少数者（LGBTQ）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。（あてはまるものを1つだけ選択）

総計では、「どちらかといえば思う」（29.8%）の割合が最も高く、次いで「思わない」（25.4%）、「思う」（19.2%）の順となっている。『思う』（「思う」+「どちらかといえば思う」）の割合が、『思わない』（「どちらかといえば思わない」+「思わない」）の割合を若干上回っている。

男女別にみると、『思う』の割合が約5割、『思わない』が5割弱と、男女ほぼ同等であった。年代別にみると、『思う』の割合は20代女性（73.4%）が最も高くなっている。

図表 27 性的少数者にとって生活しづらい社会か



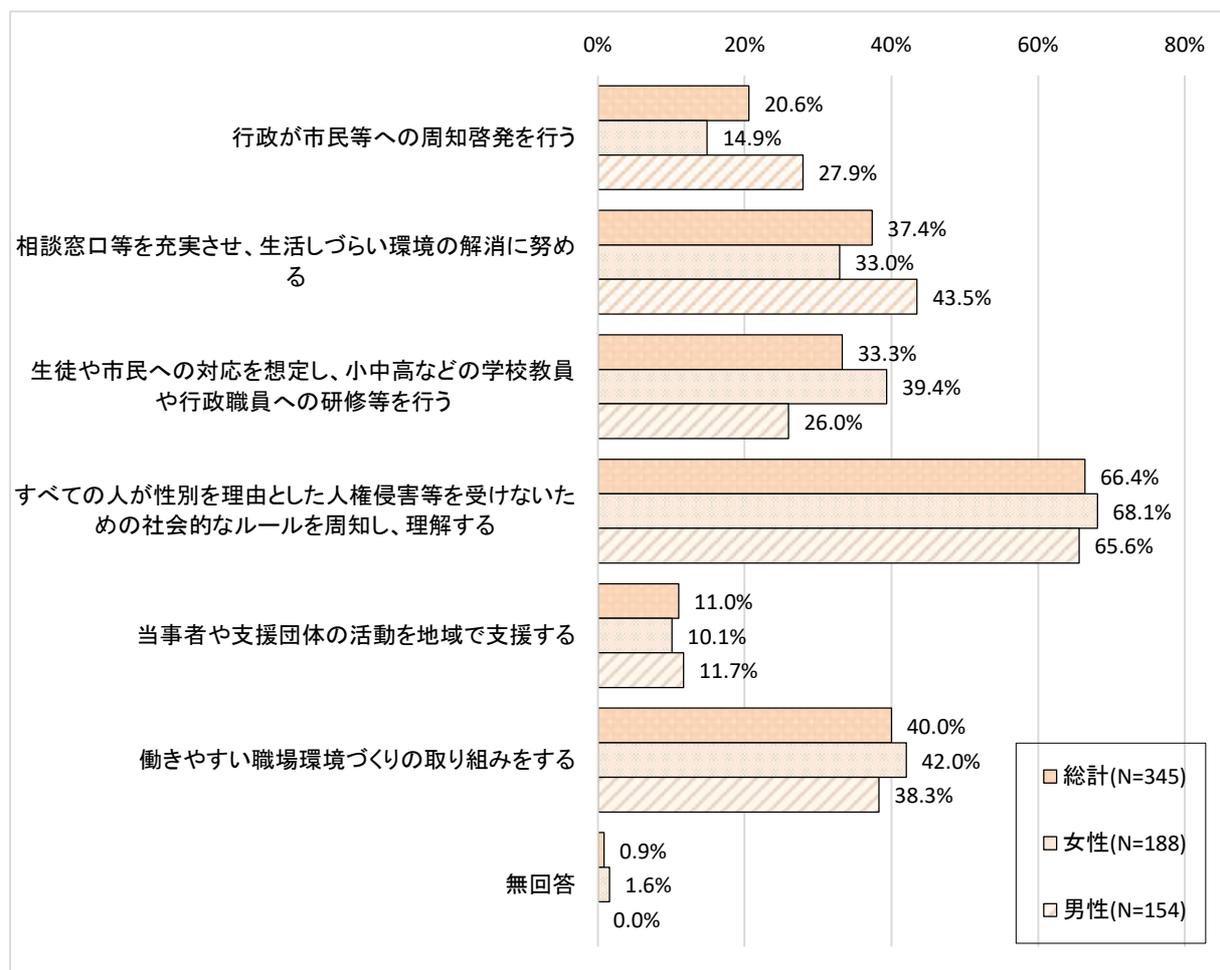
※問6で「1 思う」「2 どちらかといえば思う」と回答した方におうかがいします

問7 性的少数者の方々に対する偏見や差別をなくし、性的少数者の方々が生活しやすくなるために、どのような対策が必要だと思いますか。(あてはまるものを2つだけ選択)

総計では、「すべての人が性別を理由とした人権侵害等を受けないための社会的なルールを周知し、理解する」(66.4%)の割合が最も高く、次いで「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」(40.0%)、「相談窓口等を充実させ、生活しづらい環境の解消に努める」(37.4%)の順となっている。

男女別にみると、男性の「行政が市民等への周知啓発を行う」の割合が女性より13ポイント高くなっており、女性の「生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」の割合が男性より13.4ポイント高くなっている。

図表 28 性的少数者が生活しやすくなるために必要な対策



2. 家庭生活について

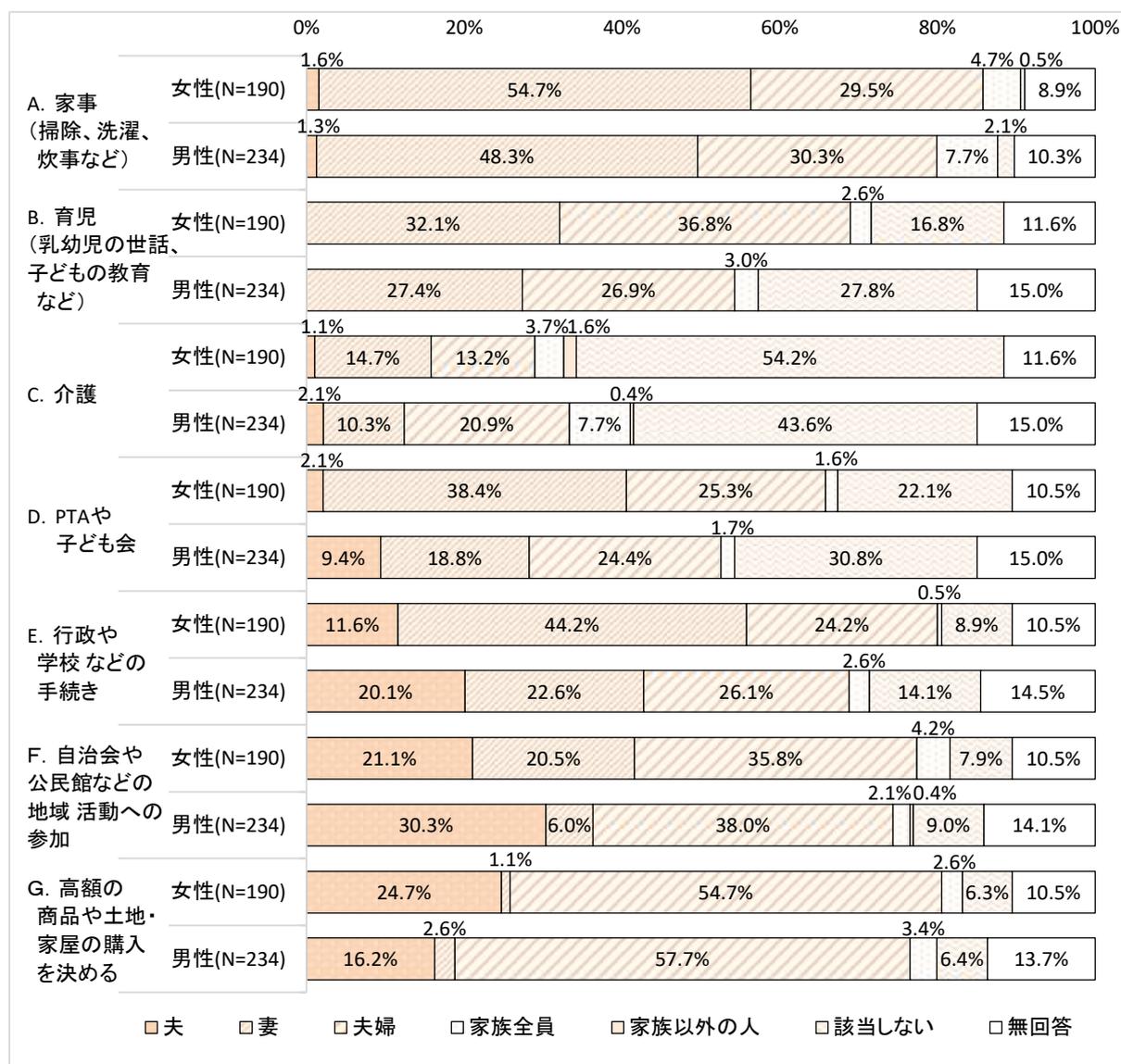
(1) 家庭生活での役割分担

※現在結婚されている方（事実婚含む）《F7で1を選んだ方》におたずねします

問8 あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の事柄を主に誰が行っていますか。
(各項目についてあてはまるものを1つだけ選択)

家庭での役割分担については、「該当しない」を除くと、男女ともに「A. 家事（掃除、洗濯、炊事など）」では「妻」の割合が最も高く、「F. 自治会や公民館などの地域活動への参加」「G. 高額の商品や土地・家屋の購入を決める」では「夫婦」の割合が最も高かった。また、「B. 育児（乳幼児の世話、子どもの教育など）」では、女性は「夫婦」の割合が、男性は「妻」の割合が最も高かった。

図表 29 家庭内の役割分担く全体



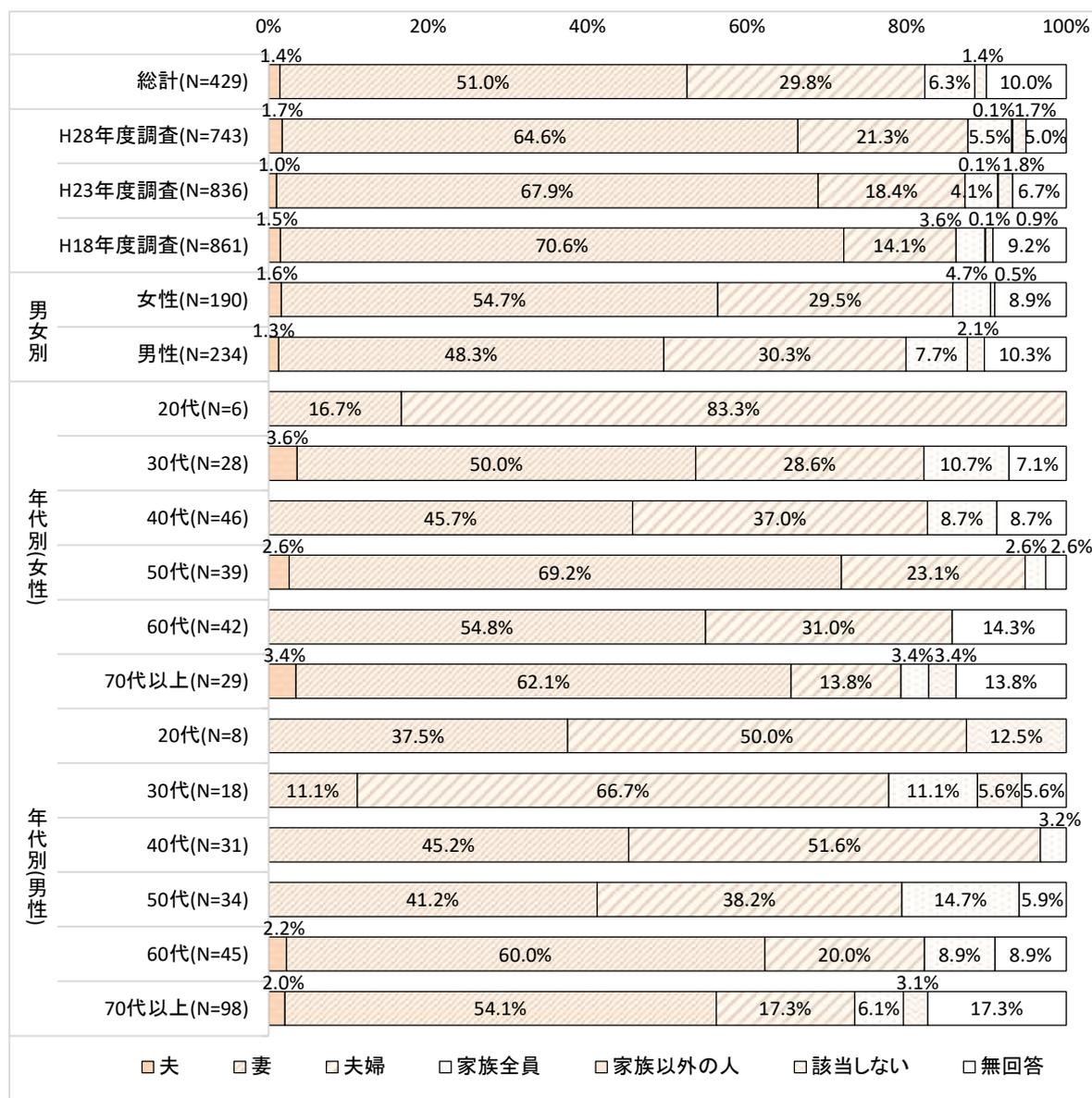
〈A. 家事（掃除、洗濯、炊事など）〉

総計では、「妻」(51.0%)が最も高く、次いで「夫婦」(29.8%)、「家族全員」(6.3%)の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「妻」割合が減少傾向にあり、「夫婦」「家族全員」の割合が増加傾向となっている。

男女別にみると、女性の「妻」の割合が男性より高くなっている。年代別では、20代女性の「夫婦」(83.3%)の割合が他の年代と比較して高くなっており、一方50代女性の「妻」(69.2%)の割合が他の年代と比較して高くなっている。

図表 30 家庭内の役割分担〈A. 家事（掃除、洗濯、炊事など）〉



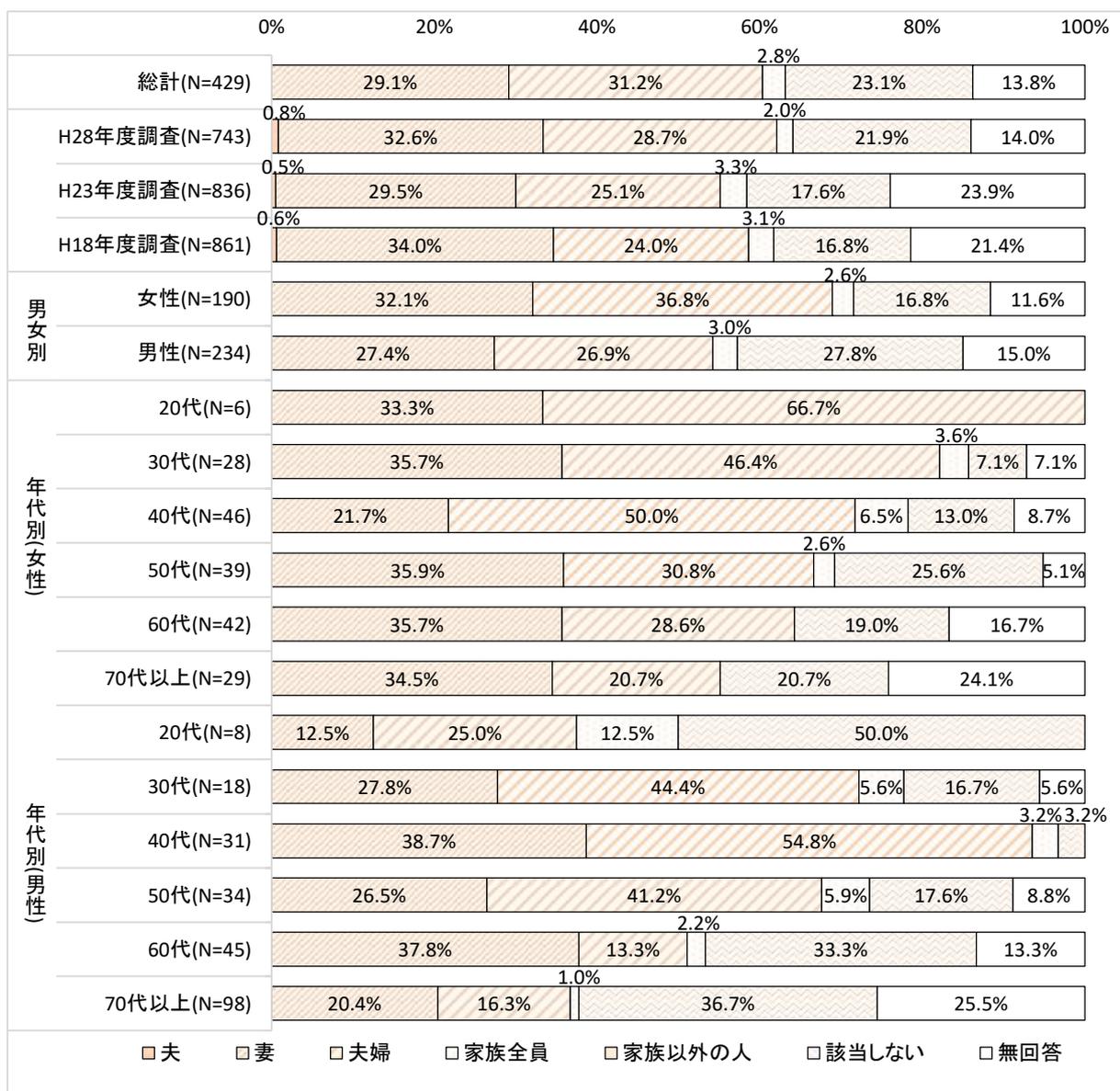
〈B. 育児（乳幼児の世話、子どもの教育など）〉

総計では、「夫婦」（31.2%）が最も高く、次いで「妻」（29.1%）、「家族全員」（2.8%）の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「妻」割合が減少傾向にあり、「夫婦」の割合が増加傾向となっている。

男女別にみると、女性の「妻」の割合が男性より高くなっている。年代別では、20代女性の「夫婦」（66.7%）の割合が他の年代と比較して高くなっており、一方40代男性の「妻」（38.7%）の割合が他の年代と比較して高くなっている。

図表 31 家庭内の役割分担〈B. 育児（乳幼児の世話、子どもの教育など）〉



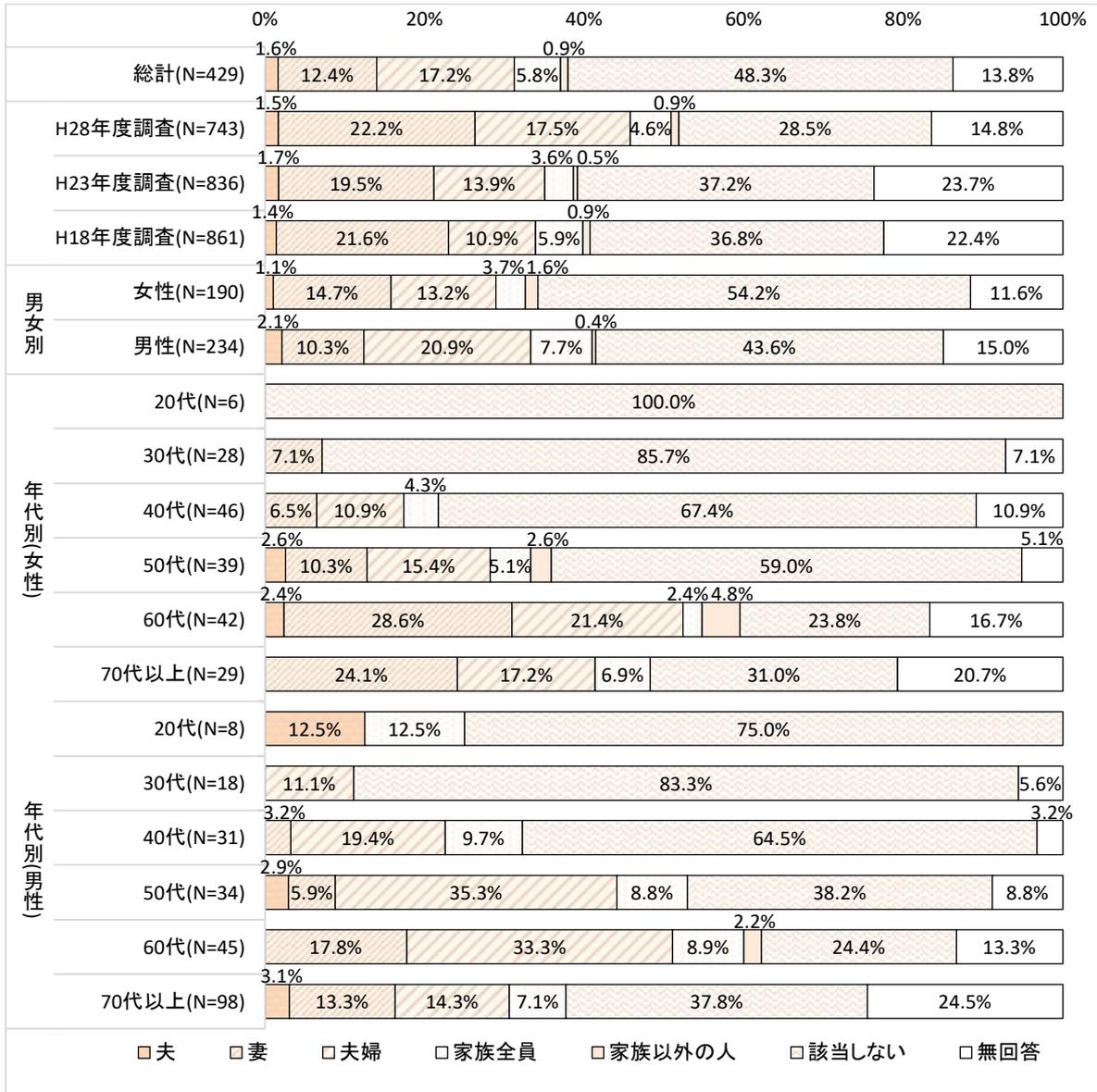
〈C. 介護〉

総計では、「該当しない」を除くと、「夫婦」(17.2%)が最も高く、次いで「妻」(12.4%)、「家族全員」(5.8%)の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「妻」割合が減少傾向となっている。

男女別にみると、男性の「夫婦」(20.9%)の割合が女性(13.2%)より高くなっている。年代別では、60代女性の「妻」(28.6%)の割合が他の年代と比較して高くなっている。

図表 32 家庭内の役割分担〈C. 介護〉



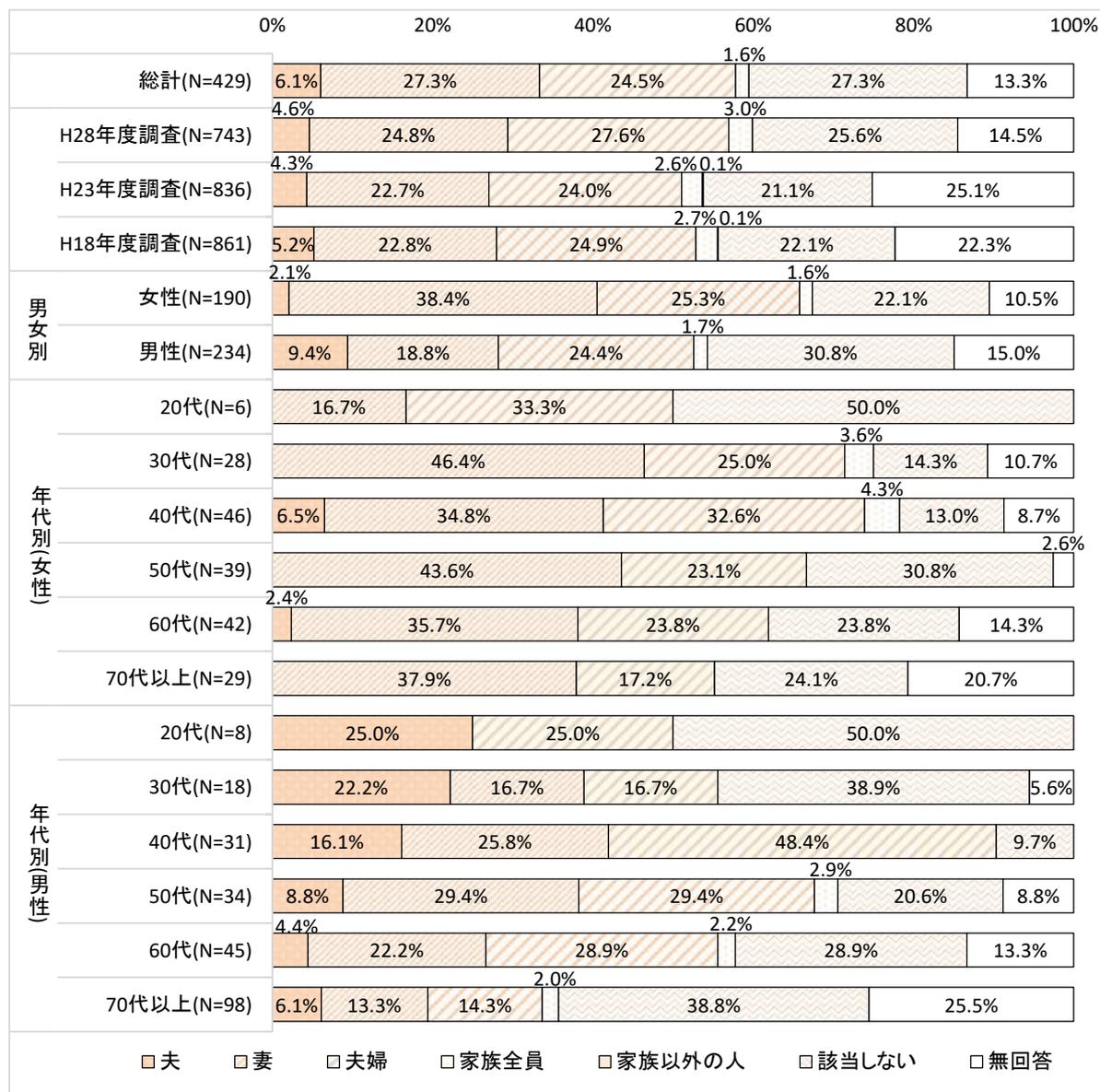
〈D. PTAや子ども会〉

総計では、「該当しない」を除くと、「妻」(27.3%)が最も高く、次いで「夫婦」(24.5%)、「夫」(6.1%)の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「夫」「妻」割合が増加傾向となっている。

男女別にみると、女性の「妻」の割合が男性より高くなっている。年代別では、40代男性の「夫婦」(48.4%)の割合が他の年代と比較して高くなっており、一方30代男性の「妻」(46.4%)の割合が他の年代と比較して高くなっている。

図表 33 家庭内の役割分担〈D. PTAや子ども会〉

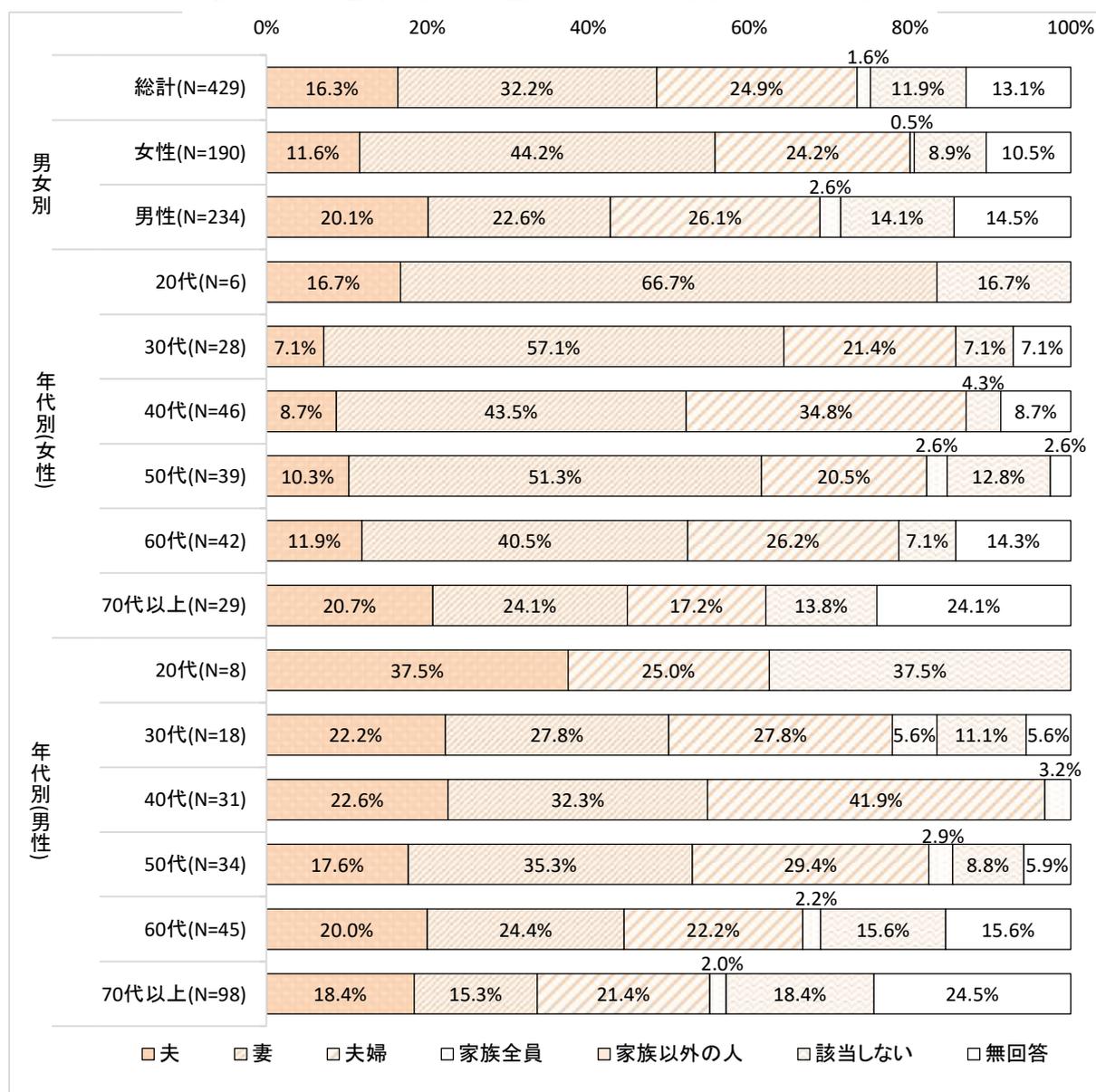


〈E. 行政や学校などの手続き〉

総計では、「妻」(32.2%)が最も高く、次いで「夫婦」(24.9%)、「夫」(16.3%)の順となっている。

男女別にみると、女性の「妻」の割合が最も高くなっているが、男性は「夫婦」の割合が最も高くなっている。年代別では、20代女性の「妻」(66.7%)の割合が他の年代と比較して高くなっており、20代男性の「夫」(37.5%)の割合が他の年代と比較して高くなっている。

図表 34 家庭内の役割分担〈E. 行政や学校などの手続き〉



※平成 28 年度調査なし

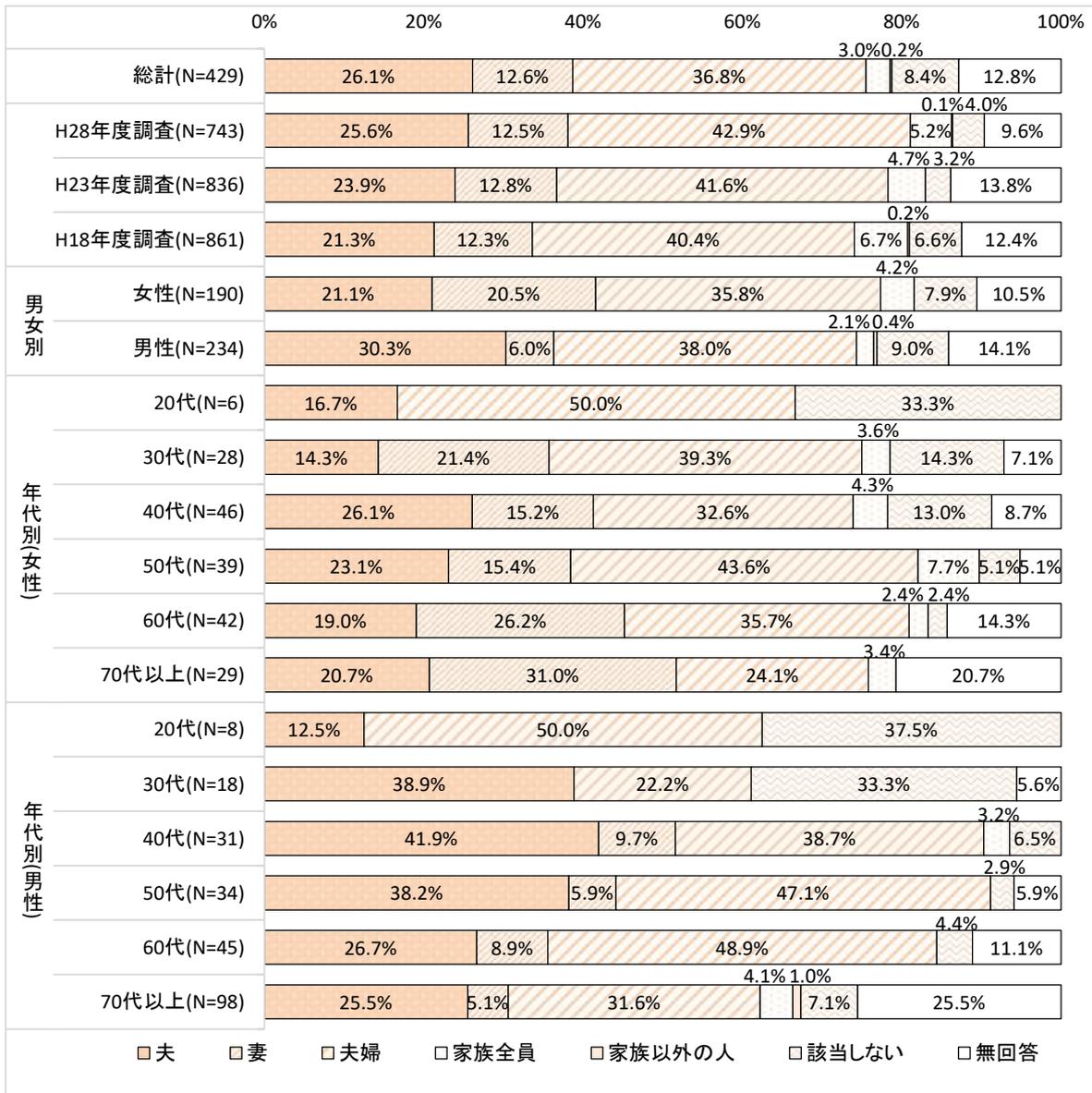
〈F. 自治会や公民館などの地域活動への参加〉

総計では、「夫婦」(36.8%)が最も高く、次いで「夫」(26.1%)、「妻」(12.6%)の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「夫」割合が増加傾向になっており、「夫婦」の割合が減少傾向となっている。

男女別にみると、男性の「夫」の割合が女性より高くなっている。年代別では、男女とも20代の「夫婦」(50.0%)の割合が他の年代と比較して高くなっており、一方40代男性の「夫」(41.9%)の割合が他の年代と比較して高くなっている。

図表 35 家庭内の役割分担〈F. 自治会や公民館などの地域活動への参加〉



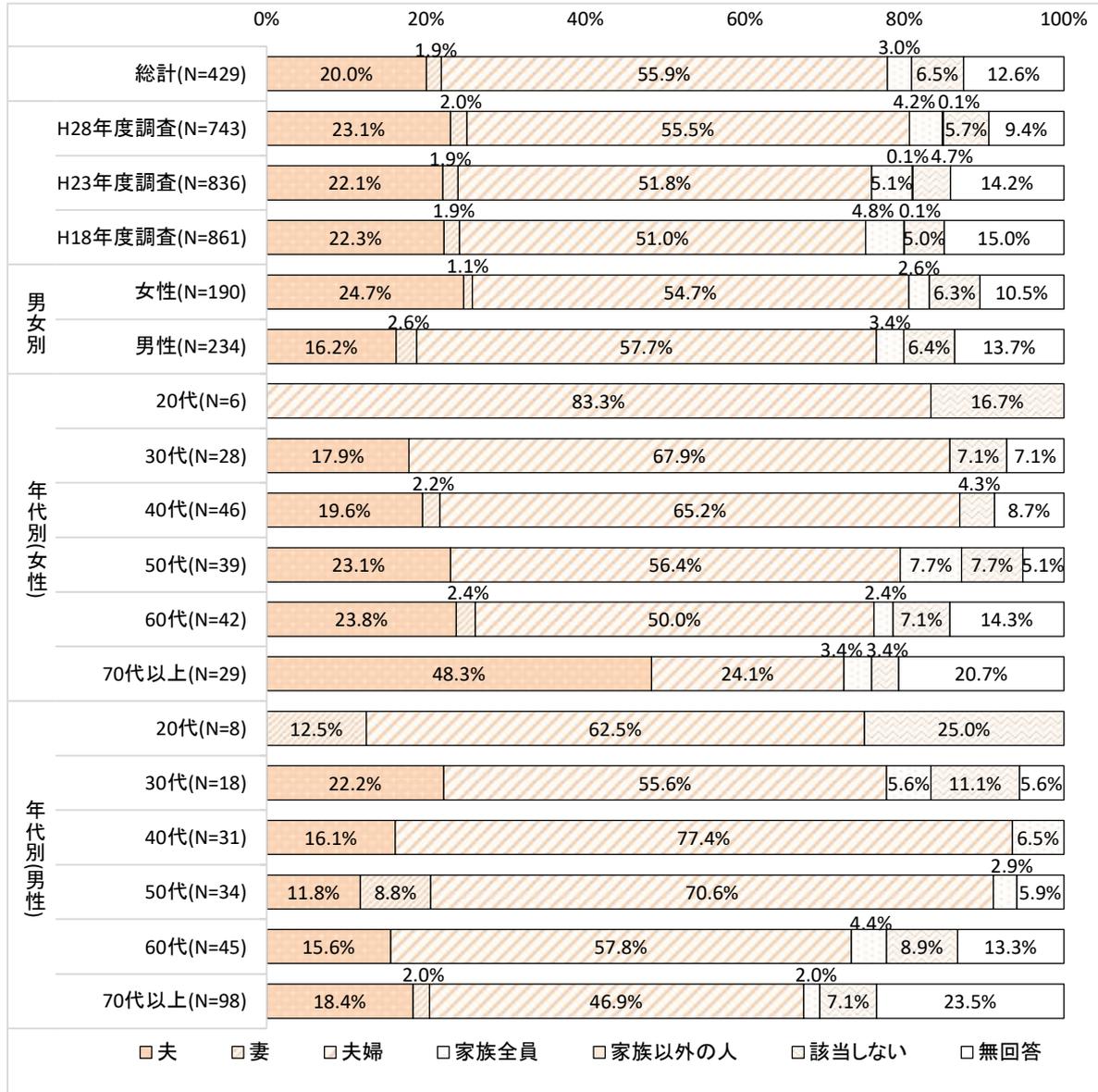
〈G. 高額の商品や土地・家屋の購入を決める〉

総計では、「夫婦」(55.9%)が最も高く、次いで「夫」(20.0%)の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「夫婦」割合が増加傾向になっており、「夫」の割合が減少傾向となっている。

男女別にみると、女性の「夫」の割合が男性より高くなっている。年代別では、20代女性の「夫婦」(83.3%)の割合が他の年代と比較して高くなっており、一方、70代女性の「夫」(48.3%)の割合が他の年代と比較して高くなっている。

図表 36 家庭内の役割分担〈G. 高額の商品や土地・家屋の購入を決める〉



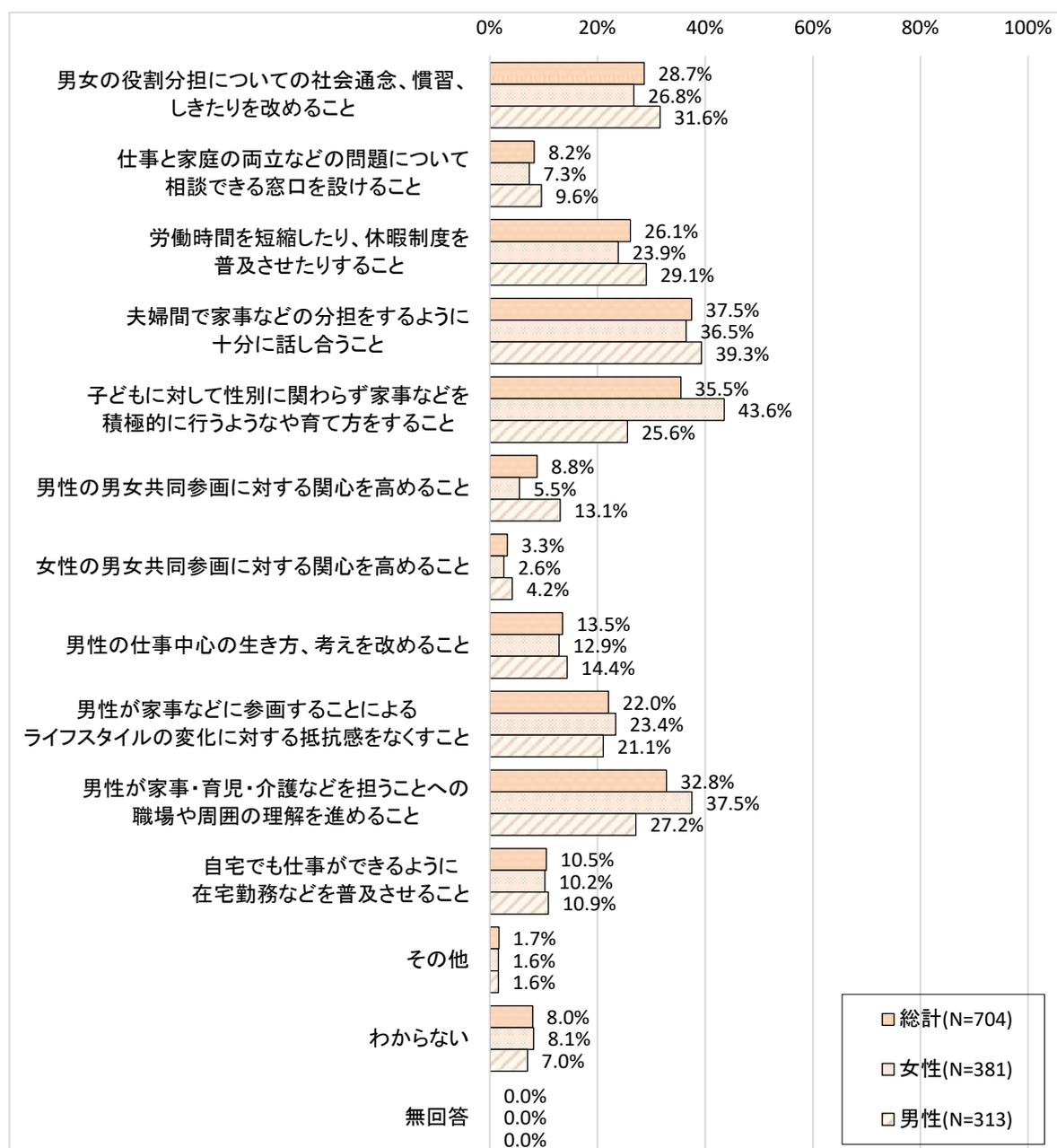
(2) 男女が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参画していくための必要事項

問9 あなたは、今後、男女が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものを3つ以内で選択)

総計では、「夫婦間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」(37.5%)が最も高く、次いで「子どもに対して性別に関わらず家事などを積極的に行うようなや育て方をすること」(35.5%)、「男性が家事・育児・介護などを担うことへの職場や周囲の理解を進めること」(32.8%)の順となっている。

男女別にみると、女性の「子どもに対して性別に関わらず家事などを積極的に行うようなや育て方をすること」の割合が男性より18.0ポイント高くなっている。

図表 37 男女が家事、育児、地域活動に参画していくために必要なこと



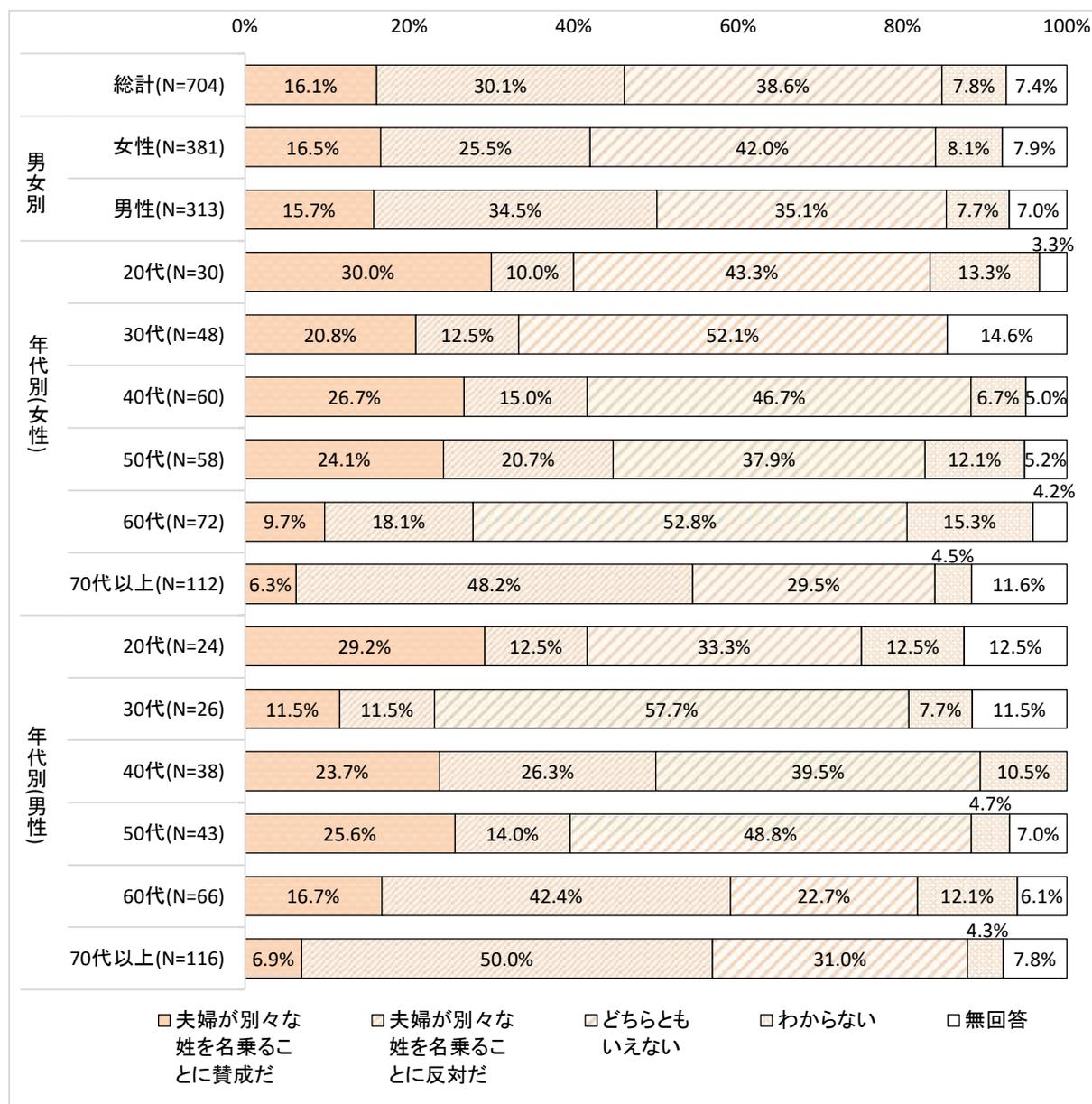
(3) 夫婦別姓について

問 10 現在の法律では、夫または妻どちらかの姓を選び、夫婦は同じ姓を名乗るようになっていますが、「夫婦は同じ姓を名乗る」か「別々の姓を名乗る」か選択できるようにすることについてどう思いますか。(あてはまるものを1つ選択)

総計では、「どちらともいえない」(38.6%)が最も高く、次いで「夫婦が別々な姓を名乗ることに反対だ」(30.1%)、「夫婦が別々な姓を名乗ることに賛成だ」(16.1%)の順となっている。

男女別にみると、男性の「夫婦が別々な姓を名乗ることに反対だ」の割合が女性より高くなっている。年代別では、60代、70代の「夫婦が別々な姓を名乗ることに反対だ」の割合が「夫婦が別々な姓を名乗ることに賛成だ」の割合を上回っている。

図表 38 夫婦別姓をどう思うか

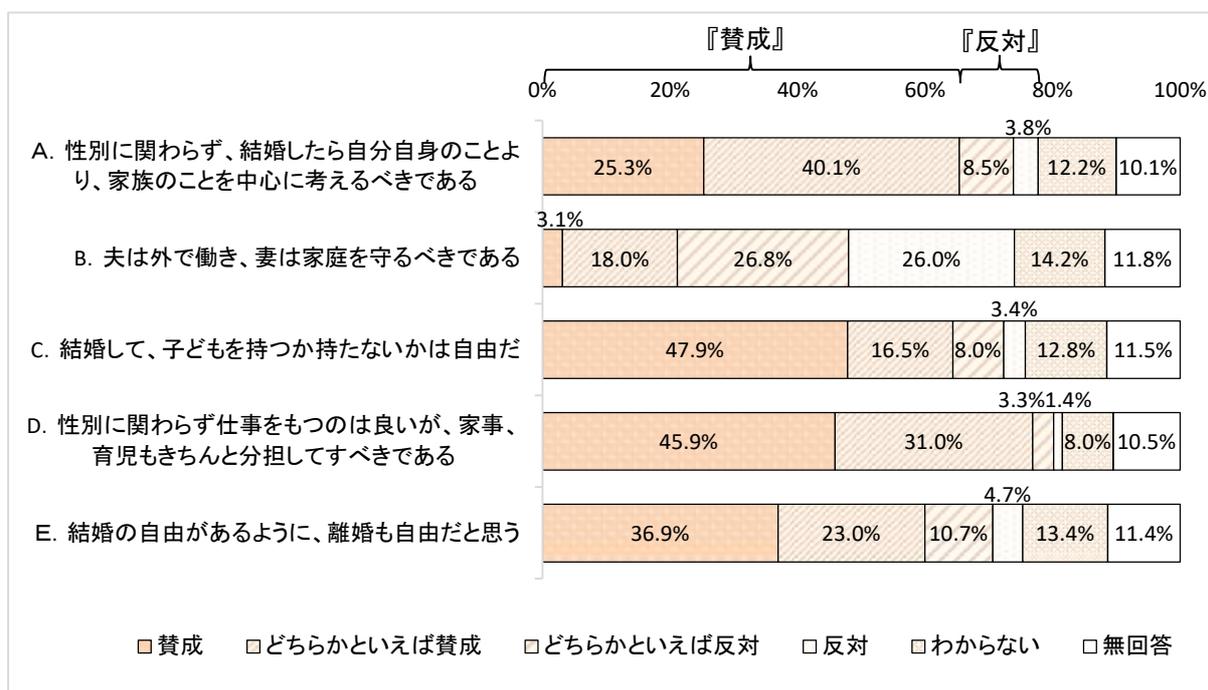


(4) 結婚、家庭、離婚に対する考え方

問 11 結婚、家庭、離婚についてのあなたの考えをおたずねします。(各項目あてはまるものを1つ選択)

結婚、家庭、離婚についての考え方については、『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）の割合は「D. 性別に関わらず仕事をもつのは良いが、家事、育児もきちんと分担してすべきである」が最も高かった。一方、「B. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」は『反対』（「どちらかといえば反対」+「反対」）の割合が『賛成』を上回っている。

図表 39 結婚、家庭、離婚に対する考え方<全体>



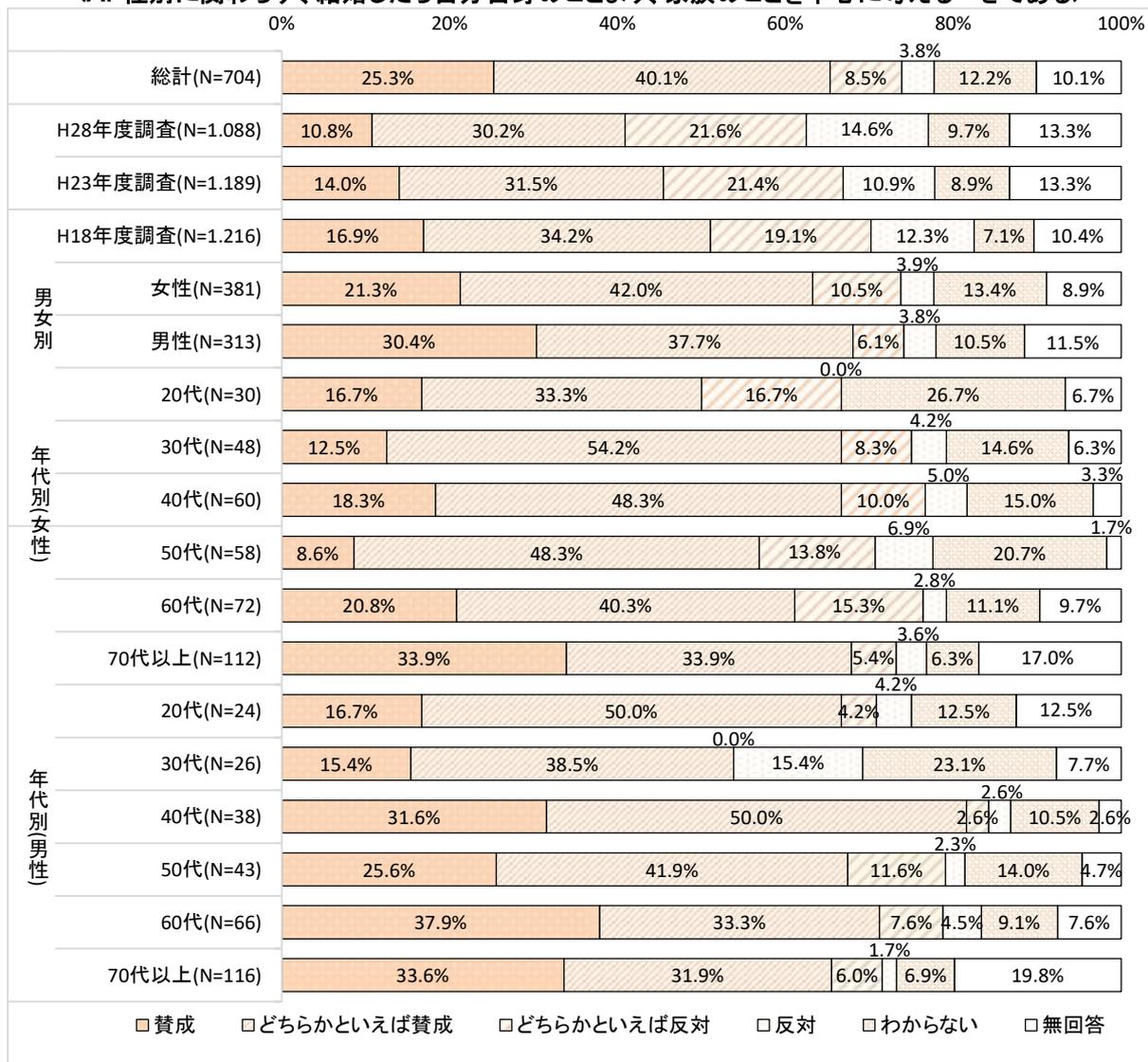
〈A. 性別に関わらず、結婚したら自分自身のことより、家族のことを中心に考えるべきである〉

総計では、「どちらかといえば賛成」(40.1%)が最も高く、次いで「賛成」(25.3%)、「わからない」(12.2%)の順となっている。

男女別にみると、男性の『賛成』の割合が女性より高くなっている。年代別では、『賛成』の割合が最も低いのは20代女性(50.0%)で、最も高いのは40代男性(81.6%)となっている。

図表 40 結婚、家庭、離婚に対する考え方

〈A. 性別に関わらず、結婚したら自分自身のことより、家族のことを中心に考えるべきである〉

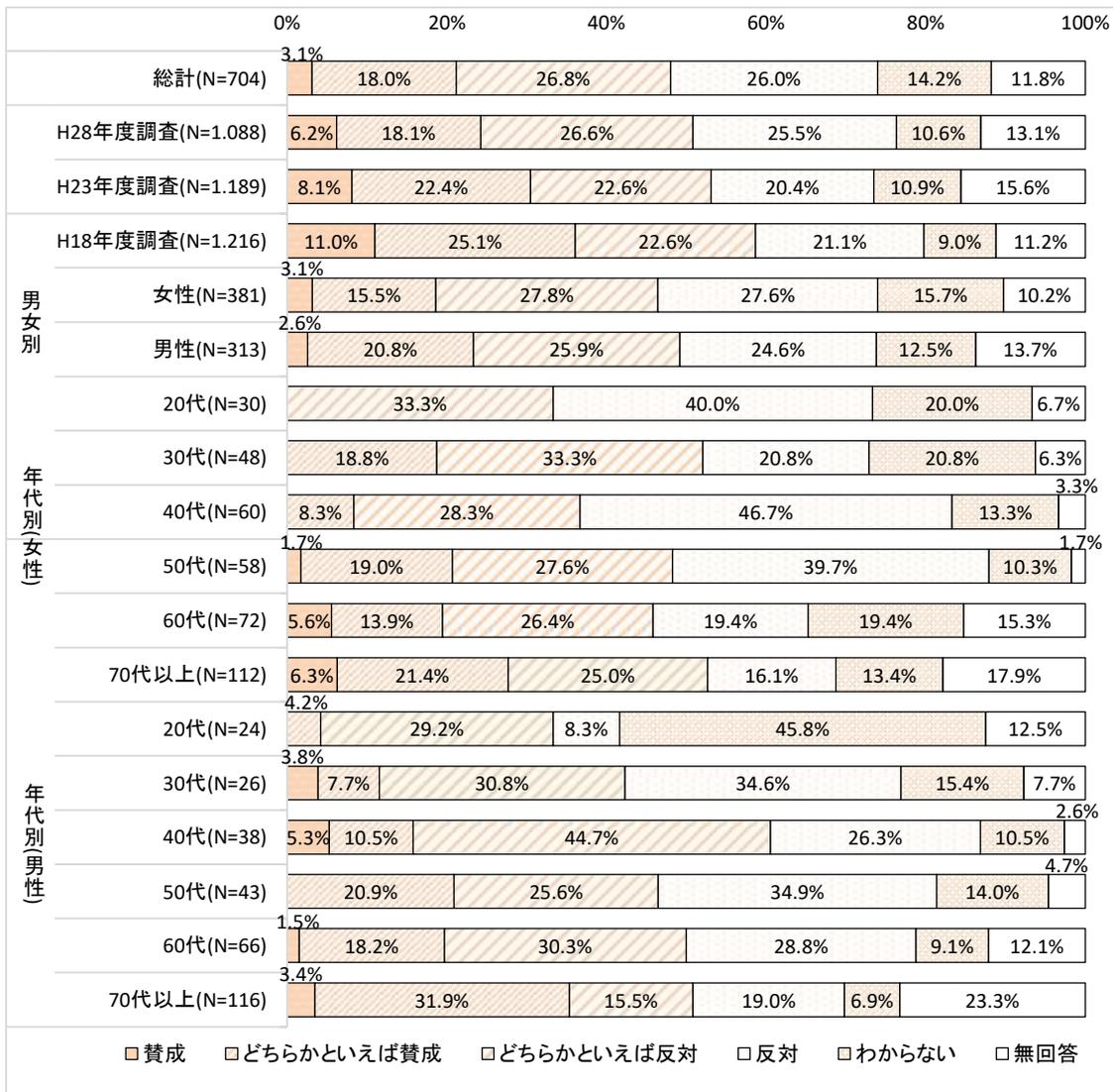


〈B. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである〉

総計では、「どちらかといえば反対」(26.8%)が最も高く、次いで「反対」(26.0%)、「どちらかといえば賛成」(18.0%)の順となっている。

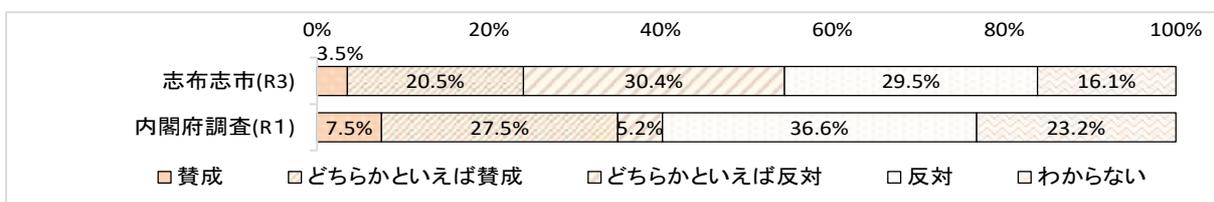
男女別にみると、男性の『賛成』の割合が女性より高くなっている。年代別では、『賛成』の割合が最も低いのは20代女性(0.0%)で、最も高いのは70代男性(35.3%)となっている。

図表 41 結婚、家庭、離婚に対する考え方〈B. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである〉



内閣府調査と比較すると、『賛成』の割合は内閣府調査が志布志市調査を上回っている。

図表 42 結婚、家庭、離婚に対する考え方〈B. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである〉



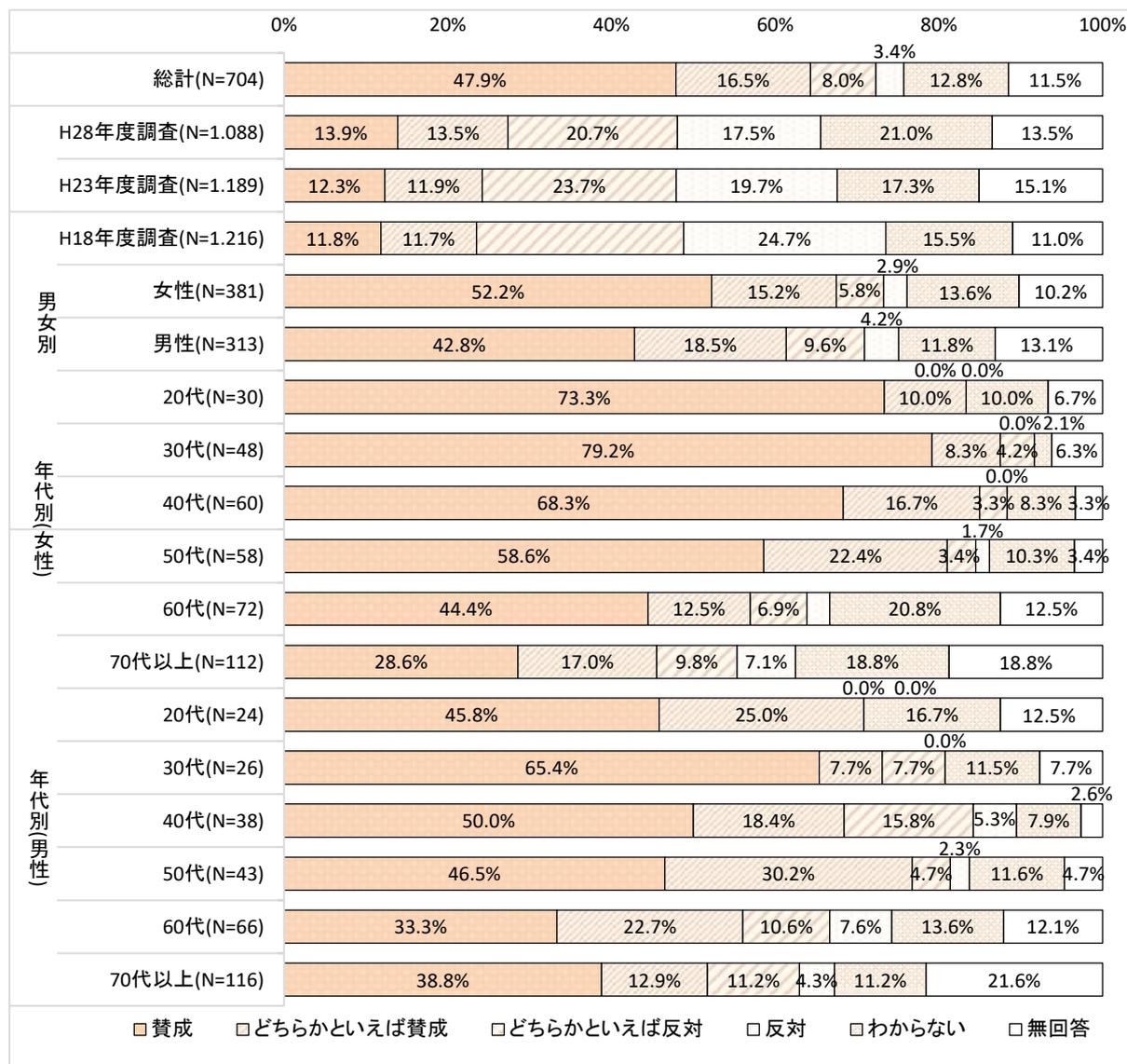
※内閣府調査にあわせて無回答を除いた割合を算出した。

〈C. 結婚して、子どもを持つか持たないかは自由だ〉

総計では、「賛成」(47.9%)が最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(16.5%)、「わからない」(12.8%)の順となっている。

男女別にみると、女性の『賛成』の割合が男性より高くなっている。年代別では、『賛成』の割合が最も低いのは70代以上女性(45.6%)で、最も高いのは30代女性(87.5%)となっている。

図表 43 結婚、家庭、離婚に対する考え方
 〈C. 結婚して、子どもを持つか持たないかは自由だ〉



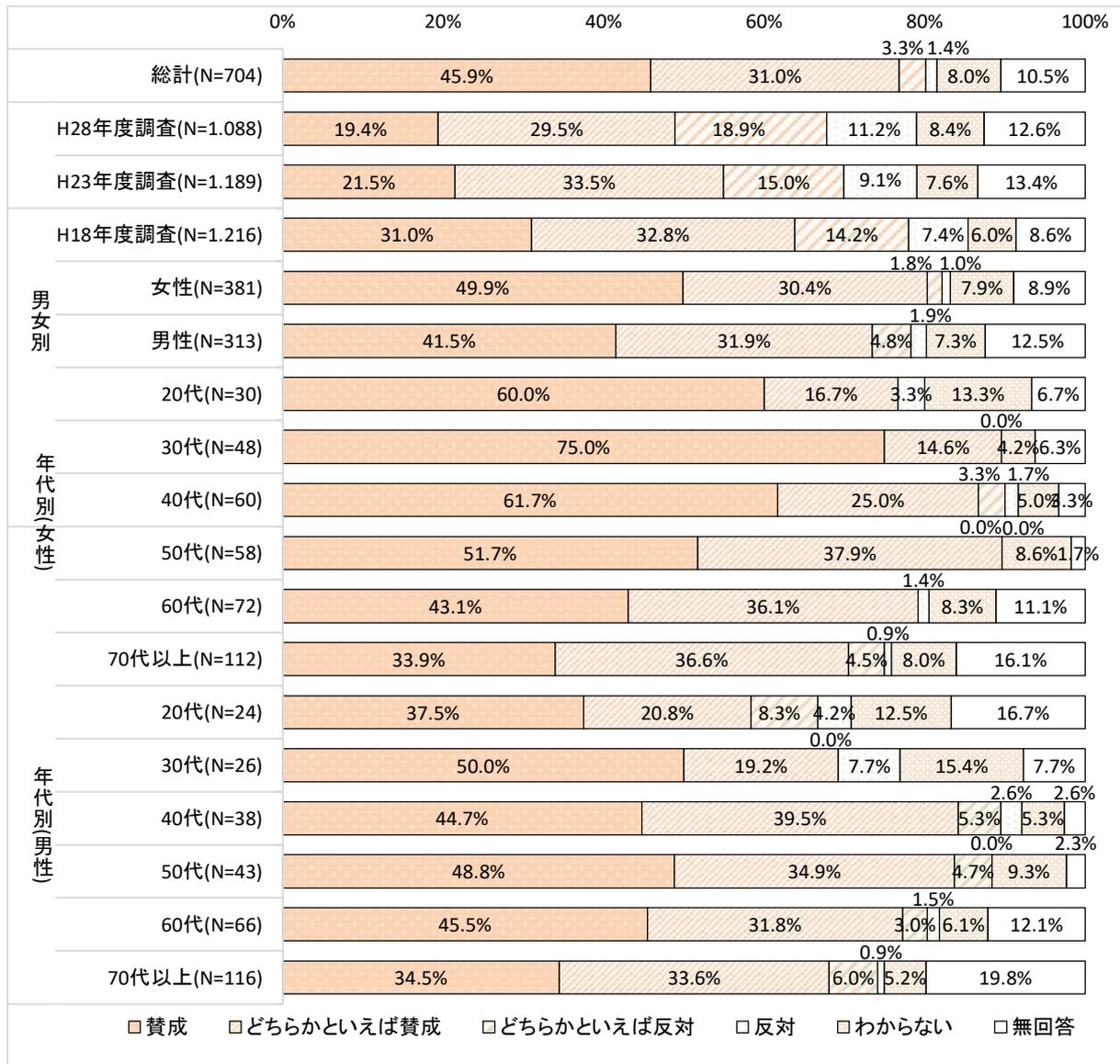
〈D. 性別に関わらず仕事をもつのは良いが、家事、育児もきちんと分担してすべきである〉

総計では、「賛成」(45.9%)が最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(31.0%)、「わからない」(8.0%)の順となっている。

男女別にみると、女性の『賛成』の割合が男性より高くなっている。年代別では、『賛成』の割合が最も低いのは20代男性(58.3%)で、最も高いのは30代女性、50代女性(89.6%)となっている。

図表 44 結婚、家庭、離婚に対する考え方

〈D. 性別に関わらず仕事をもつのは良いが、家事、育児もきちんと分担してすべきである〉



〈E. 結婚の自由があるように、離婚も自由だと思う〉

総計では、「賛成」(36.9%)が最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(23.0%)、「わからない」(13.4%)の順となっている。

男女別にみると、女性の『賛成』の割合が男性より高くなっている。年代別では、『賛成』の割合が最も低いのは20代男性(41.7%)で、最も高いのは40代女性(85.0%)となっている。

図表 45 結婚、家庭、離婚に対する考え方

〈E. 結婚の自由があるように、離婚も自由だと思う〉

		0%	20%	40%	60%	80%	100%
総計(N=704)		36.9%	23.0%	10.7%	4.7%	13.4%	11.4%
H28年度調査(N=1,088)		10.2%	14.5%	25.6%	17.3%	18.8%	13.5%
H23年度調査(N=1,189)		8.7%	14.2%	24.8%	19.2%	18.3%	14.7%
H18年度調査(N=1,216)		9.6%	15.6%	28.1%	20.1%	16.2%	10.4%
男女別	女性(N=381)	45.4%	19.9%	7.9%	3.9%	13.1%	9.7%
	男性(N=313)	26.5%	27.5%	14.1%	5.4%	13.1%	13.4%
年代別(女性)	20代(N=30)	60.0%	6.7%	3.3%	23.3%	6.7%	
	30代(N=48)	58.3%	20.8%	2.1%	4.2%	8.3%	6.3%
	40代(N=60)	56.7%	28.3%	1.7%	10.0%	3.3%	
	50代(N=58)	50.0%	20.7%	0.0%	10.3%	17.2%	1.7%
	60代(N=72)	51.4%	15.3%	1.4%	9.7%	11.1%	11.1%
	70代以上(N=112)	24.1%	21.4%	13.4%	9.8%	12.5%	18.8%
	20代(N=24)	16.7%	25.0%	8.3%	8.3%	25.0%	16.7%
年代別(男性)	30代(N=26)	42.3%	19.2%	11.5%	3.8%	15.4%	7.7%
	40代(N=38)	31.6%	44.7%	5.3%	10.5%	5.3%	6%
	50代(N=43)	30.2%	27.9%	11.6%	4.7%	20.9%	4.7%
	60代(N=66)	31.8%	22.7%	15.2%	7.6%	12.1%	10.6%
	70代以上(N=116)	19.0%	26.7%	17.2%	4.3%	10.3%	22.4%

賛成
 どちらかといえば賛成
 どちらかといえば反対
 反対
 わからない
 無回答

(5) 育児に対する考え方

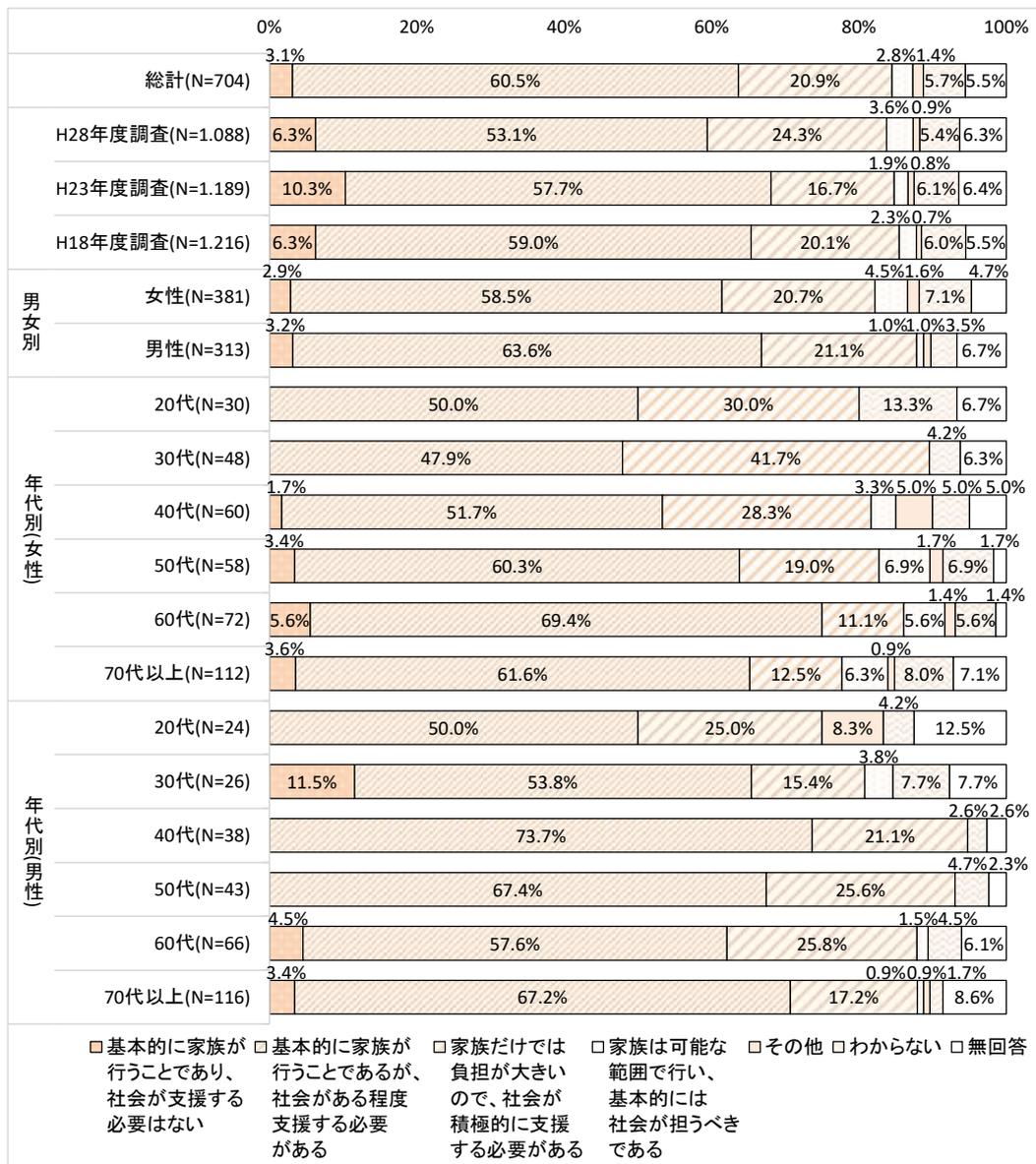
問 12 あなたは、育児に対する社会の支援について、どのようにお考えですか。(あてはまるものを1つ選択)

総計では、「基本的に家族が行うことであるが、社会がある程度支援する必要がある」(60.5%)が最も高く、次いで「家族だけでは負担が大きいのので、社会が積極的に支援する必要がある」(20.9%)、「わからない」(5.7%)の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「基本的に家族が行うことであり、社会が支援する必要はない」の割合が減少しており、「基本的に家族が行うことであるが、社会がある程度支援する必要がある」の割合が増加傾向となっている。

男女別にみると、女性の「基本的に家族が行うことであるが、社会がある程度支援する必要がある」の割合が男性より低くなっている。年代別では、30代女性の「家族だけでは負担が大きいのので、社会が積極的に支援する必要がある」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

図表 46 育児に対する社会の支援の考え方



(6) 介護に対する考え方

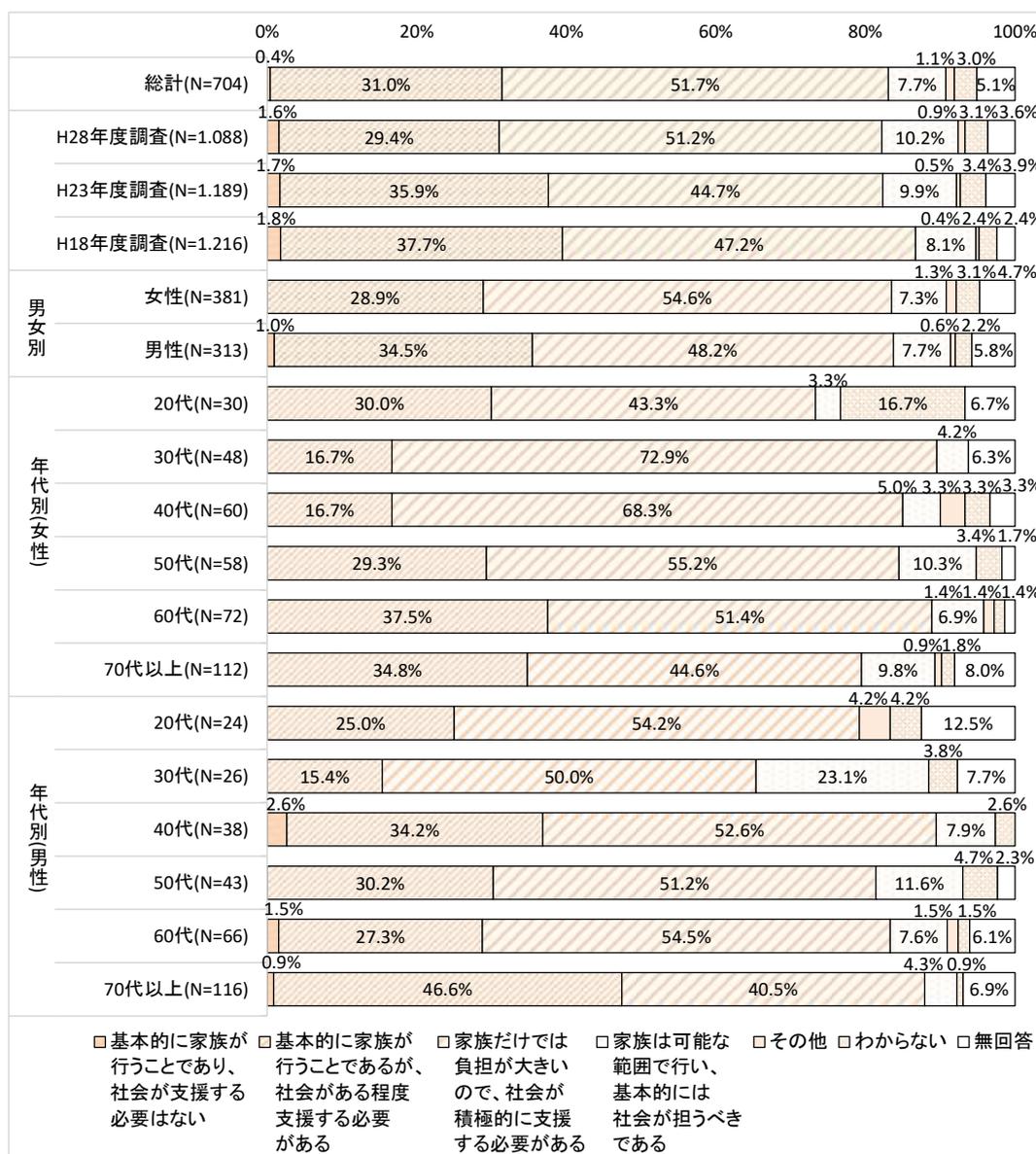
問 13 あなたは、介護に対する社会の支援についてどのようにお考えですか。(あてはまるものを1つ選択)

総計では、「家族だけでは負担が大きいの、社会が積極的に支援する必要がある」(51.7%)が最も高く、次いで「基本的に家族が行うことであるが、社会がある程度支援する必要がある」(31.0%)、「家族は可能な範囲で行い、基本的には社会が担うべきである」(7.7%)の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「基本的に家族が行うことであり、社会が支援する必要がある」の割合が減少しており、「基本的に家族が行うことであるが、社会がある程度支援する必要がある」の割合が増加傾向となっている。

男女別にみると、女性の「基本的に家族が行うことであるが、社会がある程度支援する必要がある」の割合が男性より低くなっている。

図表 47 介護に対する社会の支援の考え方



(7) 介護が必要になった場合に介護を希望する相手

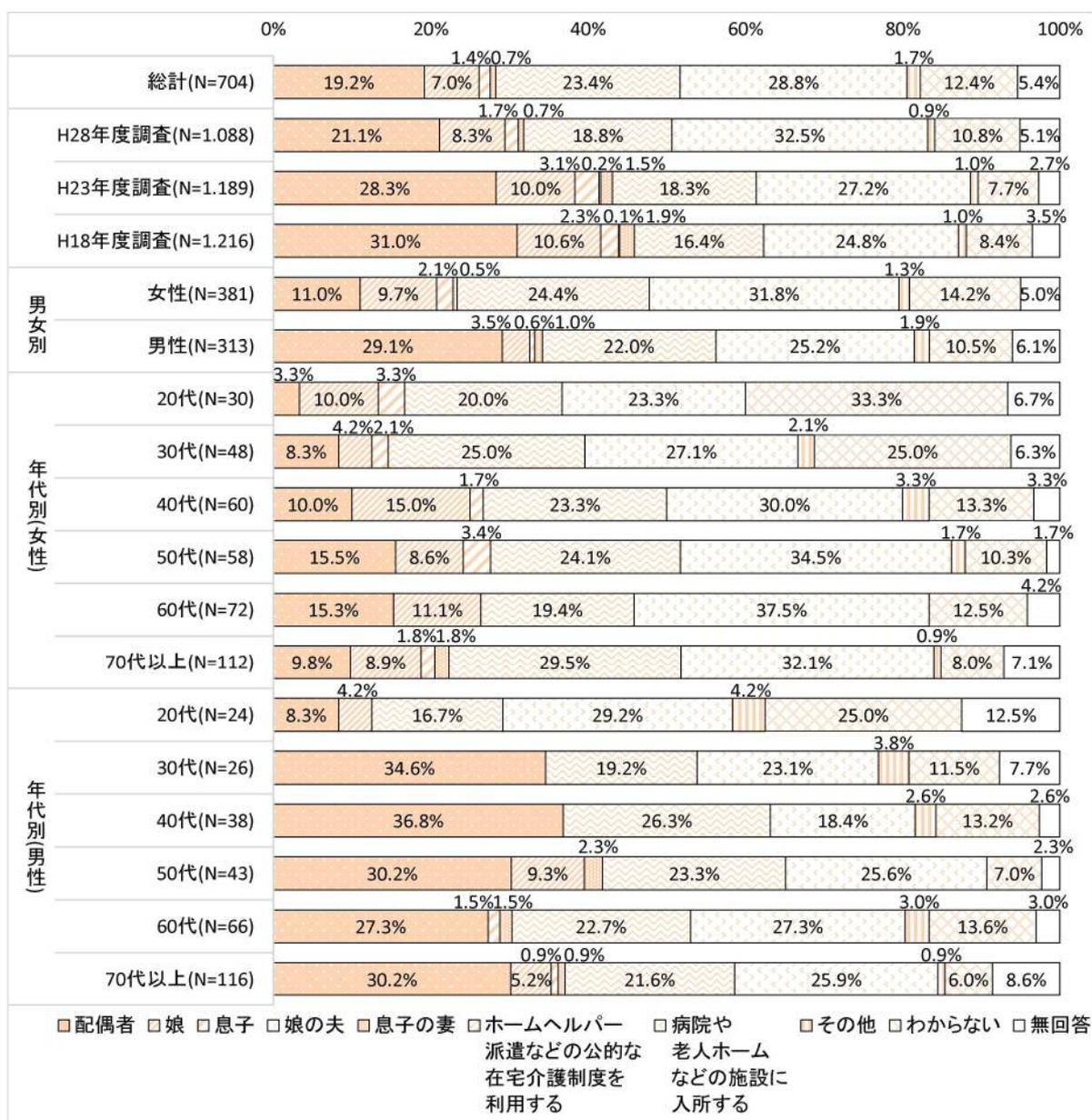
問 14 もし、あなたに介護が必要になったら、主に誰に介護をしてもらいたいですか。
(あてはまるものを1つ選択)

総計では、「病院や老人ホームなどの施設に入所する」(28.8%)が最も高く、次いで「ホームヘルパー派遣などの公的な在宅介護制度を利用する」(23.4%)、「配偶者」(19.2%)の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「配偶者」「娘」の割合が減少しており、「ホームヘルパー派遣などの公的な在宅介護制度を利用する」の割合が増加傾向となっている。

男女別にみると、男性の「配偶者」の割合が最も高いが、女性は「ホームヘルパー派遣などの公的な在宅介護制度を利用する」の割合が最も高くなっている。年代別にみると、20代男性の「配偶者」の割合が他の年代と比較して低くなっている。

図表 48 介護が必要になった場合に介護を希望する相手



3. 就業について

(1) 収入になる仕事をしている理由

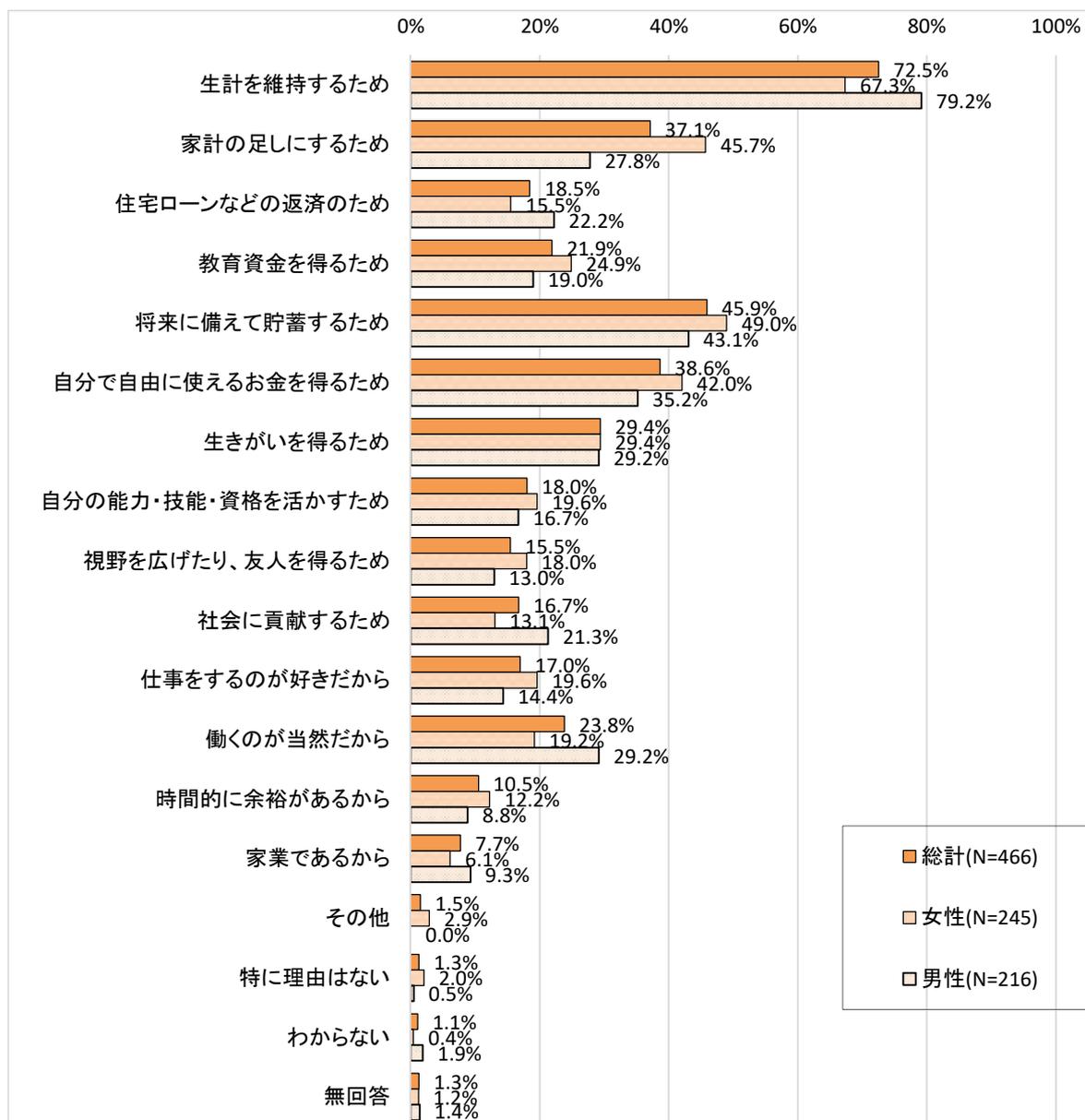
※問 15、問 16 は、現在、1 年間に 30 日以上、収入を得るための仕事をしている方（《F3 で 1 を選んだ方》）におたずねします

問 15 あなたが現在仕事をしているのは、どのような理由からでしょうか。（あてはまるものをいくつでも選択）

総計では、「生計を維持するため」（72.5%）が最も高く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」（45.9%）、「自分で自由に使えるお金を得るため」（38.6%）の順となっている。

男女別にみると、「生計を維持するため」、「働くのが当然だから」、「社会に貢献するため」の割合は男性が高くなっており、女性は「将来に備えて貯蓄するため」、「自分で自由に使えるお金を得るため」、「家計に足しにするため」の割合が高くなっている。

図表 49 収入になる仕事をしている理由



(2) 職場における女性に対する差別の有無

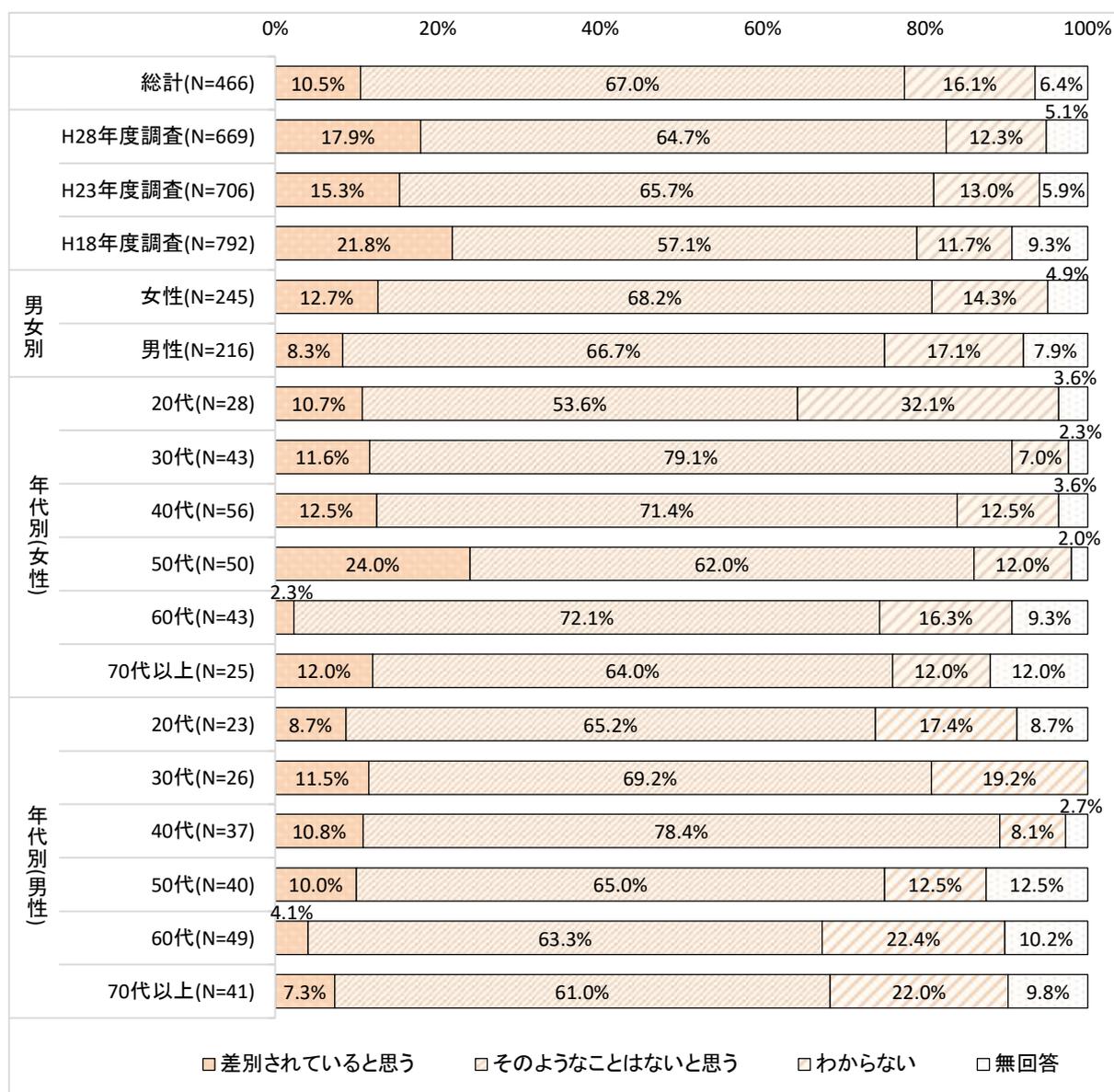
問 16 あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ差別されていると思いますか。(あてはまるものを1つ選択)

総計では、「そのようなことはないと思う」(67.0%)が最も高く、次いで「わからない」(16.1%)、「差別されていると思う」(10.5%)の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「差別されていると思う」の割合が減少しており、「そのようなことはないと思う」の割合が増加傾向となっている。

男女別にみると、女性の「差別されていると思う」の割合が男性より4.4ポイント高くなっている。年代別にみると、「差別されていると思う」の割合が最も高いのは50代女性となっている。

図表 50 職場における女性に対する差別の有無



(3) 女性差別の具体的内容

※差別されていると思う《問16で1を選んだ方》におたずねします

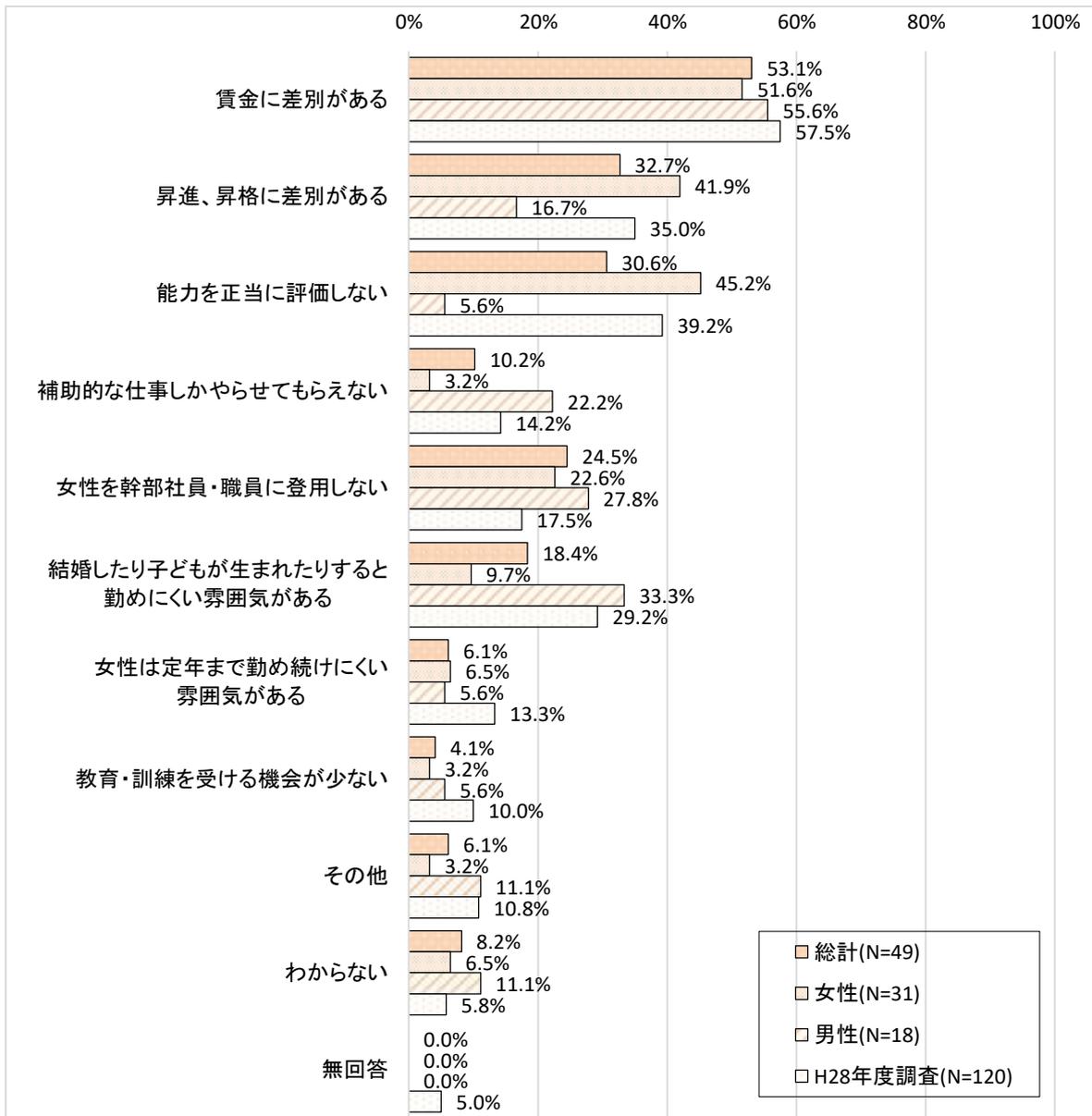
問17 それは具体的にどのようなことですか。(あてはまるものをいくつでも選択)

総計では、「賃金に差別がある」(53.1%)が最も高く、次いで「昇進、昇格に差別がある」(32.7%)、「能力を正当に評価しない」(30.6%)の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「結婚したり子どもが生まれたりすると勤めにくい雰囲気がある」の割合が減少しており、「女性を幹部社員・職員に登用しない」の割合が増加傾向となっている。

男女別にみると、女性の「能力を正当に評価しない」の割合が男性より39.6ポイント高くなっている。

図表 51 女性差別の具体的内容



(4) 就労していない理由

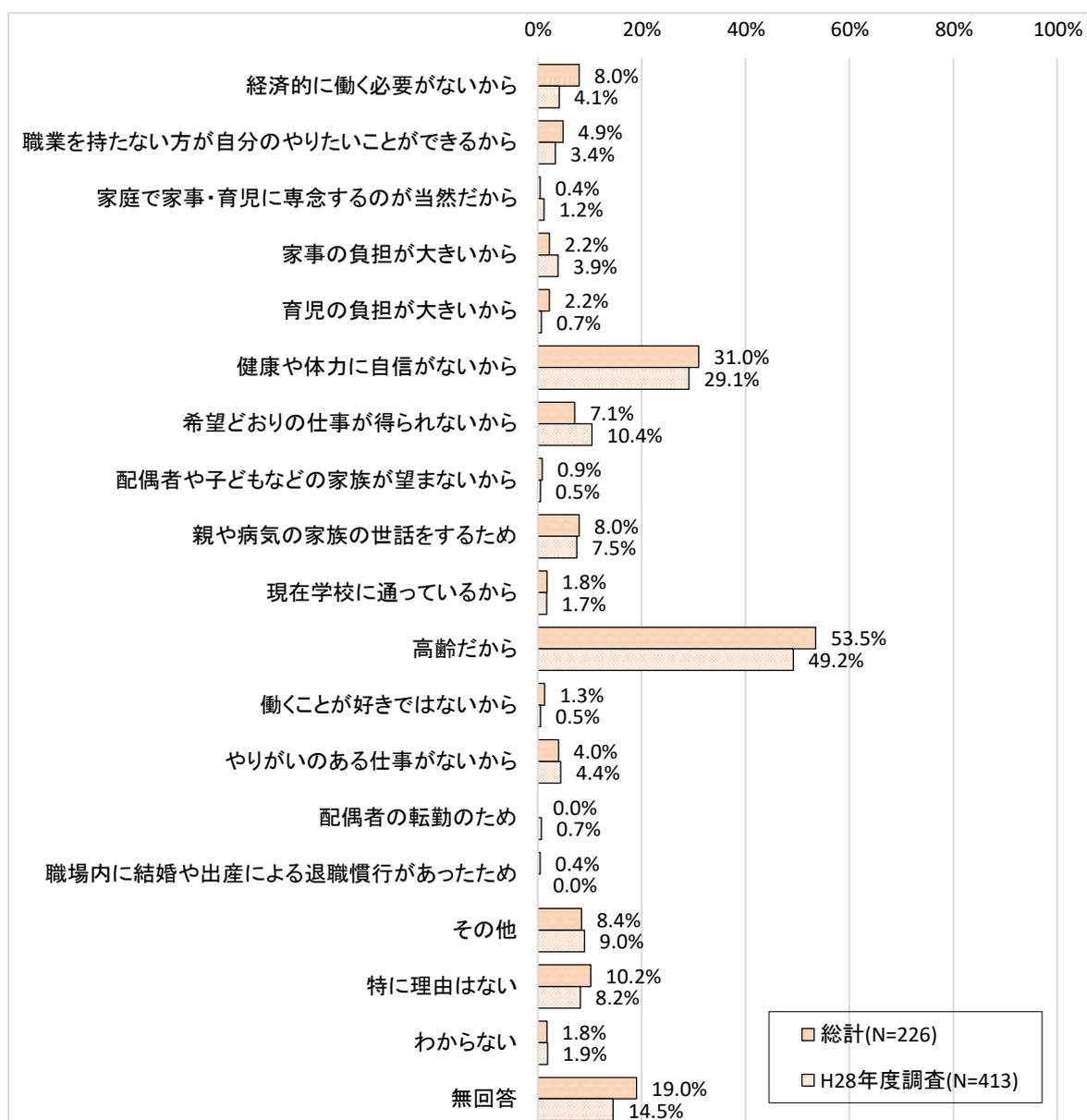
※現在、1年間に30日以上、収入を得るための仕事をしていない方（《F3で2を選んだ方》）におたずねします

問 18 あなたが現在仕事をしていないのは、どのような理由からでしょうか。（あてはまるものをいくつでも選択）

総計では、「高齢だから」(53.5%)が最も高く、次いで「健康や体力に自信がないから」(31.0%)となっている。

平成28年度調査と比較すると、「希望どおりの仕事を得られないから」の割合が減少しており、「経済的に働く必要がないから」「高齢だから」の割合が増加傾向となっている。

図表 52 就労していない理由



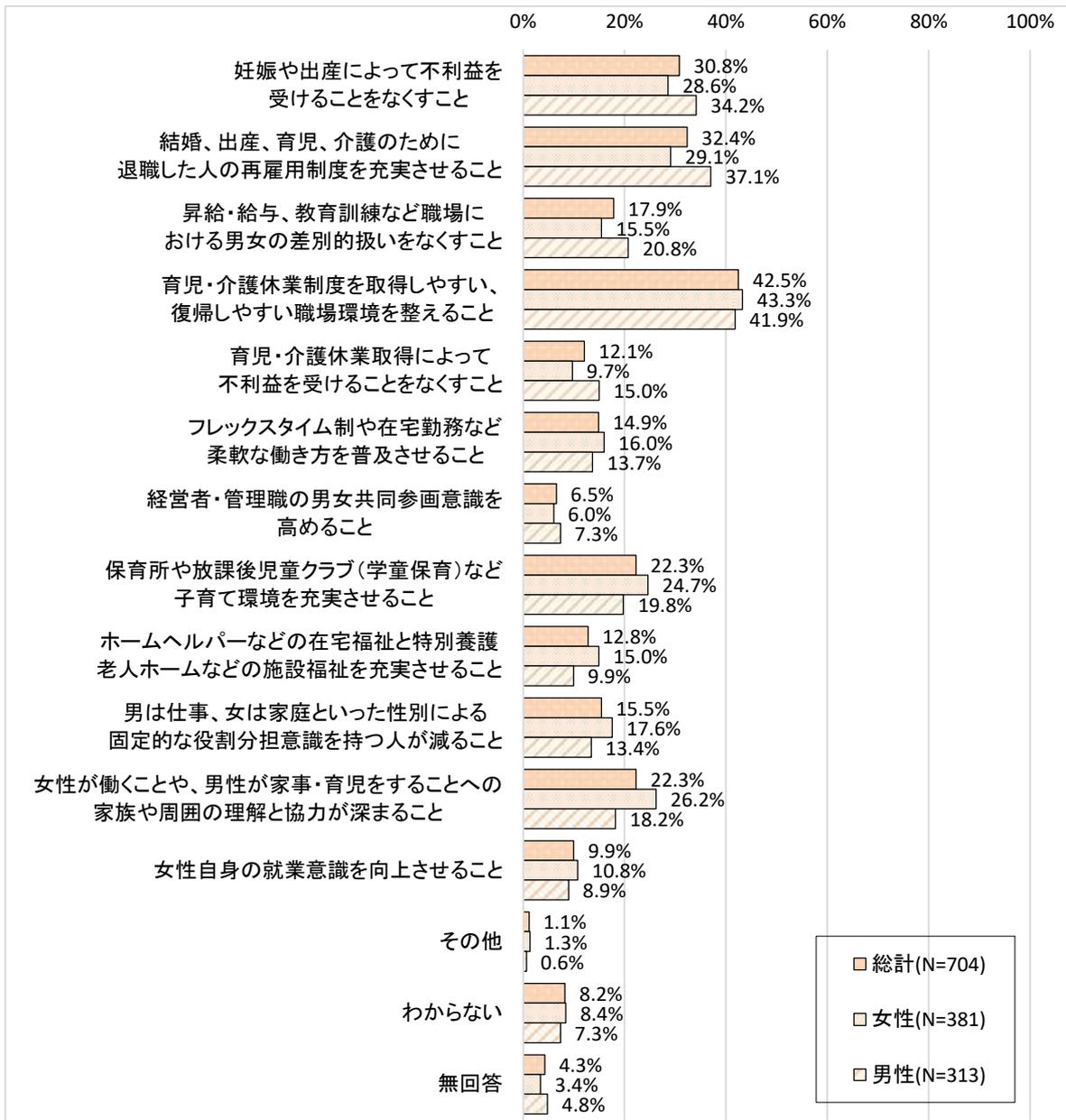
(5) 女性が仕事をしやすい環境を整えるための必要事項

問 19 あなたは、女性が仕事をしやすい環境を整えるためには、どのようなことが必要だとお考えですか。(特に必要と思われるものを3つ以内で選択)

総計では、「育児・介護休業制度を取得しやすい、復帰しやすい職場環境を整えること」(42.5%)が最も高く、次いで「結婚、出産、育児、介護のために退職した人の再雇用制度を充実させること」(32.4%)、「妊娠や出産によって不利益を受けることをなくすこと」(30.8%)となっている。

男女別にみると、「女性が働くことや、男性が家事・育児をすることへの家族や周囲の理解と協力が深まること」「保育所や放課後児童クラブ(学童保育)など子育て環境を充実させること」の割合が、女性の方が男性より高くなっている。

図表 53 女性が仕事をしやすい環境を整えるための必要事項



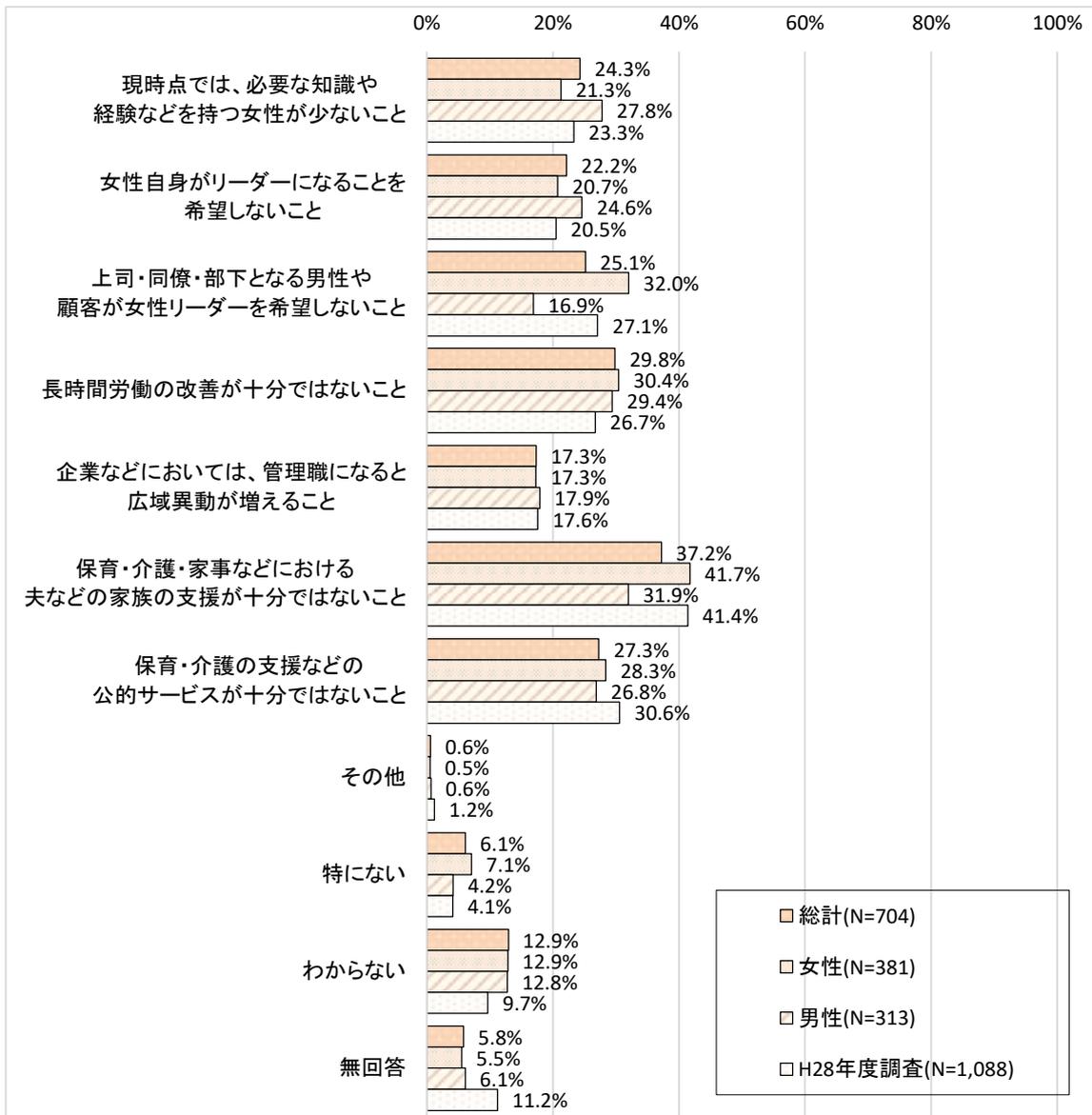
(6) 女性の活躍を進めるに際しての障害

問 20 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思えますか。(あてはまるものをいくつでも選択)

総計では、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(37.2%)が最も高く、次いで「長時間労働の改善が十分ではないこと」(29.8%)、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(27.3%)となっている。

男女別にみると、女性の「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」の割合が男性より高くなっている。

図表 54 女性のリーダーを増やすときに障害となるもの



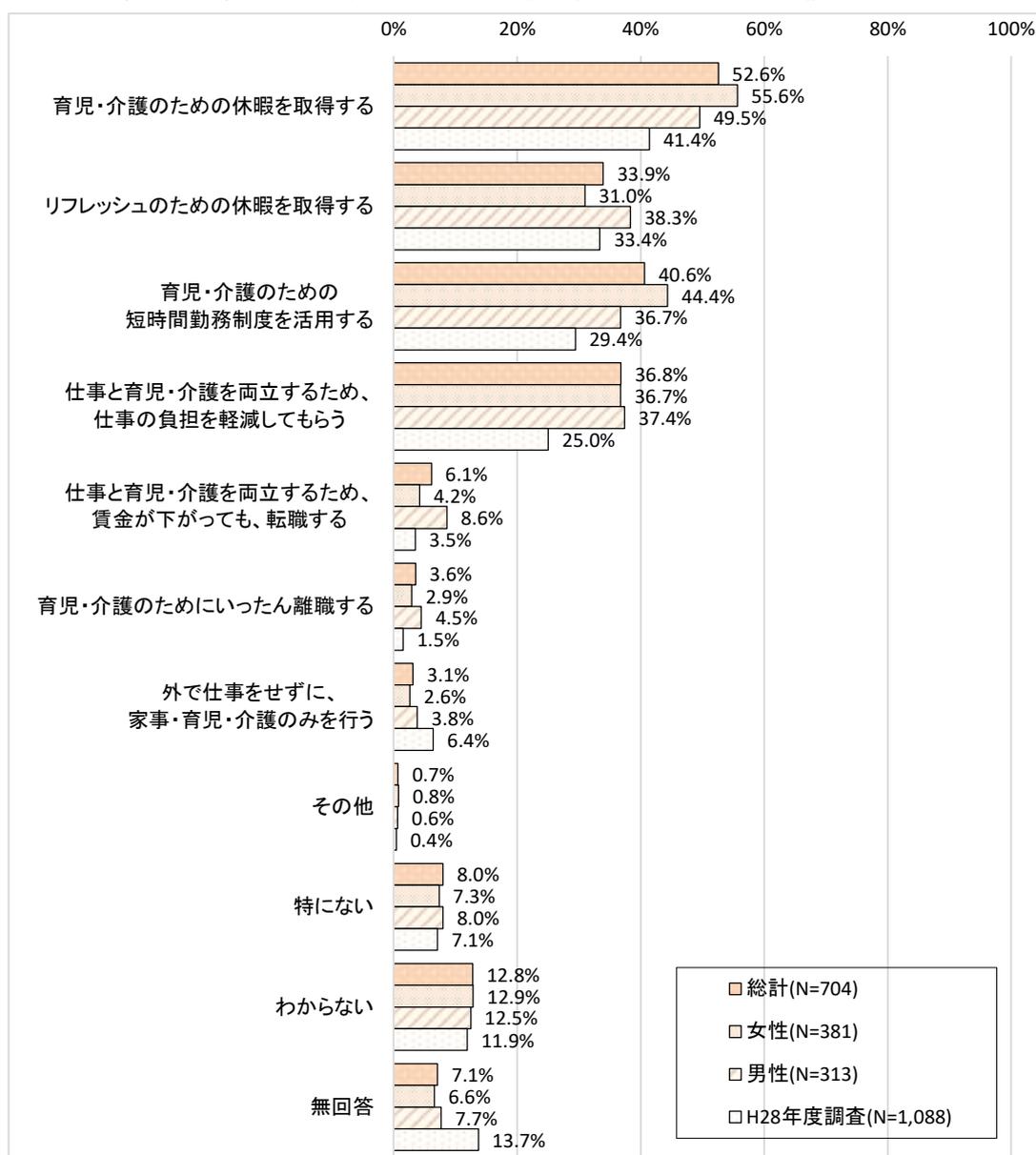
(7) 男性の柔軟な働き方についての意識

問 21 男性が、仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、あなたが受け入れられるものはどれですか。(あてはまるものをいくつでも選択)

総計では、「育児・介護のための休暇を取得する」(52.6%)が最も高く、次いで「育児・介護のための短時間勤務制度を活用する」(40.6%)、「仕事と育児・介護を両立するため、仕事の負担を軽減してもらう」(36.8%)となっている。

平成28年度調査と比較すると、「育児・介護のための休暇を取得する」「育児・介護のための短時間勤務制度を活用する」「仕事と育児・介護を両立するため、仕事の負担を軽減してもらう」が高くなっている。

図表 55 男性の仕事以外の生活を重視した働き方の選択について



4. 学校教育について

(1) 子どもにどの程度の学校教育を受けさせたいか

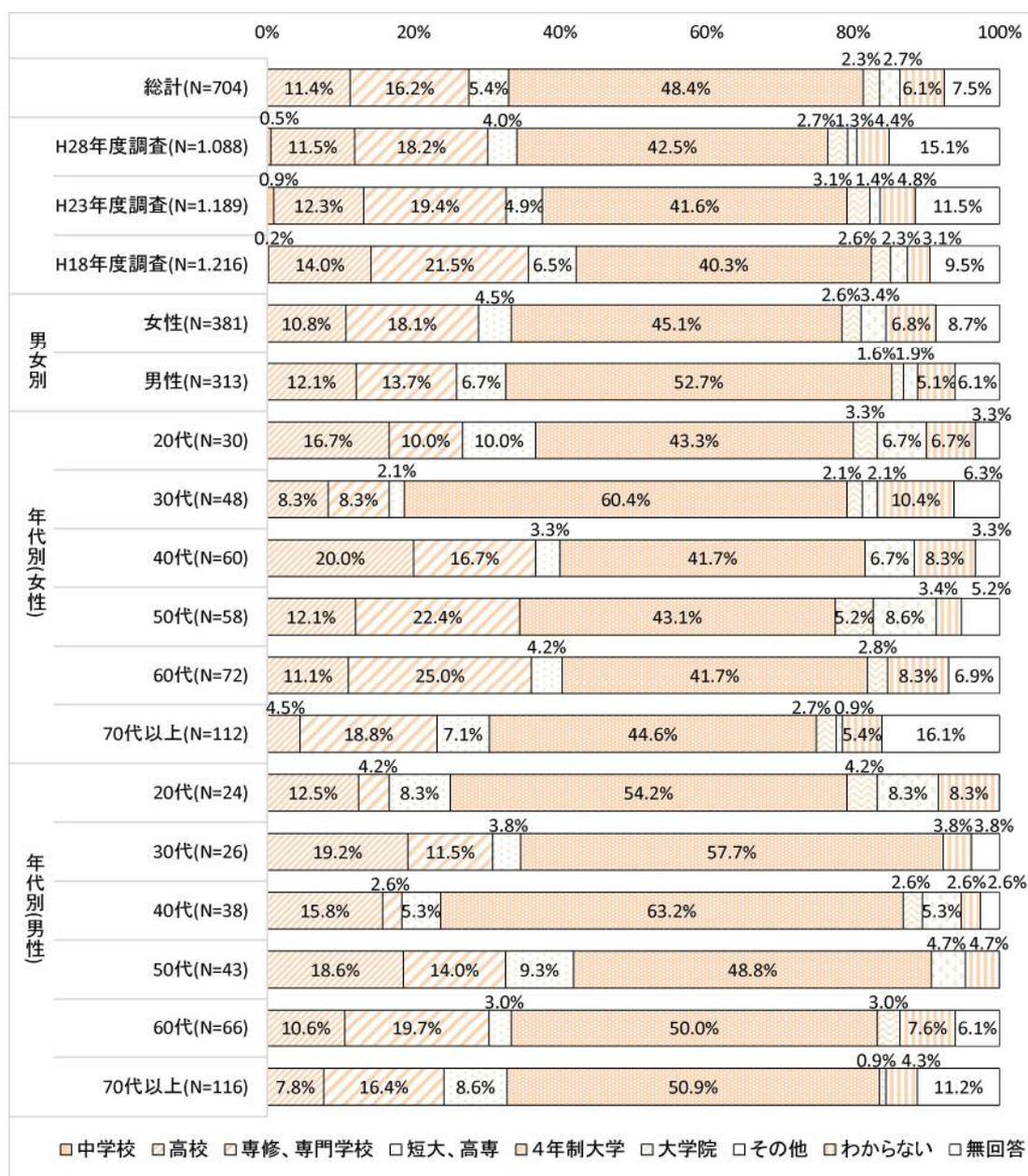
問 22 あなたは、子どもに（いらっしゃる場合は一般的な意見として）どの程度の学校教育を受けさせたいと思いますか。（男の子の場合と女の子の場合のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選択）

<男の子の場合>

総計では、「4年制大学」（48.9%）が最も高く、次いで「専修、専門学校」（16.3%）、「高校」（11.5%）の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「4年制大学」の割合が6.4ポイント高くなっている。

図表 56 子どもに受けさせたい教育程度<男の子>

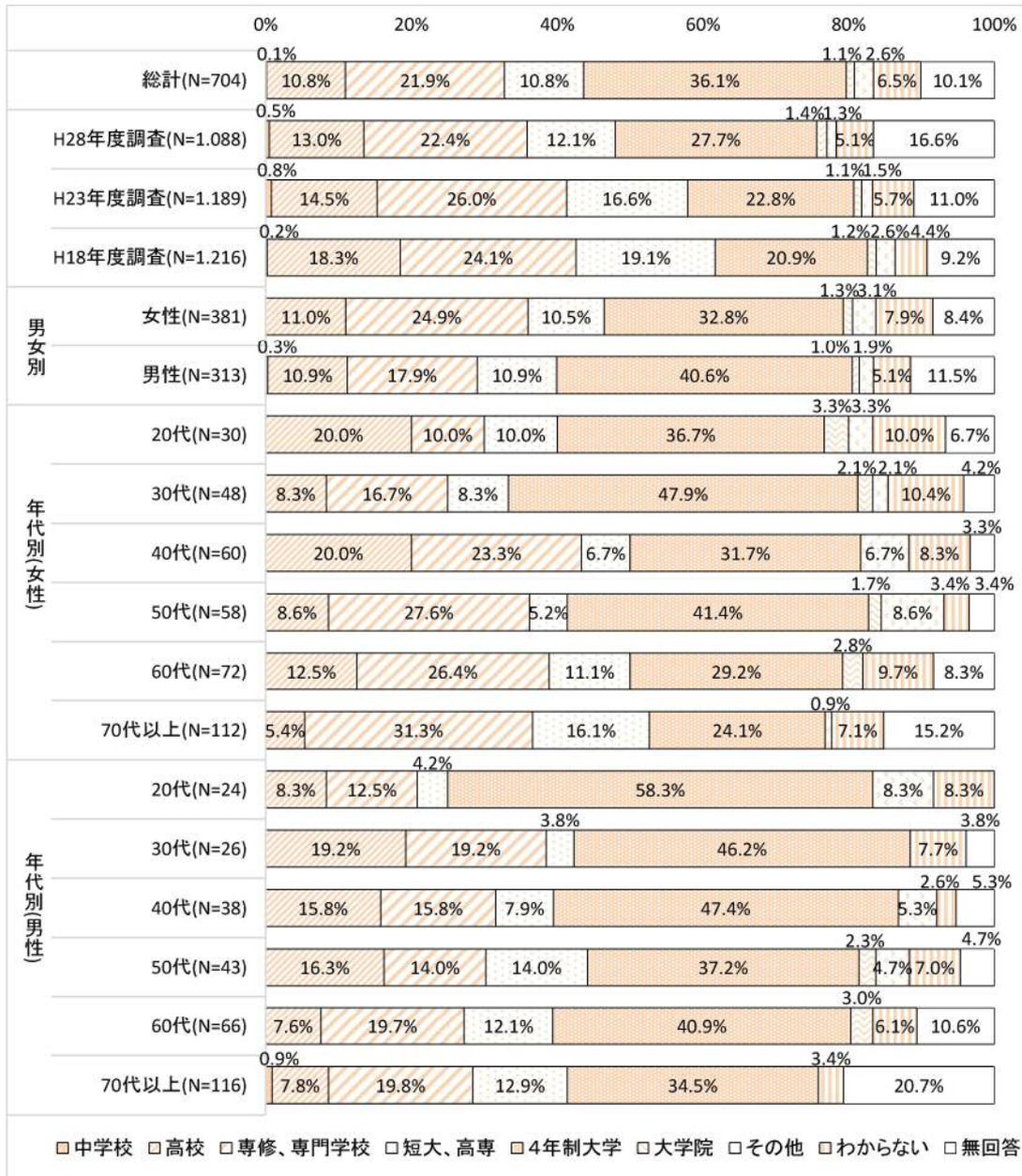


<女の子の場合>

総計では、「4年制大学」(36.7%)が最も高く、次いで「専修、専門学校」(22.2%)、「高校」(11.0%)の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「4年制大学」の割合が9ポイント高くなっている。

図表 57 子どもに受けさせたい教育程度<女の子>



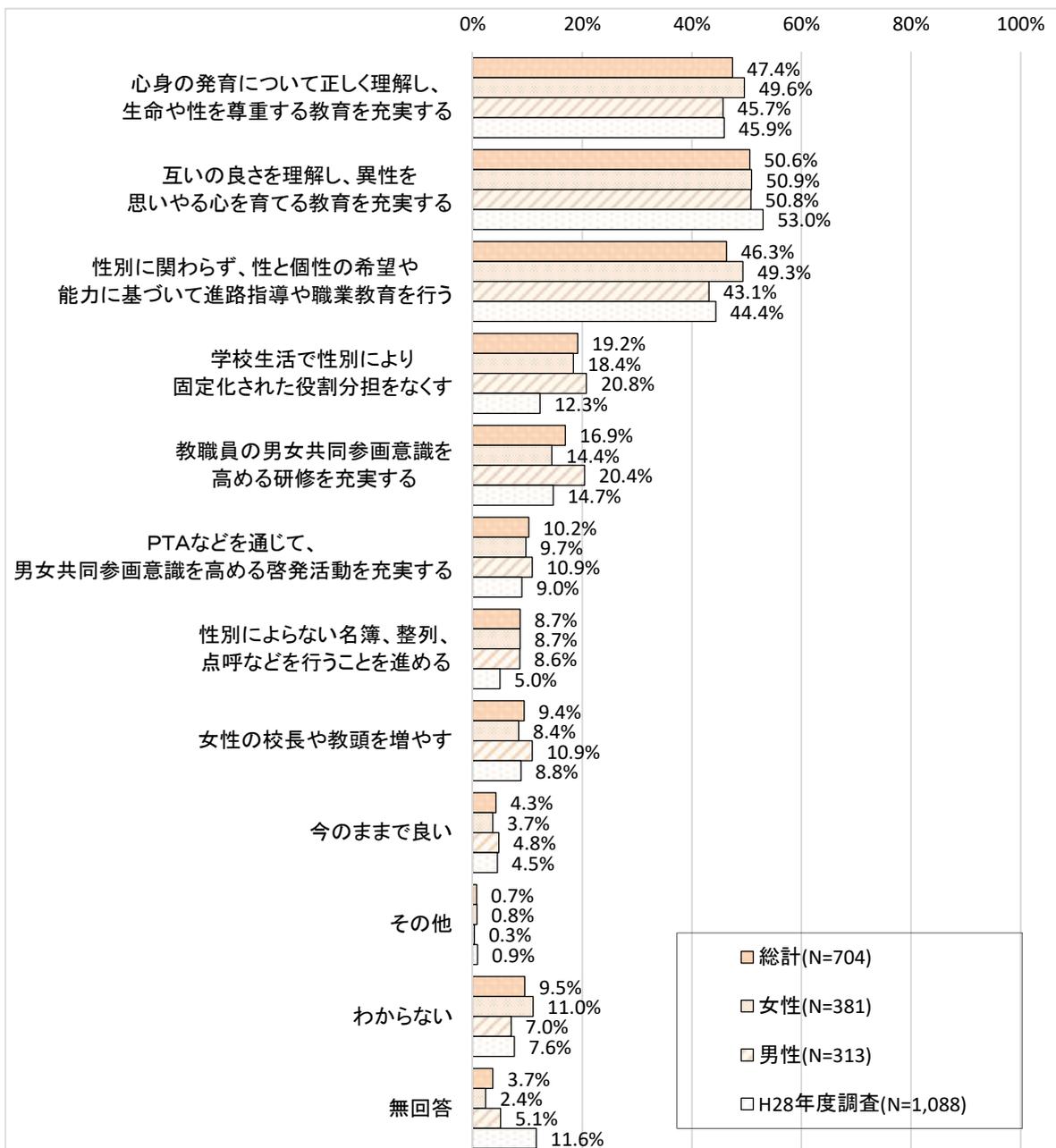
(2) 男女共同参画社会実現に向けて学校教育の場で大切なこと

問 23 男女共同参画社会を実現するために、学校教育の場でどのようなことが大切だと思いますか。(あてはまるものを3つ以内で選択)

総計では、「互いの良さを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する」(50.6%)が最も高く、次いで「心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する」(47.4%)、「性別に関わらず、性と個性の希望や能力に基づいて進路指導や職業教育を行う」(46.3%)となっている。

平成28年度調査と比較すると、「学校生活で性別により固定化された役割分担をなくす」が高くなっている。

図表 58 男女共同参画社会実現に向けて学校教育の場で大切なこと



5. 女性の政策参画について

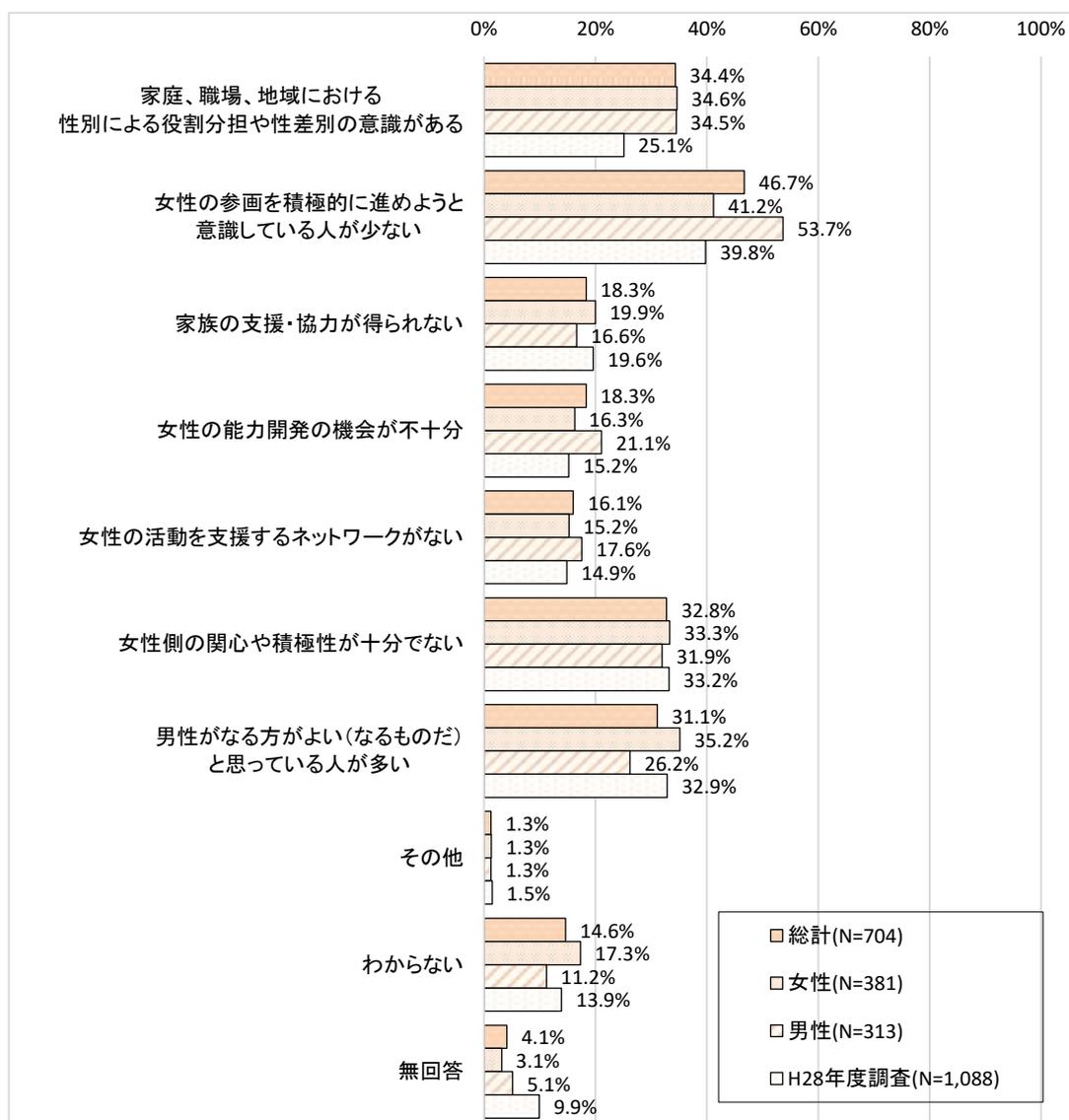
(1) 政策決定・施策決定の場に女性の参画が少ない理由

問 24 志布志市を含め、一般的に政策決定の場や自治組織などの方針決定の場への女性の参画が少ないようですが、それは何故だと思いますか。(あてはまるものを3つ以内で選択)

総計では、「女性の参画を積極的に進めようとして意識している人が少ない」(46.7%)が最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある」(34.4%)、「女性側の関心や積極性が十分でない」(32.8%)となっている。

男女別で見ると、女性の「女性の参画を積極的に進めようとして意識している人が少ない」の割合が男性より12.5ポイント低くなっている。

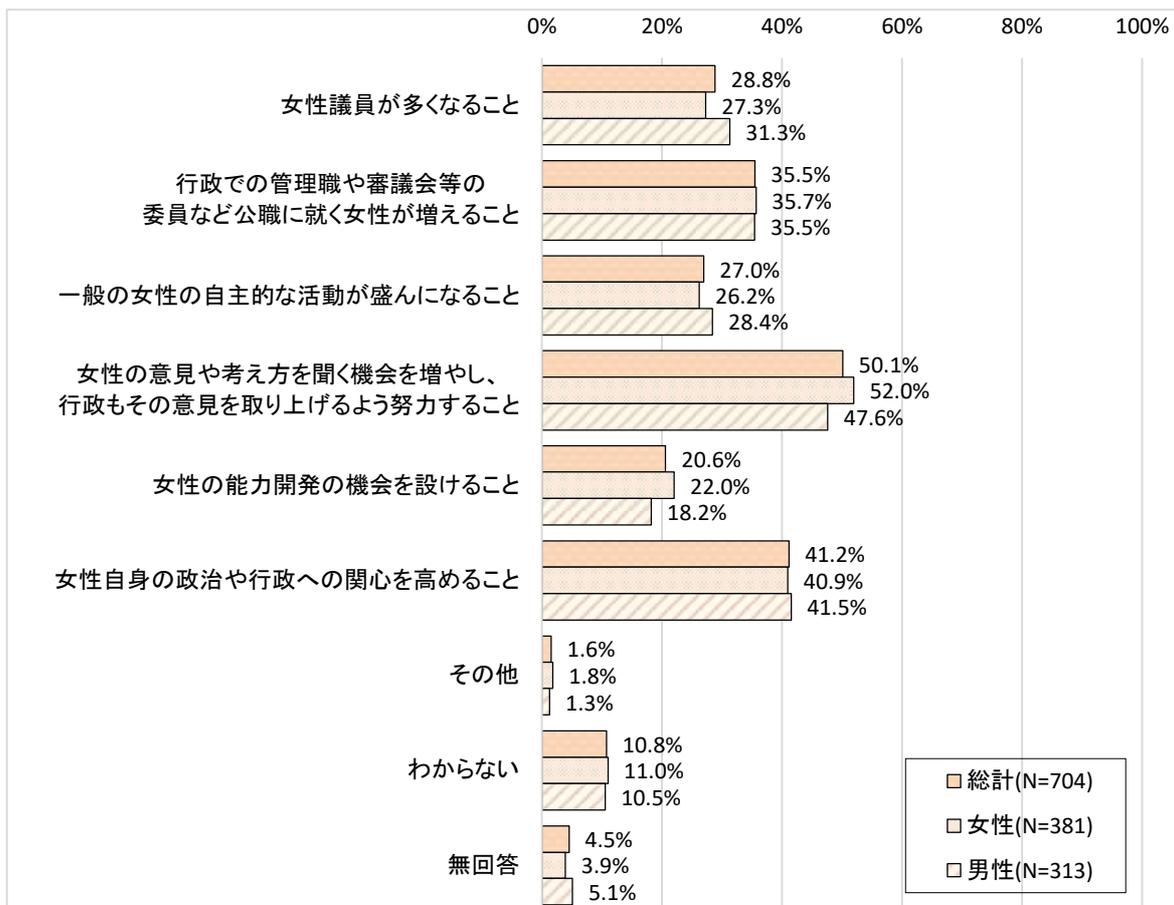
図表 59 政策決定・施策決定の場に女性の参画が少ない理由



問 25 女性の意見を政治や行政に十分反映させるためには、どのようなことが最も効果があると思いますか。(あてはまるものを3つ以内で選択)

総計では、「女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること」(50.1%)が最も高く、次いで「女性自身の政治や行政への関心を高めること」(41.2%)、「行政での管理職や審議会等の委員など公職に就く女性が増えること」(35.5%)となっている。

図表 60 女性の意見を行政に反映させるために効果があること

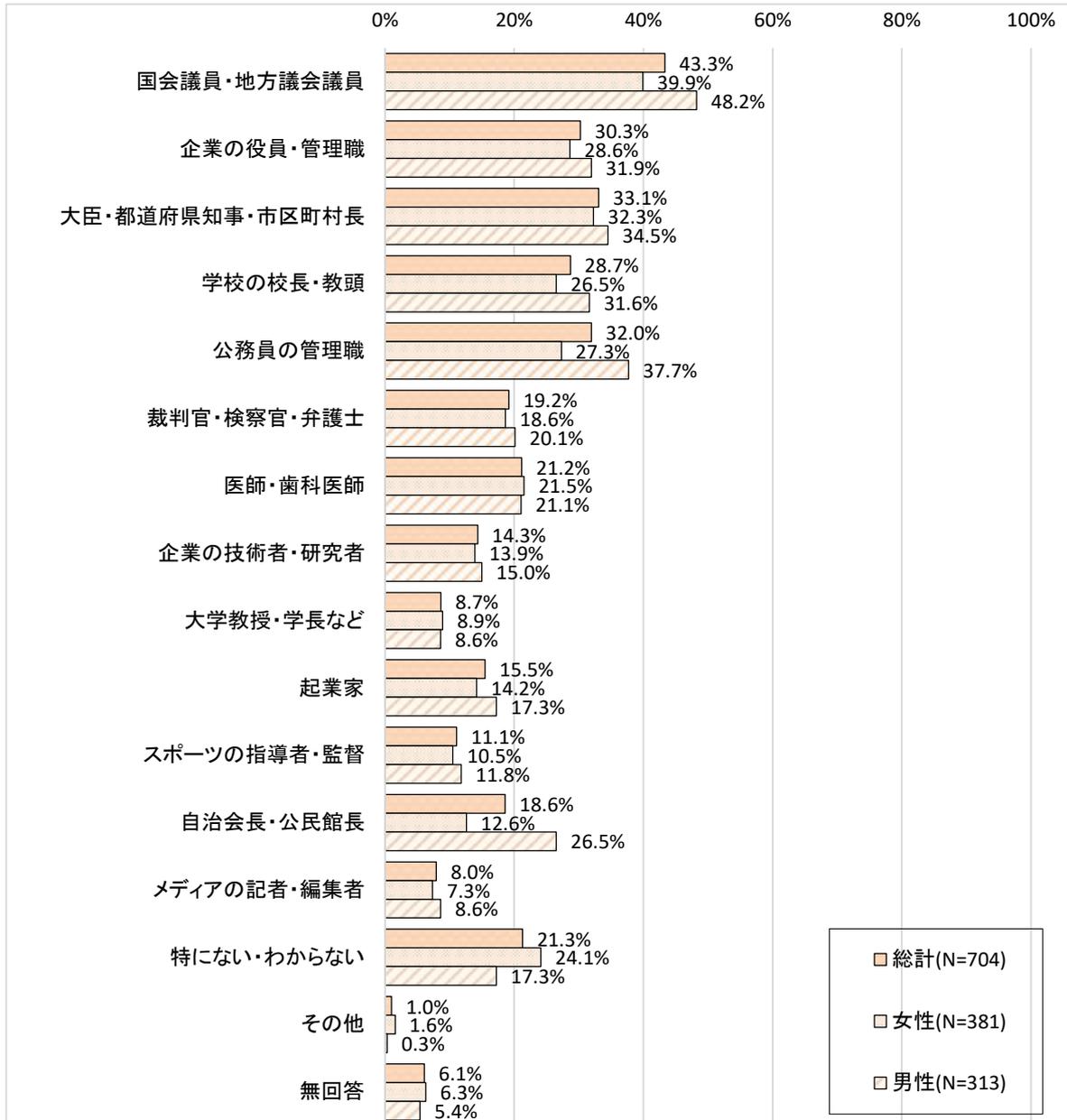


問 26 あなたが次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増える方がよいと思うものはどれですか。(あてはまるものをいくつでも選択)

総計では、「国会議員・地方議会議員」(43.3%)が最も高く、次いで「大臣・都道府県知事・市区町村長」(33.1%)、「公務員の管理職」(32.0%)となっている。

男女別で見ると、男性の「国会議員・地方議会議員」「公務員の管理職」「自治会長・公民館長」の割合が、女性より高くなっている。

図表 61 女性が増える方がよいと思う役職や職業



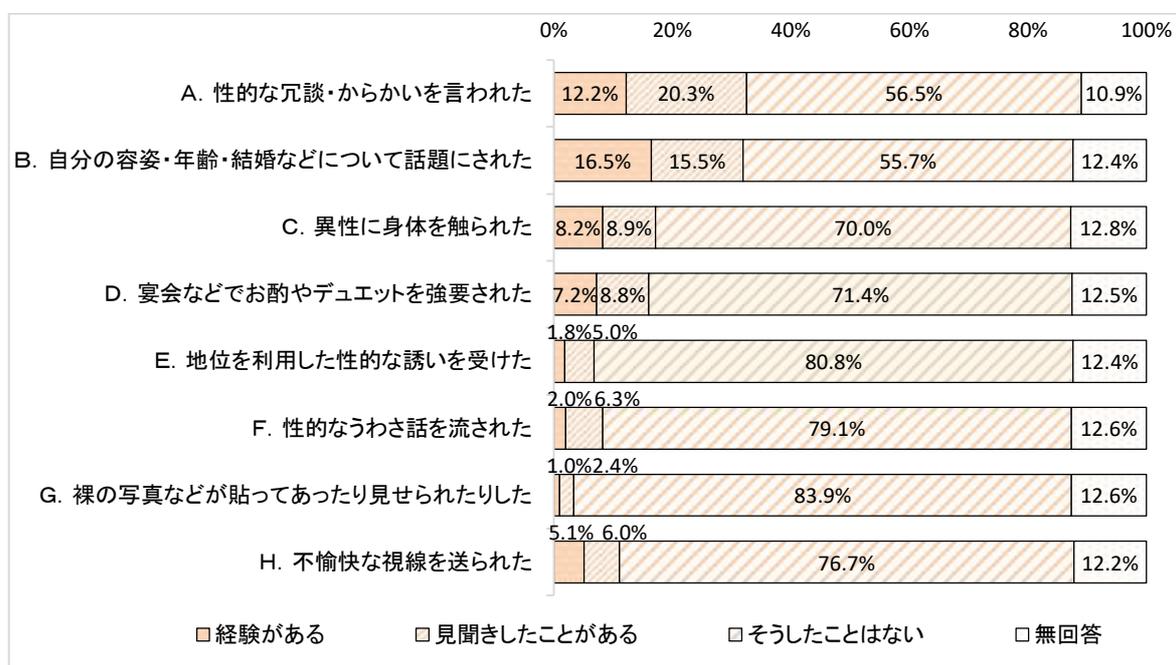
6. DVやハラスメントについて

(1) セクシュアル・ハラスメントについて

問 27 あなたは、ここ5年の間に、職場や学校などで、次のような経験、またそうしたことを見聞きしたことがありますか。(A～Hのそれぞれの項目について、あてはまる番号を1つだけ選択)

経験があると回答した人の割合が最も高かったのは、「B. 自分の容姿・年齢・結婚などについて話題にされた」(16.5%)となっており、見聞きしたことがあると回答した人の割合が最も高かったのは、「A. 性的な冗談・からかいを言われた」(20.3%)となっている。

図表 62 セクシュアル・ハラスメントの経験<全体>



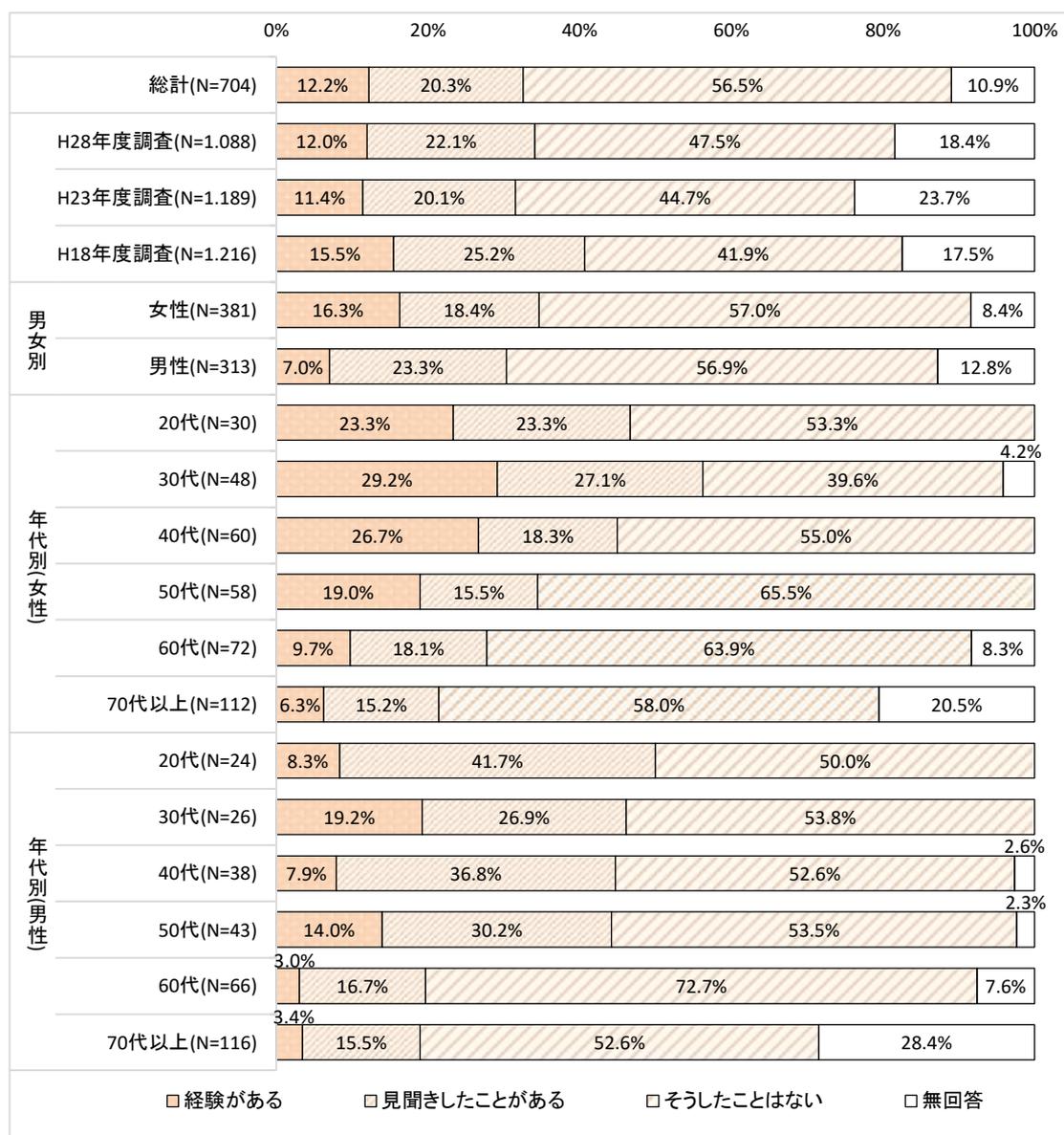
〈A. 性的な冗談・からかいを言われた〉

総計では、「そうしたことはない」(56.5%)の割合が最も高く、次いで「見聞きしたことがある」(20.3%)、「経験がある」(12.2%)の順となっている。

男女別にみると、女性の「経験がある」の割合が、男性より9.3ポイント高くなっている。年代別にみると、「経験がある」の割合が最も高いのは、30代女性で、同30代男性より10ポイント高くなっている。

平成28年度調査と比較すると、「経験がある」の割合が0.2ポイント高くなっており、「見聞きしたことがある」の割合が1.8ポイント低くなっている。

図表 63 セクシュアル・ハラスメントの経験
〈A. 性的な冗談・からかいを言われた〉



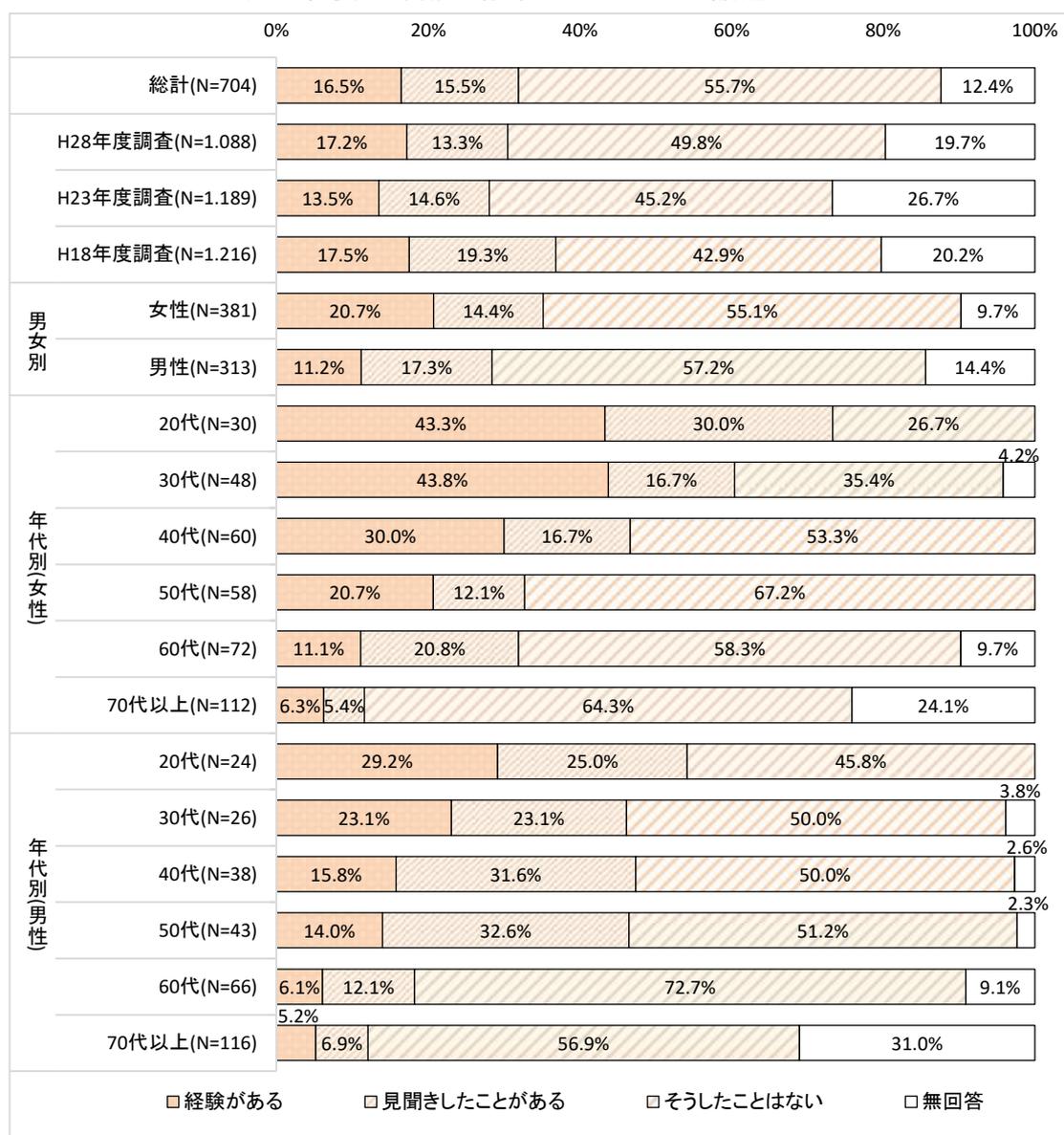
〈B. 自分の容姿・年齢・結婚などについて話題にされた〉

総計では、「そうしたことはない」(55.7%)の割合が最も高く、次いで「経験がある」(16.5%)、「見聞きしたことがある」(15.5%)の順となっている。

男女別にみると、女性の「経験がある」の割合が、男性より9.5ポイント高くなっている。年代別にみると、「経験がある」の割合が高いのは、女性は30代、20代の順となっており、男性は20代、30代の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「経験がある」の割合が0.7ポイント低くなっており、「見聞きしたことがある」の割合が2.2ポイント高くなっている。

図表 64 セクシュアル・ハラスメントの経験
〈B. 自分の容姿・年齢・結婚などについて話題にされた〉



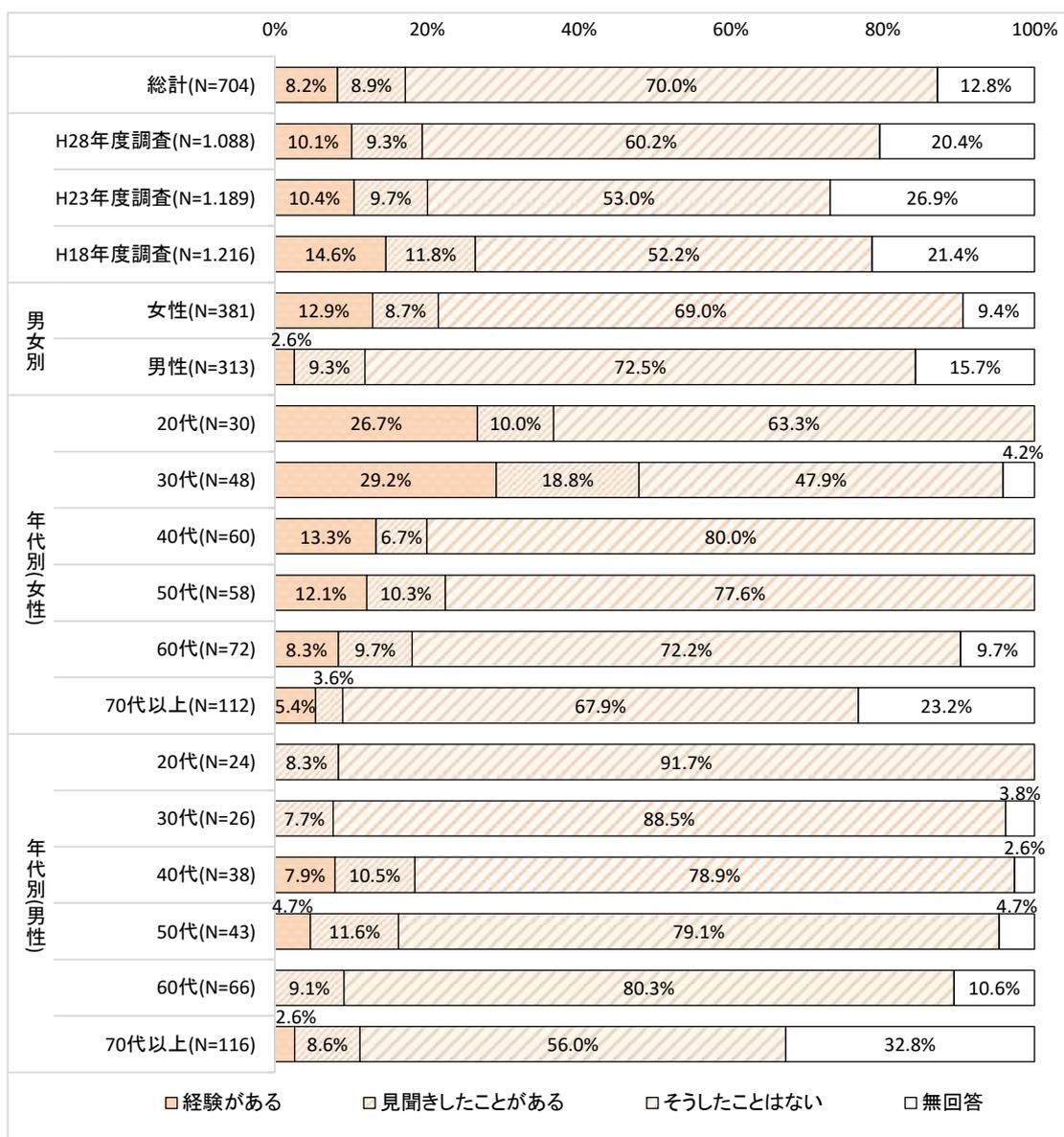
＜C. 異性に身体を触られた＞

総計では、「そうしたことはない」(70.0%)の割合が最も高く、次いで「見聞きしたことがある」(8.9%)、「経験がある」(8.2%)の順となっている。

男女別にみると、女性の「経験がある」の割合が、男性より10.3ポイント高くなっている。年代別にみると、「経験がある」の割合が最も高いのは、30代女性で、30代男性より29.2ポイント高くなっている。

平成28年度調査と比較すると、「経験がある」の割合が1.9ポイント、「見聞きしたことがある」の割合が0.4ポイント低くなっている。

図表 65 セクシュアル・ハラスメントの経験
＜C. 異性に身体を触られた＞



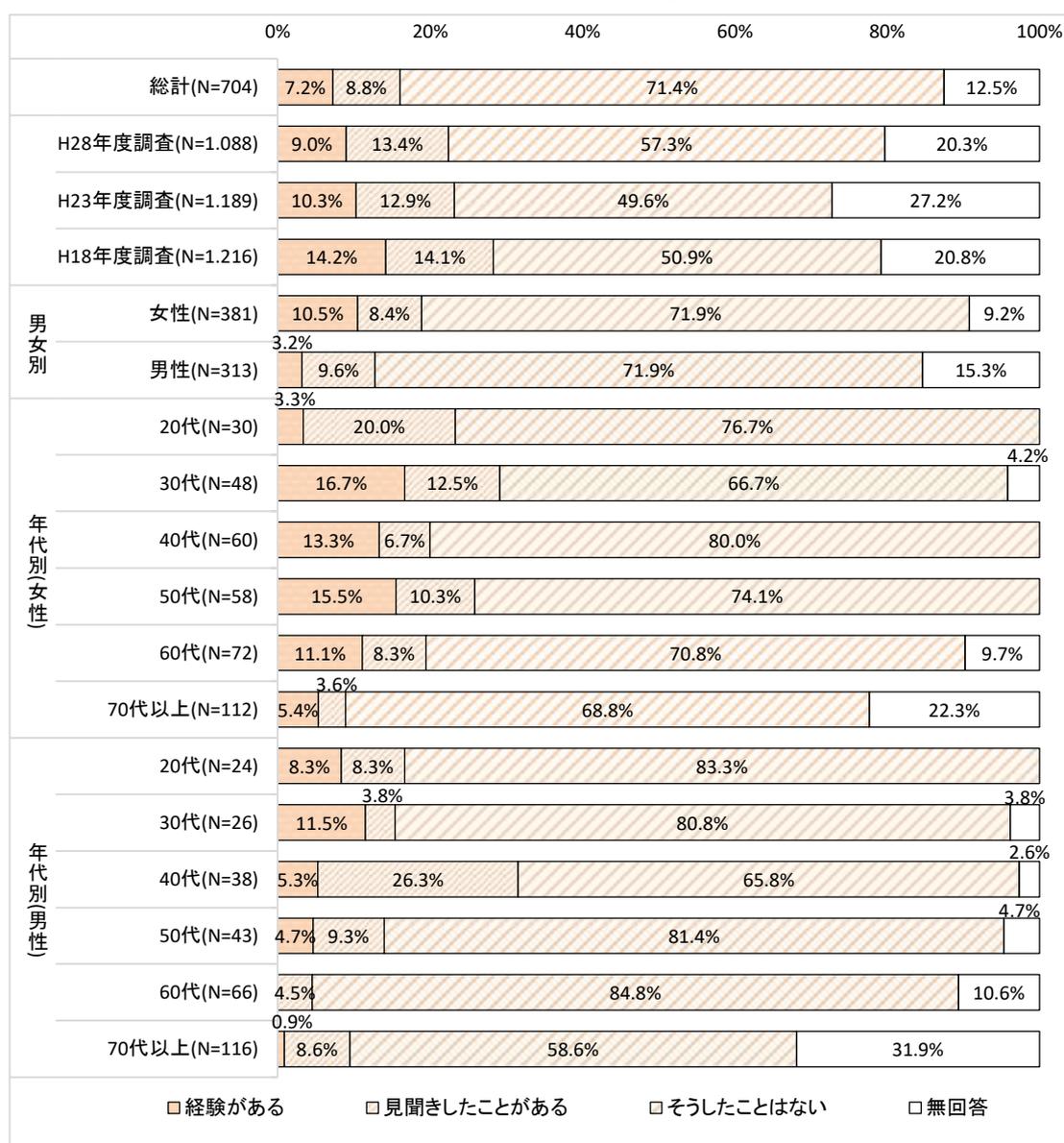
〈D. 宴会などでお酌やデュエットを強要された〉

総計では、「そうしたことはない」(71.4%)の割合が最も高く、次いで「見聞きしたことがある」(8.8%)、「経験がある」(7.2%)の順となっている。

男女別にみると、女性の「経験がある」の割合が、男性より7.3ポイント高くなっている。年代別にみると、「経験がある」の割合が最も高いのは、男女共に30代となっている。

平成28年度調査と比較すると、「経験がある」の割合が1.8ポイント、「見聞きしたことがある」の割合が4.6ポイント低くなっている。

図表 66 セクシュアル・ハラスメントの経験
〈D. 宴会などでお酌やデュエットを強要された〉



〈E. 地位を利用した性的な誘いを受けた〉

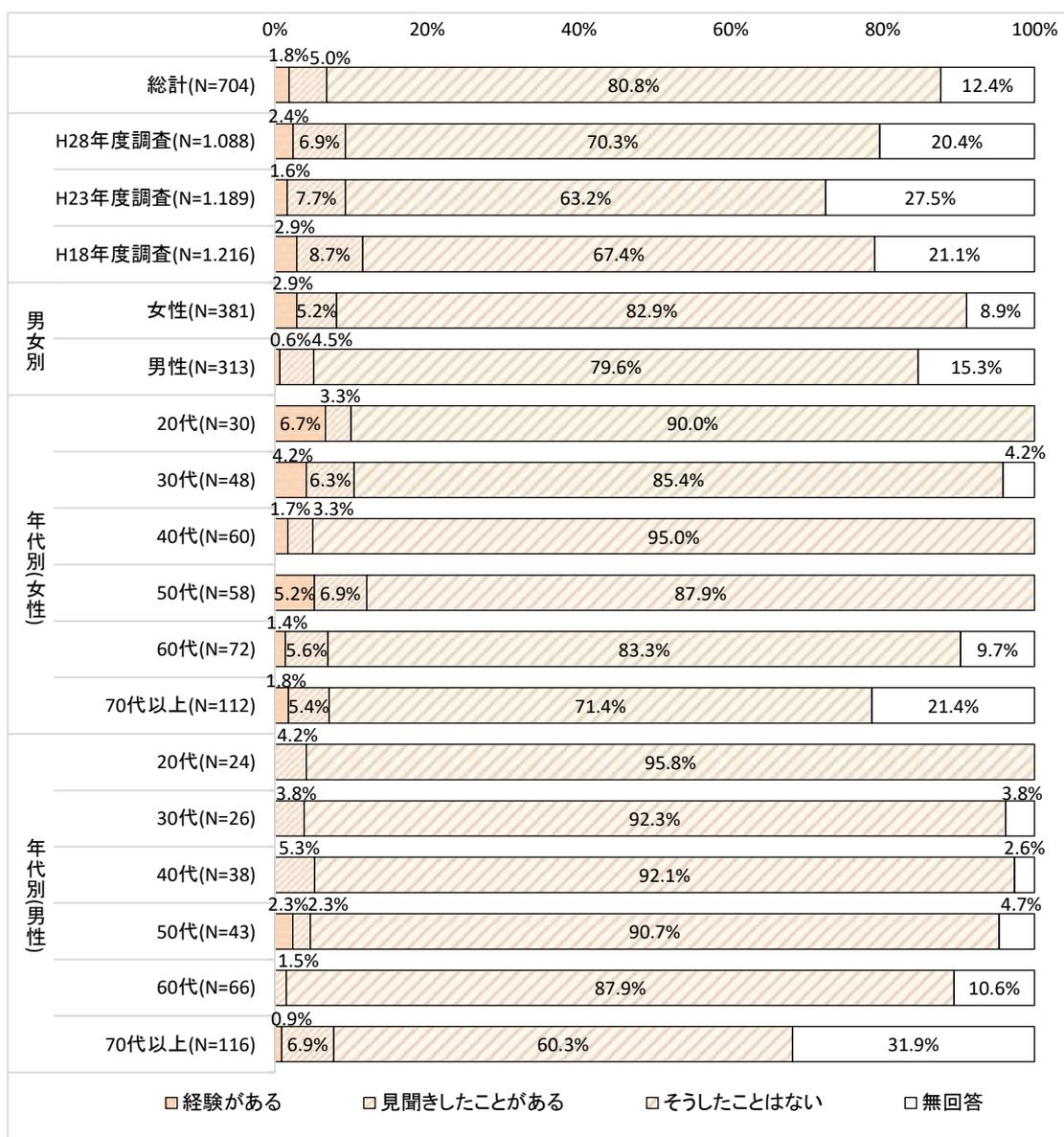
総計では、「そうしたことはない」(80.8%)の割合が最も高く、次いで「見聞きしたことがある」(5.0%)、「経験がある」(1.8%)の順となっている。

男女別にみると、女性の「経験がある」の割合が、男性より2.3ポイント高くなっている。年代別にみると、「経験がある」の割合は、女性は20代、50代の順に高くなっており、男性は50代が最も高くなっている。

平成28年度調査と比較すると、「経験がある」の割合が0.6ポイント、「見聞きしたことがある」の割合が1.9ポイント低くなっている。

図表 67 セクシュアル・ハラスメントの経験

〈E. 地位を利用した性的な誘いを受けた〉



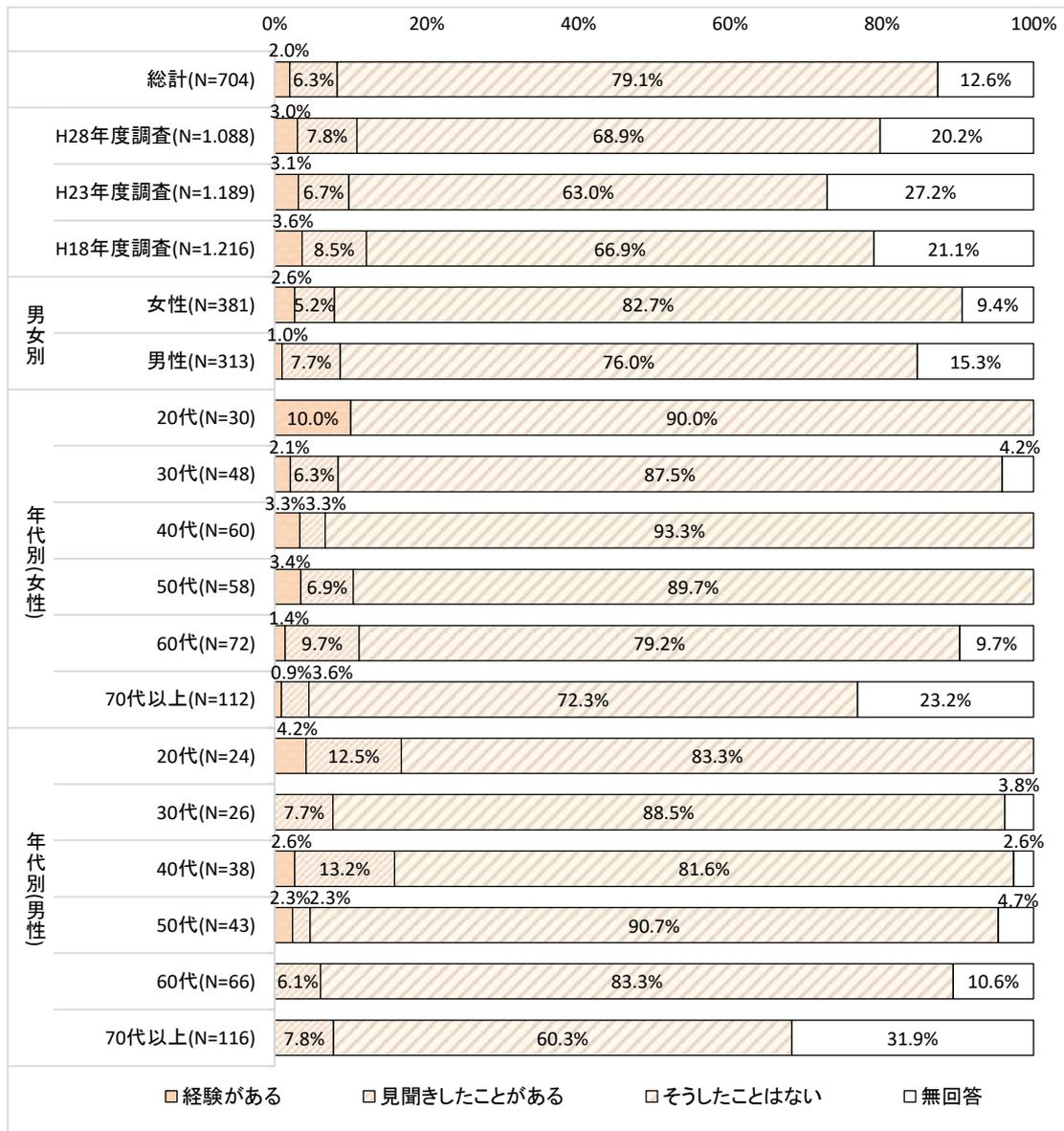
〈F. 性的なうわさ話を流された〉

総計では、「そうしたことはない」(79.1%)の割合が最も高く、次いで「見聞きしたことがある」(6.3%)、「経験がある」(2.0%)の順となっている。

男女別、年代別にみると、「経験がある」の割合が最も高いのは20代女性で、次いで20代男性、50代女性の順となっている。

平成28年度調査と比較すると、「経験がある」の割合が1.0ポイント、「見聞きしたことがある」の割合が1.5ポイント低くなっている。

図表 68 セクシュアル・ハラスメントの経験
〈F. 性的なうわさ話を流された〉



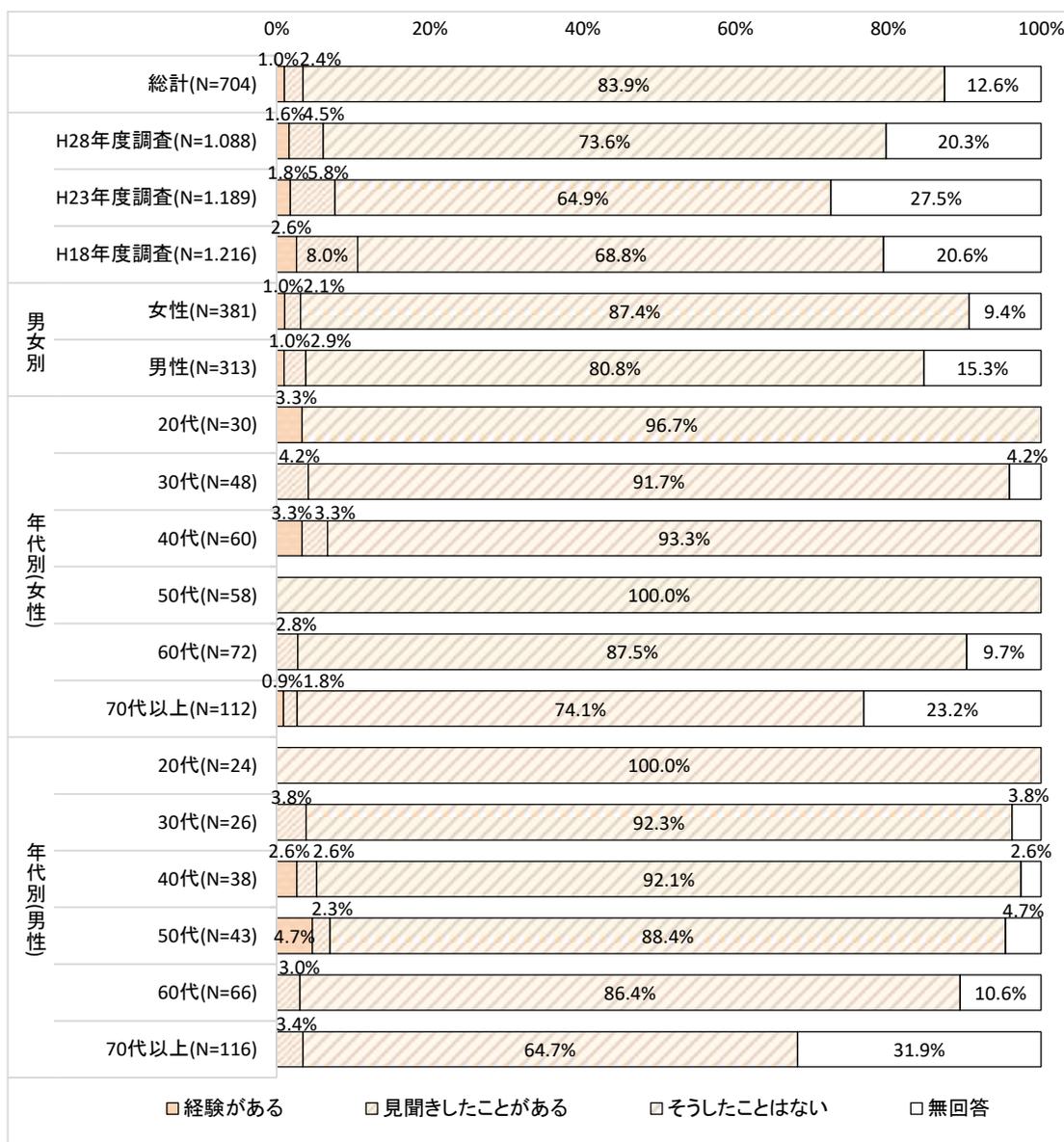
〈G. 裸の写真などが貼ってあったり見せられたりした〉

総計では、「そうしたことはない」(83.9%)の割合が最も高く、次いで「見聞きしたことがある」(2.4%)、「経験がある」(1.0%)の順となっている。

男女別にみると、「経験がある」の割合は、女性、男性ともに1.0%と同じ割合となっている。年代別にみると、「経験がある」の割合は、女性は20代と40代が最も高く、男性は50代が最も高くなっている。

平成28年度調査と比較すると、「経験がある」の割合が0.6ポイント、「見聞きしたことがある」の割合が2.1ポイント低くなっている。

図表 69 セクシュアル・ハラスメントの経験
〈G. 裸の写真などが貼ってあったり見せられたりした〉



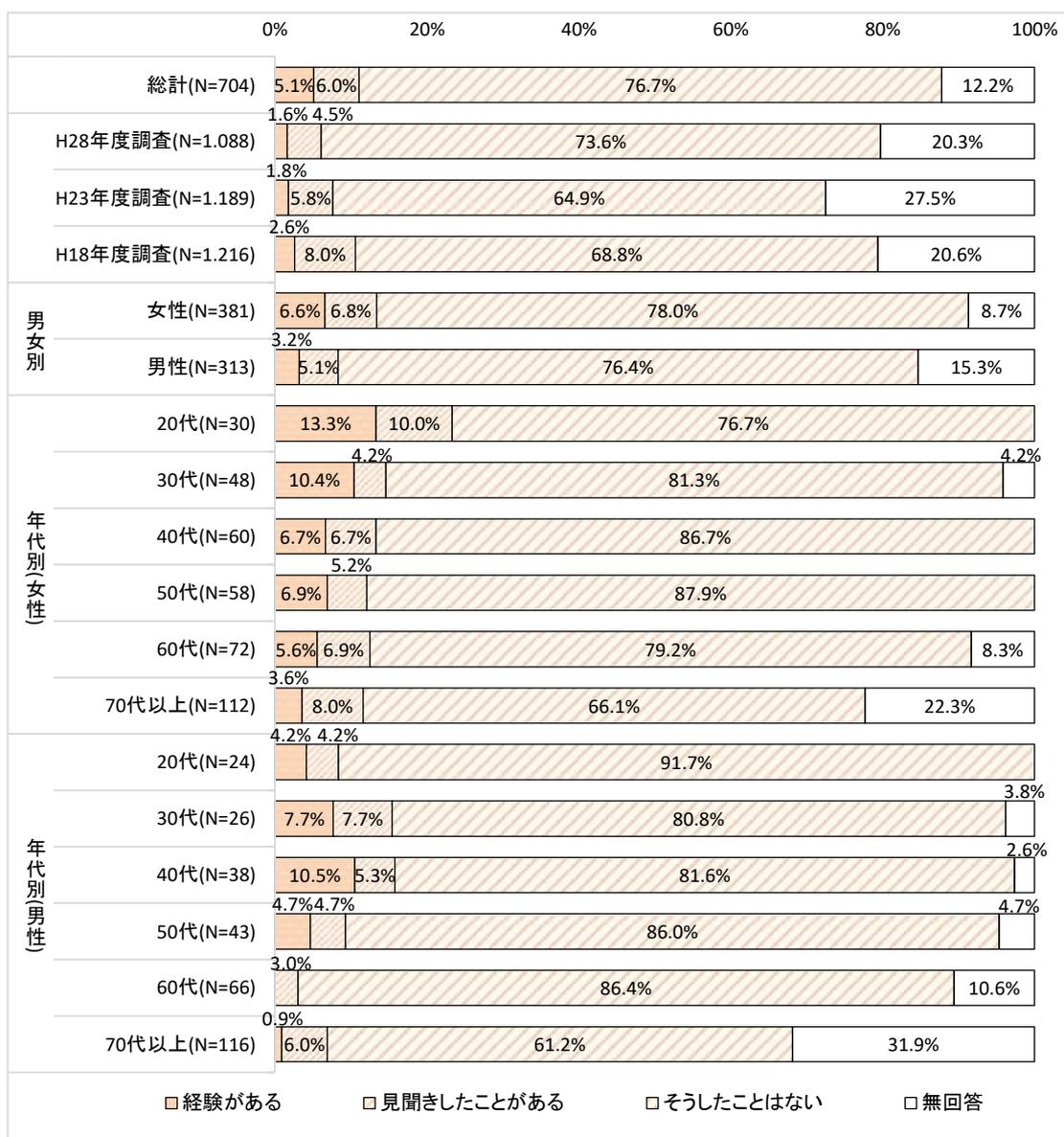
〈H. 不愉快な視線を送られた〉

総計では、「そうしたことはない」(76.7%)の割合が最も高く、次いで「見聞きしたことがある」(6.0%)、「経験がある」(5.1%)の順となっている。

男女別にみると、女性の「経験がある」の割合が、男性より3.4ポイント高くなっている。年代別にみると、「経験がある」の割合は、女性は20代、30代の順に高くなっており、男性は40代、30代の順に高くなっている。

平成28年度調査と比較すると、「経験がある」の割合が3.5ポイント、「見聞きしたことがある」の割合が1.5ポイント高くなっている。

図表 70 セクシュアル・ハラスメントの経験
〈H. 不愉快な視線を送られた〉

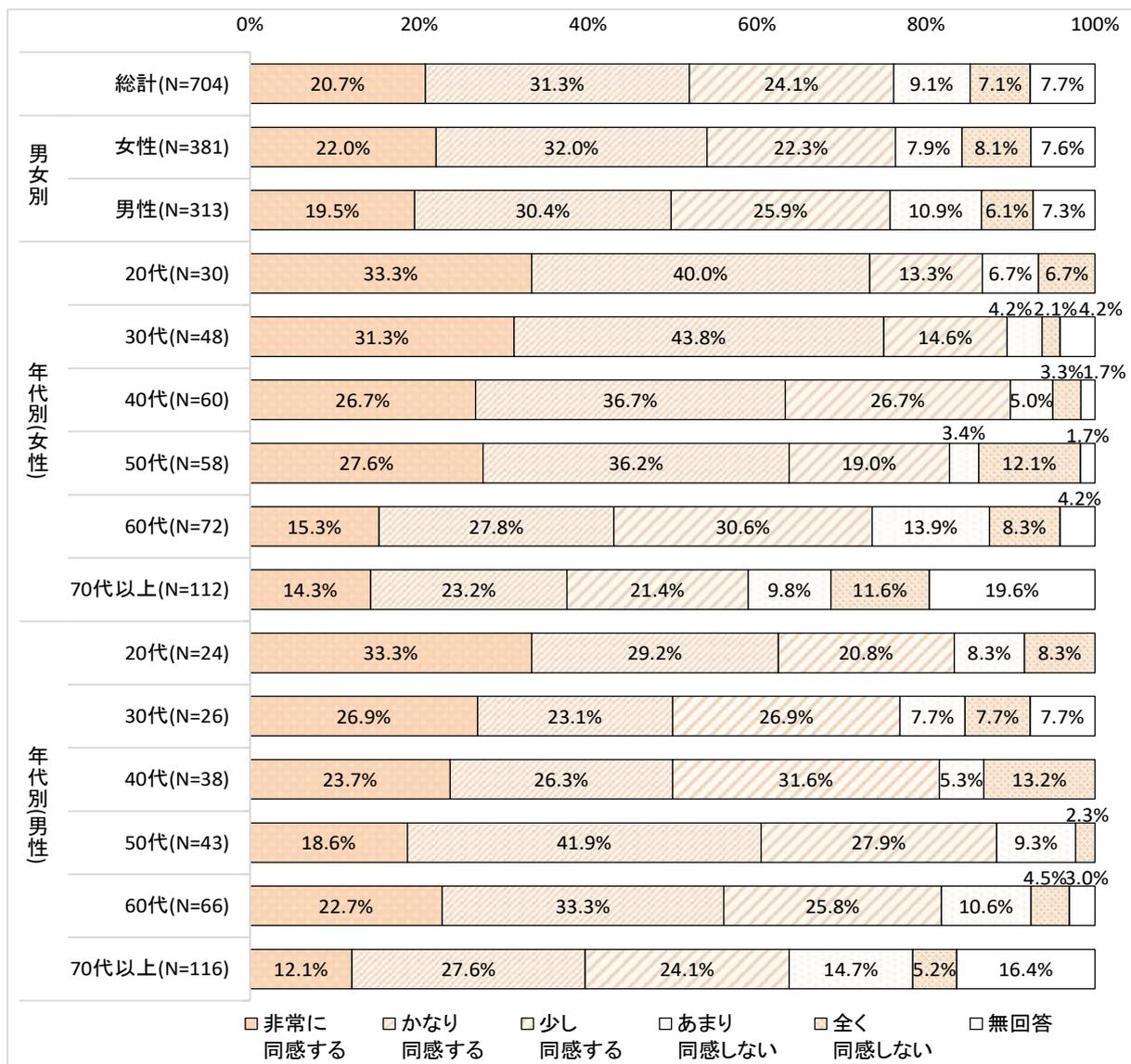


問 28 「性関係や、子どもをいつ、何人産むかあるいは産まないかなどについて、妊娠・出産の可能性のある女性側の意見が尊重されるべきである」という考え方がありますが、あなたはこの考え方をどう思いますか。(あてはまるものを1つ選択)

総計では、「かなり同感する」(31.3%)が最も高く、次いで「少し同感する」(24.1%)、「非常に同感する」(20.7%)の順となっている。

男女別で見ると、「非常に同感する」「かなり同感する」「少し同感する」と回答した割合は約76%と大きな差異はない。年齢別で見ると、20代女性の86.6%が「非常に同感する」「かなり同感する」「少し同感する」と回答したのに対し、70代以上女性では58.9%と、27.7ポイントの差がある。

図表 71 妊娠・出産についての考え方



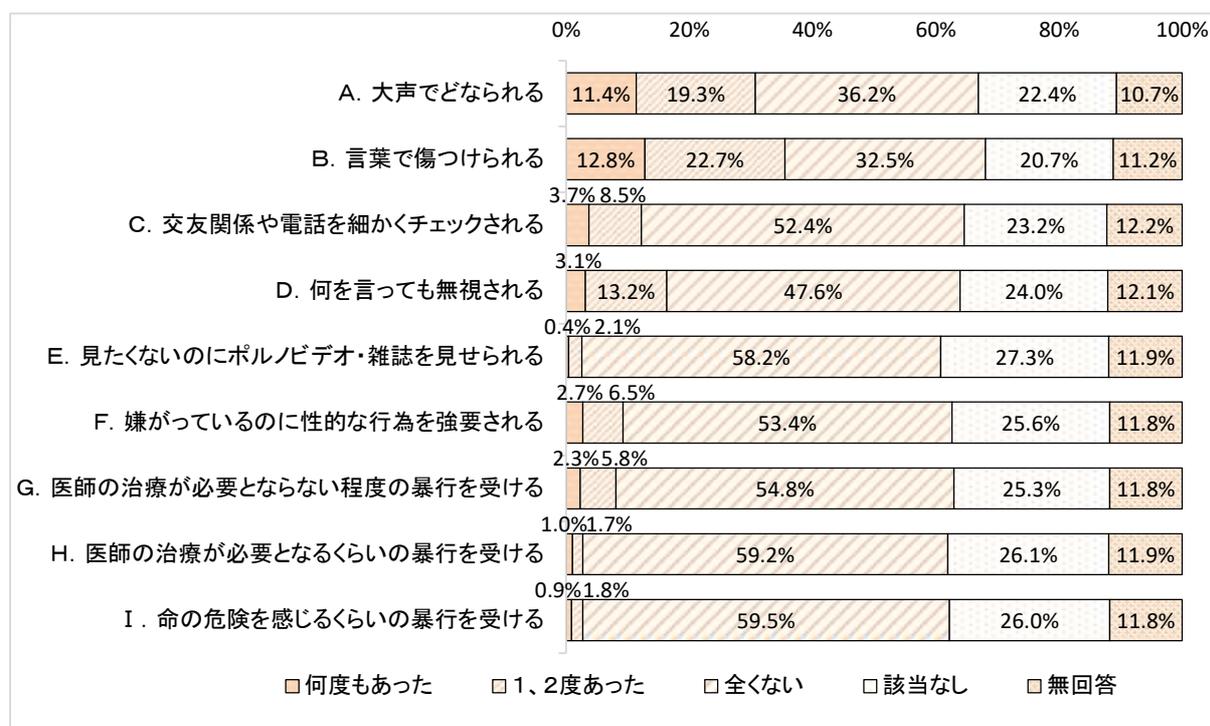
(2) ドメスティック・バイオレンス (DV) について

問 29 あなたはこれまでに、あなたの夫・妻（事実婚や別居中、離別・死別を含む）から、あるいは10歳代から20歳代にああなたの恋人や元恋人となどの交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。（A～Iのそれぞれの項目について、あてはまる番号を1つ選択）

「何度もあった」と回答した割合は、「言葉で傷つけられる」（12.8%）が最も高く、次いで「大声でどなられる」（11.4%）、「交友関係や電話を細かくチェックされる」（3.7%）となっている。

身体的な暴力について、「医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける」に「何度もあった」と回答した人が1.0%、「命の危険を感じるくらいの暴行を受ける」に「何度もあった」と回答した人が0.9%となっている。

図表 72 ドメスティック・バイオレンス (DV) の経験<全体>

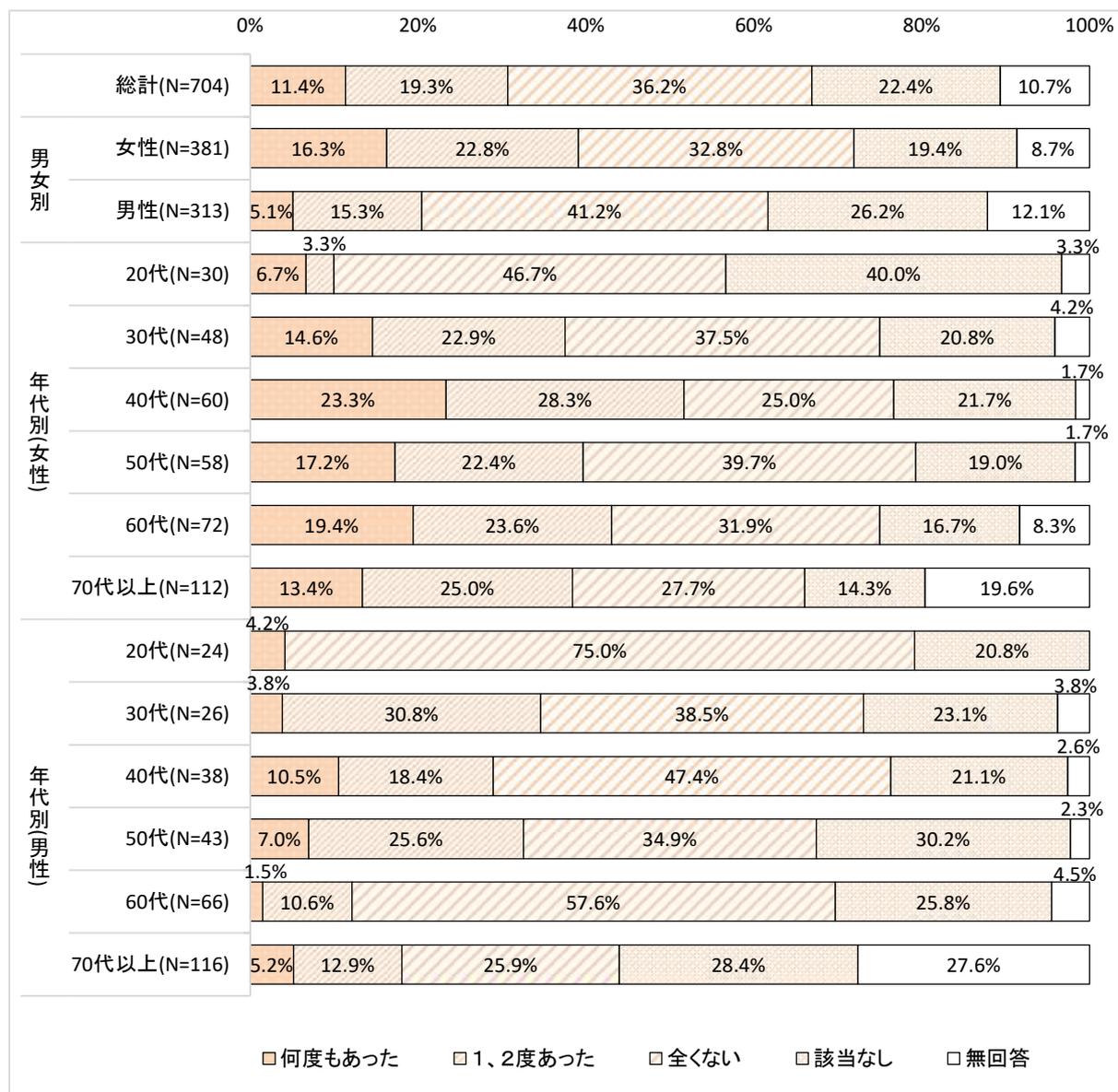


〈A. 大声でどなられる〉

総計では、「該当なし」を除くと、「全くない」(36.2%)が最も高く、次いで「1、2度あった」(19.3%)、「何度もあった」(11.4%)の順となっている。

男女別で見ると、「何度もあった」では11.2ポイント、「1、2度あった」では7.5ポイント、女性の割合が男性より高くなっている。年齢別で見ると、「何度もあった」の割合は、男女ともに40代が最も高くなっている。

図表 73 ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験〈A. 大声でどなられる〉

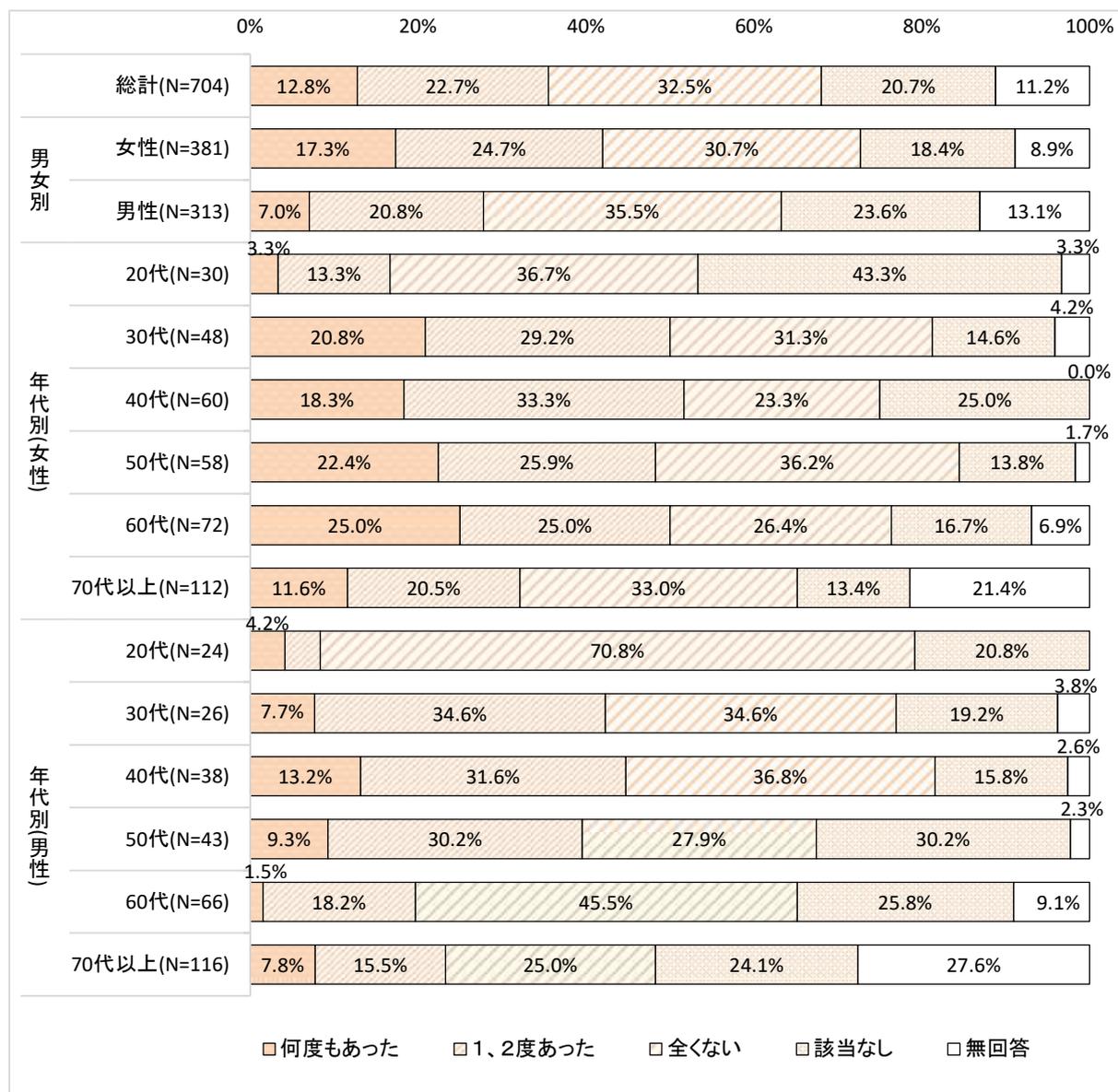


〈B. 言葉で傷つけられる〉

総計では、「該当なし」を除くと、「全くない」(32.5%)が最も高く、次いで「1、2度あった」(22.7%)、「何度もあった」(12.8%)の順となっている。

男女別で見ると、「何度もあった」では10.3ポイント、「1、2度あった」では3.9ポイント、女性の割合が男性より高くなっている。年齢別で見ると、「何度もあった」では女性は60代が最も高く、男性は40代が最も高くなっている。

図表 74 ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験〈B. 言葉で傷つけられる〉

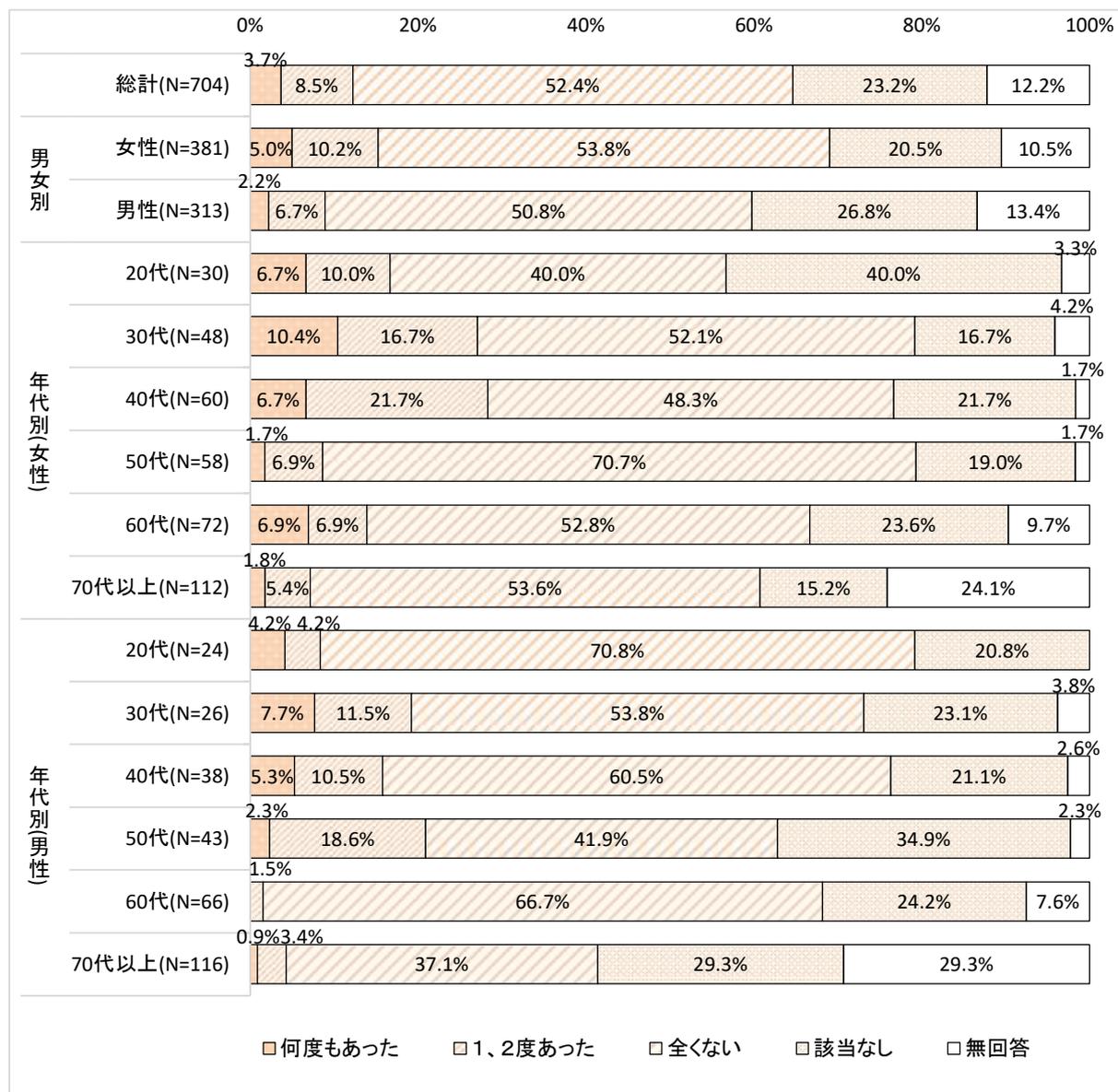


〈C. 交友関係や電話を細かくチェックされる〉

総計では、「該当なし」を除くと、「全くない」(52.4%)が最も高く、次いで「1、2度あった」(8.5%)、「何度もあった」(3.7%)の順となっている。

男女別でみると、「何度もあった」では2.8ポイント、「1、2度あった」では3.5ポイント、女性の割合が男性より高くなっている。年齢別でみると、「何度もあった」の割合は、男女ともに30代が最も高くなっている。

図表 75 ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験
〈C. 交友関係や電話を細かくチェックされる〉

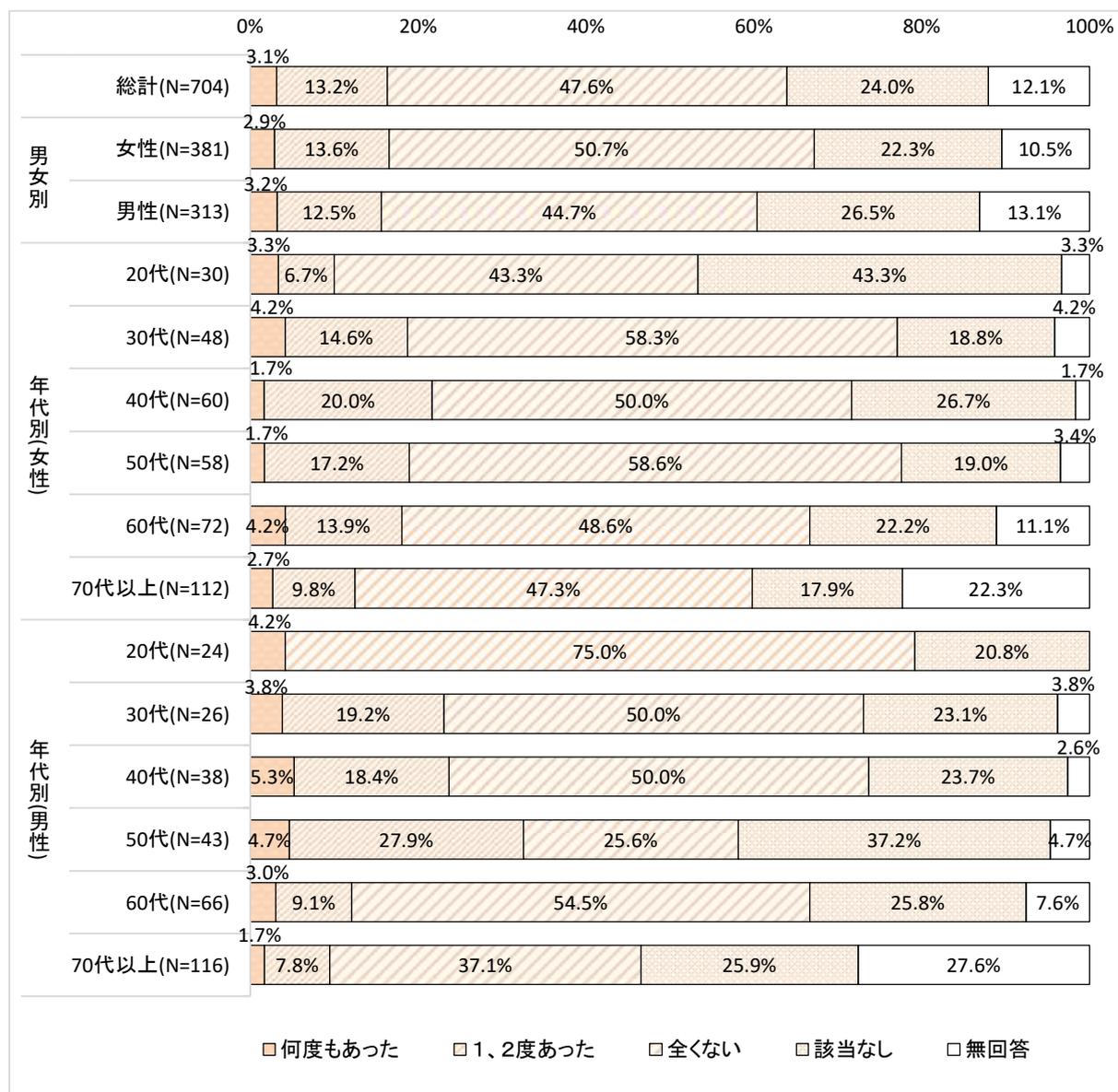


〈D. 何を言っても無視される〉

総計では、「該当なし」を除くと、「全くない」(47.6%)が最も高く、次いで「1、2度あった」(13.2%)、「何度もあった」(3.1%)の順となっている。

男女別で見ると、「何度もあった」、「1、2度あった」の割合で男女に大きな差異は見られない。

図表 76 ドメスティック・バイオレンス (DV) の経験〈D. 何を言っても無視される〉

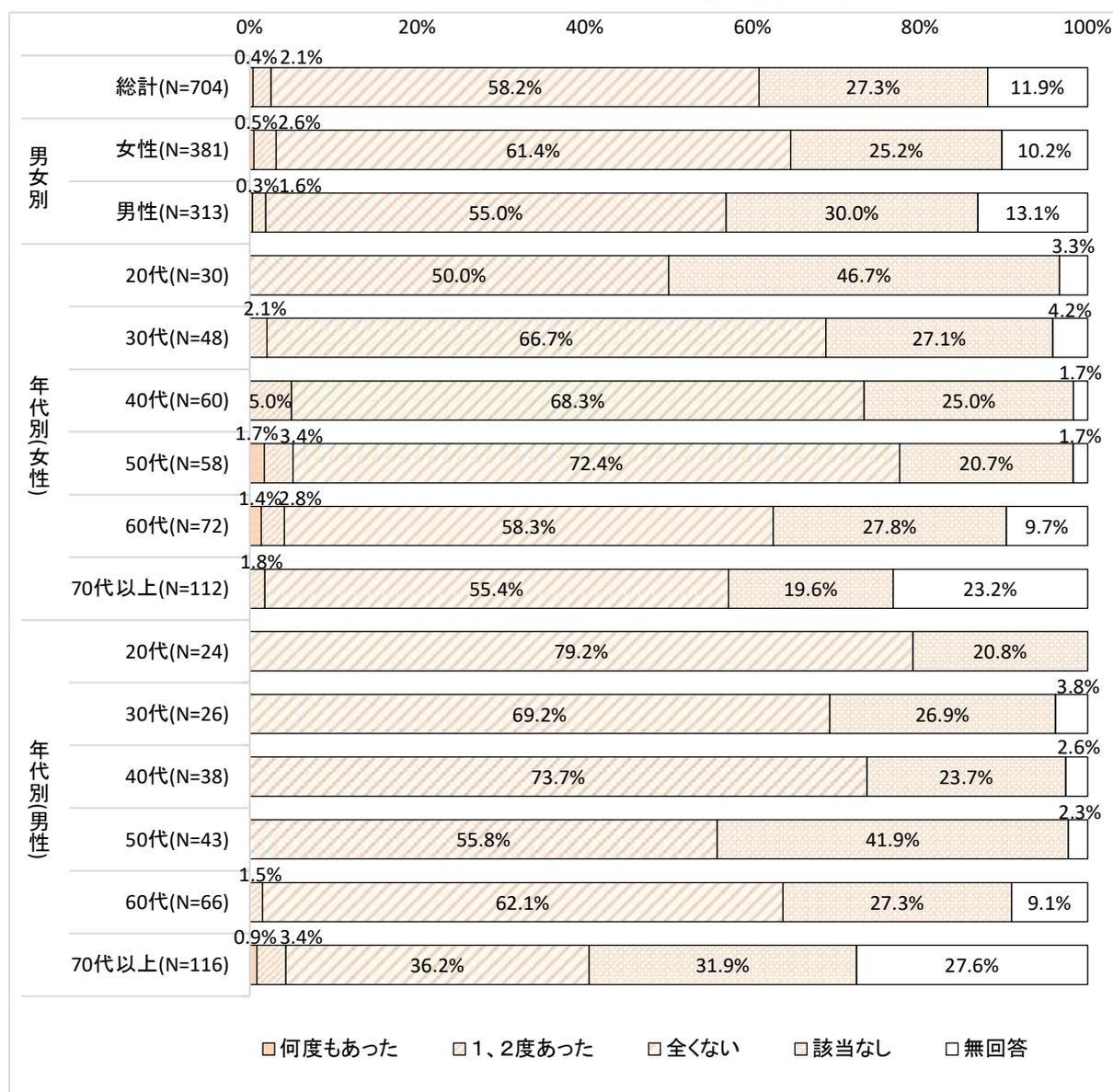


〈E. 見たくないのにポルノビデオ・雑誌を見せられる〉

総計では、「全くない」(58.2%)が最も高く、次いで「1、2度あった」(2.1%)、「何
度もあった」(0.4%)の順となっている。

男女別で見ると、「何度もあった」、「1、2度あった」の割合で男女に大きな差異は見
られない。

図表 77 ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験
〈E. 見たくないのにポルノビデオ・雑誌を見せられる〉



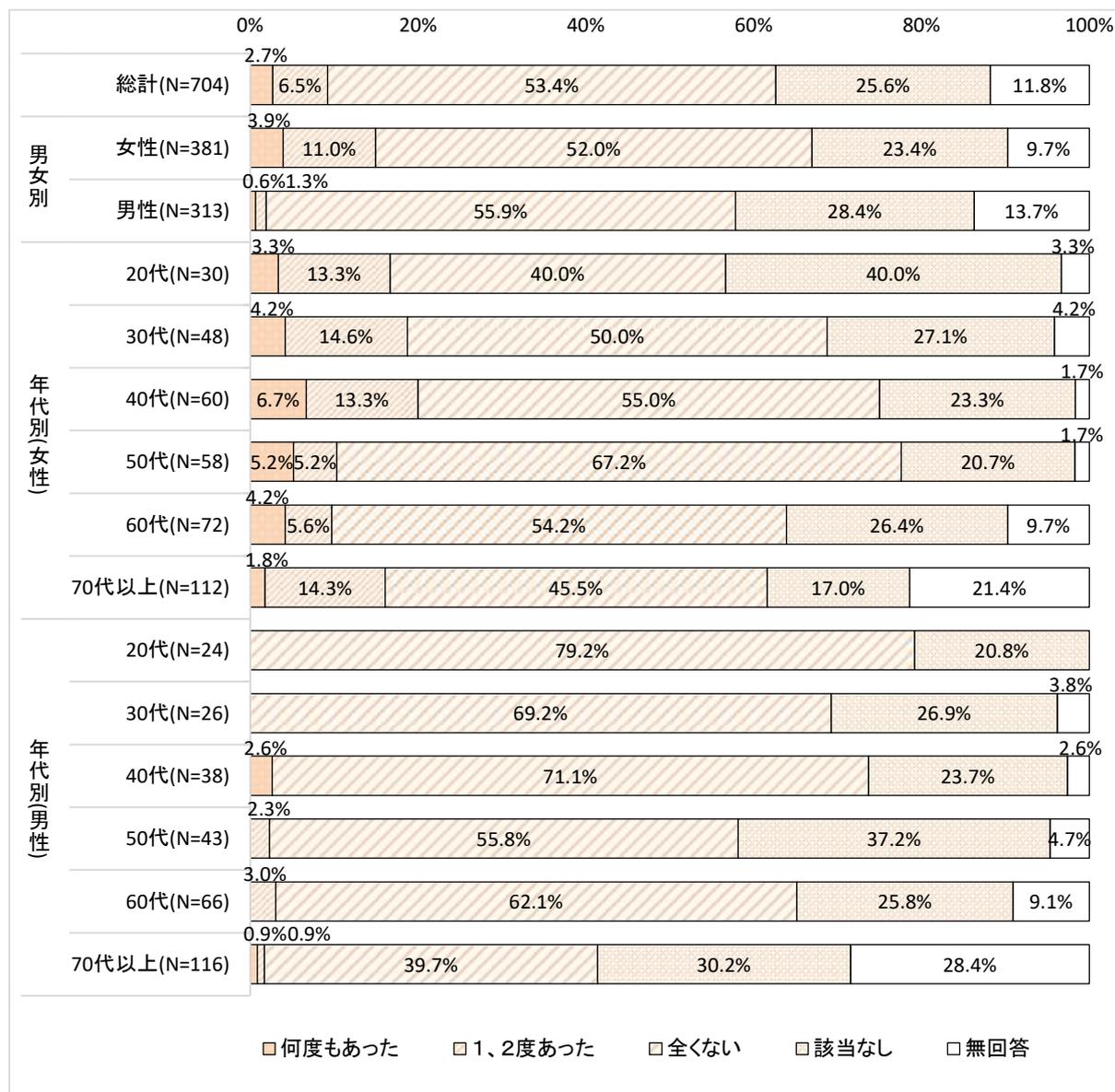
〈F. 嫌がっているのに性的な行為を強要される〉

総計では、「全くない」(53.4%)が最も高く、次いで「1、2度あった」(6.5%)、「何
度もあった」(2.7%)の順となっている。

男女別で見ると、「何度もあった」では3.3ポイント、「1、2度あった」では9.7ポイ
ント、女性の割合が男性より高くなっている。

年齢別で見ると、「何度もあった」の割合は、男女ともに40代が最も高くなっている。

図表 78 ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験
〈F. 嫌がっているのに性的な行為を強要される〉



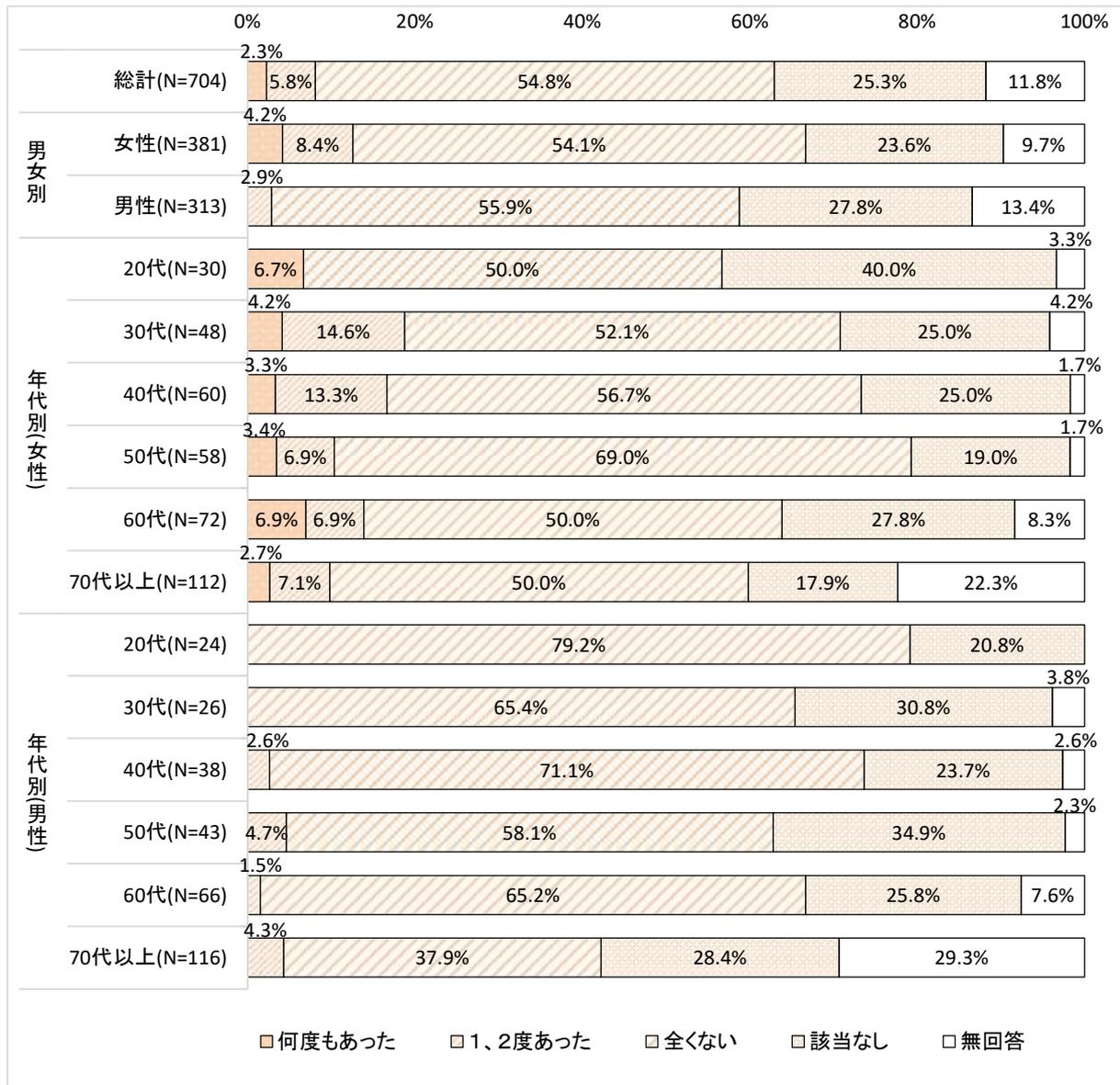
〈G. 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける〉

総計では、「全くない」(54.8%)が最も高く、次いで「1、2度あった」(5.8%)、「何
度もあった」(2.3%)の順となっている。

男女別でみると、「何度もあった」では4.2ポイント、「1、2度あった」では5.5ポイ
ント、女性の割合が男性より高くなっている。

年齢別でみると、「何度もあった」の割合は、60代女性、20代女性の順で高くなっ
ている。

図表 79 ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験
〈G. 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける〉



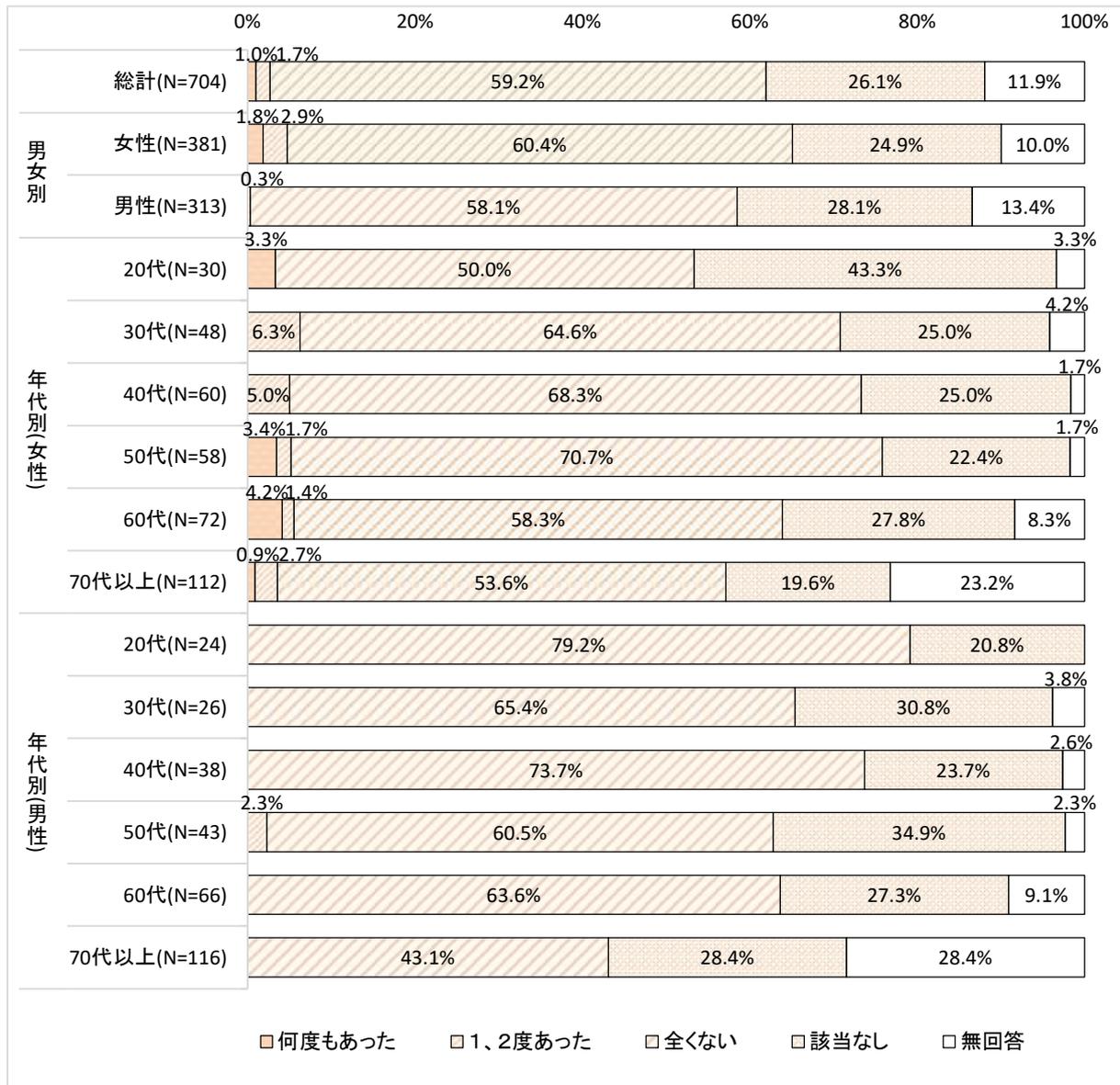
〈H. 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける〉

総計では、「全くない」(59.2%)が最も高く、次いで「1、2度あった」(1.7%)、「何
度もあった」(1.0%)の順となっている。

男女別で見ると、「何度もあった」では1.8ポイント、「1、2度あった」では2.6ポイ
ント、女性の割合が男性より高くなっている。

年齢別で見ると、「何度もあった」の割合は、60代女性、50代女性の順で高くなっ
ている。

図表 80 ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験
〈H. 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける〉



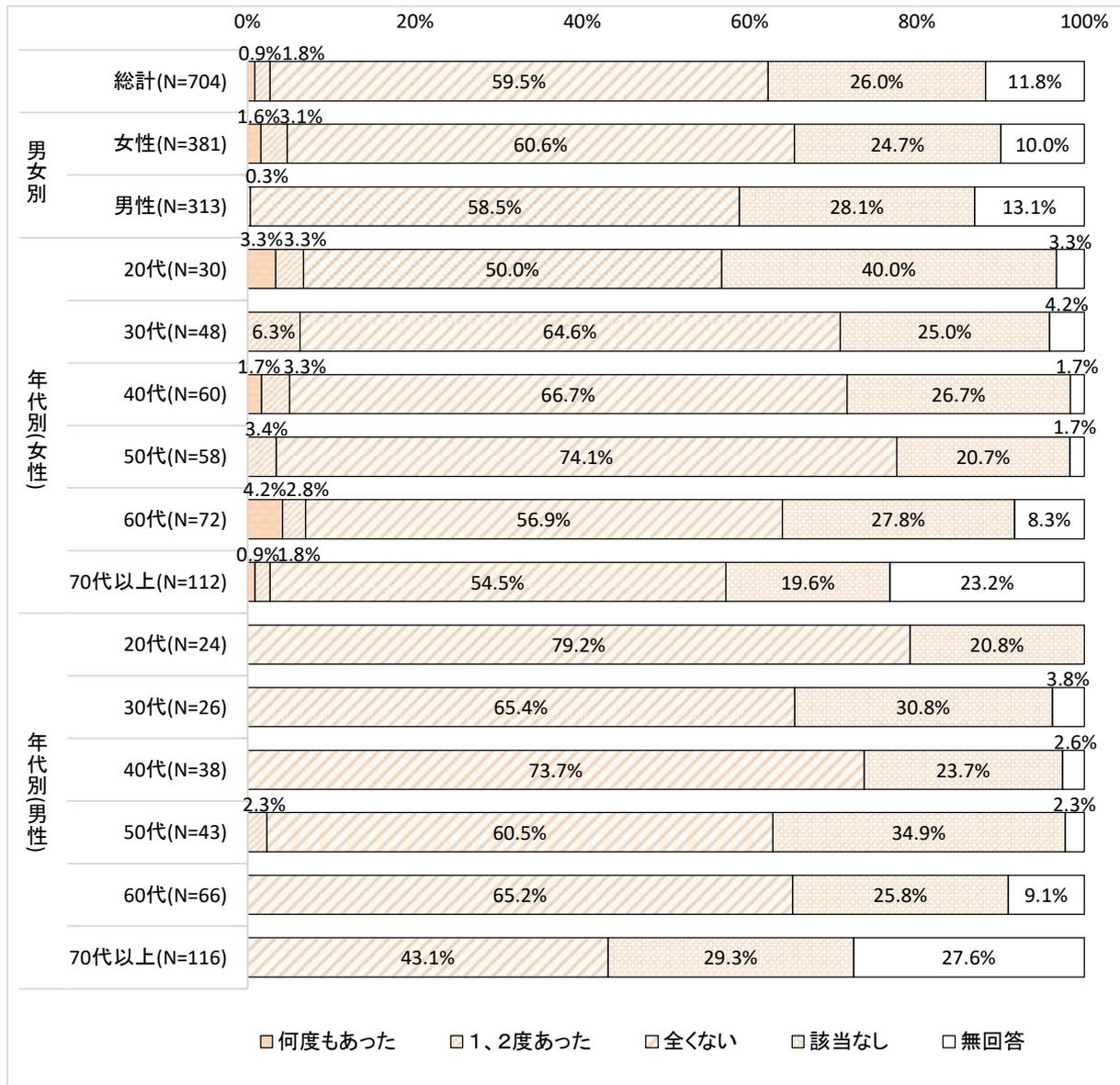
〈I. 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける〉

総計では、「全くない」(59.5%)が最も高く、次いで「1、2度あった」(1.8%)、「何
度もあった」(0.9%)の順となっている。

男女別でみると、「何度もあった」では1.6ポイント、「1、2度あった」では2.8ポイ
ント、女性の割合が男性より高くなっている。

年齢別でみると、「何度もあった」の割合は、60代女性、20代女性の順で高くなっ
ている。

図表 81 ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験
＜I. 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける＞



(3) 身体的暴力被害を受けたときの相談先

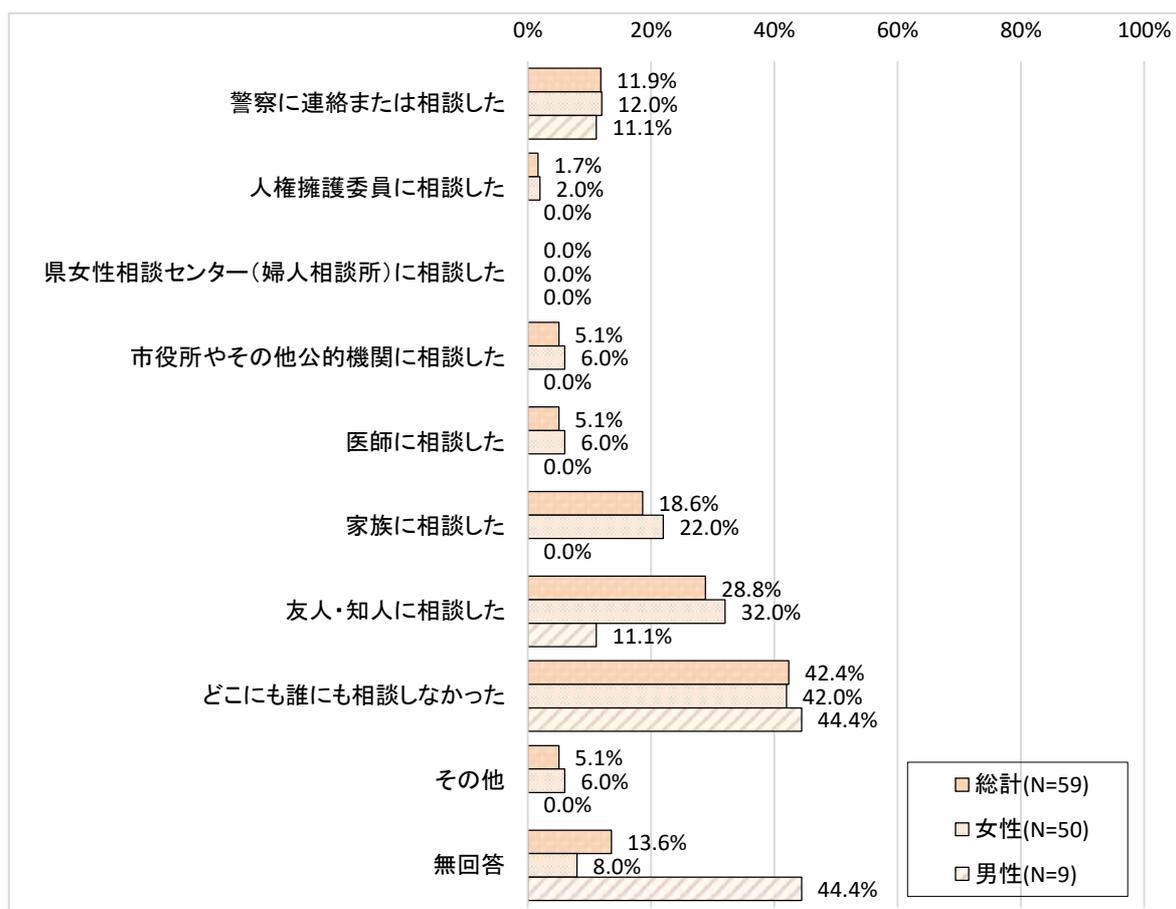
※配偶者や交際相手からの暴行の被害にあった方《問 29 の G、H、I のいずれかで 1、2 を選んだ方》におたずねします

問 30 そのようなとき、あなたはどうしましたか。(あてはまるものをいくつでも選択)

総計では、「どこにも誰にも相談しなかった」(42.4%)が最も高く、次いで「友人・知人に相談した」(28.8%)、「家族に相談した」(18.6%)となっている。

男女別にみると、女性の「家族に相談した」「友人・知人に相談した」の割合が、男性より高くなっている。

図表 82 身体的暴力被害を受けたときの相談先



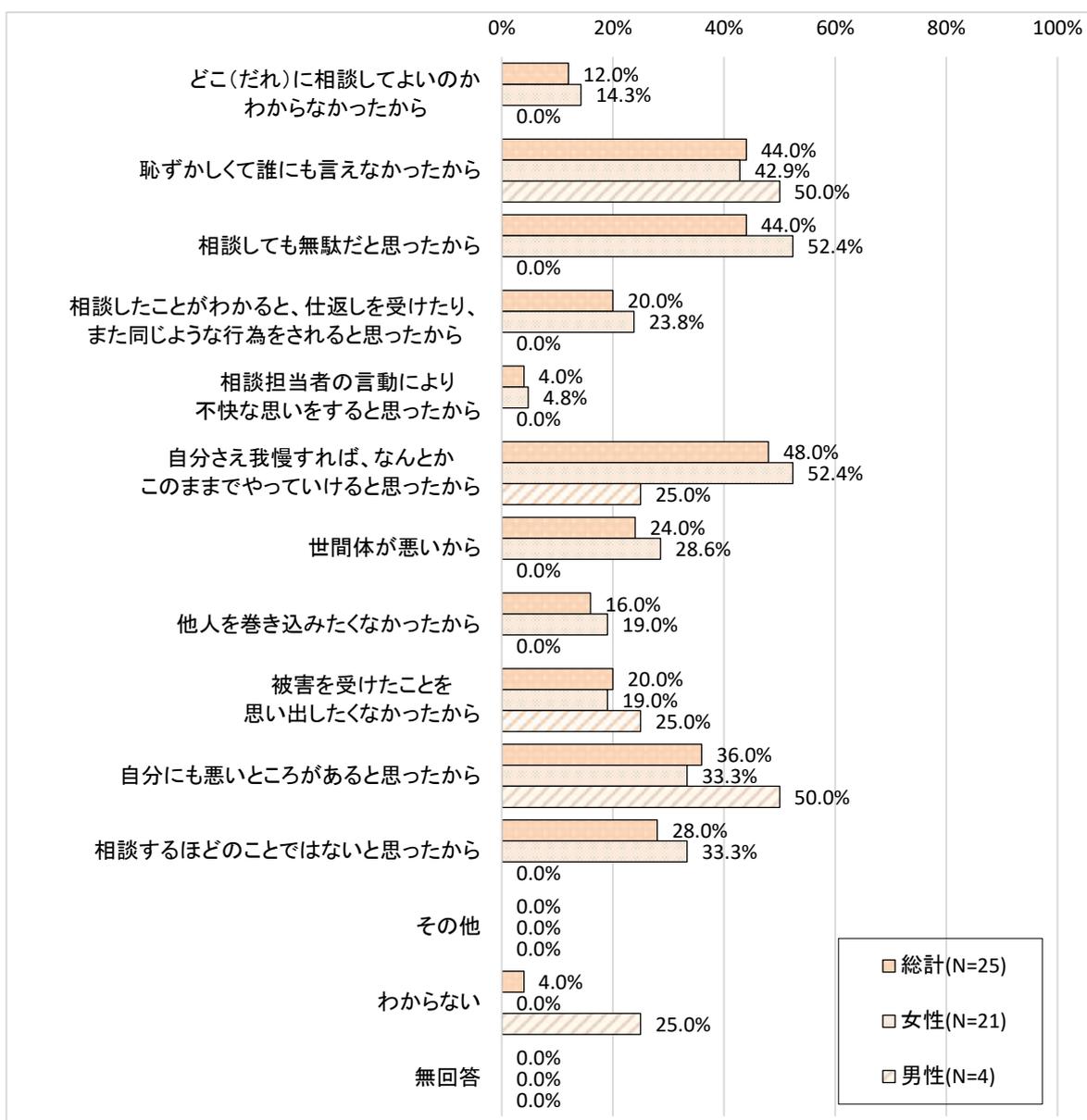
(4) 身体的暴力被害を受けたときに相談しなかった理由

※どこにも誰にも相談しなかった《問30で8を選んだ方》におたずねします

問31 どこにも誰にも相談しなかった（できなかった）のは、どのような理由からですか。（あてはまるものをいくつでも選択）

総計では、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままでやっていけると思ったから」（48.0%）が最も高く、次いで「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」（44.0%）、「相談しても無駄だと思ったから」（44.0%）となっている。

図表 83 身体的暴力被害を受けたときに相談しなかった理由



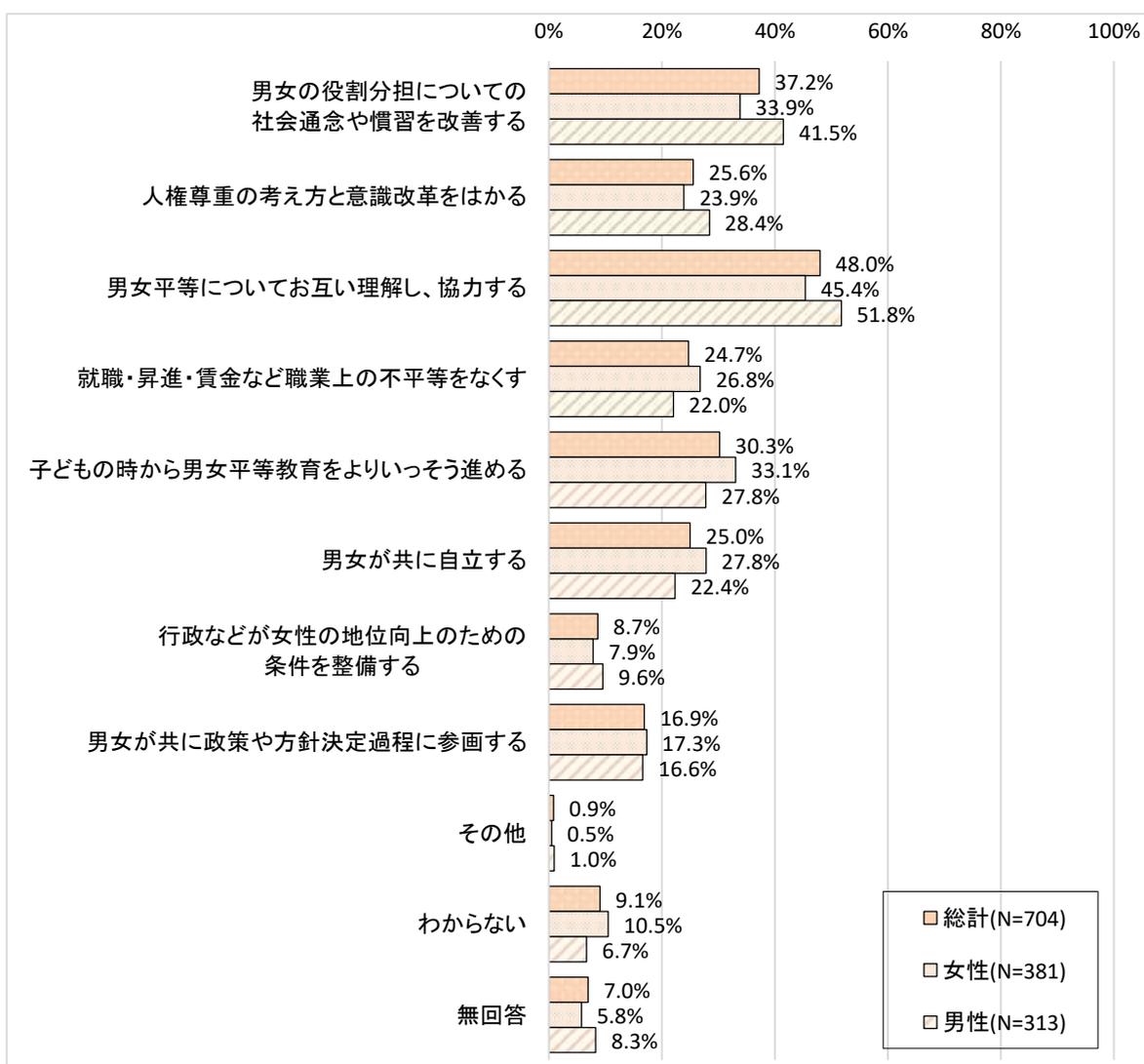
(5) 男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと

問 32 男女共同参画社会の実現に向けて、今後どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものを3つ以内で選択)

総計では、「男女平等についてお互い理解し、協力する」(48.0%)が最も高く、次いで「男女の役割分担についての社会通念や慣習を改善する」(37.2%)、「子どもの時から男女平等教育をよりいっそう進める」(30.3%)となっている。

「子どもの時から男女平等教育をよりいっそう進める」、「男女が共に自立する」、「就職・昇進・賃金など職業上の不平等をなくす」については、女性の方が男性より回答割合が高くなっている。

図表 84 男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと



IV 參考資料

IV.参考資料

1. その他の意見

問3 一般的に、女性が仕事をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(あてはまるものを1つだけ選択)

- 仕事をしたい人は続け、やめたい人はやめれば良い。個人の選択を優先すべき。(女性・20代)
- 男女関係なく自身の環境や考えに応じて仕事をすればよい。(女性・20代)
- この選択肢があること自体がおかしいと思う。自分の好きにすればよいと思う。(男性・20代)
- 個人の価値観による。ただ、仕事を持つ場合も育児はあるはずなので、軽減する必要がある。(男性・20代)
- 家庭環境、職場環境により人それぞれ(女性・30代)
- 個人の自由(女性・30代)
- 女性の意見を尊重する。(男性・30代)
- すべてあてはまる。(女性・40代)
- 個人の自由なので、自分で選ぶことが重要(女性・40代)
- 人それぞれ(女性・40代)
- 男女関係なく自由に選択すればいいと思う。(女性・40代)
- 女性の意思に任せる。(男性・40代)
- 本人とパートナーで話し合って決める。(男性・40代)
- 本人に働く意思があればいつでも働いていいと思います。(男性・40代)
- 本人次第(男性・40代)
- 家庭環境、夫婦の価値観による。(女性・50代)
- 仕事を続けたいなら続けたらいい、やめたいならやめたらいい。(女性・50代)
- 女性が仕事をするために妥協は必要(女性・50代)
- 人それぞれなので自分の考えで選択すればよい。(女性・50代)
- 良い悪いではなくその人の意思の問題で自身が決めればよいと思う。(女性・50代)
- 仕事する、しないは自由。しないといけない現状がある。(男性・50代)
- どちらでもいいと思う。女性は男性と異なるところはあるのだから、個々で働くべきか、そうではないのか考えて判断、行動すれば良いと思う。自分の妻が働きたいと言ったら全く反対する余地は無いと思っています。(男性・50代)
- ケースバイケース(男性・50代)
- 相手とその時の状況次第(女性・60代)
- いろいろな事情があると思う。(男性・60代)

- 家庭の収入により事情が変わると思う。(男性・60代)
- 家庭の状況による。(女性・70代以上)
- 結婚、子どもが生まれても仕事を続けられる環境、本人の意思で決めたらいいと思う。(女性・70代以上)
- 夫婦の考え方(女性・70代以上)
- 本人次第(女性・70代以上)
- 個人の事情による。(性別無回答・70代)

問7 性的少数者の方々に対する偏見や差別をなくし、性的少数者の方々が生かしやすくなるために、どのような対策が必要だと思いますか。(あてはまるものを2つだけ選択)

- 教育の現場で早めに学習していく。(女性・20代)
- 行政がすべての人が暮らしやすくする制度を確立するべき。同性婚をできるようにする。(女性・20代)
- L G B T Qの人との接する機会が少ないので、そのものの周知と教育、自他の容認、相談窓口を設ける必要がある。(男性・20代)
- 知名度のある人などをモデルケースにして生き方を発信する。(男性・30代)
- 特にそのままでもかまわない。(男性・30代)
- 小中高生に対し性的少数者の存在を認識してもらいどうすれば偏見がなく共生していけるかを大人と一緒に考える。(男性・40代)
- 幼少期からの学習(男性・40代)
- そういう方が実際にいることを知る。(女性・50代)
- 身分を明かすために必ず性別を聞かれるが、必要なのか?(女性・50代)
- 性的少数者の方々に対してだけでなく、自分と違うすべての人に対して興味本位の過干渉をしないよう市民レベルで努める。(女性・50代)
- 悩んでいる人に対する相談や支援は必要だが、余り周囲が関心を寄せすぎるとも良くないと思う。関係のない周囲のものはそっとしてあげることも重要な心遣いであることを忘れてはいけない。相談窓口の充実と十分な支援及び関係のない者に情報が漏れて拡散してしまわない配慮や心遣いが重要と思われる。(男性・60代)

問9 あなたは、今後、男女が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものを3つ以内で選択)

- 結婚も試験制(有料)にする。(男性・20代)
- 自分の人生を大切に、相手を尊重し自由に楽しく参画したい人が参画する。(女性・40代)
- 家族全員が仲良く家族で助け合い生活すること。(女性・50代)
- 女性の方が細かいことができる。力仕事など代わることができるのであれば。(男性・50代)

- 話し合うと言うより、個々の心遣いや、思いやり、家族に対する愛情等が充実していれば自然と家庭内の誰もが気づいたことを積極的に実施できる環境が醸成できると思う。もう少しそう言った子育てを充実させてはいかがなものかと思う。(男性・60代)
- 家庭もそれぞれ個性がある。相手を思いやる気持ちがあれば自然と分担できるのではないか。(男性・60代)
- 昔は女性は大切にされる文化があった。それを壊したのはGHQだと思う。(性別無回答・70代以上)

問 12 あなたは、育児に対する社会の支援について、どのようにお考えですか。(あてはまるものを1つ選択)

- 育児ができないなら子をつくるべきではない。(男性・20代)
- 職場などから孤立しがちなので、支援や息抜きが出来るコミュニティに属す支援があると良い。(男性・20代)
- 2番か3番(女性・40代)
- 10代後半から育児の知識・技術を学ぶ機会が増えることを願う。(女性・40代)
- 臨機応変に。(女性・40代)
- 所得によると思う。(女性・50代)
- 緊縮財政を止め豊かな国づくりをする。(性別無回答・70代以上)

問 13 あなたは、介護に対する社会の支援についてどのようにお考えですか。(あてはまるものを1つ選択)

- 安楽死の合法化(男性・20代)
- 介護の程度による。(女性・40代)
- 臨機応変に(女性・40代)
- 自分のことはどうでもいい。(男性・60代)
- 準備するが困ったら支援してほしい。(女性・70代以上)
- 食品添加物、農薬、有害物を止め健全な食品と環境で健康で暮らせれば介護は減ると思う。(性別無回答・70代以上)

問 14 もし、あなたに介護が必要になったら、主に誰に介護をしてもらいたいですか。(あてはまるものを1つ選択)

- 安楽死(男性・20代)
- 理想は2番だが、現実的に6、7番(女性・40代)
- 臨機応変に(女性・40代)
- 公的在宅介護か施設入所(女性・50代)
- 介護の度合い等、状況による!(男性・60代)
- 介護されたくない。(男性・60代)
- 家族全員(男性・70代以上)

- ピンピンコロリを目指す。（性別無回答・70代以上）

問 15 あなたが現在仕事をしているのは、どのような理由からでしょうか。（あてはまるものをいくつでも選択）

- 死ぬまでの時間を楽しむため（女性・40代）
- 勤労納税は国民の義務（女性・50代）
- 夫が収入なく扶養のため（女性・50代）
- ボケ防止（女性・60代）
- 健康のため（女性・60代）
- 頼まれたので（女性・70代以上）

問 17 それは具体的にどのようなことですか。（あてはまるものをいくつでも選択）

- 更衣室などの有無により、物理的に勤務地が限定されてしまっている（良くも悪くも）。（男性・20代）
- 雑用は女性がする。（女性・30代）
- お茶出しなど（男性・40代）

問 18 あなたが現在仕事をしていないのは、どのような理由からでしょうか。（あてはまるものをいくつでも選択）

- 家事と仕事の両立が難しい。（女性・40代）
- 持病があるから（女性・40代）
- 育児に専念したいから（女性・50代）
- 重度障がい者のため働けない。（女性・50代）
- 持病があるため（女性・60代）
- 自宅敷地の管理でいっぱい（女性・60代）
- 体が不自由だから。（女性・60代）
- 両方の実家の手伝い（女性・60代）
- 病気のため（男性・60代）
- 国家公務員を定年しその後再任用で65才まで働いた。その後も働きたかったが、働く環境が整備されておらず、現在に至る。国の施策は、一般社会は70才まで働けるよう声を大にしている反面、公務員の仕事は60歳定年65才まで再任用でそれ以降は働けないのが現状である。仕事内容については超熟練者なのに歯がゆいばかりである。（男性・60代）
- 孫の世話にやりがいを感じている。（女性・70代以上）
- 定年退職（女性・70代以上）
- 障がいのため（男性・70代以上）

問 19 あなたは、女性が仕事をしやすい環境を整えるためには、どのようなことが必要だとお考えですか。(特に必要と思われるものを3つ以内で選択)

- 女性がリーダーに憧れたり、周囲も女性リーダーが一般的だと思えるようにする。(男性・20代)
- 女性とか男性とか、年下とか年上などの差別意識をなくすこと。(女性・40代)
- 女性も、その周りの人も、互いに自分の価値観を相手に押しつけるような言動を慎むこと。絶対になくしてはいけないのは日頃からの相手に対する思いやり・感謝・尊重する気持ち。立場が違って互いにそういう思いをもってふるまう雰囲気が、女性だけでなく全員が働きやすい職場をつくと思う。(女性・40代)
- 公共施設での学習環境(ICT含む)の充実(女性・50代)
- 全部。(女性・70代以上)
- なぜ女性を社会進出させる必要があるのか分からない。家事育児が女性の天分である。(性別無回答・70代以上)

問 20 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。(あてはまるものをいくつでも選択)

- リモートの充実化や、時間的拘束を減らす保育中の働きやすさという意味での柔軟性が不十分(男性・20代)
- リーダーになることがいいと思わない。(女性・40代)
- 男性のプライド(女性・60代)
- 日本は、女性の起用が諸外国から非常に遅れている。(男性・60代)
- 女性は考えることが男性より未熟で心がせまい人が多いと思う。(女性・70代以上)
- 能力がある人がリーダーになるので男も女も関係ないと思う。(性別無回答・70代以上)

問 21 男性が、仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、あなたが受け入れられるものはどれですか。(あてはまるものをいくつでも選択)

- 勤労感謝の日のように、育児介護デイを全国的に設ける。(女性・40代)
- 本人がやりたいようにやればいい。(女性・40代)
- 父子家庭を母子家庭と同様に守る。(女性・60代)
- 労働力が衰えたため、思うようにいかない。(男性・70代以上)

問 22 あなたは、子どもに(いらっしやらない場合は一般的な意見として)どの程度の学校教育を受けさせたいと思いますか。(男の子の場合と女の子の場合のそれぞれについてあてはまるものを1つ選択)

〈男の子にどの程度の学校教育を受けさせたいですか。〉

- 高校以上で本人の希望する学校教育（女性・20代）
- 子に任せる（女性・20代）
- 高校卒業後は本人の意思を尊重（男性・20代）
- 夢次第（男性・20代）
- その子次第（女性・30代）
- 高校卒業後の進路は自分で決められる子に育てたい（女性・40代）
- 本人の希望による（女性・40代）
- 本人次第（女性・40代）
- 子どもの希望に合わせる（男性・40代）
- 本人次第（男性・40代）
- 本人の意思次第（女性・50代）
- 本人の希望（女性・50代）
- 本人次第（女性・50代）
- 子供の意思や目標に相応なレベル（男性・50代）
- 当人の希望による（男性・50代）
- 個人による（女性・70代以上）

〈女の子にどの程度の学校教育を受けさせたいですか。〉

- 高校以上で本人の希望する学校教育（女性・20代）
- 高校卒業後は本人の意思を尊重（男性・20代）
- 夢次第（男性・20代）
- その子次第（女性・30代）
- 高校卒業後の進路は自分で決められる子に育てたい（女性・40代）
- 本人の希望する教育（女性・40代）
- 本人次第（女性・40代）
- 子どもの希望に合わせる（男性・40代）
- 本人次第（男性・40代）
- 本人の意思次第（女性・50代）
- 本人の希望（女性・50代）
- 子供の意思や目標に相応なレベル（男性・50代）
- 当人の希望による（男性・50代）
- 個人による（女性・70代以上）

問 23 男女共同参画社会を実現するために、学校教育の場でどのようなことが大切だと思いますか。（あてはまるものを3つ以内で選択）

- 互いの性の理解と、接する機会を増やす（男性・20代）

- 一人一人の個性を大切にすること（女性・40代）
- 家庭での教育の在り方が大切であることを親へ理解させること（女性・50代）
- 道徳心（女性・50代）
- 教育勅語の復活（性別無回答・70代以上）

問 24 志布志市を含め、一般的に政策決定の場や自治組織などの方針決定の場への女性の参画が少ないようですが、それは何故だと思いますか。（あてはまるものを3つ以内で選択）

- 女性自身や、周囲の慣れ不足（男性・20代）
- 女性は各自平等にとはいかない。先生でも穏やかそうでヒステリックだったりするので。（女性・40代）
- 無関心にとらえている人が多い。（女性・40代）
- できる人はいると思うが、今までの慣習が大きいと思う。（女性・50代）
- 昔の古い考えをもつ年配の男性が上の役職についているから。（男性・50代）
- 毎日に追われて考える暇がないと思う。（男性・50代）

問 25 女性の意見を政治や行政に十分反映させるためには、どのようなことが最も効果があると思いますか。（あてはまるものを3つ以内で選択）

- おじさん達の教育（男性・20代）
- ピラミッド型の社会をなくすこと。（女性・40代）
- 中高年男性への、女性参画の理解を深める。（女性・40代）
- 男性の政治家がもっとよく勉強すること。（男性・40代）
- 家族の意識と協力（女性・50代）
- 家庭で時事問題について議論すること。（女性・50代）
- 「女性はより繊細な器」とことわざにあるように男性との身体面や体力面の違いにも配慮する必要があります。（男性・50代）
- そのような雑談ができる場所が必要（男性・50代）

問 26 あなたが次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増える方がよいと思うものはどれですか。（あてはまるものをいくつでも選択）

- どんな職業でも人への尊重の気持ちがなければ変わらないと思う。（女性・40代）
- 全てにおいて、男女や年齢に関係なく活躍できる社会（女性・40代）
- どれといわず全体に平等に（女性・50代）
- 意見を市・県・国に発信できる人材をつくる。（男性・50代）

※配偶者や交際相手からの暴行の被害にあった方《問 29 の G、H、I のいずれかで 1、2 を選んだ方》におたずねします

問 30 そのようなとき、あなたはどうしましたか。（あてはまるものをいくつでも選択）

- 弁護士に相談した。（女性・40代）

問 32 男女共同参画社会の実現に向けて、今後どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものを3つ以内で選択）

- 子どもの頃から男女平等が当たり前だと感じることでできる環境作りをする）（女性・20代）
- 更衣室シャワー室等の物理的な環境整備（男性・20代）
- 国や県に頼らず志布志市も自立する。（女性・40代）
- 何もなくていい。（男性・40代）

問 33 男女共同参画社会づくりに関することについて、ご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

- 女性が社会に進出することは難しいこと。ただそれで出産率が減ると日本の人口は減り続けるので、子育てへの援助を社会がすることが一番必要だと思う。（女性・20代）
- 男女共同参画社会づくりにおいて、誰もが自分らしく過ごせるよう、行政の制度や支援体制を先回りして整える必要があると思う。（女性・20代）
- 妊娠中のつわりがきつかったので仕事はなんとかできたものの仕事に行くまでと帰り道がすごくきつかったです。休暇がとれる制度があればいいのになあと思いました。あとは生理用品代が毎月女性は結構かかっているので補償される制度とかあれば嬉しいです。（女性・20代）
- L G B T Qは友人に相談しにくいので、行政からのアプローチがあればいいと思う。（男性・20代）
- 性差によって得手不得手はあるので、互いに理解と容認したうえで、調和する必要がある。そのために、学びの機会と環境整備をしてほしい。あと、マナーやリテラシーも大事だが、気を使いすぎて遠ざけてしまうこともあるので距離感が難しい。（男性・20代）
- 今も男性社会優位なのが現状。まず皇位の女系継承が認められてないのだから、この社会も男性重視というのがわかる。男女平等なら改める必要があると思う。（女性・30代）
- 志布志市役所・有明市役所の職員さんの対応が非常に悪いです。（女性・30代）
- 自分たちが育てられた時代の考えが頭にあり生活しているため、育った家庭の父がキッチンに立つことが当たり前だった家で育っていれば料理ができる男の子に育てていくだろうと思った。社会や教育の場がいくら変わっても、家庭の中が変わらなければ時代の流れは変わらないように思う（女性・30代）
- 男女お互い、昔よりは尊重、理解の気持ちは高くなってきていると思います。お互いの良さを活かして、足りない部分は補い合っていけば自然と平等になっていくと思います。性別は性別。男女以上でも以下でもない。色んな個性だと考えられたらいいと

思います。認める、受け入れる、しっかり向き合う。余裕ある社会作りをみんなで作っていきましょう。（女性・30代）

- 男性の女はこうであれというような考えが多すぎる。義実家との連絡もなぜ妻がしなくてはならないのか。自分の家族は自分でやってくれと思う。そして何かあれば義母から私に言われるのはハラメントだと思う。（女性・30代）
- 男性は働くのが当たり前、女性にも働いて貰った上で（収入が私の方が上なため、辞められたら困ると結婚時に言われる）、家庭も子育てもという意識を持った、元旦那。私も子どもを産んだ後、一歳前に職場復帰するが、夜中7回の授乳をしながらの仕事に加え、子どもが小さいうちは何度も保育園から呼び出しがあり、元旦那は早退や休むこと（年休も取れないし、インフルエンザだとしても急な休みが取れない元旦那の職場体制にも問題がある）ができず、私は職場に頭を下げて何度も早退し、職場に身の狭い思いをしていましたが、その働く女性の気持ちが全く分からない男性（父親）が世の中に多すぎると思います。母親にとっては、『働けるのが当たり前』じゃないです。どうしても大事な仕事の日、その日のために責任をもって準備してきたのに、そんな日に限っての保育園呼び出し。『子どもが病気なら仕方ない』。そう言われてしまえば、それで終わりですが、もちろん子どもが1番大事ですが、自分の責任感を、達成できない不甲斐なさ、どうして私だけが仕事を休まないといけないのか、母親だから当たり前という意識がまだまだ日本には多くて、働きたくても働けない、やりたいことも子ども優先で出来ない。でも、旦那さんは仕事の付き合いだから仕方ないこちらもその言葉をいうと、『子どもとどちらが大事なのか』と言われる矛盾。こんな世の中から、早く男女平等の世の中になって欲しい。どちらも同じ子どもの親、責任だって同じ、仕事が大切なのも同じ。女性の仕事を軽視しないで欲しい！それが多くの方に理解して貰えますように。（女性・30代）
- 家庭や職場においても男尊女卑のような発言や行為が年配の方から見受けられることがある。教育がやはり大事なことだと思う。（男性・30代）
- 女性の意欲、例えば出世したい、リーダーになりたいなどの意欲が見られないにも関わらず、男女の平等を謳う人が多く感じる。また、育児面でも、男女の平等と母性、父性を一緒に議論しないでほしいと感じる。（男性・30代）
- 男女平等とすると女性に不利なことがあったり男性が冷遇されすぎなこともあったりするのでやはり互い会話コミュニケーションをし、ゆずり合え超えてはならないボーダーラインを明確にし、真の意味での男女平等を目指すべきである。（男性・30代）
- とにかく、啓発活動が必要かと思います。周りの大人が「女のくせに」とか「男だから」と言っていたら、子どももマネをしているように思います。学校でお友達に注意するときに暴力を振るう子は、大抵、親が家庭で同じようにやっていると聞いています。大人も意識を変えていかなければならないと思います。（女性・40代）
- 肩書や役職を全部はずして一人一人が子どもからお年寄りまで平等に互いを尊重し理解することができる社会が理想。他の市町村と同じでなくても、志布志市ならではのアイデアがあつていいと思います。（女性・40代）
- 市役所造りも大切だけど、ゴミ問題をしてほしい。分別きつすぎる。志布志市に住みたいけど、ゴミがって言う人都城・鹿屋へ行く。（女性・40代）
- 全てにおいて、男女や年齢に関係なく活躍できる社会（女性・40代）

- 男女共同参画について話を聞く機会があり、参加しましたがほとんど女性スタッフでした。中高年の男性の目線からも意見が聞けると良いかなと思います。(女性・40代)
- 男性の弱者にも支援できる体制を整え、男女ともに依存せず自立できる社会になればよいと思います。(女性・40代)
- 男女差別と男女の性差を前提に考えたり配慮したりすることを一緒にしないこと。男女共に、一人の大人として自立した考え、態度をもつよう努めること。自分のものの見方・考え方をくり返し見つめ直し、自身の成長に努めること。男女共同参画社会づくりをめざすために、これらの意識が必要ではないかと思います。(女性・40代)
- 問28について「女性の意見を尊重すべき」とあるが、必ずしもそうとは限らないのではないかと。人によって事情があるかもしれないし、千差万別あるので「べき」と思わなかった。(女性・40代)
- 今の制度のまま男女共同参画社会を進めると少子化が進むことから、産む産まないは自由だが子育て世代には十分な支援をすべきである。(男性・40代)
- 今までの教育があって、これまでの常識といわれていたのを変えられない。やはり子どもの頃からの教育が重要だと思う。(男性・40代)
- 妻のパートの職場ではいまだに女性しかも立場の弱いパートの人にお茶くみや男性職員の弁当箱を洗わせるなど世間知らずの人が多くことにびっくりした。県の職員なのでしっかり指導する人が現れてほしい。職員の奥様も喜んで弁当を洗っているらしいので、職員の意識改革が必要だと思います。(男性・40代)
- 女性だからできないという声を沢山聞きます。力仕事や危険な仕事もある程度女性もすべきだと思います。そうすれば男性も育児や家事についても協力してくれると思います。(男性・40代)
- 男性だから差別的ではなく、女性でも偏った考えを持つ人はいるので、性別ではなく個性や能力、適正に目を向けて議論してほしい。(男性・40代)
- L G B T や夫婦別姓など悩んでる人たちが暮らしやすい世の中になってほしい。(女性・50代)
- 今の時代、子どもを保育所に預けて仕事をするのが当たり前の世の中で男性の育児参加も増えてきました。しかし、お金を稼ぐことが中心で子どもの幼少期に親子で関わる時間は極端に減りました。わずかな時間を他人に頼り保育所や学校に教育を丸投げしている今の子育ては少し違う方向に進んでいます。自分の子どもが何を望んでいるのかしっかり見極めてお金で解決しないこと愛情の注ぎ方を考えてほしいです。(女性・50代)
- 重度障がい者で両親も高齢でこのアンケートも人を介して記入してもらっています。男女共同参画の会議等にも参加したくてもできません。(女性・50代)
- 男女平等という考えなら男女共同参画という言葉はおかしいと思う。(女性・50代)
- 男性でも女性でもまずは経済的にも精神的にも自立していくことが重要だと思う。幼少期の子育て期や介護する次期のフォローがあったらよいと思う。どうしても女性の負担になるので。(女性・50代)

- 理想はあれど、実際は毎日忙しく休みはきっちり休みたいと思い、自治体のこと、政治のことは面倒に思ってしまう。女性が前面に出て活躍するといいと思います。（女性・50代）
- 格言の中に「ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由民もなく、男性も女性もありません」性別や人種、立場に関係なく平等です。「夫は自分の体のように妻を愛するべきです」とも聖書は教えています。このことを実践していきたいと思います。（男性・50代）
- 女性の立場を守る事を大前提にしているところは、考え直した方が良いと思う。言葉に関しては勿論、暴力についても男性が泣き寝入りしている現状もあるのではないかと思います。切れたら男性よりも女性の方が怖い事もある。女性が守られる状況をいい事にして酷い言葉、行動をする女性、言った者勝ちの女性などモラルを問われるような女性をいろいろな場面で見受けられる事がある。（男性・50代）
- 男女平等についてお互い理解するとともに個人に責任を持ち社会に貢献する人材を作れば良い社会づくりになると思う。（男性・50代）
- 男性だから、女性だからという考えをなくし人間としての能力を伸ばしてあげることが大切。（男性・50代）
- 市内で社会づくりができるように、情報をたくさん出してほしい。高齢者の過疎化が心配。（女性・60代）
- 年配の男性は頑固で今更何を言っても無駄とあきらめています。でも若い人は小さいうちから教育次第で、親のやり方は間違っていると気づくと思います。学校教育等(敬語、丁寧語の勉強)、力を入れてほしいです。（女性・60代）
- 今も残っている男尊女卑の考えを今はそんな時代じゃないという意識に変わっていけばと思います。（男性・60代）
- 子どもにとって大切な幼少期に親の愛情を受けて育つことで、良心がはぐくまれ大人になったとき健全な生活に生きてくる。母親の存在は特に幼少期の心の安定には欠かせない。男女共同で役割分担し、家族を守り育てることは当然のこと。いまさらに男女共同参画を掲げることに違和感がある。自分たちだけの世界で物事を考えると、医療、介護、年金などの社会保障の基盤は財源不足で崩壊する。男女共同参画社会基本法の趣旨を理解し、とがらず、素晴らしい能力と個性で社会をリードしてもらいたい。（男性・60代）
- 女の人の方が理屈っぽいと思う。（男性・60代）
- 人間である以上他の生物とは違う、夫婦・親子関係を大切に考えたいと思う。人として平等なところを自覚して情を深めていくべきである。（男性・60代）
- 男女は常に平等であるが、肉体的な違いもあるのでお互いが理解し、協力しないといけない。（男性・60代）
- 日本は、決定的に女性の登用が諸外国に比べて、非常に遅れています。まず、政治家・大臣に女性を登用すべきである。（市・県議・国会議員等）（男性・60代）
- すべてにおいて思いやり、理解が必要だと思います。（女性・70代以上）
- アンケートの小さな文字、内容の難しさには高齢には大変。訪問して聞いてほしい。（女性・70代以上）
- 高齢者には難しいです。（女性・70代以上）

- 小さな集落で意見を言うと女は議を言うと言われるので、女は黙っているのが現状です。（女性・70代以上）
- 孫がいじめにあい、教育委員会や小学校や役所の人に相談しましたが、他人事のように改善されませんでした。女性の市議会委員の人にも相談しましたが全く効果はなく、男性の市議会議員の人の方が相談にのってくれました。男女平等という前に女性ももっと視野を広げて器の大きい人を目指してほしいです。（女性・70代以上）
- 男性女性を問わず人として一人一人尊重されるべきであり、平等に扱われるべきだと思います。でも男性と女性とでは、実際に本質的に異なることがあると思うので全く男女平等でなくてもお互いが持っているよい点を発揮し協力し補いあっていけたらいいと思います。（女性・70代以上）
- 男女共同参画とあわせて自然の摂理についても各々が留意していきたいものと思っています。（男性・70代以上）
- 男女共同参画社会づくり等に向けて要望等を送っても解答・返事がない。（男性・70代以上）
- 男女問わず思いやりを持つ教育を行うこと（幼少期から）が大切だと考えます。（男性・70代以上）
- 長年言われ続けた習慣・文化があるので、一歩ずつ考え方・行動を変えていく個人の努力とそれを後押しする団体・行政の政策等が必要不可欠だと思います。（男性・70代以上）
- 同性婚を早めに行えるようにしてほしい。自身性自認が中性で、友人に同性カップルがいるが、この田舎では古い価値観がとても強く残っていて、同性カップルが親に別れさせられたり、職場で偏見の目で見られたりしてかなり不自由を強いられている。同性愛者が生きやすくなっても異性愛者の生活が何も変わらないことを年齢が高めの方々にアピールしてほしい。在宅でも受けられる社会的な育児のフォローがほしい。Zoomなど。若い世代がもっと気軽に相談できる窓口がほしい。LINEやSNSのDMなど。カウンセリングが無料で気軽に受けられる社会にしてほしい。手遅れになる前にサポートができてほしい。（わからない・30代）
- 差別はあるのが当たり前。生まれつき足の速い人遅い人がある、いくら努力してもできない人もある。でもそれなりに社会の一コマにはまりそれなりに社会貢献できる。分相応に差別はあるが自分にできることに努力を重ねる。それで十分だと思う。（性別無回答・70代以上）

2. 調査票

うるおいと活力のあるまちづくりのためにあなたの声をお聞かせください

志布志市男女共同参画に関する住民意識調査

－ 調査の趣旨とご協力をお願い －

市民の皆様には、市政の推進につきまして、日頃からご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

本市では、男女が社会のあらゆる分野で対等なパートナーとして、お互いに人権を尊重しながら、性別にかかわらず、それぞれの個性や能力を十分に発揮しながら暮らすことができる「男女共同参画社会」の実現に向け、平成29年度に「第3次志布志市^{ひと}男女がともに輝くまちづくりプラン・志布志市女性活躍推進計画・第2次志布志市DV対策基本プラン」を策定し、様々な取組を進めています。

今回、アンケート調査の実施により、市民の皆様のお考えや生活の実情などを把握させていただき、今後の男女共同参画の施策に生かして参りたいと考えております。

調査の対象者として、市内にお住いの20歳以上の皆様の中から、無作為に選ばせていただきました2,000名の方々にご協力をお願いしております。

回答は無記名で、すべて統計的の処理し、個人のプライバシー保護には細心の配慮をしておりますので、率直なご意見をお聞かせください。

これからの男女共同参画社会づくりの推進のための大切な調査ですので、趣旨をご理解のうえ、ご多忙のところお手数をおかけいたしますが、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年8月

志布志市長 下平 晴行

【ご記入にあたって】

1. この調査のご記入は、封筒の宛名の方をお願いします。
2. 回答は調査のあてはまる項目の番号に直接○印をつけてください。
3. 質問によっては、ある条件に該当する方だけにご回答いただくものがありますので、説明に従って最後までお進みください。
4. すべてのご記入が終わりましたら、お手数ですが記入漏れがないかお確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、8月18日（水）までにご投函ください。

《お問い合わせ先》

志布志市役所 企画政策課 共生協働推進室 協働推進係
〒899-7192 志布志市志布志町志布志二丁目1番1号
TEL : 099-472-1111 (内線 452)

あなたご自身のことについておうかがいします。

以下の F 1～F 11 について、あてはまる番号を 1 つだけ お選びください。(番号を○で囲む)

F 1 あなたの自認する性別を教えてください。

1 女性	2 男性	3 わからない
------	------	---------

F 2 あなたの年齢を教えてください。

1 20～24 歳	2 25～29 歳	3 30～34 歳	4 35～39 歳
5 40～44 歳	6 45～49 歳	7 50～54 歳	8 55～59 歳
9 60～64 歳	10 65～69 歳	11 70～74 歳	12 75 歳以上

F 3 あなたは 1 年間に 30 日以上、収入を得るための仕事をしていますか。

1 1 年間に 30 日以上、収入を得るための仕事をしている	→ F 4 へ
2 1 年間に 30 日以上、収入を得るための仕事をしていない	→ F 6 へ

※ F 3 で 1 を選んだ方におたずねします。

F 4 あなたの職業を教えてください。

1 常勤の勤め（正社員、職員、会社役員、従業員、公務員など）	→ F 5 へ
2 非常勤の勤め（パート・アルバイト、契約・派遣社員、嘱託・臨時職員など）	→ F 6 へ
3 農業、林業、漁業などの自営業	→ F 5 へ
4 商業、工業、サービス業、その他自由業などの自営業	→ F 5 へ
5 その他	→ F 5 へ

※ F 4 で 1、3、4、5 を選んだ方におたずねします。

F 5 あなたの職業上の区分を教えてください。(回答が済んだら F 8 へ)

1 管理職（公官庁、企業、各種法人、組合などの経営者、役員、課長以上の管理職など）
2 被用者（管理職以外の正社員、職員、従業員、公務員など）
3 自営業主
4 家族従事者（自営業の手伝いなど）
5 その他

※ F 3 で 2 を選んだ方におたずねします。

F 6 あなたはどれにあてはまりますか。

1 家事・育児・介護等従事者	2 学生	3 年金受給者	4 その他
----------------	------	---------	-------

F 7 あなたは現在結婚していますか。(届出はしていないが一緒に暮らしている事実婚含む)

- | | |
|----------------|---------|
| 1 結婚している | → F 8 へ |
| 2 結婚していたが、離別した | → F 9 へ |
| 3 結婚していたが、死別した | → F 9 へ |
| 4 結婚していない | → F 9 へ |

※ F 7 で 1 を選んだ方におたずねします。

F 8 ご夫婦のお仕事の状況について教えてください。

- | |
|------------------------------|
| 1 どちらも仕事をしている (パートタイム、内職を含む) |
| 2 自分のみ仕事をしている |
| 3 配偶者のみ仕事をしている |
| 4 どちらも仕事をしていない |

F 9 あなたのご家族の構成は次のどれにあてはまりますか。

- | |
|-----------------------|
| 1 単身世帯 (一人暮らし) |
| 2 1 世代世帯 (夫婦のみ) |
| 3 2 世代世帯 (親と子、夫婦と子など) |
| 4 3 世代世帯 (親と子と孫など) |
| 5 その他 |

F 10 あなたのお子さんは何人ですか。

- | | |
|---------|----------|
| 1 いない | → 問 1 へ |
| 2 1 人 | → F 11 へ |
| 3 2 人 | → F 11 へ |
| 4 3 人 | → F 11 へ |
| 5 4 人以上 | → F 11 へ |

※ F 10 で 2、3、4、5 を選んだ方におたずねします。

F 11 あなたの一番下のお子さん (1 人の場合は当人) は次のどれにあてはまりますか。

- | | | |
|-----------------|-------------------------|-------|
| 1 乳児 (1 歳未満) | 2 幼児 (1 歳以上) | 3 小学生 |
| 4 中学生 | 5 高校、専門学校、高専、短大、大学、大学院生 | |
| 6 今は養育する子どもはいない | | |

男女共同参画に関する意識と多文化共生社会についておうかがいします。

問1 あなたは、次にあげるような項目で男女の地位は平等になっていると思いますか。次のA～Gのそれぞれの項目について、右欄の1～6のうちあてはまる番号を1つだけお選びください。

	男性の方が非常に優遇されている	性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
A. 家庭生活	1	2	3	4	5	6	
B. 職場	1	2	3	4	5	6	
C. 学校教育の場	1	2	3	4	5	6	
D. 政治の場	1	2	3	4	5	6	
E. 法律や制度上	1	2	3	4	5	6	
F. 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6	
G. 自治会、公民館などの地域社会	1	2	3	4	5	6	

問2 では、あなたは社会全体にみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。あてはまる番号を1つだけお選びください。

1 男性の方が非常に優遇されている	2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
3 平等	る
5 女性の方が非常に優遇されている	4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
	る
	6 わからない

問3 一般的に、女性が仕事をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。あてはまる番号を1つだけお選びください。

1 女性は仕事をもたない方がよい	
2 結婚するまでは仕事をもつ方がよい	
3 結婚後も仕事を辞める必要はない	
4 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい	
5 子どもができて、育児制度などを利用しながら、ずっと仕事を続ける方がよい	
6 子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい	
7 その他 ()	
8 わからない	

問4 あなたはこの調査以前に、次の言葉についてご存知でしたか。次にあげるA～Jのそれぞれの項目について、右欄の1～4にあてはまる番号を1つだけお選びください。

	よく言葉も知っている	少し知っている	言葉は知っている	言葉も知らない
A. ジェンダー	1	2	3	4
B. ドメスティック・バイオレンス（DV）	1	2	3	4
C. ハラスメント	1	2	3	4
D. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3	4
E. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3	4
F. 男女共同参画社会	1	2	3	4
G. 多文化共生社会	1	2	3	4
H. デートDV	1	2	3	4
I. 女性の活躍推進	1	2	3	4
J. LGBTQ（性的少数者）	1	2	3	4

問5 あなたは今までに性自認（自身の性別をどう感じているか）や性的指向（誰を好きになるか又は魅力を感じるか）に悩んだ経験がありますか。あてはまる番号を1つだけお選びください。

1 はい	2 いいえ
------	-------

問6 現在、性的少数者（LGBTQ）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

1 思う → 問7へ	2 どちらかといえば思う → 問7へ
3 どちらかといえば思わない → 問8へ	4 思わない → 問8へ

※問6で「1 思う」「2 どちらかといえば思う」と回答した方におうかがいします

問7 性的少数者の方々に対する偏見や差別をなくし、性的少数者の方々が生かしやすくなるために、どのような対策が必要だと思いますか。あてはまる番号を2つまでお選びください。

1 行政が市民等への周知啓発を行う
2 相談窓口等を充実させ、生活しづらい環境の解消に努める
3 生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う
4 すべての人が性別を理由とした人権侵害等を受けないための社会的なルールを周知し、理解する
5 当事者や支援団体の活動を地域で支援する
6 働きやすい職場環境づくりの取り組みをする

- | |
|-----------|
| 7 その他 () |
| 8 わからない |

家庭生活についておうかがいします。

※現在、結婚されている方（届はしていないが一緒に暮らしている事実婚含む）《F7で1を選んだ方》におたずねします。）

問8 あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の事柄を主に誰が行っていますか。次にあげるA～Gのそれぞれの項目について、右欄の1～6のうちあてはまる番号を1つだけお選びください。

※育児、介護などについては、現在該当しなくても過去に経験があればそれをもとにお答えください。また、該当しない場合は6をお選びください。	夫	妻	夫婦	家族全員	人 家 族 以 外 の	該 当 し な い
A. 家事（掃除、洗濯、炊事など）	1	2	3	4	5	6
B. 育児（乳幼児の世話、子どもの教育など）	1	2	3	4	5	6
C. 介護	1	2	3	4	5	6
D. P T A や子ども会	1	2	3	4	5	6
E. 行政や学校などの手続き	1	2	3	4	5	6
F. 自治会や公民館などの地域活動への参加	1	2	3	4	5	6
G. 高額の商品や土地・家屋の購入を決める	1	2	3	4	5	6

問9 あなたは、今後、男女が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要と思われる番号を3つ以内でお選びください。

- | |
|--|
| 1 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること |
| 2 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること |
| 3 労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させたりすること |
| 4 夫婦間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと |
| 5 子どもに対して性別に関わらず家事などを積極的に行うような育て方をすること |
| 6 男性の男女共同参画に対する関心を高めること |
| 7 女性の男女共同参画に対する関心を高めること |
| 8 男性の仕事中心の生き方、考えを改めること |
| 9 男性が家事などに参画することによるライフスタイルの変化に対する抵抗感をなくすこと |
| 10 男性が家事・育児・介護などを担うことへの職場や周囲の理解を進めること |
| 11 自宅でも仕事ができるように在宅勤務などを普及させること |
| 12 その他 () |
| 13 わからない |

問10 現在の法律では、夫または妻どちらかの姓を選び、夫婦は同じ姓を名乗るようになっていますが、「夫婦は同じ姓を名乗る」か「別々の姓を名乗る」か選択できるようにすることについてどう思いますか。当てはまる番号を1つだけお選びください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 夫婦が別々な姓を名乗ることに賛成だ | 2 夫婦が別々な姓を名乗ることに反対だ |
| 3 どちらともいえない | 4 わからない |

問 11 結婚、家庭、離婚についてのあなたの考えをおたずねします。次にあげるA～Eのそれぞれの項目について、右欄の1～5のうちあてはまる番号を1つだけお選びください。

	賛成	い ど ち ら か と い え ば 賛 成	い ど ち ら か と い え ば 反 対	反 対	わ か ら な い
A. 性別に関わらず、結婚したら自分自身のことより、家族のことを中心に考えるべきである	1	2	3	4	5
B. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
C. 結婚して、子どもを持つか持たないかは自由だ	1	2	3	4	5
D. 性別に関わらず仕事をもつのは良いが、家事、育児もきちんと分担してすべきである	1	2	3	4	5
E. 結婚の自由があるように、離婚も自由だと思う	1	2	3	4	5

問 12 あなたは、育児に対する社会の支援について、どのようにお考えですか。あてはまる番号を1つだけお選びください。

- | |
|------------------------------------|
| 1 基本的に家族が行うことであり、社会が支援する必要はない |
| 2 基本的に家族が行うことであるが、社会がある程度支援する必要がある |
| 3 家族だけでは負担が大きいため、社会が積極的に支援する必要がある |
| 4 家族は可能な範囲で行い、基本的には社会が担うべきである |
| 5 その他() |
| 6 わからない |

問 13 あなたは、介護に対する社会の支援についてどのようにお考えですか。あてはまる番号を1つだけお選びください。

- | |
|------------------------------------|
| 1 基本的に家族が行うことであり、社会が支援する必要はない |
| 2 基本的に家族が行うことであるが、社会がある程度支援する必要がある |
| 3 家族だけでは負担が大きいため、社会が積極的に支援する必要がある |
| 4 家族は可能な範囲で行い、基本的には社会が担うべきである |
| 5 その他() |
| 6 わからない |

問 14 もし、あなたに介護が必要になったら、主に誰に介護をしてもらいたいですか。あてはまる番号を1つだけお選びください。

- | | | | | |
|------------------------------|-----|------|-------|--------|
| 1 配偶者 | 2 娘 | 3 息子 | 4 娘の夫 | 5 息子の妻 |
| 6 ホームヘルパー派遣などの公的な在宅介護制度を利用する | | | | |
| 7 病院や老人ホームなどの施設に入所する | | | | |

就業についておうかがいします。

※問 15、問 16 は、現在、1 年間に 30 日以上、収入を得るための仕事をしている方（《F 3 で 1 を選んだ方》）におたずねします

問 15 あなたが現在仕事をしているのは、どのような理由からでしょうか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1 生計を維持するため | 2 家計の足しにするため |
| 3 住宅ローンなどの返済のため | 4 教育資金を得るため |
| 5 将来に備えて貯蓄するため | 6 自分で自由に使えるお金を得るため |
| 7 生きがいを得るため | 8 自分の能力・技能・資格を活かすため |
| 9 視野を広げたり、友人を得るため | 10 社会に貢献するため |
| 11 仕事をするのが好きだから | 12 働くのが当然だから |
| 13 時間的に余裕があるから | 14 家業であるから |
| 15 その他 () | 16 特に理由はない |
| 17 わからない | |

問 16 あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ差別されていると思いますか。あてはまる番号を1 つだけお選びください。

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 差別されていると思う → 問 17 へ | 2 そのようなことはないと思う → 問 18 へ |
| 3 わからない → 問 18 へ | |

※差別されていると思う《問 16 で 1 を選んだ方》におたずねします

問 17 それは具体的にどのようなことですか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

- | | |
|------------------------|--------------------------------|
| 1 賃金に差別がある | 2 昇進、昇格に差別がある |
| 3 能力を正當に評価しない | 4 補助的な仕事しかやらせてもらえない |
| 5 女性を幹部社員・職員に登用しない | 6 結婚したり子どもが生まれたりすると勤めにくい雰囲気がある |
| 7 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある | 8 教育・訓練を受ける機会が少ない |
| 9 その他 () | 10 わからない |

※現在、1 年間に 30 日以上、収入を得るための仕事をしていない方（《F 3 で 2 を選んだ方》）におたずねします

問 18 あなたが現在仕事をしていないのは、どのような理由からでしょうか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1 経済的に働く必要がないから | 2 職業を持たない方が自分のやりたいことができるから |
| 3 家庭で家事・育児に専念するのが当然だから | 4 家事の負担が大きいから |
| 5 育児の負担が大きいから | 6 健康や体力に自信がないから |
| 7 希望どおりの仕事を得られないから | 8 配偶者や子どもなどの家族が望まないから |
| 9 親や病気の家族の世話をするため | 10 現在学校に通っているから |
| 11 高齢だから | 12 働くことが好きではないから |
| 13 やりがいのある仕事がないから | 14 配偶者の転勤のため |

- | | |
|---------------------------|------------|
| 15 職場内に結婚や出産による退職慣行があったため | 16 その他 () |
| 17 特に理由はない | 18 わからない |

問 19 あなたは、女性が仕事をしやすい環境を整えるためには、どのようなことが必要だとお考えですか。特に必要と思われる事項の番号を3つ以内でお選びください。

- | | |
|--|--|
| 1 妊娠や出産によって不利益を受けることをなくすこと | |
| 2 結婚、出産、育児、介護のために退職した人の再雇用制度を充実させること | |
| 3 昇給・給与、教育訓練など職場における男女の差別的扱いをなくすこと | |
| 4 育児・介護休業制度を取得しやすい、復帰しやすい職場環境を整えること | |
| 5 育児・介護休業取得によって不利益を受けることをなくすこと | |
| 6 フレックスタイム制*や在宅勤務など柔軟な働き方を普及させること | |
| 7 経営者・管理職の男女共同参画意識を高めること | |
| 8 保育所や放課後児童クラブ（学童保育）など子育て環境を充実させること | |
| 9 ホームヘルパーなどの在宅福祉と特別養護老人ホームなどの施設福祉を充実させること | |
| 10 男は仕事、女は家庭といった性別による固定的な役割分担意識を持つ人が減ること | |
| 11 女性が働くことや、男性が家事・育児をすることへの家族や周囲の理解と協力が深まること | |
| 12 女性自身の就業意識を向上させること | |
| 13 その他 () | |
| 14 わからない | |

*〔用語解説〕フレックスタイム制：労働者が1日の始業・終業時刻を自分で決めることのできる制度。
ただし、総労働時間が1か月以内の一定の期間の総労働時間に達することが条件になる。

問 20 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思えますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- | | |
|------------------------------------|----------|
| 1 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと | |
| 2 女性自身がリーダーになることを希望しないこと | |
| 3 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと | |
| 4 長時間労働の改善が十分ではないこと | |
| 5 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること | |
| 6 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと | |
| 7 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと | |
| 8 その他 () | |
| 9 特にない | 10 わからない |

問 21 男性が、仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、あなたが受け入れられるものはどれですか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

- | |
|---------------------------------|
| 1 育児・介護のための休暇を取得する |
| 2 リフレッシュのための休暇を取得する |
| 3 育児・介護のための短時間勤務制度を活用する |
| 4 仕事と育児・介護を両立するため、仕事の負担を軽減してもらう |
| 5 仕事と育児・介護を両立するため、賃金が下がっても、転職する |
| 6 育児・介護のためにいったん離職する |
| 7 外で仕事をせずに、家事・育児・介護のみを行う |

- | | |
|----|---------|
| 8 | その他 () |
| 9 | 特になし |
| 10 | わからない |

学校教育についておうかがいします。

問 22 あなたは、子どもに（いらっしゃらない場合は一般的な意見として）どの程度の学校教育を受けさせたいと思いますか。男の子の場合と女の子の場合のそれぞれについて、あてはまる番号を 1つだけ お選びください。

男の子：	1	中学校	2	高校	3	専修、専門学校	4	短大、高専
	5	4年制大学	6	大学院	7	その他 ()	8	わからない
女の子：	1	中学校	2	高校	3	専修、専門学校	4	短大、高専
	5	4年制大学	6	大学院	7	その他 ()	8	わからない

問 23 男女共同参画社会を実現するために、学校教育の場でどのようなことが大切だと思いますか。あてはまるものを 3つ以内 でお選びください。

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する |
| 2 | 互いの良さを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する |
| 3 | 性別に関わらず、性と個性の希望や能力に基づいて進路指導や職業教育を行う |
| 4 | 学校生活で性別により固定化された役割分担をなくす |
| 5 | 教職員の男女共同参画意識を高める研修を充実する |
| 6 | P T Aなどを通じて、男女共同参画意識を高める啓発活動を充実する |
| 7 | 性別によらない名簿、整列、点呼などを行うことを進める |
| 8 | 女性の校長や教頭を増やす |
| 9 | 今のままで良い |
| 10 | その他 () |
| 11 | わからない |

女性の政策参画についておうかがいします。

問 24 志布志市を含め、一般的に政策決定の場や自治組織などの方針決定の場への女性の参画が少ないようですが、それは何故だと思いますか。あてはまるものを 3つ以内 でお選びください。

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 | 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある |
| 2 | 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない |
| 3 | 家族の支援・協力が得られない |
| 4 | 女性の能力開発の機会が不十分 |
| 5 | 女性の活動を支援するネットワークがない |
| 6 | 女性側の関心や積極性が十分でない |
| 7 | 男性がなる方がよい（なるものだ）と思っている人が多い |
| 8 | その他 () |

9 わからない

問 25 女性の意見を政治や行政に十分反映させるためには、どのようなことが最も効果があると思いますか。あてはまるものを3つ以内でお選びください。

- 1 女性議員が多くなること
- 2 行政での管理職や審議会等の委員など公職に就く女性が増えること
- 3 一般の女性の自主的な活動が盛んになること
- 4 女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること
- 5 女性の能力開発の機会を設けること
- 6 女性自身の政治や行政への関心を高めること
- 7 その他()
- 8 わからない

問 26 あなたが次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増える方がよいと思うものはどれですか。この中からいくつでも選んでください。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 国会議員・地方議会議員 | 2 企業の役員・管理職 |
| 3 大臣・都道府県知事・市区町村長 | 4 学校の校長・教頭 |
| 5 公務員の管理職 | 6 裁判官・検察官・弁護士 |
| 7 医師・歯科医師 | 8 企業の技術者・研究者 |
| 9 大学教授・学長など | 10 起業家 |
| 11 スポーツの指導者・監督 | 12 自治会長・公民館長 |
| 13 メディアの記者・編集者 | 14 特にない・わからない |
| 15 その他() | |

DVやハラスメントについておうかがいします。

問 27 あなたは、ここ5年の間に、職場や学校などで、次のような経験、またそうしたことを見聞きしたことがありますか。A～Hのそれぞれの項目について、右欄の1～3のうちあてはまる番号を1つだけお選びください。

	経験がある	見聞きしたことがある	そうしたことはない
A. 性的な冗談・からかいを言われた	1	2	3
B. 自分の容姿・年齢・結婚などについて話題にされた	1	2	3
C. 異性に身体を触られた	1	2	3
D. 宴会などでお酌やデュエットを強要された	1	2	3
E. 地位を利用した性的な誘いを受けた	1	2	3
F. 性的なうわさ話を流された	1	2	3
G. 裸の写真などが貼ってあったり見せられたりした	1	2	3

H. 不愉快な視線を送られた	1	2	3
----------------	---	---	---

問 28 「性関係や、子どもをいつ、何人産むかあるいは産まないかなどについて、妊娠・出産の可能性のある女性側の意見が尊重されるべきである」という考え方がありますが、あなたはこの考え方をどう思いますか。あてはまる番号を 1つだけ お選びください。

1 非常に同感する	2 かなり同感する	3 少し同感する
4 あまり同感しない	5 全く同感しない	

問 29 あなたはこれまでに、あなたの夫・妻（事実婚や別居中、離別・死別を含む）から、あるいは 10 歳代から 20 歳代にあなたの恋人や元恋人となどの交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。次にあげる A～I のそれぞれの項目について、右欄の 1～4 のうちあてはまる番号を 1つだけ お選びください。

※結婚のご経験がない方、10～20 歳代に交際相手がいなかった方は、「該当なし」を選んでください。

	何度もあった	1、2度あった	全くない	該当なし
A. 大声でどなられる	1	2	3	4
B. 言葉で傷つけられる	1	2	3	4
C. 交友関係や電話を細かくチェックされる	1	2	3	4
D. 何を言っても無視される	1	2	3	4
E. 見たくないのにポルノビデオ・雑誌を見せられる	1	2	3	4
F. 嫌がっているのに性的な行為を強要される	1	2	3	4
G. 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける	1	2	3	4
H. 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける	1	2	3	4
I. 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける	1	2	3	4

※配偶者や交際相手からの暴行の被害にあった方《問 29 の G、H、I のいずれかで 1、2 を選んだ方》におたずねします

問 30 そのようなとき、あなたはどうしましたか。あてはまる番号を いくつでも お選びください。

1 警察に連絡または相談した	2 人権擁護委員に相談した
3 県女性相談センター（婦人相談所）に相談した	4 市役所やその他公的機関に相談した
5 医師に相談した	6 家族に相談した
7 友人・知人に相談した	8 どこにも誰にも相談しなかった
9 その他（	）

※どこにも誰にも相談しなかった《問 30 で 8 を選んだ方》におたずねします

問 31 どこにも誰にも相談しなかった(できなかった)のは、どのような理由からですか。
あてはまる番号をいくつでもお選びください。

- | | | |
|----|--|-------------------|
| 1 | どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから | |
| 2 | 恥ずかしくて誰にも言えなかったから | 3 相談しても無駄だと思ったから |
| 4 | 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、また同じような行為をされると思ったから | |
| 5 | 相談担当者の言動により不快な思いをすと思ったから | |
| 6 | 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままでやっていけると思ったから | |
| 7 | 世間体が悪いから | 8 他人を巻き込みたくなかったから |
| 9 | 被害を受けたことを思い出したくなかったから | |
| 10 | 自分にも悪いところがあると思ったから | |
| 11 | 相談するほどのことではないと思ったから | |
| 12 | その他(|) |
| 13 | わからない | |

問 32 男女共同参画社会の実現に向けて、今後どのようなことが必要だと思えますか。あてはまる番号を3つ以内でお選びください。

- | | | |
|----|--------------------------|---|
| 1 | 男女の役割分担についての社会通念や慣習を改善する | |
| 2 | 人権尊重の考え方と意識改革をはかる | |
| 3 | 男女平等についてお互い理解し、協力する | |
| 4 | 就職・昇進・賃金など職業上の不平等をなくす | |
| 5 | 子どもの時から男女平等教育をよりいっそう進める | |
| 6 | 男女が共に自立する | |
| 7 | 行政などが女性の地位向上のための条件を整備する | |
| 8 | 男女が共に政策や方針決定過程に参画する | |
| 9 | その他(|) |
| 10 | わからない | |

問 33 男女共同参画社会づくりに関することについて、ご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

--

～ご協力、誠にありがとうございました～

